令和２年度入学生

授業計画書

－ S Y L L A B U S －

【保育教育学科】

島根県立大学
松江キャンパス

目　　次

学修の心得 …… 1
履修ガイド（保育教育学科の教育内容） …… 9
実習ガイド …… 26

学 部 共 通 基 礎 科 目

哲学 …… 35
心理学 …… 35
音楽 …… 36
文学 …… 36
読書と豊かな人間性 …… 37
市民社会と図書館 …… 37
社会学 …… 38
現代経済学 …… 38
生涯学習概論 …… 39
日本国憲法 …… 39
人間と自然 …… 40
脳科学と心 …… 40
生物と栄養 …… 41
環境の科学 …… 41
しまね地域共生学入門 …… 42
しまね文化論 …… 43
しまねボランティア研修 …… 43
健康スポーツ概論 …… 44
健康スポーツⅠ …… 44
健康スポーツⅡ …… 45
健康スポーツⅢ …… 45
基礎中国語 …… 46
中国語 …… 46
基礎韓国語 …… 47
韓国語 …… 47
基礎タイ語 …… 48
タイ語 …… 48
基礎インドネシア語 …… 49
インドネシア語 …… 49

学 科 基 礎 科 目

スタートアップセミナー …… 51
表現とコミュニケーション …… 51
キャリア・プランニング …… 52
保育教育職インターンシップ …… 52
英語Ⅰ …… 53
英語Ⅱ …… 54
アメリカ語学研修計画 …… 54
アメリカ語学研修 …… 55
情報機器の操作Ⅰ …… 55
情報機器の操作Ⅱ …… 56
情報機器の操作Ⅲ …… 56

専 門 基 幹 科 目

表現研究（児童文化）Ⅰ …… 59
表現研究（児童文化）Ⅱ …… 60
言葉研究（読み聞かせ実践） …… 61
保育教育文献購読 …… 61
心理・教育統計調査法Ⅰ …… 62
心理・教育統計調査法Ⅱ …… 62
卒業研究基礎演習 …… 63
卒業研究 …… 63
教職論（小・幼） …… 64
教育原理（小・幼） …… 65
発達心理学Ⅰ …… 65
発達心理学Ⅱ …… 66
教育心理学（小・幼） …… 66
障害児発達教育論 …… 67
特別支援教育とインクルーシブ教育論 …… 68
教育制度論（小・幼） …… 68
教育課程論（小・幼） …… 69
保育原理 …… 69
子ども家庭福祉 …… 70
社会福祉概論 …… 70
社会的養護Ⅰ …… 71
幼児と健康 …… 72
保育内容・健康の指導法 …… 72
幼児と人間関係 …… 73
保育内容・人間関係の指導法 …… 73
幼児と環境 …… 74
保育内容・環境の指導法 …… 74
幼児と言葉 …… 75
保育内容・言葉の指導法 …… 75
幼児と造形表現Ⅰ …… 76
保育内容・造形表現の指導法Ⅰ …… 76
幼児と音楽表現Ⅰ …… 77
保育内容・音楽表現の指導法Ⅰ …… 77
保育内容総論Ⅰ …… 78
保育の計画と評価 …… 78
国語（書写を含む） …… 79
社会 …… 79
算数 …… 80
理科 …… 80
生活 …… 81
音楽Ⅰ …… 81
音楽Ⅱ …… 82
図画工作 …… 82
家庭 …… 83
体育 …… 83
小学英語 …… 84
初等国語科教育法（書写を含む） …… 84
初等社会科教育法 …… 85
初等算数科教育法 …… 85

初等理科教育法 …… 86
初等生活科教育法 …… 87
初等音楽科教育法 …… 87
初等図画工作科教育法 …… 88
初等家庭科教育法 …… 88
初等体育科教育法 …… 89
初等外国語（英語）教育法Ⅰ …… 89
初等外国語（英語）教育法Ⅱ …… 90
道徳の理論と指導法（小） …… 90
総合的な学習の時間の指導法 …… 91
特別活動の指導法（小） …… 92
教育方法論（小・幼） …… 92
幼児理解の理論と方法 …… 93
教育相談の基礎と方法（小・幼） …… 93
生徒・進路指導の理論と方法（小） …… 94
音楽基礎Ⅰ（ピアノ） …… 94
音楽基礎Ⅱ（ピアノ） …… 95
教育実習Ⅰ（幼稚園）指導 …… 96
教育実習Ⅰ（幼稚園） …… 97
教育実習Ⅱ（小学校）指導 …… 97
教育実習Ⅱ（小学校） …… 98
教職実践演習（小・幼） …… 98
社会的養護Ⅱ …… 99
子ども家庭支援の心理学 …… 99
子ども家庭支援論 …… 100
子育て支援 …… 100
子どもの保健 …… 101
子どもの健康と安全 …… 101
救命救急法・応急手当法 …… 102
子どもの食と栄養 …… 102
乳児保育Ⅰ …… 103
乳児保育Ⅱ …… 103
障害児保育 …… 104
音楽療養法 …… 105
保育実習Ⅰ（保育所）指導 …… 105
保育実習Ⅰ（保育所） …… 106
保育実習Ⅰ（施設）指導 …… 106
保育実習Ⅰ（施設） …… 107
保育実習Ⅱ（保育所）指導 …… 107
保育実習Ⅱ（保育所） …… 108
保育実習Ⅲ（施設）指導 …… 108
保育実習Ⅲ（施設） …… 109

専 門 発 展 科 目

教育史 …… 111
最新教育課題 …… 111
学校教育と文化・社会 …… 112
保育内容総論Ⅱ …… 113
幼児と造形表現Ⅱ …… 113
保育内容・造形表現の指導法Ⅱ …… 114
幼児と音楽表現Ⅱ …… 114

保育内容・音楽表現の指導法Ⅱ …… 115
初等国語科授業研究 …… 115
初等算数科授業研究 …… 116
初等理科授業研究 …… 116
初等体育科授業研究 …… 117
小学国語 …… 118
小学算数 …… 118
小学理科 …… 119
音楽Ⅲ …… 119
音楽Ⅳ …… 120
学校図書館論 …… 120
学習指導と学校図書館 …… 121
学校図書館メディアの構成 …… 121
情報メディアの活用 …… 122
知的障害児の心理 …… 122
知的障害児の生理・病理 …… 123
肢体不自由児の心理・生理・病理 …… 123
病弱児の心理・生理・病理 …… 124
知的障害児指導論 …… 124
肢体不自由児指導論 …… 125
病弱児指導論 …… 125
知的障害児教育演習 …… 126
重複・ＬＤ・ＡＤＨＤ等の心理・生理・病理 …… 127
視覚障害児教育総論 …… 127
聴覚障害児教育総論 …… 128
発達障害児教育総論 …… 129
発達障害児教育演習 …… 130
情緒障害児教育総論 …… 130
発達アセスメント …… 131
特別支援教育アセスメント …… 131
特別支援学校教育実習Ａ指導 …… 132
特別支援学校教育実習Ａ …… 132
特別支援学校教育実習Ｂ指導 …… 133
特別支援学校教育実習Ｂ …… 133

学修の心得

1. 大学での学修

大学に入学して最初にすべきこと。それは、入学から卒業までの大学生活全体を見通して、学びのイメージを自分なりに描いてみることです。

大学での学修は、高校までの学習スタイルとは大きく異なります。高校までは各学年、各クラスで時間割が最初から定められていますが、大学では学生一人一人が学期（春学期・秋学期）ごとに自分の時間割を作成します。科目数も高校までと比べて格段に多くなり、学生は各学科で定められた必修授業以外に、学びの関心や取得する資格・卒業後の進路などに基づいて受講したい科目を選択して時間割を作成し、その時間割に従って各自が授業を受講していきます。つまり、大学では、これまで以上にみずから主体的に学ぶ姿勢が必要となるのです。

各学部・学科においては、それぞれの学びの目的に従ってカリキュラム（教育課程）が編成されています。卒業や資格取得に必要な科目と履修単位数など、履修の仕方にも一定のルールがありますので、そのことをよく理解して計画を立ててください。

松江キャンパスにおける学修の大まかな流れは、学期ごとに以下の１～５のとおりとなります。

以下、この順に従って、学修の流れについてポイントを説明します。

１ 学修計画 → ２ 履修登録 → ３ 受講 → ４ 期末試験 → ５ 成績評価

2. 学修計画

(1) ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）とカリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

各学部・学科は、大学での学修の到達目標として、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を定めています。その目標に向けて学修の道筋を示したものがカリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）です。この２つのポリシーは学修計画の基本となるものですので、よく確認しておいてください。さらに、カリキュラム・ポリシーに基づいた授業科目の編成をわかりやすく示した「カリキュラムマップ」もありますので、参考にしてください。

※ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、カリキュラムマップは授業計画書を参照してください。

(2) 学期と授業

１年間を春学期・秋学期の２つの学期に分けています。授業の実施方法は、時間割により毎週開講される「通常授業」と、時間割によらず、休業期間などを利用して特定の期間に集中して開講される「集中講義」や各種「学外実習」に区分されます。

春　学　期	秋　学　期
４月１日　～　９月３０日	１０月１日　～　３月３１日

（3）授業時間

授業は、通常 1 時限 90 分を基準として行います。本学の基本的な授業時間は次のとおりですが、授業科目によっては集中講義や演習、実習などで授業時間が変動する場合もあります。

時限	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
時間	9:00～10:30	10:40～12:10	13:10～14:40	14:50～16:20	16:30～18:00

（4）単位制

単位制とは、授業科目を履修することで定められた単位数を取得し、卒業、あるいは免許・資格の取得ができる制度のことです。

通常の講義形式の授業（90 分×15 回）を履修することによって、1 科目あたり 2 単位取得できます。

ただし、講義や演習、実技などの授業の形式や授業の時間数によって、取得できる単位数は科目ごとに異なりますので、授業計画書でよく確認してください。

また、単位制の考え方においては、その前提として**授業以外の自主学習（予習・復習）を確実に行うことが求められています。**

【単位数と学修時間について】

単位数は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容で構成することを原則とし、科目ごとに定められています。

本学では 1 コマ（1 回）90 分の授業を 2 時間の授業とみなしており、多くの科目において 15 コマ（15 回）30 時間の授業をしています（科目によっては 7.5 コマ 15 時間等もあります）。

1 単位の授業科目においては 45 時間の学修が必要ですから、すなわち 15 時間の授業外での自主学習（予習や復習等）が必要となります（2 単位の科目であれば、30 時間（1 回の授業につき 2 時間）の自主学習が必要ということになります）。

単位が認められるには授業時間だけでなく、自主学習を行う時間が前提としてあることに留意してください。

（参考）卒業に必要な単位数

学　　部	学　　科	卒業に必要な単位数
人間文化学部	保育教育学科	１２４単位以上
	地域文化学科	１２４単位以上
短期大学部	保育学科	６２単位以上
	総合文化学科	６２単位以上

（5）授業科目の区分

本学の授業科目には、必修科目と選択科目があります。

①必修科目：必ず履修しなければならない科目であって、履修して単位を修得しないと卒業できません。

②選択科目：自主的に適宜選択して履修する科目です。

＊免許や資格取得のためのカリキュラムも用意していますが、これらの免許・資格取得や受験資格取得のためには、各種免許・資格ごとに履修しなければならない必修科目と選択科目がありますので、必ず、各自で確認してください。

（※各学部・学科の履修規程別表を参照してください。）

3. 履修登録

（1）授業科目の履修登録・変更

授業科目を履修するにあたっては、「履修登録」が必要です。履修の登録・変更は、各学期始めの「履修登録期間」に行います。各学年始めには学科別履修ガイダンスで登録方法の説明を受けますが、詳細については、「情報ネットワークシステム利用の手引き」等を確認してください。また、不明な点は、各学科の担任・ゼミ担当者、または教務学生課に相談してください。

履修登録は、学生の自己責任で行うものです。入力ミスや履修登録漏れ等があった場合は、その学期での履修ができず、単位の修得も認められません。入力の際に十分確認を行ってください。

（2）履修登録上の留意事項

① 必修科目は、翌年度以降、他の必修科目と開講時限が重なり履修できない場合がありますので、指定された年次に、必ず履修しましょう。

② 次の授業科目は履修することができません。

・既に単位を修得した授業科目

・授業時間が重複する授業科目（集中講義、実習などは除きます）

（3）履修登録の変更

登録した科目を受講した際、「自分の受講目的と合致しない」などの理由により履修登録を変更したい場合は、履修登録変更期間内に教務学生課に「履修登録変更依頼書」を提出してください。未提出のまま履修を取りやめた場合（放棄）は、「不可」評価となり、不合格となります。

履修変更期間は学期開始後の３週目を目安とし、具体的な期日は教務日程に記載します。

（※人間文化学部履修規程第 2 条、短期大学部履修規程第 3 条を確認してください）

（4）再履修

当該年次で単位の修得ができなかった場合は、翌年次以降、再度、当該科目を履修することができます。なお、必修科目は、卒業要件となりますので、必ず、再履修の登録を行ってください。

（注意：上記⑵①）

4. 受講

（1）時間割（当該学期の全授業時間割）

各学期で開講される全授業の週間時間割は、春学期、秋学期の始めに教務学生課から開示します。教室等も表示されていますので確認してください。また変更がある場合がありますので、学生情報システム等で最新版を確認してください。

（2）出席

履修登録をしている授業には出席しなければなりません。原則として、その授業科目の授業実施時間数の３分の２以上の出席を満たしていなければ試験を受けることができず、単位を修得することもできません。

（3）欠席

やむを得ず病気等の理由により１週間以上欠席する場合は欠席届を提出してください。

次のいずれかに該当する欠席は、願い出によって公欠として扱うことができます。

① 法令の規定による出席停止

② 本学が定める限度日数の範囲内の忌引

③ 風水震火災その他の非常火災及び交通機関の事故等の不可抗力による欠席

④ その他学長が認める欠席

（※詳しくは、学生通則第 15 条を確認してください）

なお、次の①～⑥のいずれかに該当する欠席は公欠とはなりませんが、届け出によって教員による措置が講じられます。

① 教職課程及び保育士養成課程の履修登録を行っている学生が教育実習・保育実習等を行う場合（人間文化学部のみ）

② 海外渡航を伴う授業の受講者が査証手続きを行う場合

③ 学則の規定に基づき留学を許可した学生が査証手続きを行う場合

④ 就職活動を行う場合

⑤ 進学のために受験する場合

⑥ 上記に掲げるもののほか、担当教員が必要と認めた場合

（※詳しくは、授業運営細則第４条を確認してください）

（4）休講

授業担当教員がやむを得ない理由により授業を休講する場合があります。その場合は担当教員からの連絡または学生情報システム等に掲示しますので、各自で確認をしてください。

なお、授業開始時間 10 分を過ぎても授業が開始されない場合は教務学生課まで連絡してください。

また、非常変災（異常気象）その他急迫の事情があるときは授業を休講することがあります。

気象庁又は松江気象台から、松江市に警報が発表された場合の授業の取り扱いは次のとおりです。

警報発令の状況	対応措置
松江市に「特別警報」が発表された場合	直ちに休校
午前７時時点で松江市に「暴風警報」または「暴風雪警報」が発表されている場合	午前の講義（１時限、２時限）は休講
午前 11 時時点で松江市に「暴風警報」または「暴風雪警報」が発表されている場合	午後の講義（３時限～５時限）は休講

※　大雪による交通機関の乱れや公道の不通等により、警報発表がない場合でも休講（休校）となる場合があります。

（5）補講

休講等の理由で、授業時間が不足する場合に補講が行われます。その場合は学生情報システム等に掲示しますので、各自で確認してください。

（6）集中講義

授業科目によっては、短期的に集中して授業を行う場合があります。土・日、あるいは休業期間を利用して開講する場合が多いので、スケジュール確認をしっかりしてください。

5.　成績評価及び単位認定

登録した授業科目を履修し、試験その他の審査に合格した学生には、所定の単位が与えられます。

（1）試験等の受験資格

①　履修登録を行っていること。

②　当該授業科目の授業時間数の 3 分の 2 以上出席していること。

（2）試験等の時期

試験等は、学期末に期間を定めて行うことを基本としますが、授業科目によっては随時行う場合もあります。

（※教務日程を確認してください）

（3）試験等の方法

試験等は、筆記、実技その他の方法により行われます。また、レポート提出や作品提出などによる方法もありますので、担当教員の指示に従ってください。

（4）試験等の種類と手続き

①　定期試験

原則として各学期末の指定期間に行います。

なお、病気その他やむを得ない理由で受験できないときは、事前に教務学生課に連絡してください。

② 追試験

病気その他やむを得ない理由で定期試験を受験できず、追試験を希望する者は「追試験願」に診断書など欠席理由を証明する書面を添えて、教務学生課に提出しなければなりません。提出された願に対し、大学が追試験を実施するか否かを決定し結果を通知します。試験方法などは授業の担当教員の指示に従ってください。

③ 再試験

試験等の結果が不合格となったときは、再試験は行いません。ただし、やむを得ず再試験を実施する場合もあります。再試験を受けようとする者は、「再試験願」を教務学生課に提出しなければなりません。提出された願に対し、大学が再試験を実施するか否かを決定し結果を通知します。

（5）不正行為

試験の代理受験や試験実施中のカンニング、監督者の注意等に従わない等の不正行為が認められた場合、受験を継続することができず、次の措置がとられます。

・当該学期の授業科目の履修が全て無効になります。

・学則（人間文化学部 49 条、短期大学部 44 条）の規定に基づき懲戒の対象となります。

また、論文、レポートにおける剽窃行為（他人の作品や論文の成果を、自分のものとして発表すること）についても不正行為となり、同様の措置がとられます。

（6）成績評価及び単位認定

授業科目ごとに、学修の成果を「秀」、「優」、「良」、「可」および「不可」に区分して評価し、「秀」、「優」、「良」、および「可」を合格として所定の単位を認定します。

「秀」、「優」、「良」、「可」および「不可」の評価基準は、100 点満点とする点数で、次のとおりとします。

①「秀」90 点以上

②「優」80 点以上 90 点未満

③「良」70 点以上 80 点未満

④「可」60 点以上 70 点未満

⑤「不可」60 点未満

<u>GPA（Grade Point Average）について</u>

学生の学修意欲を高めるとともに、適切な修学指導に資することを目的とし GPA によるスコアを算出します。GPA は下記に利用します。

・成績通知書

・編入する大学へ開示する成績情報

・成績優秀者奨学金及び日本学生支援機構奨学金の選定指標

・保育教育学科の免許状・資格の追加履修可否基準

・地域文化学科の免許状・資格の履修可否基準

・その他各種推薦に関する資料として

成績評価	秀	優	良	可	不可
判定基準	90 点以上	80 点以上 90 点未満	70 点以上 80 点未満	60 点以上 70 点未満	60 点未満
ＧＰ	４．０	３．０	２．０	１．０	０．０

（１）学期 GPA の計算式

$$\frac{\text{当該学期の「秀」の単位数}\times 4+\text{「優」の単位数}\times 3+\text{「良」の単位数}\times 2+\text{「可」の単位数}\times 1}{\text{当該学期の総履修登録単位数}}$$

（２）累積 GPA の計算式

$$\frac{\text{全期間の「秀」の単位数}\times 4+\text{「優」の単位数}\times 3+\text{「良」の単位数}\times 2+\text{「可」の単位数}\times 1}{\text{全期間の総履修登録単位数}}$$

なお、GPA の対象となる科目については以下のような留意事項があります。

・「履修登録の取消」により取り消された科目は GPA の対象外となります。

・放棄された科目は、GPA に算定に含めるものとし、当該科目の成績は「不可」とみなします。

・累積 GPA の算定に当たり再履修科目が含まれている場合は、当初の履修登録による修得単位数及び取得 GP を算定から除外します。

この他、認定科目についても対象外となります。

不明な点がある場合は、教務学生課まで確認してください。

●詳しい内容は下記の諸規程で確認してください。

【島根県立大学人間文化学部】

・島根県立大学学則

・島根県立大学人間文化学部学生通則

・島根県立大学人間文化学部履修規程

・島根県立大学人間文化学部他の大学等における履修等に関する規程

・島根県立大学人間文化学部入学前既修得単位数の認定に関する規程

・島根県立大学学位規程

※その他、各種資格取得に関する諸規程

【島根県立大学短期大学部】

・島根県立大学短期大学部学則
・島根県立大学短期大学部学生通則
・島根県立大学短期大学部履修規程
・島根県立大学短期大学部学修・修得単位等の単位認定に関する規程
・島根県立大学短期大学部学位規程

Ⅰ. 履修ガイド

【保育教育学科の教育内容】

1. 人間文化学部の目的

人間文化学部は、人間形成及び人間によって歴史的に創出・形成されてきた文化について探究し、地域社会と連携した実践的で学術的な教育研究を推進する。地域における文化の発見と継承、再生に取り組み、地域で活躍できる実践力を兼ね備えた人材を育成することを通して、関連する学術分野の進展と地域社会の発展に寄与することを目的とする。

2. 保育教育学科の教育研究上の目的

保育教育学科では、人間形成（特に乳幼児期・児童期）の在り方を中心とした教育研究を推進し、地域文化や児童文化を次世代に向けて継承し得る豊かな人間性を備えた保育者・教育者を育成する。乳幼児期から児童期までの子どもの成長・発達を見通して考えることのできる広い視野と高度な専門性を持ち、地域の様々な環境に置かれた子どもや障害のある子どもに対応し得る高い実践力を備えた人材を育成する。

3. 保育教育学科　学位授与の方針　Diploma Policy

［知識・技能］

・ 保育・教育及び関連する諸分野に関する専門的な知識及び技能を身に付けている。
・ 乳幼児期から児童期までの子どもの発達に関する課題を論理的に理解できる。

［思考力・判断力・表現力］

・ 保育・教育に関する諸課題について多様な角度から考察し、自ら主体的に課題解決に向けた思考判断ができる。
・ 学修した専門的知識と技能を、言葉、文章、図表、身体表現等の多様な方法により的確に表現することができる。

［関心・意欲・態度］

・ 集団活動において、協同的に活動して成果を上げる姿勢とコミュニケーション力を有する。
・ 地域社会において、保育者、教育者としての役割を果たすことができる人権感覚、倫理観、職業観を身に付けている。

4. 免許・資格の取得と卒業要件

□本学において取得することができる免許状及び資格の種類は、次のとおりとする。

学　科	免許状及び資格の種類
保育教育学科	幼稚園教諭一種免許状　小学校教諭一種免許状 特別支援学校教諭一種免許状　保育士資格　司書教諭資格

□本学科の修業年限は、4 年とし、次の表に掲げる単位数を修得すること。

区　　分	卒業要件単位数		
	必修	選択	計
学部共通基礎科目	6 単位	10 単位	16 単位
学科基礎科目	5 単位	1 単位	6 単位
専門基幹科目	45 単位	57 単位【注】	102 単位
専門発展科目	―		
合　　計	56 単位	68 単位	124 単位

【注】
[専門基幹科目]選択科目を履修する場合、島根県立大学人間文化学部保育教育学科履修細則第 8 条に定める履修モデルに基づき履修すること。

5. 履修計画の立案

□本学科学生は 1 年春学期に保育教育学科履修細則の説明を受け、1 年秋学期までに 4 年間の履修計画を教務学生課に提出しなければならない。履修計画は学期ごとに見直すことができる。
□学生は、学則第 41 条に定める教育職員免許状を取得する場合は、幼稚園教諭一種免許状あるいは小学校教諭一種免許状を基礎資格として、特別支援学校教諭一種免許状を取得することができる。

6. 履修の制限（CAP制）

□履修登録を行うにあたっては、一の学年における登録授業科目の学外実習科目及び集中講義を除くその単位数の合計が原則として 46 単位を超えてはならない。

7. 保育教育学科の教育課程

カリキュラム編成のポイント

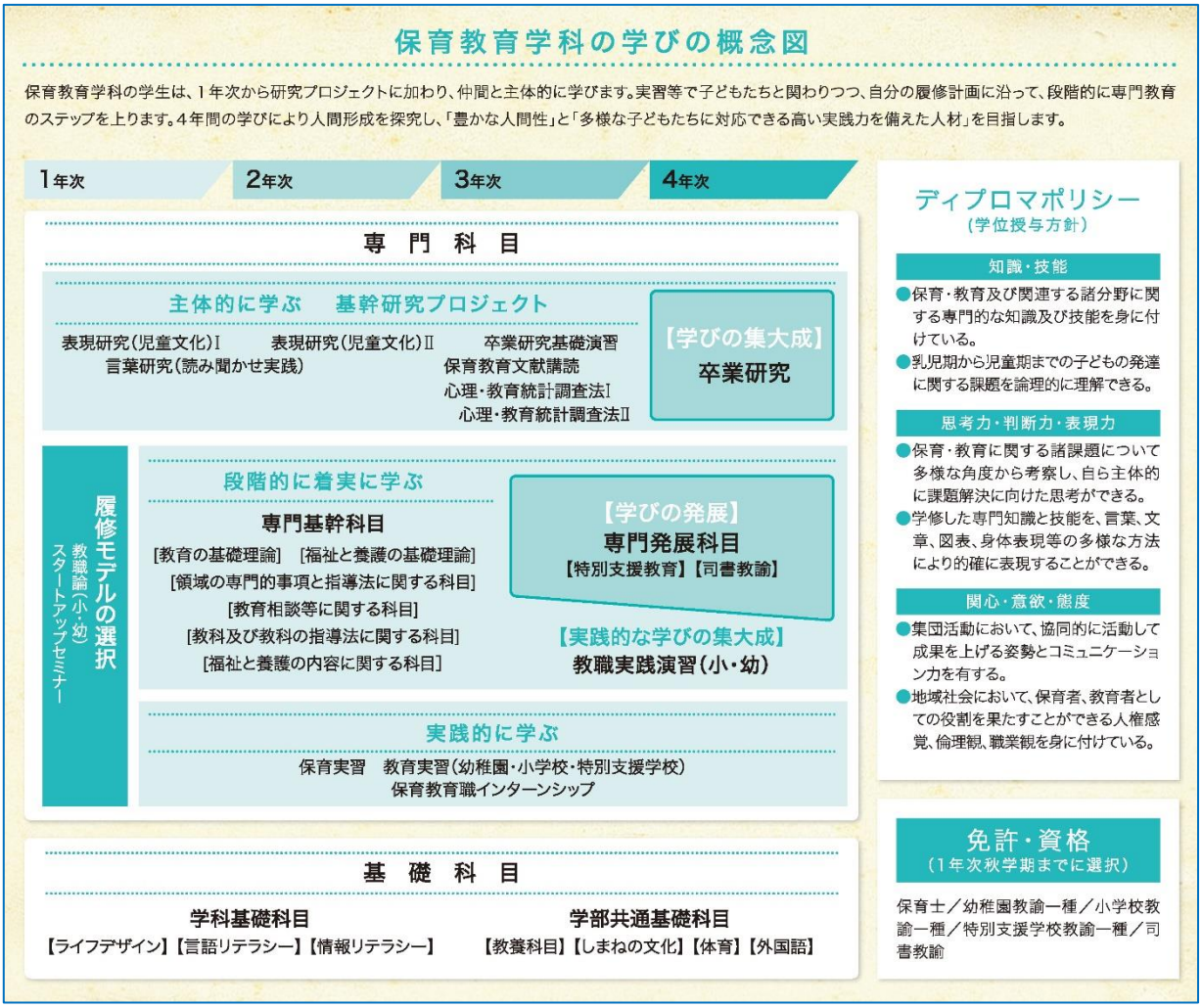
① **【学科基礎科目】**
科目区分[学科基礎科目]を設け、初年次教育及びキャリア形成を行う[ライフデザイン]科目群、保育教育職の基礎的リテラシーを養成する[言語リテラシー]科目群及び[情報リテラシー]科目群を配置する。

② **【基幹研究プロジェクト】のアクティブラーニング**
地域の人間と文化の魅力を、次世代を担う子どもたちに継承することができる表現力を育成するために、[基幹研究プロジェクト]の必修科目として「表現研究(児童文化)Ⅰ・Ⅱ」「言葉研究（読み聞かせの実践）」のアクティブラーニング科目を設け、[専門基幹科目]の指導法・演習等の基盤とする。

③ **【基幹研究プロジェクト】の自主的研究活動推進**
地域の課題を自ら探究し、課題意識に基づく自主的研究活動を推進するよう、[基幹研究プロジェクト]に、「保育教育文献講読」「心理・教育統計調査法ⅠⅡ」「卒業研究基礎演習」「卒業研究」を配置する。

④ **【専門基幹科目】【専門発展科目】の段階的学び**
子どもの発達や学習過程についての高い専門性と考察力の育成を段階的に着実に行うために、専門科目を[専門基幹科目]と[専門発展科目]の 2 段階で編成する。さらに[専門基幹科目]の中に、科目区分[教職の意義]や[教育の基礎理論][福祉と養護の基礎理論]等の基礎理論の科目群を、1・2 年次を中心とする卒業必修科目として配置する。

⑤ **【実習】とグループ演習の推進**
集団での協同的実践力の育成を行うことを目的として、4 年間の教育課程を通して、実習体験活動やグループ演習を重視した指導を推進する。



□本学科では、1 年次から表現研究(児童文化) Ⅰ や言葉研究(読み聞かせ実践)などの基幹研究プロジェクトに加わり、学生同士の深い関わりの中から仲間と共に**主体的に学ぶ**。

□保育・教育施設での実習等で子どもたちと関わりつつ、自分の履修計画に沿って、**段階的に専門教育のステップを上る**ことにより、乳幼児から小学校までの発達段階を見通した教育ができる高い専門性と指導力を備えた人材を養成する。

□また、保護者や障がいのある子どもの支援など、複雑化・多様化する現場の課題に的確に対応できる**実践力や応用力**を備えた人材を養成することを目標としている。

□これらの学びによって育成した力は、4 年次の教職実践演習や卒業研究において集大成としてまとめ、発表を行う。

8. 履修モデルの選択

□履修規程第 4 条に示す免許状と資格の取得を円滑に達成するため、以下のとおり基本履修モデルを示す。学生は、1 年春学期「スタートアップセミナー」で履修計画の方法を学び、1 年秋学期までにいずれかの履修モデルを選択して教務学生課に 4 年間の履修計画を提出しなければならない。

□1 年秋学期からの履修登録は、自分の提出した履修計画に基づいて行う。履修計画は、学期ごとに見直すことができる。

□**履修規程第 4 条に示す免許状と資格の追加履修は、1 年次のGPAが 2. 5 以上であった場合に、履修規程 3 条第 1 項の単位制限の限りにおいて認められる。**

□小学校教諭一種免許状取得が可能なモデルを選択した場合は、履修規程第 3 条第 1 項の単位制限の限りにおいて、学則第 41 条の 2 に掲げる資格のうち、司書教諭資格取得を選択することができる。

以下の４つの履修モデルから１つを選択する

【履修モデル】

⑴　**幼・保モデル**

幼稚園教諭一種免許状、保育士資格が取得可能

⑵　**小・幼モデル**

小学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状が取得可能

⑶　**幼・特支モデル**

幼稚園教諭一種免許状、特別支援学校教諭一種免許状が取得可能

⑷　**小・特支モデル**

小学校教諭一種免許状、特別支援学校教諭一種免許状が取得可能

□履修モデルの選択には、「スタートアップセミナー」で配布される「履修計画表（データ原本）」ファイルが必要になる。また CAP 制を理解した上での単位計算が必要になる。「スタートアップセミナー」受講や「教職センター」での相談等を通して、履修計画の方法を十分理解すること。

□この「Ｉ履修ガイド」の【履修計画の提出と履修登録】をもとに、完成した「履修計画表」を教務学生課に提出する。

9. GPA（グレードポイントアベレージ）算出方法

成績評価	秀	優	良	可	不可
判定基準	90 点以上	80 点以上 90 点未満	70 点以上 80 点未満	60 点以上 70 点未満	60 点未満
GP	4．0	3．0	2．0	1．0	0．0

$$\frac{\text{当該学期の「秀」の単位数}\times 4+\text{「優」の単位数}\times 3+\text{「良」の単位数}\times 2+\text{「可」の単位数}\times 1}{\text{総履修登録単位数}}$$

□放棄された科目は、GPAに算定に含めるものとし、当該科目の成績は「不可」とみなす。

□いったん登録した科目の取り消しや変更等の受付は、春学期は４月末まで、秋学期は10月末までである。

□累積GPAの算出に当たり再履修が含まれている場合には、当初の履修登録による修得単位数及び取得GPを算出から除外する。

【履修計画の提出と履修登録】

1. 履修計画と免許・資格

(1)卒業必要単位

□**卒業要件**を満たすためには、授業計画書の「開講科目一覧　保育教育学科(令和 2 年度入学生)」の表に示されている「単位数」欄の「必修」56 単位を取得し、かつ「卒業単位」の項に定める科目区分ごとの単位数を満たし、合計 124 単位以上を履修しなければならない。必修科目の単位数は 56 単位、選択科目の単位数は 68 単位以上である。

(2)教職課程に関すること

□保育教育学科で取得することができる「幼稚園教諭一種免許状」「小学校教諭一種免許状」「特別支援学校教諭一種免許状」は教員免許であり、**教育職員免許法施行規則**に定める本学の教職課程の単位を修得しなければ取得することはできない。

□免許状の種類別の必修科目（選択必修科目等も含む）や単位数は、学生便覧の**「島根県立大学人間文化学部教職課程履修規程」**(以下、**教職課程履修規程**)に記載されているため、教職課程履修規程の第 2 条、別表 1～別表 5 を十分確認の上、履修すること（特に、別表 3、別表 4、別表 5 は表の「教育職員免許法施行規則に定める科目区分」の欄中の（）内に示されている必修単位数も満たしているかを確認すること）。

□また、授業計画書の**「開講科目一覧　保育教育学科(令和 2 年度入学生)」**の表に示されている「卒業単位」と「資格の要件」の資格・免許別の必修科目・選択必修科目・選択科目の記載と、印（◎、△、▲）を確認するとともに、表の最後に示してある下記の備考欄を熟読し、履修する。

□特別支援学校の教員（特別支援学校幼稚部・小学部や小学校の特別支援学級の教員）として働く場合は、特別支援学校教諭免許以外に基礎資格として小学校教諭免許または幼稚園教諭免許の取得が必須となっている。将来の就職先および採用試験受験資格も検討考慮の上、基礎資格となる教員免許を取得する。

□司書教諭資格については、履修細則第 8 条ならびに学生便覧の開講科目一覧の表および備考欄（4）に記載されているので確認する。

開講科目一覧　保育教育学科(令和 2 年度入学生)　備考欄

(1) 幼稚園教諭一種免許状を得ようとする者は、教育職員免許法（昭和 24 年法律第 147 号）及び教育職員免許法施行規則（昭和 29 年文部省令第 26 号）の規定に基づき、卒業要件を満たし、かつ、

□「資格等の要件」の項に掲げる「幼稚園教諭一種免許状」区分に定める◎印を付した指定科目を履修しなければならない。

□加えて△印を付した授業科目から 2 単位以上を履修しなければならない。

(2) 小学校教諭一種免許状を得ようとする者は、教育職員免許法（昭和 24 年法律第 147 号）及び教育職員免許法施行規則（昭和 29 年文部省令第 26 号）の規定に基づき、卒業要件を満たし、かつ、

□「資格等の要件」の項に掲げる「小学校教諭一種免許状」区分に定める◎印を付した指定科目を履修しなければならない。

□加えて、△印を付した科目から、2 単位以上を履修しなければならない。

(3) 特別支援学校教諭一種免許状を得ようとする者は、教育職員免許法（昭和 24 年法律第 147 号）及び教育職員免許法施行規則（昭和 29 年文部省令第 26 号）の規定に基づき、卒業要件を満たし、かつ、

□資格等の要件」の項に掲げる「特別支援学校教諭一種免許状」区分に定める◎印を付した指定科目を履修しなければならない。▲印を付した授業科目群から実習指導 1 単位とその実習に応じた実習単位 2 単位を含めて、3 単位以上を履修しなければならない。

(4) 司書教諭資格を取得できる者は、卒業要件を満たし、かつ小学校教諭一種免許状を取得する者とする。司書教諭資格を得ようとする者は、教育職員免許法（昭和 24 年法律第 147 号）及び教育職員免許法施行規則（昭和 29 年文部省令第 26 号）の規定に基づき、卒業要件を満たし、かつ、

□「資格等の要件」の項に掲げる「司書教諭資格」区分に定める◎印を付した指定科目を履修しなければならない。

(3)保育士資格に関すること

□保育所や児童福祉施設等で働く職員に必要な「保育士資格」は、**児童福祉法施行規則**の規定に基づいて取得できる資格である。授業計画書の「開講科目一覧　保育教育学科(令和 2 年度入学生)」の表に示されている「卒業単位」と「資格の要件」の資格・免許別の必修科目・選択必修科目・選択科目の記載と、印（◎、△、▲）を確認するとともに、表の最後に示してある備考欄を熟読し、履修する。

□公立の保育所・幼稚園で働く場合、公務員採用試験の受験資格に保育士資格と幼稚園教諭免許の併有が条件となっている場合がある。将来の就職先および採用試験受験資格も検討考慮の上、履修モデルを決定する。

開講科目一覧　保育教育学科(令和 2 年度入学生)　備考欄

(5)保育士資格を得ようとする者は、児童福祉法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 11 号）の規定に基づき、卒業要件を満たし、かつ、

□「資格等の要件」の項に掲げる「保育士資格」区分に定める◎印を付した指定科目を履修しなければならない。

□ただし、△印を付した授業科目群から 6 単位以上を、▲印を付した授業科目群から実習指導 1 単位とその実習指導に対応した実習 2 単位を含めて 3 単位以上を履修しなければならない。

2. 履修計画立案の学びと履修登録、提出物の流れ

1 年春学期の履修登録 履修科目を登録する

「教職論」「スタートアップセミナー」の受講

↓

履修計画表（データ原本）を受け取る 担任教員から履修モデル別履修計画表のファイルを受け取る

↓

4 年間の履修計画表の提出 4 年間の暫定的な履修計画表を作成し、教務学生課に提出する【1 年秋学期まで】

↓

1 年秋学期の履修登録 履修計画表をもとに履修科目を登録する

履修カルテ①②の提出 **・1 年春学期の成績確認→**「履修カルテ①＜教職関連科目の履修状況＞教職センター用」「履修カルテ②＜自己評価シート＞」を作成し、教職センターに提出する

・「保育教育学科学習ポートフォリオ」を教職実践演習の授業担当者に提出する

↓

学期ごとに履修計画表の見直しができる **修正する場合は、**履修計画表を教務学生課に提出する

学期ごとに履修カルテ①②の提出 履修カルテ①②に追記し、教職センターに提出する

2 年・3 年・4 年春学期に 1 年分の履修登録 学期ごとに見直しができる

(1) 1 年春学期の履修登録

□授業開始の第 1 週目の 1 年春学期履修登録期間に「総合学生情報システム（UNIVERSAL PASSPORT）」を用いて、学生個人が履修科目の登録を行う。

◆以下の卒業必修科目（18 単位）は、全員登録する。

＜学部共通基礎科目＞ □しまね地域共生学入門 □健康スポーツ I

＜学科基礎科目＞ □スタートアップセミナー □英語 I □情報機器の操作 I

＜専門基幹科目＞ □表現研究（児童文化）I □教職論 □発達心理学 I □保育原理 □社会福祉概論 □音楽 I □図画工作

◆以下の選択科目（2 単位）は教職の基礎となる資質科目であり、全員履修を強く推奨する。

□表現とコミュニケーション □音楽基礎 I（ピアノ）

□ここまでの科目登録で合計単位が 20 単位になる。CAP制により実習や集中講義を除いて 1 年間 46 単位まで履修できる。学期でおおむね 23 単位であり、残りおおむね 3 単位程度まで履修登録できる。

◆以下の選択科目は、いずれも集中あるいは実習であり、CAP制に関係なく履修登録できる。教職としてのコミュニケーション力獲得のために、強く推奨する。ただし、アメリカ語学研修を履修するには、アメリカ語学研修計画 1 単位を履修登録することが必要。これはCAP制単位に入れる。

□しまねボランティア研修 □アメリカ語学研修

◆残りおおむね 3 単位分を、春学期に開講している以下の基礎科目から選択して履修登録完了。基礎科目は早めに卒業要件を満たす単位を取得することが望ましい。必ず履修登録すること。

□哲学 □人間と自然 □脳科学と心

(2) スタートアップセミナーでの「履修計画表」の作成と提出

□1 年春学期の期間は、基礎科目や専門科目の必修科目・推奨科目、選択科目等を履修しながら、4 年間にどの免許・資格を取得するかを考える期間である。**「島根県立大学人間文化学部履修規程」第 4 条**に基づき、1 年秋学期の履修登録期間に履修モデルの選択と 4 年間の履修計画を確定するため、1 年春学期期間中に履修モデルの選択と 4 年間の履修計画を考える。

□4 年間の履修計画案は 1 年春学期の「スタートアップセミナー」の授業を通して作成する。「履修計画表(データ原本)」が担任教員から学生のメールアドレスに送付されるので、学生個人が 4 年間の「履修計画表」を作成し、1 年秋学期までに 4 年間の「履修計画表」のデータファイル(PDFとEXCELファイル)をメール添付で教務学生課に提出する。

ファイル名： XXXX(学籍番号)〇〇〇(氏名)・履修計画表(モデル名称)
送信先： m-kyoumu@u-shimane.ac.jp

□1 年秋学期までに履修計画表を提出した後は、学期ごとに「履修計画表」を見直し、修正がある場合は、新たな登録までの決められた期日までに、データファイルをメール添付で教務学生課へ提出する。

(3) 1 年秋学期の履修登録

□1 年秋学期の履修登録期間に「履修計画表」に基づき 1 年秋学期の履修登録を行う。それ以降は、2 年・3 年・4 年春学期の履修登録期間に 1 年間分の履修登録を行い、学期ごとに履修登録の見直しを行う。

□1 年秋学期末の 3 月までに履修モデルを確定し、2 年次以降は履修モデルごとの専門的な履修に移行するよう立案する。3 年次以降に大きな履修モデルの変更を行うと、4 年間で資格要件を満たすことが困難になるため注意すること。

□「島根県立大学人間文化学部履修規程」第 4 条、ならびに「島根県立大学人間文化学部保育教育学科履修細則」第 8 条に基づき、1 年次のＧＰＡが 2.5 以上であれば免許状と資格の追加履修が可能である。

□1 年秋学期の「保育実習Ⅰ(保育所)」は、保幼小と特別支援教育の、すべての免許資格に関連する貴重な資質科目であり、「保育実習Ⅰ(保育所)指導」と合わせて、全員履修を強く推奨する。

(4) 2 年春学期の履修登録とキャリアプランニング

□2 年次春学期の履修登録により、卒業後の進路を見通した選択履修を開始する。

□2 年秋学期のライフデザイン科目「キャリアプランニング」の選択履修等を通して、卒業後の進路検討を進め、自分に適した選択履修を進める。

(5) 教職センターへの「履修カルテ①②」の提出

□1 年春学期から卒業まで、学期ごとに成績を確認した後は、免許・資格の取得状況を把握するために、「履修カルテ①＜教職関連科目の履修状況＞教職センター用」「履修カルテ②＜自己評価シート＞」を大学の教職センターへ提出する。

□「履修カルテ①＜教職関連科目の履修状況＞教職センター用」「履修カルテ②＜自己評価シート＞」は、幼稚園教諭・小学校教諭・特別支援学校教諭の免許種別に作成する（3 免許履修する場合は 3 種類の「履修カルテ①＜教職関連科目の履修状況＞教職センター用」と「履修カルテ②＜自己評価シート＞」をそれぞれ別々に作成して提出する）。

□初回の「履修カルテ①＜教職関連科目の履修状況＞教職センター用」と「履修カルテ②＜自己評価シート＞」の提出は、1 年春学期の成績認定後に学生が作成し、決められた期日までにデータファイル（PDFとEXCELファイル）をメール添付で教職センターへ提出する。

ファイル名： XXXX（学籍番号）〇〇〇（氏名）・履修カルテ①②
送信先： m-kyoshoku@u-shimane.ac.jp

□履修カルテの初回の提出後は、学期ごとに「履修カルテ①＜教職関連科目の履修状況＞教職センター用」「履修カルテ②＜自己評価シート＞」を作成し、決められた期日までにデータファイルをメール添付で教職センターへ提出する。

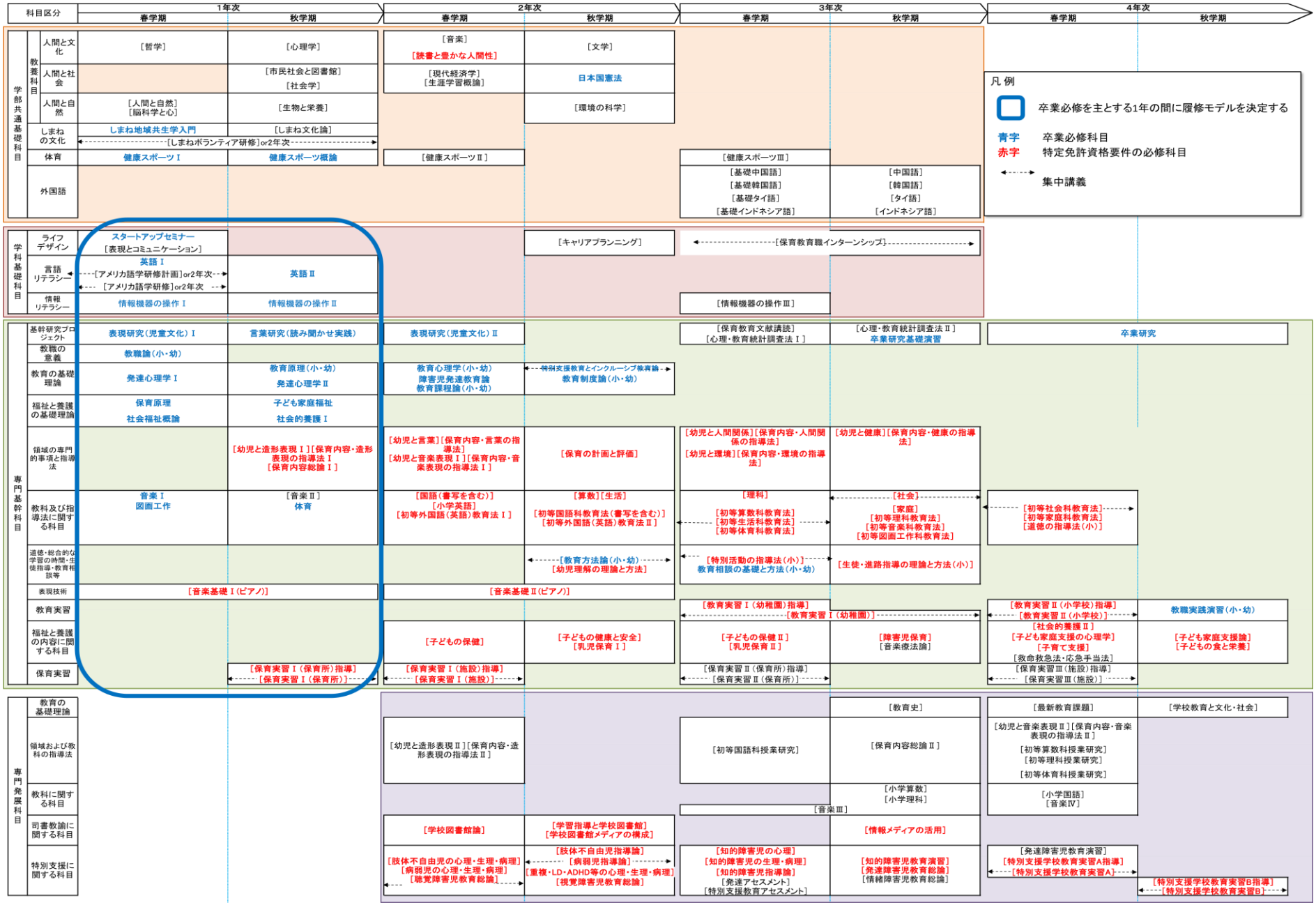
(6) 教職実践演習（小・幼）の履修とポートフォリオの作成

□「教職実践演習（小・幼）」は 4 年秋学期に開講される科目であるが、小学校教諭免許・幼稚園教諭免許および保育士資格を取得するための必修科目となっている。

□「教職実践演習（小・幼）」の履修登録を行うためには、1 年春学期から 4 年春学期終了までに「履修カルテ①＜教職関連科目の履修状況＞学生ふりかえり用」「履修カルテ②＜自己評価シート＞」「保育教育学科学習ポートフォリオ」の作成および提出が必須となるため、自分のデータおよび関係資料を保管し、決められた期日までに教職実践演習の授業担当者に提出する。

□「教職実践演習（小・幼）」の授業内容や「履修カルテ①＜教職関連科目の履修状況＞学生ふりかえり用」「履修カルテ②＜自己評価シート＞」「保育教育学科学習ポートフォリオ」の提出については、1 年春学期期間中に別途ガイダンスを行うので必ず出席する。

カリキュラム系統図【保育教育学科】



R2開講科目一覧　保育教育学科

2019.12.16

科目区分			授業科目	担当	単位数 必修	単位数 選択	授業時間数	週配当時間 1年次 春学期	1年次 秋学期	2年次 春学期	2年次 秋学期	3年次 春学期	3年次 秋学期	4年次 春学期	4年次 秋学期	卒業単位	資格の要件 一種免 幼稚園教諭	資格の要件 一種免 小学校教諭	資格の要件 一種免 特別支援学校教諭	資格の要件 司書教諭資格	資格の要件 保育士資格	備考
学部共通基礎科目	教養科目	人間と文化	哲学	[倉田隆]		2	30	2								12単位以上	2単位以上	2単位以上	2単位以上		6単位以上	
			心理学	[飯塚由美]		2	30		2													
			音楽	[新倉健]		2	30			2												
			文学	[武田信明]		2	30				2											
			読書と豊かな人間性	[天野佳代子]		2	30			2										◎		
		人間と社会	市民社会と図書館	[石井大輔]		2	30		2								2単位以上	2単位以上	2単位以上			
			社会学	[片岡佳美]		2	30		2													
			現代経済学	[大塚茂]		2	30			2												
			生涯学習概論	[仲野寛]		2	30			2												
			日本国憲法	[黒澤修一郎]	2		30				2											66条の6
		人間と自然	人間と自然	[松本一郎]		2	30	2									2単位以上	2単位以上	2単位以上			集中講義？
			脳科学と心	内山仁志		2	30	2														
			生物と栄養	[安藤彰朗]		2	30		2													
			環境の科学	高橋泰道		2	30				2											
	しまねの文化		しまね地域共生学入門	島根県立大学専任教員	2		30	2														
			しまね文化論	[工藤泰子]		2	30		2													
			しまねボランティア研修	[県立青少年の家　社会教育主事]		1	30	(30)		(30)												集中講義
	体育		健康スポーツ概論	岸本強	1		15		1							4単位以上	◎	◎	◎		◎	66条の6
			健康スポーツⅠ	岸本強	1		30	2									◎	◎	◎		◎	66条の6
			健康スポーツⅡ	岸本強		1	30			2												
			健康スポーツⅢ	[山本ユミ]		1	30					2										
	外国語		基礎中国語	[鳥谷聡子]		1	30					2										
			中国語	[鳥谷聡子]		1	30						2									
			基礎韓国語	[崔貞美]		1	30					2										
			韓国語	[崔貞美]		1	30						2									
			基礎タイ語	[増原善之]		1	30					2										
			タイ語	[増原善之]		1	30						2									
			基礎インドネシア語	[塩谷もも]		1	30					2										
			インドネシア語	[塩谷もも]		1	30						2									
学科基礎科目	ライフデザイン		スタートアップセミナー	保育教育学科専任教員	1		30	2								6単位以上						一部学部共通
			表現とコミュニケーション	[園山土筆],[有田幸],[田中小百合]		1	15	(15)														
			キャリア・プランニング	保育教育学科専任教員,[青山啓子],[赤木寛子]		1	30				2											
			保育教育職インターンシップ	保育教育学科専任教員,[青山啓子],[赤木寛子]		2	90					(90)										
	言語リテラシー		英語Ⅰ	[中井誠一]	1		30	2									◎	◎	◎		◎	66条の6
			英語Ⅱ	[竹中裕貴]	1		30		2								◎	◎	◎		◎	66条の6
			アメリカ語学研修計画	[Dustin Kidd]		1	30	2		2												
			アメリカ語学研修	[Dustin Kidd]		2	30	(30)		(30)												
	情報リテラシー		情報機器の操作Ⅰ	[飯塚由美]	1		30	2									◎	◎	◎			66条の6
			情報機器の操作Ⅱ	[飯塚由美]	1		30		2								◎	◎	◎			66条の6
			情報機器の操作Ⅲ	[小倉佳代子]		1	30					2										
専門基幹科目	基幹研究プロジェクト		表現研究（児童文化）Ⅰ	福井一尊,矢島毅昌,梶間奈保	2		60	4								102単位以上（専門基幹科目92単位以上を含む）	◎				△	
			表現研究（児童文化）Ⅱ	福井一尊,矢島毅昌,梶間奈保	2		60			4							◎				△	
			言葉研究（読み聞かせ実践）	中井悠加,[岩田裕子],[尾崎智子],[内田絢子]	2		60		4								◎				△	保育内容の指導法
			保育教育文献講読	山田洋平,牧瀬翔麻		2	30					2										
			心理・教育統計調査法Ⅰ	山田洋平		2	30					2										
			心理・教育統計調査法Ⅱ	山田洋平		2	30						2									
			卒業研究基礎演習	保育教育学科専任教員	2		30						(30)									卒業研究と合同
			卒業研究	保育教育学科専任教員	4		120							(60)	(60)							基礎演習と合同
	教育の基礎理論	教職の意義	教職論（小・幼）	時津　啓,[渡辺一弘]	2		30	2									◎	◎			◎	
		教育の理念・歴史・思想	教育原理（小・幼）	時津　啓	2		30		2								◎	◎			◎	
		心身の発達及び学習の過程	発達心理学Ⅰ	[菊野雄一郎]	2		30	2									◎	◎			◎	
			発達心理学Ⅱ	[菊野雄一郎]	1		15		1								◎	◎				
			教育心理学（小・幼）	山田洋平,[菊野雄一郎]	2		30			2							◎	◎				
		特別支援教育の基礎理論	障害児発達教育論	園山繁樹,[山下由紀恵]	2		30			2									◎			
			特別支援教育とインクルーシブ教育論	園山繁樹,[宮崎英憲],[Lamichhane Kamal],[山本勉]	1		15				1						◎	◎				集中講義
		教育の社会的、制度的、経営的事項	教育制度論（小・幼）	牧瀬翔麻	2		30				2						◎	◎			◎	
		教育課程の意義及び編成方法	教育課程論（小・幼）	小山優子	2		30			2							◎	◎			◎	

科目区分			授業科目	担当	単位数 必修	単位数 選択	授業時間数	週配当時間 1年次 春学期	1年次 秋学期	2年次 春学期	2年次 秋学期	3年次 春学期	3年次 秋学期	4年次 春学期	4年次 秋学期	卒業単位	資格の要件 一種免許状 幼稚園教諭	一種免許状 小学校教諭	一種免許状 特別支援学校教諭	司書教諭資格	保育士資格	備考
専門基幹科目	福祉と養護の基礎理論	福祉の理論	保育原理	小山優子	2		30	2								102単位以上（専門基幹科目92単位以上を含む）					◎	
			子ども家庭福祉	藤原映久,［宮下裕一］	2		30		2												◎	
			社会福祉概論	［宮下裕一］	2		30	2													◎	
		社会的養護	社会的養護Ⅰ	藤原映久	2		30		2												◎	
	領域の専門的事項と指導法に関する科目		幼児と健康	岸本強,［高橋恵美子］		1	15						1				◎				◎	
			保育内容・健康の指導法	岸本強,［高橋恵美子］		1	15						1				◎				◎	
			幼児と人間関係	矢島毅昌		1	15					1					◎				◎	
			保育内容・人間関係の指導法	矢島毅昌		1	15					1					◎				◎	
			幼児と環境	高橋泰道		1	15					1					◎				◎	
			保育内容・環境の指導法	［山尾淳子］		1	15					1					◎				◎	
			幼児と言葉	中井悠加		1	15			1							◎				◎	
			保育内容・言葉の指導法	中井悠加		1	15			1							◎				◎	
			幼児と造形表現Ⅰ	福井一尊		1	15		1								◎				◎	
			保育内容・造形表現の指導法Ⅰ	福井一尊		1	15		1								◎				◎	
			幼児と音楽表現Ⅰ	梶間奈保,［秦昌子］		1	15			1							◎				◎	
			保育内容・音楽表現の指導法Ⅰ	梶間奈保,［秦昌子］		1	15			1							◎				◎	
			保育内容総論Ⅰ	小山優子		1	15		1								◎				◎	
			保育の計画と評価	小山優子		1	15				1						◎				◎	
	教科及び教科の指導法に関する科目		国語（書写を含む）	中井悠加,［福田哲之］		2	30			2								◎				
			社会	［福間敏之］		2	30						2					◎				
			算数	斎藤一弥		2	30				2							◎				
			理科	高橋泰道		2	30					2						◎				
			生活	矢島毅昌,高橋泰道		2	30				2							◎				
			音楽Ⅰ	梶間奈保	1		30	2										◎			◎	
			音楽Ⅱ	梶間奈保		1	30		2									△			△	
			図画工作	福井一尊	1		30	2										◎			◎	
			家庭	［多々納道子］		2	30						2					◎				
			体育	岸本強	1		30		2									◎			◎	
			小学英語	［大谷みどり］		1	15			1								◎				集中講義？
			初等国語科教育法（書写を含む）	中井悠加,［福田哲之］		2	30				2							◎				
			初等社会科教育法	［福間敏之］		2	30							2				◎				
			初等算数科教育法	斎藤一弥		2	30					2						◎				
			初等理科教育法	高橋泰道		2	30						2					◎				
			初等生活科教育法	［木村吉彦］		2	30					2						◎				集中講義
			初等音楽科教育法	梶間奈保,［岡田正樹］		2	30						2					◎				
			初等図画工作科教育法	福井一尊,［妻藤純子］		2	30						2					◎				
			初等家庭科教育法	［多々納道子］		2	30							2				◎				
			初等体育科教育法	［梶谷朱美］		2	30					2						◎				
			初等外国語（英語）教育法Ⅰ	［Lange Kriss］		1	15			1								◎				
			初等外国語（英語）教育法Ⅱ	［Lange Kriss］		1	15				1							◎				
	道徳・総合的な学習の時間及び生徒指導・教育相談等に関する科目	道徳の指導法	道徳の理論と指導法（小）	時津啓		2	30							2				◎				
		総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間の指導法	高橋泰道		1	15						1					◎				
		特別活動の指導法	特別活動の指導法（小）	［高旗浩志］		1	15					1						◎				集中講義
		教育の方法及び技術	教育方法論（小・幼）	時津　啓,［深見俊崇］,［加藤明］	2		30				2						◎	◎				集中講義
		生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	幼児理解の理論と方法	園山繁樹,［菊野雄一郎］		2	30				2						◎				◎	
			教育相談の基礎と方法（小・幼）	山田洋平	2		30					2					◎	◎			△	
			生徒・進路指導の理論と方法（小）	山田洋平		2	30						2					◎				
	表現技術		音楽基礎Ⅰ（ピアノ）	［白川浩］,［白川千春］,［代香織］		1	30	(15)	(15)								◎	◎			◎	
			音楽基礎Ⅱ（ピアノ）	［白川浩］,［白川千春］,［代香織］		1	30			(15)	(15)						◎	◎			△	
	教育実践に関する科目		教育実習Ⅰ(幼稚園)指導	小山優子,［青山啓子］		1	15					1					◎					
			教育実習Ⅰ(幼稚園)	小山優子		4	180					(90)	(90)				◎					
			教育実習Ⅱ（小学校）指導	斎藤一弥,高橋泰道,［赤木寛子］		1	15							1				◎				
			教育実習Ⅱ（小学校）	斎藤一弥,高橋泰道		4	180							(180)				◎				
			教職実践演習（小・幼）	斎藤一弥,高橋泰道,小山優子,矢島毅昌,梶間奈保	2		30								2		◎	◎			◎	

科目区分			授業科目	担当	単位数 必修	単位数 選択	授業時間数	週配当時間 1年次 春学期	1年次 秋学期	2年次 春学期	2年次 秋学期	3年次 春学期	3年次 秋学期	4年次 春学期	4年次 秋学期	卒業単位	資格の要件 一種免許状 幼稚園教諭	一種免許状 小学校教諭	一種免許状 特別支援学校教諭	司書教諭資格	保育士資格	備考
専門基幹科目	福祉と養護の内容に関する科目		社会的養護Ⅱ	藤原映久		1	15							1		102単位以上（専門基幹科目92単位以上を含む）					◎	
			子ども家庭支援の心理学	藤原映久		2	30							2							◎	
			子ども家庭支援論	藤原映久		2	30								2						◎	
			子育て支援	[山尾淳子]		1	15							1							◎	
			子どもの保健	前林英貴		2	30			2											◎	
			子どもの健康と安全	前林英貴,[竹原康江]		1	30				2										◎	
			救命救急法・応急手当法	前林英貴,[手島由美子]		1	30							1							△	
			子どもの食と栄養	[長島美保子]		2	30								2						◎	
			乳児保育Ⅰ	前林英貴		2	30				2										◎	
			乳児保育Ⅱ	[青山啓子]		1	15					1									◎	
			障害児保育	園山繁樹,西村健一		2	30						2								◎	
			音楽療法論	[武田千代美]		1	15						1								△	
	保育実習		保育実習Ⅰ（保育所）指導	山田洋平,[青山啓子]		1	15		1												◎	
			保育実習Ⅰ（保育所）	山田洋平		2	90		(90)												◎	
			保育実習Ⅰ（施設）指導	藤原映久,[宮下裕一]		1	15			1											◎	
			保育実習Ⅰ（施設）	藤原映久,[宮下裕一]		2	90			(90)											◎	
			保育実習Ⅱ（保育所）指導	矢島毅昌,[青山啓子]		1	15					1									▲	
			保育実習Ⅱ（保育所）	矢島毅昌		2	90					(90)									▲	
			保育実習Ⅲ（施設）指導	藤原映久,[宮下裕一]		1	15							1							▲	
			保育実習Ⅲ（施設）	藤原映久,[宮下裕一]		2	90							(90)							▲	
専門発展科目	教育の基礎理論	教育の理念・歴史・思想	教育史	時津　啓		2	30						2				△	△			△	
		教育の社会的、制度的、経営的事項	最新教育課題	時津　啓,[渡辺一弘]		1	15							1			△	△				
			学校教育と文化・社会	矢島毅昌		2	30								2		△	△				
	領域の専門的事項と指導法に関する科目		保育内容総論Ⅱ	小山優子		1	15						1				△				△	
			幼児と造形表現Ⅱ	福井一尊		1	15			1							△				△	
			保育内容・造形表現の指導法Ⅱ	福井一尊		1	15			1							△				△	
			幼児と音楽表現Ⅱ	梶間奈保,[渡邉寛智]		1	15							1			△				△	
			保育内容・音楽表現の指導法Ⅱ	梶間奈保,[渡邉寛智]		1	15							1			△				△	
	教科及び教科の指導法に関する科目		初等国語科授業研究	中井悠加		2	30					2						△				
			初等算数科授業研究	斎藤一弥		2	30							2				△				
			初等理科授業研究	高橋泰道		2	30							2				△				
			初等体育科授業研究	[梶谷朱美]		2	30							2				△				
			小学国語	中井悠加		2	30							2				△				
			小学算数	斎藤一弥		2	30						2					△				
			小学理科	高橋泰道		2	30						2					△				
			音楽Ⅲ	梶間奈保,[渡邉寛智],[代香織]		1	30					(15)	(15)					△			△	
			音楽Ⅳ	[渡邉寛智]		1	30							2				△				
	司書教諭に関する科目		学校図書館論	[木内公一郎]		2	30			2										◎		学部共通
			学習指導と学校図書館	[木内公一郎]		2	30				2									◎		学部共通
			学校図書館メディアの構成	[木内公一郎]		2	30				2									◎		学部共通
			情報メディアの活用	[石井大輔]		2	30						2							◎		学部共通
	特別支援教育に関する科目	特別支援教育領域に関する科目	知的障害児の心理	園山繁樹,内山仁志		2	30					2							◎			
			知的障害児の生理・病理	[石井尚吾]		2	30					2							◎			集中講義
			肢体不自由児の心理・生理・病理	[平岩里佳]		2	30			2									◎			
			病弱児の心理・生理・病理	[瀬島斉]		2	30			2									◎			
			知的障害児指導論	西村健一		2	30					2		2					◎			３・4年次時間割
			肢体不自由児指導論	西村健一		2	30				2								◎			
			病弱児指導論	園山繁樹,前林英貴,[高田哲],[佐々木章友]		2	30				2								◎			
			知的障害児教育演習	西村健一		2	30						2		2				◎			３・4年次時間割
		免許法に定められることになる特別支援教育領域以外の領域に関する科目	重複・LD・ADHD等の心理・生理・病理	内山仁志,西村健一,[石井尚吾]		2	30				2								◎			
			視覚障害児教育総論	内山仁志		2	30				2								◎			
			聴覚障害児教育総論	[原島恒夫],[福島朗博]		2	30			2									◎			集中講義
			発達障害児教育総論	園山繁樹,内山仁志,西村健一		2	30						2						◎			
			発達障害児教育演習	内山仁志		2	30							2								
			情緒障害児教育総論	園山繁樹		2	30						2									
			発達アセスメント	園山繁樹,[菊野雄一郎]		1	30					2										
			特別支援教育アセスメント	園山繁樹,内山仁志,西村健一		1	30					2										
		心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習	特別支援学校教育実習A指導	内山仁志,西村健一		1	15							1					▲			
			特別支援学校教育実習A	内山仁志,西村健一		2	90							(90)					▲			
			特別支援学校教育実習B指導	内山仁志,西村健一		1	15								1				▲			

科目区分			授業科目	担当	単位数		授業時間数	週配当時間								卒業単位	資格の要件					備考
								１年次		２年次		３年次		４年次								
					必修	選択		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期		一種免許状 幼稚園教諭	一種免許状 小学校教諭	一種免許状 特別支援学校教諭	司書教諭資格	保育士資格	
			特別支援学校教育実習B	内山仁志, 西村健一		2	90								(90)				▲			
計					56	221	5445	32	34	41	39	46	43	31	11	124						

備考欄

卒業要件を満たすためには、「卒業単位」の項に定める科目区分ごとの単位数を満たし、合計124単位以上を履修しなければならない。

(1) 幼稚園教諭一種免許状を得ようとする者は、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）の規定に基づき、卒業要件を満たし、かつ、「資格等の要件」の項に掲げる「幼稚園教諭一種免許状」区分に定める◎印を付した指定科目を履修しなければならない。加えて△印を付した授業科目から2単位以上を履修しなければならない。

(2) 小学校教諭一種免許状を得ようとする者は、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）の規定に基づき、卒業要件を満たし、かつ、「資格等の要件」の項に掲げる「小学校教諭一種免許状」区分に定める◎印を付した指定科目を履修しなければならない。加えて、△印を付した科目から、2単位以上を履修しなければならない。

(3) 特別支援学校教諭一種免許状を得ようとする者は、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）の規定に基づき、卒業要件を満たし、かつ、「資格等の要件」の項に掲げる「特別支援学校教諭一種免許状」区分に定める◎印を付した指定科目を履修しなければならない。▲印を付した授業科目群から実習指導1単位とその実習に応じた実習単位2単位を含めて、3単位以上を履修しなければならない。

(4) 司書教諭免許状を取得できる者は、卒業要件を満たし、かつ小学校教諭一種免許状を取得する者とする。司書教諭免許状を得ようとする者は、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）の規定に基づき、卒業要件を満たし、かつ、「資格等の要件」の項に掲げる「司書教諭免許状」区分に定める◎印を付した指定科目を履修しなければならない。

(5) 保育士資格を得ようとする者は、児童福祉法施行規則（昭和23年厚生省令第11号）の規定に基づき、卒業要件を満たし、かつ、「資格等の要件」の項に掲げる「保育士資格」区分に定める◎印を付した指定科目を履修しなければならない。ただし、△印を付した授業科目群から6単位以上を、▲印を付した授業科目群から実習指導1単位とその実習指導に対応した実習2単位を含めて3単位以上を履修しなければならない。

島根県立大学教職課程　履修カルテ①[セ]＜教職関連科目の履修状況＞教職センター用

保育教育学科（小学校）

例

学籍番号	
氏　　名	

1　教職関連科目の履修状況

(1) 教職免許法施行規則第 66 条の 6

科目名	単位数	配当年次	修得年次	教員名	評価	備考
日本国憲法	2	2 秋		黒澤修一郎		
健康スポーツ概論	1	1 秋		岸本強		
健康スポーツⅠ	1	1 春		岸本強		
英語Ⅰ	1	1 春		中井誠一		
英語Ⅱ	1	1 秋		竹中裕貴		
情報機器の操作Ⅰ	1	1 春		飯塚由美		
情報機器の操作Ⅱ	1	1 秋		飯塚由美		

66 条の 6 の単位数合計：8 単位以上

(2) 教科及び教科の指導法に関する科目

科目名	単位数	配当年次	修得年次	教員名	評価	備考
国語(書写を含む)	2	2 春		中井・福田		
社会	2	3 秋		福間敏之		
算数	2	2 秋		齊藤一弥		
理科	2	3 春		高橋泰道		
生活	2	2 秋		矢島・高橋		
音楽Ⅰ	1	1 春		梶間奈保		
音楽Ⅱ	1	1 秋		梶間奈保		
図画工作	1	1 春		福井一尊		
家庭	2	3 秋		多々納道子		
体育	1	1 秋		岸本強		
小学英語	1	2 春		大谷みどり		
小学国語	2	4 春		中井悠加		
小学算数	2	3 秋		齊藤一弥		
小学理科	2	3 秋		高橋泰道		
音楽Ⅲ	1	3		梶間・代・渡邉		
音楽Ⅳ	1	4 春		渡邉寛智		
初等国語科教育法（書写を含む）	2	2 秋		中井・福田		
初等社会科教育法	2	4 春		福間敏之		
初等算数科教育法	2	3 春		齊藤一弥		
初等理科教育法	2	3 秋		高橋泰道		

島根県立大学教職課程　履修カルテ①[セ]＜教職関連科目の履修状況＞教職センター用

保育教育学科（特別支援学校）

例

学籍番号	
氏　　名	

1　教職関連科目の履修状況

(1) 特別支援教育に関する科目

科目名	単位数	配当年次	修得年次	教員名	評価	備考
障害児発達教育論	2	2 春		園山・山下		
知的障害児の心理	2	3 春		園山・内山		
知的障害児の生理・病理	2	3 春		石井尚吾		
肢体不自由児の心理・生理・病理	2	2 春		平岩里佳		
病弱児の心理・生理・病理	2	2 春		瀬島斉		
知的障害児指導論	2	3 春		西村健一		
肢体不自由児指導論	2	2 秋		西村健一		
病弱児指導論	2	2 秋		園山・前林・高田・佐々木		
知的障害児教育演習	2	3 秋		西村健一		
重複・LD・ADHD 等の心理・生理・病理	2	2 秋		西村・内山・石井		
視覚障害児教育総論	2	2 秋		内山仁志		
聴覚障害児教育総論	2	2 春		原島・福島		
発達障害児教育総論	2	3 秋		園山・西村・内山		
発達障害児教育演習	2	4 春		内山仁志		
情緒障害児教育総論	2	3 秋		園山繁樹		
発達アセスメント	1	3 春		園山・菊野		
特別支援教育アセスメント	1	3 春		園山・西村・内山		
特別支援学校教育実習Ａ指導	1	4 春		西村・内山		
特別支援学校教育実習Ａ	2	4 春		西村・内山		
特別支援学校教育実習Ｂ指導	1	4 秋		西村・内山		
特別支援学校教育実習Ｂ	2	4 秋		西村・内山		

島根県立大学教職課程　履修カルテ②　＜自己評価シート＞　保育教育学科（小学校）

例

※評価の基準【0.未学習　1.全くできなかった　2.あまりできなかった　3.ふつう　4.よくできた　5.十分できた】

（1）必要な資質能力についての自己評価

必要な資質能力の指標			自己評価							
項目	指標	H18 答申との対応	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期	3年次前期	3年次後期	4年次前期	4年次後期
教職の意義・学校教育についての理解	教職の意義や教員（保育者）の役割、職務内容、児童に対する責務を理解している。	使命感や責任感、教育的愛情	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5
	教育の理念、教育に関する歴史・思想についての基礎理論・知識を習得している。		0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5
	学校教育の社会的・制度的な性質や学校の経営的側面についての基礎的な知識を習得している。		0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5
	保護者や地域との連携・協力の意味と重要性について理解している。		0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5
課題探究力	いじめ、不登校、特別支援教育などの学校教育に関する新たな課題に関心を持ち、自分なりに意見を持つことができる。		0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5
	教職に向けての自己の課題を認識し、その解決にむけて学び続ける姿勢を持っている。		0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5
児童についての理解・集団理解力	児童理解のために必要な心理・発達論的な基礎知識を習得している。	子ども理解や学級経営	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5
	集団の性質や集団形成に関する基礎理論・知識を習得している。		0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5
	いじめ、不登校などについて、個々の児童の特性や状況に応じた対応の方法を理解している。		0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5
	特別支援教育についての知識や特別な支援を必要とする児童への対応の方法を理解している。		0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5
コミュニケーション力	児童一人一人の発達の課題を理解し、個々の児童に応じた関わりができる。		0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5
	児童の声を真摯に受け止め、公平で受容的な態度で接することができる。		0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5
	児童に積極的に関わったり、コミュニケーションをとることができる。		0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5
他者との連携・協力、社会性、対人関係能力	他者の意見やアドバイスに耳を傾け、理解や協力を得て課題に取り組むことができる。	社会性や対人関係能力	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5
	他者と共同して授業を企画・運営・展開することができる。		0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5
	集団において、他者と協力して課題に取り組むことができる。		0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5
社会人としての基本	集団において、率先して自らの役割を見つけたり、与えられた役割をきちんとこなすことができる。		0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5
	挨拶、言葉遣い、服装、他の人への接し方など、社会人としての基本的な態度やマナーなどが身についている。		0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5
教育方法・教育課程・学級経営に関する基礎的な知識・技能	教育課程(カリキュラム)の編成に関する基礎的な知識を習得している。	教科の指導力	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5
	学習指導要領の内容や教科書の内容を理解している。		0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5
	道徳教育・特別活動の指導法や内容に関する基礎理論・知識を習得している。		0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5
	生活指導や進路指導の内容と方法に関する基礎理論・知識を習得している。		0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5
	「総合的な学習の時間」の指導法や内容に関する基礎理論・知識を習得している。		0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5
	指導案の作成に関する基礎的な知識を習得している。		0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5
	学級経営・クラスづくりに関する基礎的な知識を習得している。		0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5
	情報教育機器の活用についての知識を習得し、活用することができる。		0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5
	学級経営案を作成することができる。		0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5
教育実践力	これまで履修した教科(国語)に関わる科目の内容と指導法を習得している。		0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5
	これまで履修した教科(社会)に関わる科目の内容と指導法を習得している。		0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5
	これまで履修した教科(算数)に関わる科目の内容と指導法を習得している。		0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5
	これまで履修した教科(理科)に関わる科目の内容と指導法を習得している。		0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5
	これまで履修した教科(生活)に関わる科目の内容と指導法を習得している。		0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5
	これまで履修した教科(音楽)に関わる科目の内容と指導法を習得している。		0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5
	これまで履修した教科(図画工作)に関わる科目の内容と指導法を習得している。		0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5
	これまで履修した教科(家庭)に関わる科目の内容と指導法を習得している。		0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5
	これまで履修した教科(体育)に関わる科目の内容と指導法を習得している。		0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5
	教材を分析し、教材研究を生かした授業を構想して、児童の反応を想定した指導案にまとめることができる。		0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5
	児童の姿を捉え、児童の反応を的確に生かし、皆で協力しながら授業を展開することができる。		0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5
	板書、発問、的確な話し方など、授業を行う上での基本的な表現の技術を身につけている。		0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5
	授業後に児童への指導・援助について評価・反省し、次の実践に活かすことができる。		0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5
	実習やインターンシップを通して、学習指導案を作成し実践することができる.		0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5	0-1-2-3-4-5

（2）教職を目指す上で課題と考えている事項

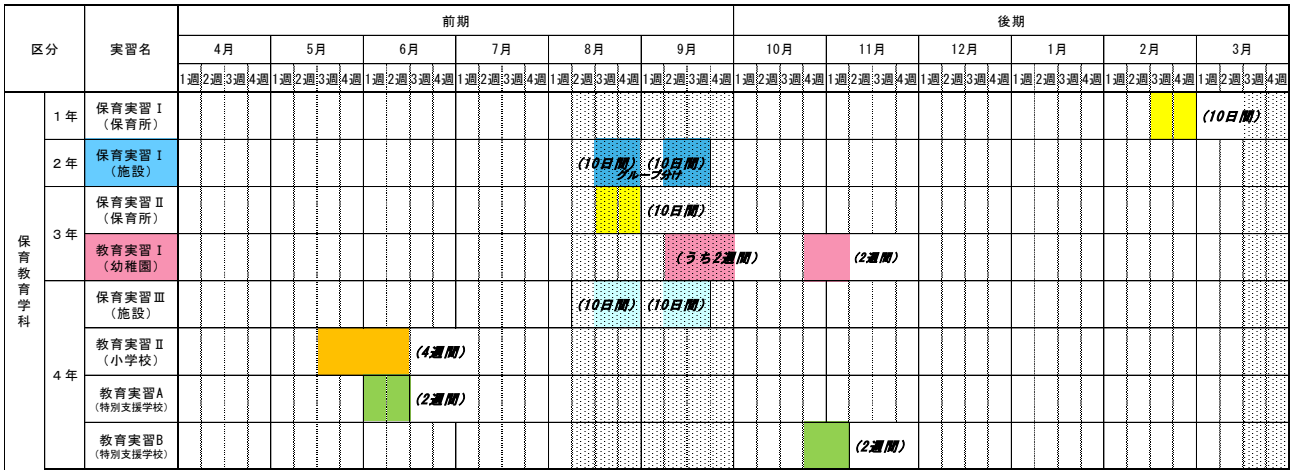
		教員確認印
1 年	（春学期）	
	（秋学期）	
2 年	（春学期）	
	（秋学期）	
3 年	（春学期）	
	（秋学期）	
4 年	（春学期）	
	（秋学期）	

Ⅱ. 実習ガイド

【保育教育学科の実習スケジュール】

4 年間のスケジュール

島根県立大学保育教育学科　実習スケジュール



（注1）網掛けは大学の休業期間
（注2）実習時期はその年の状況によって前後する可能性がある
（注3）保育実習・幼稚園実習は、実習指導委員会を年１回開催

◆1 年秋学期（2 月）保育実習Ⅰ（保育所）
この実習は保育士資格取得の必修科目であるが、1 年春学期秋学期に学んだ子どもの発達と教育の基本を、0 歳から 6 歳までの実際の子どもの生活と遊びに触れて深く理解するために、全員履修を強く推奨する。実習先は、大学指定の協力保育所（園）である。

◆2 年春学期（8・9 月）保育実習Ⅰ（施設）
この実習も、保育士資格取得のための必修科目である。保育士資格を取得する履修モデル(1)を選択した学生は、大学指定の協力児童福祉施設等で施設保育と養護の実際を学び、理解を深める。4 年生の児童福祉施設等の保育実習Ⅲも同じ時期に実施する。

◆3 年春学期（8 月）保育実習Ⅱ（保育所）
この実習は、保育士資格取得のための選択必修科目である。履修モデル(1)を選択した学生は、2 年以上の学びを踏まえて、地元等の協力保育所（園）で専門性を高める。

◆3 年春学期（9 月）秋学期（10～11 月）教育実習Ⅰ（幼稚園）
この実習は、幼稚園教諭免許状取得のための必修科目である。履修モデル(1)(3)を選択した学生は、大学から巡回指導を受けられる圏内での協力幼稚園で、専門性を高める。

◆3 年通年（5～1 月）保育教育職インターンシップ
この科目は、学生が自主的に選択した地元等の保育教育職の専門機関で、教職員としての実務を中心に学ぶインターンシップ科目である。実習時間は 90 時間以上で自由に決定できる。

◆4 年春学期（5 月～6 月）教育実習Ⅱ（小学校）
この実習は、小学校教諭免許状取得のための必修科目である。履修モデル(2)(4)を選択した学生は、大学から巡回指導を受けられる圏内での協力小学校で、専門性を高める。

◆4 年春学期（6 月）特別支援学校教育実習Ａ、4 年秋学期（10～11 月）特別支援学校教育実習Ｂ
この実習は、特別支援学校教諭免許状取得のための必修科目である。履修モデル(3)を選択した学生は実習Ａ（6 月）を、履修モデル(4)を選択した学生は実習Ｂ（10～11 月）を選択して履修する。

【保育実習実施計画】

1. 保育実習の方針

（保育実習Ⅰ（保育所））

指定保育士養成施設指定基準の実習の基準に基づき、保育実習指導委員会を構成する認可保育所、保育所型認定こども園、あるいは幼保連携型認定こども園において実施される保育実習を通して、子どもの生活実態や援助のポイント、保育士の職務、保育所・施設の生活の流れや機能について理解し、実習までに学んだ授業で得られた各種成果を保育現場のなかで再確認するとともに、保育士として必要とされる態度・知識・技能を習得させる。また、家庭と地域の生活実態に触れて、支援ニーズの理解や判断のための力量を向上させる。

（保育実習Ⅰ（施設））

通所または入所型の児童福祉施設、障害者支援施設等で 10 日間の実習を経験する。児童福祉施設等（保育所を除く）における実際のケアワークや活動に参加することにより、子どもや利用者の生活実態や支援のポイント、保育士の職務と役割、施設生活の流れやその機能について体験的に学ぶ。また、保育実習Ⅰ(施設)指導等を通して実習までに学んだ知識や技能に関して、実習を通じて再確認するとともに、その実践的理解を促し、深める。

（保育実習Ⅱ（保育所））

「保育実習Ⅱ（保育所）指導」「保育実習Ⅰ（保育所）」及び専門必修科目の単位を取得したうえで、10 日間にわたる保育所での実習に臨み、それまでに学修した知識を基礎とする保育実践力を培うとともに、保育者として相応しい態度や責任感など、より高い資質を育成することを目指す。特に、子どもの実態の理解にもとづく部分指導／全日指導の計画立案・実践・反省を通して、保育所における保育内容と指導計画についての理解を深め、より高度な保育実践力を身に付けること重視する。

（保育実習Ⅲ（施設））

保育実習Ⅲ（施設）における体験と学びをより確かなものとするため、実習対象となる各施設種別について、施設を利用する子どもや障がい者の背景や特徴、各施設の役割と機能、施設職員の職務内容、保育士に求められる役割や実際のケアワーク等について再確認する。また、被虐待児童、非行児、障がい児・者など、その理解と支援に高い専門性を要する児童や利用者の特性と施設における具体的な支援方法についての学びを促し、深める。

2. 実習の段階・内容

保育教育学科教育課程の教育内容を4段階に分け、保育教育学科における保育実習を各段階に設置する。

（4年間の実習実施順）

≪保育実習Ⅰ（保育所）≫

履修の前提条件－保育教育学科1年春学期の、保育士資格取得のための必修科目の単位をすべて取得していること。1年春学期の出席日数を満たし、専門科目の課題をすべて提出済みであること。実習前の保育教育学科会議において実習生として認められること。

1年春学期に「保育理解の基礎」にかかわる科目を履修し、「保育実習Ⅰ（保育所）指導」において事前指導を受けた上で、春季休業中に、実習指導委員会に参加する保育所において10日間の実習を経験する。

(1)児童福祉施設の一つである保育所の組織や運営を理解し、保育の知識や技能を体験的に学ぶ。
(2)保育士としての自覚や態度を身につけ、問題意識をもつ。
(3)実習中の日誌記録によって体験的な気づきを明確にし、自己学習の基盤とする。
(4)事後指導によって、実習経験の理解を深める。

≪保育実習Ⅰ（施設）≫

履修の前提条件－保育教育学科2年春学期までの、保育士資格取得のための必修科目の単位をすべて取得していること。2年春学期までの出席日数を満たし、専門科目の課題をすべて提出済みであること。実習前の保育教育学科会議において実習生として認められること。

2年春学期に「保育理解の深化」にかかわる科目を履修し、「保育実習Ⅰ（施設）指導」で事前指導を受けた上で、夏季休業中に、実習指導委員会に参加する施設で10日間の実習を経験する。

(1)保育所をのぞく児童福祉施設等での実際の活動に参加することによって、対象者の理解や、施設の機能を学ぶ。また、保育士としての職務について理解を深める。
(2)子ども理解や保育者の援助の方法など、専門科目で学んだ知識や理論を実践する。
(3)実習中の日誌記録によって体験的な気づきを明確にし、自己学習の基盤とする。
(4)2年秋学期の科目において、実習経験の理解を深める。

≪保育実習Ⅱ（保育所）≫

履修の前提条件－保育教育学科3年春学期までの、保育士資格取得のための必修科目と「保育実習Ⅱ（保育所）指導」の単位を取得していること。3年春学期までの出席日数を満たし、専門科目の課題をすべて提出済みであること。実習前の保育教育学科会議において実習生として認められること。

2年秋学期ならびに3年春学期に「実践力の発展」にかかわる科目を履修し、「保育実習Ⅱ（保育所）指導」等において「保育所保育の計画」「発達過程区分の保育の内容と指導計画」等を学んだ上で、夏季休業中に、実習指導委員会に参加する保育所において、指導案作成を含む10日間の実習を経験する。

(1)児童福祉施設の一つである保育所の組織や運営を理解し、保育の知識や技能を体験的に学ぶ。
(2)保育士としての自覚や態度を身につけ、乳幼児理解や保育者の援助の方法など、専門科目で学んだ知識や理論を実践する。
(3)実習中の日誌記録によって体験的な気づきを明確にし、自己学習の基盤とする。
(4)実習中の指導案作成によって、保育内容の理解を深める。
(5)3年秋学期の事後指導によって、実習経験の理解を深め、4年次の目標を設定する。

≪保育実習Ⅲ（施設）≫

履修の前提条件－保育教育学科4年春学期までの、保育士資格取得のための必修科目の単位をすべて取得していること。4年春学期までの出席日数を満たし、専門科目の課題をすべて提出済みであること。実習前の保育教育学科会議において実習生として認められること。

3年秋学期ならびに4年春学期に「高度な専門性への展望」にかかわる科目を履修し、「保育実習Ⅲ（施設）指導」で事前指導を受けた上で、春季休業中に、実習指導委員会に参加する児童福祉施設等において10日間の実習を経験する。

(1)保育所をのぞく児童福祉施設等での実際の活動に参加することによって、対象者の理解や、施設の機能を学ぶ。また、保育士としての職務について理解を深める。
(2)児童家庭福祉、社会的養護等で学んだ知識や理論を施設現場の実際につなげて理解する。
(3)実習中の日誌記録によって体験的な気づきを明確にし、自己学習の基盤とする。
(4)4年秋学期の科目において、実習経験の理解を深める。

3. 施設種別の期間・時間数

（保育実習Ⅰ（保育所））施　設　種　別：保育所（実習指導において一覧を配布）
期間・時間数：2 月第 2 週から 3 月の間の施設が定めた 10 日間
（保育実習Ⅰ（施　設））施　設　種　別：児童養護施設等（実習指導において一覧を配布）
期間・時間数：8 月第 2 週から第 4 週の間の施設が定めた 10 日間
（保育実習Ⅱ（保育所））施　設　種　別：保育所（実習指導において一覧を配布）
期間・時間数：8 月第 2～4 週の間の施設が定めた 10 日間
（保育実習Ⅲ（施　設））施　設　種　別：児童養護施設等（実習指導において一覧を配布）
期間・時間数：7 月第 4 週～8 月第 1 週の間の施設が定めた 10 日間

4. 実習指導委員会

保育実習では、厚生労働省「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」の「第 2 履修の方法」の 5 に定められた協議委員会として「実習指導委員会」を設け、大学と実習先施設が連携して実習指導を行う。

【教育実習実施計画】

1. 教育実習の内容及び成績評価等

(1)教育実習の時期

幼稚園　　：3 年次　9 月～11 月
小学校　　：4 年次　5 月～6 月
特別支援学校　：4 年次　A6 月・B10 月～11 月

(2)教育実習の実習期間・総時間数

幼稚園　　：160 時間（8 時間×5 日間×4 週間）
小学校　　：160 時間（8 時間×5 日間×4 週間）
特別支援学校　：　80 時間（8 時間×5 日間×2 週間）

(3)教育実習校の確保の方法

［幼稚園］

1 施設あたり 1～3 名程度の実習となるよう松江市内の幼稚園 29 園、出雲市内の幼稚園 27 園を確保しており、松江市及び出雲市教育委員会から受入承諾を得ている。

［小学校］

1 校あたり 1～2 名程度の実習となるよう松江市内の小学校 34 校、出雲市内の小学校 37 校を確保しており、松江市教育委員会及び出雲市教育委員会から受入承諾を得ている。

［特別支援学校］

1 校あたり 3～4 名程度の実習となるよう島根県内の特別支援学校 6 校を確保しており、島根県教育委員会から受入承諾を得ている。

(4)教育実習内容

［幼稚園］

前半（2 週間）：幼稚園の組織、運営、活動の実際を理解する。子ども理解や保育者の援助の方法など、専門科目で学んだ知識や理論を実践する。幼児の把握・理解と具体的な人間関係の中で、指導技術を習得する。

後半（2 週間）：前半の実習体験から明確な課題意識を持って実習に取り組む。また、2 ヶ月間の幼児の発達的変化を理解することによって、幼児の把握・理解を深める。

［小学校］

・明確な課題意識をもって実習に取り組み、小学校の組織、運営、活動の実際を理解する。教科指導や生徒指導などの実践を通して、児童の把握・理解を深め、教育者に求められる知識、技能、態度を修得するとともに、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養う。

［特別支援学校］

・特別学校の組織、運営、活動の実際を理解する。特別支援学校教諭に求められる知識、技能、態度を修得し、教科指導や生徒指導などの実践を通して、児童理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養う。特に中山間地域や離島などの、医療・教育専門機関から離れた過疎地域で育つ子どもたちの特別支援教育の実態と課題を学ぶ。

(5)教育実習生に対する指導の方法

［幼稚園］

・実習前の指導では、「教育実習Ⅰ（幼稚園）指導」「教育実習Ⅰ（幼稚園）」を担当する専任教員と教職課程に係る人材育成に実績を有する兼任教員（以下、合わせて「実習担当教員」）により、幼稚園の教育実習に向け、実習生としての心構えを確認するとともに、幼稚園の活動を具体的に知るなどの事前指導を行う。また、実習日誌の書き方や指導計画の作成などの保育文書の実際についても、講義や指導計画の立案課題を通して学ばせる。

・前半に実施する実習は、見学・観察・参加実習が主となるが、指導的立場で保育を部分的に担う責任実習も行う。
・後半に実施する実習では、前半の実習体験と幼児の発達的変化の理解を踏まえ、幼稚園の指導教員の指導の下でより指導的立場での責任実習を行う。
・実習担当教員が中心となり、実習期間中に実習先を巡回し、実習生の様子を観察するとともに、幼稚園の指導教員と情報交換を行い実習生に対し必要な助言・指導を行う。
・実習終了後は、実習担当教員により実習の反省や自己評価などの事後指導を行う。

［小学校］
・実習前の指導では、「教育実習Ⅱ（小学校）指導」「教育実習Ⅱ（小学校）」を担当する専任教員と教職課程に係る人材育成に実績を有する兼任教員（以下、合わせて「実習担当教員」）により、実習の心構え（実習の始まる前の準備、一日の流れ、期間中の流れ）、児童指導（児童指導・児童理解）、学習（授業実践の心構え、発問・板書・机間巡視／指導の方法）を学ばせる。
・実習先では、現職教師の援助を受けながら、小学校教諭をめざすものとして必要な、知識・技能、意欲・態度、問題解決能力等の指導力を身につける。また、児童の発達的変化の理解を踏まえて児童と直接ふれ合い、小学校の指導教員の指導を受けながら教育者に求められる知識、技能、態度を修得し、教科指導や生徒指導などの教育実践を通して、児童理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養う。
・実習担当教員が中心となり、実習期間中に実習先を巡回し、実習生の様子を観察するとともに、小学校の指導教員と情報交換を行い実習生に対し必要な助言・指導を行う。
・実習終了後は、実習担当教員により実習の反省や自己評価などの事後指導を行う。

［特別支援学校］
・実習前の指導では、「特別支援学校教育実習 A 指導」「特別支援学校教育実習 A」「特別支援学校教育実習 B 指導」「特別支援学校教育実習 B」を担当する専任教員（以下、「実習担当教員」）により、教育実習の心構え（実習の始まる前の準備、一日の流れ、期間中の流れ）、児童指導（児童指導・児童理解）、学習（授業実践の心構え、発問・板書・机間巡視／指導の方法）を学ばせる。
・実習先では、現職教師の援助を受けながら、特別支援学校教諭をめざすものとして必要な、知識・技能、意欲・態度、問題解決能力等の指導力を身につける。そして、児童・生徒の発達的変化の理解を踏まえて直接ふれ合い、指導教員の指導を受けながら教育者に求められる知識、技能、態度を修得し、自立活動指導や生徒指導などの教育実践を通して、児童・生徒理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養う。
・実習担当教員が中心となり、実習期間中に実習先を訪問し、実習生の様子を観察するとともに、特別支援学校の指導教員と情報交換を行い実習生に対し助言・指導を行う。
・実習終了後は、実習体験を踏まえた、実習の反省や自己評価、地域教育課題と特別支援学校の役割、特別支援コーディネータの役割等についてのグループワークを行い、実習担当教員による事後指導を行う。

(6) 教育実習の成績評価（評価の基準及び方法）
［幼稚園］
大学の実習担当教員が、以下の観点などについて、実習日誌等の文書、巡回指導時の状況、学生による実習の省察、実習協力園の指導教諭・教頭・園長などの評価を踏まえ、総合的に成績評価を行う。
・実習を通じた職務内容・専門性の理解
・幼児への理解や指導
・教材の研究や作成
・保育指導案の立案と環境設定
・実習に対する意欲・態度
・実習中の出勤状況や勤務態度
最終的には、保育教育学科会議で協議の上、実習担当教員が成績評価を確定する。

［小学校］
大学の実習担当教員が、以下の観点などについて、実習日誌等の文書、巡回指導時の状況、学生に

よる実習の省察、実習協力校の指導教諭・教頭・校長などの評価を踏まえ、総合的に成績評価を行う。
・実習を通じた職務内容・専門性の理解
・児童への理解や指導
・教材の研究や単元指導計画の作成
・学習指導案の立案と実践的な指導技術（発問、板書、説明等）
・実習に対する意欲・態度
・実習中の出勤状況や勤務態度
最終的には、保育教育学科会議で協議の上、実習担当教員が成績評価を確定する。

［特別支援学校］
大学の実習担当教員が、以下の観点などについて、実習日誌等の文書、巡回指導時の状況、学生による実習の省察、実習協力校の指導教諭・教頭・校長などの評価を踏まえ、総合的に成績評価を行う。
・実習を通じた職務内容・専門性の理解
・支援を必要とする児童への理解や指導
・特性に応じた教材の研究や単元指導計画の作成
・特性に応じた学習指導案の立案と実践的な指導技術
・実習に対する意欲・態度
・実習中の出勤状況や勤務態度
最終的には、保育教育学科会議で協議の上、実習担当教員が成績評価を確定する。

2. 事前及び事後の指導の内容等

(1) 時期及び時間数
［幼稚園］事前指導：3 年次春学期 14 時間
事後指導：3 年次秋学期 2 時間
［小学校］事前指導：4 年次春学期 14 時間
事後指導：4 年次春学期 2 時間
［特別支援学校］事前指導：4 年次春学期又は秋学期 14 時間
事後指導：4 年次春学期又は秋学期 2 時間

(2) 内容（具体的な指導項目）
※以下、シラバス【授業の内容】を参照

3. 教育実習に関して連絡調整等を行う委員会・協議会等

(1) 大学内の各学部・学科等との連絡調整を行う委員会等
【委員会等の名称】
ア　教職センター
イ　教職部会
【委員会等の運営方法】
※以下省略

4. 教育実習の受講資格

〔幼稚園教諭一種免許状〕
以下に掲げる科目を履修済であること。
①教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目：8 単位
②教科に関する科目：6 単位
③教科又は教職に関する科目：1 単位
④教職に関する科目：21 単位　「言葉研究（読み聞かせ実践）」を含む
ただし、「教育実習Ⅰ（幼稚園）指導」「幼児と人間関係」「保育内容・人間関係の指導法」「幼児と環境」「保育内容・環境の指導法」は履修中であることを条件とする。
〔小学校教諭一種免許状〕

以下に掲げる科目を履修済であること。
①教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目：8 単位
②教科に関する科目：8 単位
③教科又は教職に関する科目：0 単位
④教職に関する科目：28 単位
ただし、「初等社会科教育法」「初等家庭科教育法」「道徳の指導法（小）」は履修中であることを条件とする。

〔特別支援学校教諭一種免許状〕
以下に掲げる科目を履修済であること。
①教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目：8 単位
②特別支援教育に関する科目：23 単位
ただし、「特別支援学校教育実習Ａ指導」又は「特別支援学校教育実習Ｂ指導」は履修中であることを条件とする。

5. 実習校

教育委員会名	島根県教育委員会	高等学校：35 校	特別支援学校：6 校	
	松江市教育委員会	幼稚園：29 園	小学校：34 校	中学校：17 校
	出雲市教育委員会	幼稚園：27 園	小学校：37 校	中学校：14 校

※実習承諾を受けた実習校

6. 介護等の体験

小学校・中学校教員免許状取得のためには、「介護等の体験 7 日以上」が必要となる［平成 9 年文部事務次官通達（文教教第二三〇号）「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律等の施行について」］。

小学校教員免許を取得する履修モデル(2)(4)を選択した学生は、「介護等の体験 7 日以上」の証明書が必要になるため、留意すること。

また、特別支援学校教育実習Ｂを体験する履修モデル(4)を選択した学生は、特別支援学校が証明書を発行する場合、「介護等の体験 7 日以上」が免除される場合があるので、留意すること。

【保育教育学科】
学部共通基礎科目

授業科目	哲学						
担当教員	倉田隆						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010010
免許資格 関連事項							

授業の概要	［授業の目的・ねらい］ 人間と世界との関わり方という問題を，「私が世界について知る」とはどういうことか，そもそも世界について知ることは可能なのか，という問題として探究することによって，哲学的に思索する姿勢を養う。 ［授業全体の内容の概要］ 「知るとはどういうことか」という問題を検討することにより、当たり前だと思っていることに疑問の眼差しを向けるという哲学の原点にある姿勢を養うことを目標とする。講義では、この「知る」ということの本質について、日常的な出来事を例に取り上げながらできるだけ平明に解説し、ある知識が「正しい」と言えるための基準を検討する。知識に関する哲学史上の理論もいくつか簡単に紹介しながら、なるべく身近な具体例に関連させて「知る」ということの意味を学生一人ひとりに考えさせる。
授業の 到達目標	１．「知る」という極めて日常的な営みを，哲学的な問題として論理的に分析することができる。 ２．身近な事柄を哲学的に論じることの意味を理解できる。 ３．当然のことと見なされてきた事柄に，疑問の目を向ける姿勢を身につける。
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　知識とは何か１：知識と世界 第３回　知識とは何か２：像と記憶 第４回　知識とは何か３：信念(1) 第５回　知識とは何か４：信念(2) 第６回　知識の２つのあり方１：知識の標準的な定義 第７回　知識の２つの在り方２：ア・プリオリとア・ポステリオリ(1) 第８回　知識の２つの在り方３：ア・プリオリとア・ポステリオリ(2) 第９回　ア・プリオリな知識の「正しさ」１：プラトニズム 第 10 回　ア・プリオリな知識の「正しさ」２：心理主義 第 11 回　ア・プリオリな知識の「正しさ」３：規約主義 第 12 回　ア・ポステリオリな知識の「正しさ」１：素朴実在論 第 13 回　ア・ポステリオリな知識の「正しさ」２：表象主義的実在論 第 14 回　ア・ポステリオリな知識の「正しさ」３：観念論 第 15 回　ア・ポステリオリな知識の「正しさ」４：科学的実在論
テキスト	テキストは使用しない。
参考文献	『現代哲学』　門脇俊介(著)　産業図書 『哲学の謎』　野矢茂樹(著)　講談社
評価方法	定期試験（100%）
自己学習に 関する指針	講義内容を要約したプリントを配付して、それに沿って講義を進めていきますが、プリントには何箇所か空白があります。講義を聴きながら空白を埋め、授業後に通読するなどの復習をしてください。
履修上の 指導・留意点	受講者は前から詰めて着席してください。なお、参考文献の欄で紹介した文献は，必読図書というものではありません。授業で学んだことをさらに深めたい人のために紹介しました。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	心理学						
担当教員	飯塚由美						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010020
免許資格 関連事項							

授業の概要	［授業の目的・ねらい］ 「心理学」について学び、人の心理や行動の実証的研究の基礎を理解し、人間や日常社会についての洞察力や考える姿勢を養うことを目的とする。 ［授業全体の内容の概要］ 個人の心の特性と社会における人間行動を理解し、その基本理論や知識の修得を目標とする。(1)多様な心理学の分野とその歴史や基本理念の理解(2)感覚・知覚、学習、記憶、感情・動機づけ、発達、臨床などの分野(3)性格・パーソナリティ、社会と人間行動･心理、また、地域や社会との関わりなど応用的な心理学の分野についての基礎理論を修得する。自分たちが日常的に考え、行ったりしていることを、こころの科学として実証的に考察した主要な研究や実験を紹介し、人間への理解を深める。
授業の 到達目標	(1)「心理学」に関する基本的な理論・方法について理解し、わかりやすく説明することができる。(2) 心理学の基礎知識（専門的な用語や概念等）を習得した上で、自ら考え、人間理解や社会での応用実践の方法を探る視点を持つことができる。
授業計画	第１回　心理学とは（オリエンテーション） 第２回　感覚・知覚（１）　感覚器官、図と地、反転図形 第３回　感覚・知覚（２）　錯視、奥行き知覚など 第４回　学習　古典的学習、オペラント学習、社会的学習 第５回　記憶　感覚記憶、短期記憶、長期記憶、自伝的記憶 第６回　感情・動機づけ　感情、帰属、欲求 第７回　発達　ピアジェの理論、認知発達、分離不安など 第８回　臨床　フロイトとユングの理論、心理療法など 第９回　性格・パーソナリティ（１）　基礎理論 第 10 回　性格・パーソナリティ（２）　評価と検査法 第 11 回　社会と応用　社会問題と人間行動 第 12 回　自己と対人の心理（１）　社会的認知、対人魅力、対人関係 第 13 回　自己と対人の心理（２）　コミュニケーション、社会的スキル、援助 第 14 回　社会と集団･組織の心理　集団の特性、社会的影響過程 第 15 回　応用の心理学と最新の心理学動向
テキスト	『心理学概論ー基礎から臨床心理学までー』　第５版　宇津木成介・橋本由里（編）ふくろう出版　必要に応じ、資料やプリントを配布する。
参考文献	授業内容に合わせて講義内で適宜紹介します。
評価方法	成績は、授業内で実施する小テスト(70%)や課題(20%)、質問やコメントなどの授業への参加姿勢(10%)で評価する。
自己学習に 関する指針	授業前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。
履修上の 指導・留意点	欠席した場合、配布資料は研究室前ボックス内にあるので、次の授業前までに入手し、事前にみておくこと。

授業科目	音楽						
担当教員	新倉健						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010030
免許資格関連事項							

授業の概要	[授業の目的・ねらい] 授業の目的・ねらい：音楽芸術の受容に関する主体的な思考力を培う ［授業全体の内容の概要］ 音楽を聴く、音楽を楽しむことは日常的な行為であり、音楽は、身近な存在として位置づけられているが、私たちは音楽の何に気持ちが揺さぶられ、音楽の何に魅力を感じているのかを問い直す必要がある。この科目では、音楽と情動の関係性に触れながら、自身の音楽の聴き方について考えていくことを目標とする。また様々なジャンルやスタイルの音楽鑑賞をし、音楽の新しい魅力の発見につなげることを目的とする。音楽を聞き流すのではなく、改めて「聴く」ことの重要性を考える。
授業の到達目標	(1) さまざまな音楽の魅力を発見し、その音楽の芸術的な価値と社会的な意味について、主体的に思考できる (2) 文学と音楽、美術と音楽、さらには人間の営みと音楽といった、他の分野と音楽がどのように融合され表現されるのかについて、音楽的要素を意識しながら聴くことができる (3) 作曲者の視点を通して、音楽の可能性や音楽の新しい表現について知る
授業計画	第１回　ガイダンス：物語から聴こえてくる音たち～作曲家の仕事について考える 第２回　音楽の起源：呪術と音楽～ケチャ、春の祭典 第３回　神話と音楽：ギリシア神話、古事記、ホピ族（アメリカインディアン）～シュリンクス、HOPI 第４回　物語と音楽１：宮沢賢治と音楽①音の絵本～よだかの星、注文の多い料理店 第５回　物語と音楽２：宮沢賢治と音楽②鳥の劇場との出会い～セロ弾きのゴーシュ 第６回　物語と音楽３：宮沢賢治と音楽③～農民芸術概論の理想と現実、宮沢賢治の作曲と音楽活動 第７回　物語と音楽４：音楽と舞踊～バレエ・リュス、火の鳥、兵士の物語、歌の祭り 第８回　物語と音楽５：オペラ①オペラの誕生～バロック音楽、インテルメディオ、オルフェオ 第９回　物語と音楽６：オペラ②モーツァルト「フィガロの結婚」第１幕 第 10 回　物語と音楽７：オペラ③モーツァルト「フィガロの結婚」第２幕 第 11 回　物語と音楽８：オペラ④モーツァルト「フィガロの結婚」第３幕、第４幕 第 12 回　物語と音楽９：オペラ⑤総合芸術としてのオペラ～演出、美術、衣装、照明、合唱、オーケストラ 第 13 回　物語と音楽 10 ：オペラ⑥オリジナルオペラの夢～ポラーノの広場、窓、魔法のカクテル 第 14 回　音楽と現代：戦争と音楽、平和と音楽～海ゆかば、ワルシャワの生き残り、広島が言わせる言葉 第 15 回　まとめ：これまでの授業をふりかえり、音楽を主体的に聴くことの重要性について考える 定期試験
テキスト	授業毎にプリントを配布
参考文献	
評価方法	論理的思考力（４０%）、感性に裏打ちされた独自の視点・問題意識（４０%）、文章力（２０%）
自己学習に関する指針	授業中に鑑賞した作品や配布した資料の内容に関連する事項について、興味・関心を持って自主的に学習すること
履修上の指導・留意点	

授業科目	文学						
担当教員	武田信明						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010040
免許資格関連事項							

授業の概要	小説作品を読解するための考え方を基礎から教授する授業である。授業は、小説作品を具体的に読み進めていくことを中心とする。小説のあらすじや一部を読むのではなく、作品全体を通読することで初めて理解できることがたくさんあるからである。さらに、時代やジャンルも異なる多様な小説作品を選んでいるので、文学作品に対する幅広い知識と読み方が習得できるはずである。また２回の記述試験（レポート）によって、その力の修得の程度を問う。
授業の到達目標	１）文学作品についてさまざまな観点から読み解くことができる。 ２）対象とする作品について、作家や文学史的知識を理解している。 ３）作品について読み取った内容を、論理的な文書で記述することができる。
授業計画	第１回　ガイダンス（授業の進め方・授業の目的と評価方法） 第２回　ジブリから文学へ１　ー二項関係と反復 第３回　ジブリから文学へ２　ー空間を読む 第４回　江戸川乱歩概説 第５回　「屋根裏の散歩者」ー空間という観点 第６回　「屋根裏の散歩者」ー近代的都市の形成 第７回　吉本ばなな概説 第８回　「キッチン」ー台所の文化史 第９回　「キッチン」ーモチーフという概念 第 10 回　「キッチン」ー死と再生 第 11 回　宮沢賢治概説 第 12 回　「風の又三郎」ー異稿問題 第 13 回　「風の又三郎」ー子どもと異人 第 14 回　「風の又三郎」ー四大元素の空間 第 15 回　「キッチン」「風の又三郎」総括
テキスト	・「風の又三郎」「キッチン」（角川文庫）を基本テキストとする。
参考文献	・授業時に作品読解のための参考プリントを毎回配布する。
評価方法	中間レポート（配点 40）と「授業終了後のまとめ試験（60 点）」の合計で評価する。
自己学習に関する指針	・該当の小説作品をあらかじめ読んでくることが必要である。
履修上の指導・留意点	・特になし

授業科目	読書と豊かな人間性						
担当教員	天野佳代子						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010050
免許資格関連事項	○司書教諭免許状						

授業の概要	児童・生徒にとって読書とは本を楽しく読むばかりではなく、情報社会の中で必要な情報を取捨選択するための情報を読みとるための手段でもある。そのためには読書センター、情報センターの機能を持つ学校図書館の読書教育を理解し、教育課程の展開に寄与するための読書活動も考えていかなければならない。本講座では、学校図書館を活用したさまざまな読書活動の意義と目的について考え、児童・生徒の読書への関心や読む力を高めるためのさまざまなスキルを習得する。読書が育む豊かな人間性の育成とはどのようなことなのかディスカッションを通して考察する。
授業の到達目標	・読書の意義と発達段階に応じた読書のあり方や指導方法の重要性を理解する。 ・豊かな人間性を育成するための読書材を知り、読書指導、教育課程の展開に導くための読書指導についても考える。 ・学校教育の中での読書指導のあり方を考え、司書教諭としての役割を考察する。 ・読書活動における司書教諭と学校図書館司書の協働について考える。
授業計画	第１回　読書の意義と目的 第２回　読書指導と読書教育 第３回　子どもの読書推進に関する法と施策 第４回　子どもの読書と現状 第５回　子どもの成長と読書 第６回　学校図書館の読書材 第７回　学校図書館の読書環境の整備と利用 第８回　教科、特別活動における読書 第９回　特別支援の必要な児童・生徒の読書 第 10 回　学校図書館における司書と司書教諭の役割と協働 第 11 回　読書へ導く方法①　読みきかせ 第 12 回　読書へ導く方法②　ブックトーク 第 13 回　読書へ導く方法③　読書へのアニマシオン 第 14 回　読書へ導く方法④　リテラチャーサークル 第 15 回　家庭、地域、公共図書館との連携と協力 まとめ 講義のまとめとテスト 定期試験
テキスト	・配布資料
参考文献	・新版　『読書と豊かな人間性』朝比奈大作　著、米谷茂則　著　放送大学教育振興会　2015 年 ・JLA 学校図書館実践シリーズ『学校図書館の教育力を生かす　学校を変える可能性』塩見昇　2016 年 ・『鍛えよう！読むチカラ　学校図書館で育てる２５の方法　』桑田てるみ監修　「読むチカラ」プロジェクト編著　明治書院　2012 年 ・『読書へのアニマシオン-75 の作戦』サルト,マリア・モンセラット【著】/宇野和美【訳】/新田恵子【監修】柏書房　2001 年 ・シリーズ・ワークショップで学ぶ『読書家の時間:自立した読み手を育てる教え方・学び方』【実践編】プロジェクト・ワークショップ（編）新評論 2014 年
評価方法	授業への積極的な参加姿勢を評価する（出席状況、授業態度、グループワーク、本の紹介、レポートの提出など）平常点（80）・試験（20%）
自己学習に関する指針	「おはなしレストラン」や公共図書館、書店の児童書コーナーなどの図書や雑誌にふれておく。
履修上の指導・留意点	・『夏の庭―The Friends 』湯本香樹実（著）徳間書店 2001 年を読んでおく。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	市民社会と図書館						
担当教員							
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010060
免許資格関連事項							

授業の概要	市民社会における知識情報の蓄積、保存、流通の観点から、民主主義を下支えする社会的なシステムとしての図書館の機能や社会における意義や役割について理解することを目的とする。「図書館の歴史と現状」「図書館の構成要素」「民主主義と図書館」「知識基盤社会と図書館」「生涯学習社会と図書館」「公共図書館の成立と発展」「館種別図書館と利用者のニーズ」「図書館職員の役割と資格」「類縁機関との関係」「知的自由と図書館」「今後の課題と展望」等について解説する。
授業の到達目標	・ 市民社会における図書館の機能や役割について基礎的な知識を習得する。 ・ 「図書館とは何か」という問いに対して、自分なりの解を導き出す。 ・ 他人に「図書館とは何か」について説明できるようになる。
授業計画	第１回　「図書館」を学ぶとは 第２回　図書館の基礎①：図書館の構成要素と機能 第３回　図書館の基礎②：図書館の制度（憲法、教育基本法、社会教育法、図書館法） 第４回　図書館の社会的意義①：民主主義と図書館 第５回　図書館の社会的意義②：知識基盤社会と図書館 第６回　図書館の社会的意義③：生涯学習社会と図書館 第７回　図書館の社会的意義④：知的創造と図書館 第８回　公共図書館の成立と展開 第９回　日本の公共図書館①：明治～戦前の図書館 第 10 回　日本の公共図書館②：戦後の図書館 第 11 回　図書館の種類と利用者①（国立図書館、公共図書館） 第 12 回　図書館の種類と利用者②（大学図書館、学校図書館、専門図書館） 第 13 回　図書館員とライブラリアンシップ 第 14 回　知的自由と図書館、図書館の自由 第 15 回　図書館の課題と展望
テキスト	なし
参考文献	・二村健『図書館の基礎と展望 第二版』学文社、2019 年　1,900 円+税 ・『図書館情報学用語辞典　第 4 版』丸善、2013 年　3,800 円+税 ・『図書館ハンドブック　第 6 版補訂 2 版』日本図書館協会、2016 年　5,500+税
評価方法	・平常点（50%）、レポート（20%）、試験（30%） ・平常点では①オピニオンペーパの記述、②授業への参加を評価する。授業への参加とは授業内での教員からの問いかけに対する発言のほか、挙手による回答の回数をカウントする。
自己学習に関する指針	本学の図書館ばかりでなく、あらゆる図書館を自主見学して図書館に親しむことが大切です。
履修上の指導・留意点	

授業科目	社会学						
担当教員	片岡佳美						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010070
免許資格 関連事項							

授業の概要	[授業の目的・ねらい] 私たちが日常生活を営んでいる，この社会について知るために，社会学はさまざまな見方を示してきている。この授業では，そうした「社会学の見方」について「家族」「地域」を切り口に学ぶことを目的とする。 [授業全体の内容の概要] 社会学をはじめて学ぶ人に，社会学とはどのような学問かを理解してもらうために，そのユニークな視点について講義する。家族や学校，地域といった身近なトピックについて，これまで社会学者たちが論じてきたことをやさしく説く。
授業の 到達目標	日常生活，社会現象について，社会学的な視点から見つめることができ，説明することができる。
授業計画	第１回　イントロダクション―問題の所在― 第２回　家族１―いま家族に何が起こっているか― 第３回　家族２―近代家族の成立― 第４回　家族３―近代家族の揺らぎ― 第５回　家族４―ライフスタイルとしての家族― 第６回　家族５―民主的な家族という理想― 第７回　学校・教育制度１―学校という制度― 第８回　学校・教育制度２―選択の自由と自己責任― 第９回　学校・教育制度３―子どもに関する問題と教育― 第 10 回　学校・教育制度４―「心の教育」― 第 11 回　地域コミュニティの変容１―産業化・都市化の影響― 第 12 回　地域コミュニティの変容２――心同体のつながりと「契約」のつながり―― 第 13 回　地域コミュニティの変容３―「地域での助け合い」は可能か― 第 14 回　第二の近代 第 15 回　まとめ 定期試験
テキスト	
参考文献	参考文献は，アンソニー・ギデンズ『親密性の変容』而立書房ほか（他の文献については授業中に提示する）。
評価方法	中間レポート（30%），期末試験（70%）
自己学習に 関する指針	日頃から，新聞記事やテレビのニュースなどで，家族，学校，地域コミュニティの最近の動向についてチェックしておこう。国や地方自治体の家族や地域コミュニティに関する政策についても，インターネットなどで見ておくとよい。
履修上の 指導・留意点	質問などあれば，email(kataoka@soc.shimane-u.ac.jp）に送ってください。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、民間の研究所に主任研究員として勤務していた経験を活かしてより具体的，実践的な授業を展開する。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	現代経済学						
担当教員	大塚茂						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010080
免許資格 関連事項							

授業の概要	[授業の目的・ねらい] 現代の経済状況を理解するために必要な基礎的知識を蓄えながら、経済諸問題を自らの問題として根本から問い直す分析力を身につける。 [授業全体の内容の概要] 日本及び世界の国々が直面する具体的な経済の諸問題の考察を通して、現代の経済の基本的な特徴と趨勢を理解するとともに、現代に生きる私たちに突きつけられている歴史的課題とその解決方策に対する洞察力を養うことを目標とする。同時に、基礎的な経済の仕組みと経済用語についての知識を深めていく。授業で取り上げるテーマは、「経済循環」「景気変動」「株式会社の特質」「会社の変容」「格差問題」「雇用問題」「資本主義の構造」「物価と価格」「グローバリゼーション」「財政の役割」「税の原理」「税制改革」などである。
授業の 到達目標	１．主な経済ニュースが概ね理解できるようになる。 ２．さまざまな経済問題について関心と疑問が持てるようになる。 ３．主な経済政策について、その当否を判断できるようになる。
授業計画	第１回　価格と物価 第２回　経済循環 第３回　景気変動 第４回　株式会社 第５回　会社の変容 第６回　格差と貧困 第７回　雇用問題 第８回　資本主義 第９回　グローバリゼーション 第 10 回　規制と自由 第 11 回　財政の役割 第 12 回　所得税 第 13 回　消費税 第 14 回　税の原理 第 15 回　まとめ（現代の課題） 定期試験
テキスト	テキストは使用しません。毎回、プリントを配布します。 プリントは試験のときに持ち込み可としますので大切に保管してください。
参考文献	神野直彦『「分かち合い」の経済学』岩波新書、2010 年
評価方法	定期試験（100%）
自己学習に 関する指針	授業で配布したプリントは、次の授業までにもう一度目を通すこと。
履修上の 指導・留意点	疑問に思ったことは積極的に質問してください。 逆に、質問されたら積極的に答えてください。

授業科目	生涯学習概論						
担当教員	仲野寛						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010090
免許資格関連事項							

授業の概要	生涯学習及び社会教育の理念と意義及び特質を理解し、生涯学習社会における家庭教育・学校教育・社会教育の役割と連携、生涯各期の学習課題と学習ニーズ、現代的課題と社会の要請、生涯学習支援の教育システムと学習成果の評価と活用、生涯学習・社会教育施設等の役割などについて理解する。
授業の到達目標	①生涯学習の理念と意義、社会教育の意義と役割及び特質を理解する。 ②生涯学習支援の教育システムと学習成果の評価と活用を理解する。 ③社会教育施設（公民館、図書館、博物館等）と指導者（社会教育主事、公民館主事、司書、学芸員等）の役割や職務を理解し、説明できる基礎的能力を養う。
授業計画	1. 授業のガイダンス。生涯学習の理念と意義 2. 諸外国における生涯学習の歴史と展開、ユネスコ、ＯＥＣＤの生涯教育論等 3. 我が国における生涯学習の歴史と展開、教育改革と生涯学習社会の構築 4. 伝統的な教育システムからの転換と開かれた学校、近年の教育施策の動向 5. 社会教育や学校教育、民間教育施設、スポーツ施設、地域の集会施設等の役割 6. 図書館、公民館、博物館、青少年教育施設等の社会教育施設の機能と役割 7. 司書、社会教育主事、公民館主事、学芸員等の社会教育指導者の役割と職務 8. 生涯各期の学習課題の学習の必要性、及び地域の課題や現代的課題等の理解 9. 地域の資源（ひと、もの、こと）や地域の教育力を活用した生涯学習支援 10. 個人学習、集合学習の方法、学習機会と提供方法、学習評価等の解説 11. 生涯学習の振興と社会教育行政、生涯学習振興行政の役割 12. 生涯学習振興計画と社会教育事業計画の意義、事業評価とＰＤＣＡの意義 13. 学習プログラムの種類と特徴、構造、企画・立案する際の視点と手順、評価の観点 14. 学習成果の評価と活用、地域づくり、ボランティア活動等への展開 15. 学習成果と自己実現、講義のまとめ
テキスト	テキストは使用しない。講義に関する資料を適宜配布する。
参考文献	授業中に、適宜、参考文献・資料等を紹介する。
評価方法	評価は、授業への出席・受講態度と小レポート（60%）、本レポート又は試験（40%）で、総合的に評価する。
自己学習に関する指針	毎回の講義に配布する講義レジメ・資料で、復習すること。疑問点は、自ら、図書館の関係文献で調べるか、担当教員へ下記のメールで問い合わせて理解、解決すること
履修上の指導・留意点	授業中の疑問点や資料等で不明な点は、授業終了後の時間に質問、相談すること。オフィスアワーの時間を設定できないので、その他の質問や相談などは、次のメール・アドレスで受けつける。 nakano@edu.shimane-u.ac.jp

人間文化学部・保育教育学科
（令和 2 年入学生用）

授業科目	日本国憲法						
担当教員	黒澤修一郎						
科目分類	共通基礎	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M1010100
免許資格関連事項							

授業の概要	この授業のテーマは、憲法についての入門的な知識を習得することです。憲法は、国家の基本的なあり方―基本的人権の保障や、統治機構（国会、内閣、裁判所など）の制度構造など―を定めています。とりわけ、この授業では、実際の事件や社会問題を豊富に取りあげることを通じて、憲法に関する具体的な理解を獲得することを目指します。
授業の到達目標	・基本的人権の保障や統治のしくみについて、概要を理解することができる。 ・憲法に関連する実際の社会問題について、広く関心を持つことができる。 ・憲法問題について考えるための入門的な知識を習得することができる。
授業計画	第１回：イントロダクション 第２回：基本的人権 第３回：個人の尊重と幸福追求権 第４回：法の下の平等 第５回：精神的自由権（1） 第６回：精神的自由権（2） 第７回：経済的自由権 第８回：社会権 第９回：基本的人権の重要問題 第１０回：立法権と国会 第１１回：行政権と内閣 第１２回：司法権・裁判所・違憲審査制 第１３回：平和主義 第１４回：統治機構論の重要問題 第１５回：まとめ 定期試験
テキスト	中村陸男編著『はじめての憲法学』（第 3 版、三省堂、2015 年）
参考文献	適宜紹介します。
評価方法	学期末の試験の成績によって評価します。
自己学習に関する指針	予習の範囲については、毎週、指示します。
履修上の指導・留意点	特になし

授業科目	人間と自然						
担当教員	松本　一郎						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010110
免許資格 関連事項							

授業の概要	[授業の目的・ねらい] 人間の様々な生産活動と自然現象との関係について基礎的な事項を幅広く学び、人間と自然との持続可能な共存・共栄関係について考え、行動に移す事ができる素養（リテラシー）を身につけることを目的とする。 ［授業全体の内容の概要］ まず、宇宙と地球の誕生という自然歴史的な内容を学び、生命の誕生と進化発展を理解する。その上で、人類の誕生と人類が自然とどのように共存してきたのかを学び、人口の爆発的な増加と生物の絶滅・地球温暖化など、自然が置かれた様々な現状と課題を知る。そのような現状として、主に自然災害のメカニズムや減災・防災の知識及び行動に移すための観点を学ぶ。以上の学びを実験や観察を交えながら、個人やグループでのディスカッションを通して多様な見方・考え方の重要性を知る。それらをもとに、ESD や SDGs の考え方を参考に人類と自然の持続可能な共存・共栄の在り方を考察する。
授業の 到達目標	①地球の成り立ちや生物学について基礎的な知識を習得している。 ②人類の進化について基礎的な知識を習得し、人間の特性について説明することができる。 ③人類が自然と共存・共栄していくのに何が必要なのかを自ら考え、ESD や SDGs の考えをもとにその内容を自己の言葉で表現することができる。
授業計画	第１回　宇宙と地球の誕生と成り立ち[私たちはどこから来たのか、宇宙と地球の成り立ち] 第２回　地球の進化と生命の誕生(1)　[気圏、水圏、岩石圏] 第３回　地球の進化と生命の誕生(2)　[生命の誕生、進化、地球と生命の共進化] 第４回　冥王代、原生代、古生代、中生代と地球環境　[生物進化と地球環境、大量絶滅] 第５回　新生代と地球環境　[新生代と現在に繋がる地球環境] 第６回　生物進化のメカニズム　[人類の誕生] 第７回　大陸と海洋の活動(1)　[科学的な知見から地殻変動を学ぶ（火山および火山岩と深成岩）] 第８回　大陸と海洋の活動(2)　[科学的な知見から地殻変動を学ぶ（地震、津波、気象現象）] 第９回　自然の恵み(1)　[地下資源をはじめとするエネルギーの種類・性質を学ぶ] 第 10 回　自然の恵み(2)　[生物多様性、生物ピラミッド] 第 11 回　人類史と自然環境の変化を考える(1)　[文明の発達、工業化、Sociaty1.0, 2.0] 第 12 回　人類史と自然環境の変化を考える(2)　[文明の発達、工業化、Sociaty3.0] 第 13 回　自然と共生する人類の活動を考える(1)　[環境教育から ESD へ] 第 14 回　自然と共生する人類の活動を考える(2)　[ESD から SDGｓ] 第 15 回　持続可能な地球と人類の未来を目指して　[SDGs, Sociaty5.0] 定期試験 ●パワーポイントを用いた講義形式の授業を行うが、ビデオや新聞記事などの資料も交えて、できるだけ分かりやすい授業を目指す。
テキスト	とくに使用しない。
参考文献	授業中に紹介します。
評価方法	●単位認定は、定期試験（50%）、課題レポート（ミニッツ・ペーパー）（50%）によって総合的に評価する。 ●到達目標①および②は定期試験によって、到達目標③は授業参加と課題レポート（ミニッツ・ペーパー）によって、それぞれ評価する。 ●試験(記述問題)やレポートは、どこまで自己の言葉で書かれているかを評価する。
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	毎回の授業の終わりには 10 分程度の学びの振り返りの時間を設け、課題や本時の概要や疑問などをまとめるミニッツ・ペーパーを作成し提出する。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	脳科学と心						
担当教員	内山仁志						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010120
免許資格 関連事項							

授業の概要	[授業の目的・ねらい] ヒトの神経系（脳）の構造と機能の概略を理解し、脳の構造や機能を可視化できる測定法を学修する。それを踏まえて「心」とは何かについて考える。また脳に関する迷信についてその現状を知り、問題点を見つけてわかりやすく説明できることを目的とする。 ［授業全体の内容の概要］ 思考、認知、記憶、情動、意思、行動などに関連する脳科学の知見を通じて、人間理解の可能性と脳科学が果たす役割について学ぶ。ヒトの神経系（脳）の構造と脳の機能局在について理解を深めることを目標とする。歴史的経緯を踏まえつつ臨床症例や研究知見を神経科学的手法（脳波・fMRI・TMS・PET など）とともに紹介する。また神経神話（脳に関する迷信）問題について、課題発見解決型学習（ＰＢＬ）を通じて、その理論的根拠や妥当性を論理的に検討していき、巷に氾濫する誤った脳科学情報にきちんと対処できる知識を修得する。
授業の 到達目標	(1) ヒトの神経系（脳）の構造と脳の機能の概略を説明できる (2) 神経科学的手法について説明できる (3) 神経神話（脳に関する迷信）問題について自身で課題を見つけて解決できる
授業計画	第１回　心の発達と脳科学 第２回　神経系の構造 第３回　神経系の発達 第４回　神経科学的手法と研究法 第５回　脳研究の最新トピックと神経神話問題、PBL のための課題の設定と振り分け 第６回　脳と嗅覚・視覚 第７回　脳と聴覚・味覚 第８回　脳と体性感覚・運動 第９回　脳と思考・意思・情動 第 10 回　脳と学習・記憶 第 11 回　脳と言語 第 12 回　脳と病気 第 13 回　PBL 発表と討議 1 第 14 回　PBL 発表と討議 2 第 15 回　PBL 発表と討議 3 定期試験
テキスト	・テキストは使用せず、適宜プリント資料等を配布する。
参考文献	・「発達科学ハンドブック 8 脳の発達科学」、榊原洋一他編、新曜社 ・「病気が見える vol.7 脳・神経」、医療情報科学研究所編、メディックメディア ・「脳ブームの迷信」、藤田一郎著、飛鳥新社
評価方法	定期試験 60%, レポート（発表時のプレゼンテーション力を含む）40%
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	生物と栄養						
担当教員	安藤彰朗						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010130
免許資格関連事項							

授業の概要	［授業の目的・ねらい］ 私たちヒトも哺乳動物も「食べる」ことなしに生命・生活は成り立ちません。この講義では、哺乳類の一員としてのヒトにおける、食べ物とからだ、栄養素の役割、食べもと健康について理解を深めることを目的とします。 ［授業全体の内容の概要］ 生物（特にヒトを含む哺乳動物）のからだのつくりを中心に、生物個体から出発して、その内部構造（器官や細胞）へと展開するからだのしくみの基盤となる内容を学ぶ。引き続き、生物・生命のもう一つの特性である「栄養」や「代謝」について理解を進め、からだの構成成分と栄養素、生命維持や活動のエネルギー代謝と栄養素等、からだのしくみと栄養の視点から、食べ物が栄養に変わる旅（過程）を知るとともに、生物と栄養について理解を深める。そして、応用編として「人間（ヒト）と健康」に関わる諸課題についても考察する。
授業の到達目標	１．ヒトや他の哺乳動物の基本的な内臓の構成、特に消化器系の臓器の名称と働きを説明できる。 ２．栄養素の特徴および、からだの中での役割を説明できる。 ３．ヒトについて食べ物とからだの関係、食べ物と健康の係りについて認識し、自身の生活を踏まえて、自分の考えを述べることができる。
授業計画	第１回　「生物と栄養」の講義について、ヒトのからだの概要 第２回　ヒトの消化器系の全体像、口腔の話（口から始まる消化作用） 第３回　胃の話（主役は３つの細胞）・腸の話（絨毯のような内面） 第４回　胃と腸のビデオ視聴 第５回　いろいろな哺乳動物の歯について 第６回　食性が異なる哺乳動物は、どのような消化管を持っているか 第７回　糖質の消化・吸収、糖質の栄養 第８回　タンパク質の消化・吸収、タンパク質の栄養 第９回　脂質の消化・吸収、脂質の栄養 第 10 回　カルシウムの役割、骨と筋肉のビデオ視聴 第 11 回　エネルギー代謝について 第 12 回　あなた自身はどんな食事をしてますか 第 13 回　食事バランスガイドについて 第 14 回　食べ物と健康について 第 15 回　全体のまとめ 定期試験（試験あり）
テキスト	テキストは特に用いません。必要に応じて毎回プリントを配布します。
参考文献	①「イラスト栄養学総論」城田知子ほか著、東京教学社、 ②「新版ヒトと自然」荒井秋晴ほか著、東京教学社、
評価方法	試験は、消化器系や栄養素などについての知識を問う問題と講義で取り上げたテーマについての記述問題を課します。 評価基準は、質問感想カードの提出 20%、課題レポートの提出 30%、試験 50%を考慮して総合的に評価します。
自己学習に関する指針	特定のテキストは用いないので、授業中に適宜ノートを取る、配布資料の余白などにメモを取ることを勧めます。復習する際にそれらを役立てて欲しいと考えています。
履修上の指導・留意点	科目名の通り、主として解剖生理学、生物学、化学、栄養学などに関連するいわゆる理系の内容や計算を含みます。また、臓器名、元素記号や化学式、馴染みのないカタカナの物質名なども沢山出てきます。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	環境の科学						
担当教員	高橋泰道						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010140
免許資格関連事項							

授業の概要	［授業の目的・ねらい］ 地球の誕生から，生命の誕生，生物の進化など，地球の自然環境の歴史について理解すると共に，地球環境問題の現状を理解し，持続可能な社会の構築に向けて，どのように行動すべきかを考え，実践的態度を培うことをねらいとする。 ［授業全体の内容の概要］ 地球環境問題を理解するために必要な基礎知識として，地球の誕生から，生命の誕生，生物の進化が地球の自然環境とどのようにかかわってきたか，地球がどのように現在の自然環境を作り上げてきたかについて学ぶ。そして，身近な環境汚染から差しせまった地球温暖化の問題に至るさまざまな問題の本質と現状を理解した上で，環境問題を自らの課題としてとらえ，主体的に向き合い，持続可能な社会の構築に向けて，どのように行動すべきかを考え，実践的態度を培う。
授業の到達目標	①地球の誕生から，生命の誕生，生物の進化など，地球の自然環境の歴史について説明できる。 ②地球環境問題の現状について説明できる。 ③持続可能な社会の構築に向けて，どのように行動すべきかを考えることができる。
授業計画	第１回　オリエンテーション，月面で遭難したら　　テーマ問題について予想し，グループで話し合い，問題を解決する。 第２回　太陽と地球，月　　テーマ問題について予想し，グループで話し合い，問題を解決する。 第３回　地球の誕生　　テーマ問題について予想し，グループで話し合い，問題を解決する。 第４回　地球の変動　　テーマ問題について予想し，グループで話し合い，問題を解決する。 第５回　生物の繁殖戦略　　テーマ問題について予想し，グループで話し合い，問題を解決する。 第６回　地球の大気　　テーマ問題について予想し，グループで話し合い，問題を解決する。 第７回　いま地球で何が起こっているか　　テーマ問題についてグループで調べ，まとめる。 第８回　環境問題の実態　①　地球温暖化　　テーマ問題についてグループで調べ，まとめる。 第９回　環境問題の実態　②　エネルギー問題　　テーマ問題についてグループで調べ，まとめる。 第 10 回　環境問題の実態　③　生物多様性・自然共生社会　　テーマ問題についてグループで調べ，まとめる。 第 11 回　環境問題の実態　④　地球環境問題　　テーマ問題についてグループで調べ，まとめる。 第 12 回　環境問題の実態　⑤　循環型社会　エネルギー・廃棄物　　テーマ問題についてグループで調べ，まとめる。 第 13 回　環境問題の実態　⑥　地域の環境問題　　テーマ問題についてグループで調べ，まとめる。 第 14 回　環境問題の実態　⑦　化学物質・震災関連・放射性物質　　テーマ問題についてグループで調べ，まとめる。 第 15 回　持続可能な社会に向けたアプローチ，まとめ　　テーマ問題についてグループで調べ，まとめる。
テキスト	特になし。適宜プリントを配布する。
参考文献	授業中に随時紹介する。
評価方法	授業レポート等提出物（３０%） 発表資料・発表内容（３０%） 期末レポート（４０%）
自己学習に関する指針	配布資料，およびレジュメに記載された参考文献を読み，事前学修・事後学修に役立てる。
履修上の指導・留意点	授業中は，タブレット PC，或いはノート PC，スマートフォン等を使用し，双方向の授業を行います。質問は，その内容に応じて，授業時間中・オフィスアワー・e-mail で対応します。

授業科目	しまね地域共生学入門						
担当教員	島根県立大学教員						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M6010110
免許資格 関連事項							

授業の概要	この講義は、各学部・学科における専門分野を学習する前の段階において、島根県が数十年来直面している人口減少・少子高齢化・過疎化という地域の諸課題を様々な角度から論じる。そうした課題は、今後の日本の多くの地域において予期されるが、それぞれの主体の強みを生かした連携と協力を継続させるという、「共生」により解決しなければならない。本講義を通じて、地域課題への対応がいかに困難で複雑なものであるかを再認識し、複合的対応の重要性についての理解を深める。 　また、学問的見地においても、ひとつの学問領域から得られる知見のみで解決できるものではない。本講義では、特定の学問領域にとどまらず、複眼的に物事をとらえ分析することの重要性も学ぶ。 　これらの目的に照らし、さしあたり本講義では 3 キャンパスの教員がそれぞれの専門分野から島根県にかかわる諸課題についての解説を平易に行う。また、オムニバス講義ゆえに全体としての体系性が失われないよう、人々の人生における代表的なライフステージ（3 段階）を共通で用いる。このことを通して、島根県内の地域課題に関する基礎知識・周辺知識を習得する。 　本講義を履修したのち、自らの関心あるテーマについて仮説を立てて実証をしたり、地域に出て「実践する」ことが求められるが、その際に関心のあるテーマを自ら発見できるよう積極的な姿勢で受講してもらいたい。 ※本講義は、原則的に、講義中継システムを活用して 3 キャンパス同時の遠隔講義形式にて実施する。
授業の 到達目標	・島根県の課題について理解し、日本全体の課題のなかでの位置づけを説明できる。 ・地域社会の諸課題の解決に向けて各主体が連携・協力する「共生」により解決にあたることや、自らも複数の学問領域の考え方を学ぶことの重要性について理解できる。 ・以降の学生生活を通じて自ら実践的に地域の諸課題に取り組むことの重要性を理解し、そのテーマを設定できる。
授業計画	第 1 週　島根県立大学へようこそ－開講にあたって－〔学長 清原正義・全学開講責任者〕 第 2 週　地図とデータでみる島根県〔浜田キャンパス 林秀司〕 第 3 週　なぜ島根県の出生率と女性の労働参加率は高いのか〔浜田キャンパス 藤原眞砂〕 第 4 週　人生 100 年時代の食育〔出雲キャンパス 名和田清子〕 第 5 週　絵本をめぐる冒険～読み聞かせでつながる地域社会～〔松江キャンパス 岩田英作〕 第 6 週　シティズンシップと公共哲学〔浜田キャンパス 松尾哲也〕 第 7 週　がん患者に対する就労支援〔出雲キャンパス 森山美香〕 第 8 週　社会的養護と島根県の里親〔松江キャンパス 藤原映久〕 第 9 回　高齢者における地域子育て支援〔松江キャンパス 前林英貴〕 第 10 週　地域で暮らす高齢者の介護予防〔出雲キャンパス 林健司〕 第 11 週　中小企業における事業承継問題の現状と対策〔浜田キャンパス 久保田典男〕 第 12 週　島根県の政策展開(仮題)〔外部講師〕 第 13 週　地域課題への実践的取組(仮題)〔外部講師〕 第 14 週　まとめ(仮題)〔全学開講責任者〕 第 15 週　学部・学科の学びに向けて〔学部長または副学長〕
テキスト	各回週の担当教員が指定することがある。
参考文献	各回週の担当教員が紹介する。
評価方法	授業に出席することを前提とし、授業への取り組み姿勢、各週の授業で実施する小テストの結果を総合的に判断して評価を行う。
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	本講義は地域の抱える課題について包括的に概論する講義ではあるが、本講義のみでは大学生が学ぶべき内容を完全にマスターできるわけではない。本講義は 1 年生を標準履修年次としており、どちらかといえば、これからの修学期間で地域課題への対応に取り組むにあたり、必要となる予備知識や一般知識の習得を目指す、いわば入門科目としての位置づけである。したがって、受講したのち、より専門的な見地から詳細な議論を行う諸科目の履修により補完することが望ましい。具体的には、地域志向科目の履修がひとつの目安となる。 また、本講義は企業や行政機関等での実務経験のある外部講師による授業回を 2 回設けており、より実践的な取り組みの内容を学ぶことができるように授業設計している。

授業科目	しまね文化論						
担当教員	工藤泰子						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010160
免許資格関連事項							

授業の概要	本科目は、松江城、出雲大社、石見銀山など、島根県が有する豊かな特色ある地域文化・地域資源について、基礎的な知識を修得し、しまねの地域資源の価値と、それらに誇りを持って未来へ継承することの意義を理解することを目的とする。授業はオムニバス形式で行い、各テーマにふさわしい専門家や実践者による講義を通して、島根県における伝統文化の歴史的背景や文化的価値、文化を伝承する上での課題や未来へ向けた取組みなどを学習する。さらに、学外見学会を実施することで学習内容の理解を深める。
授業の到達目標	出雲、石見、隠岐が有する様々な文化について理解し、それぞれの特徴や歴史的背景を説明できるようになる。
授業計画	第１回　ガイダンス（人間文化学部教員） 第２回　神々の国しまね(1)（出雲大社）　外部講師：千家和比古 氏（出雲大社権宮司） 第３回　神々の国しまね(2)（神話）　外部講師：錦田剛志 氏（万九千神社宮司） 第４回　しまねの日本遺産（たたら製鉄）外部講師：井上裕司氏（株式会社田部たたら事業部次長） 第５回　しまねの地質資源（隠岐世界ジオパーク）外部講師：野辺一寛 氏（隠岐の島町役場課長） 第６回　しまねの世界遺産（石見銀山）　外部講師：仲野義文 氏（石見銀山資料館館長） 第７回　しまねの自然　外部講師：中村唯史 氏（島根県立三瓶自然館） 第８回　フィールドワーク事前学習（人間文化学部教員） 第９回　フィールドワーク（石見銀山）[11 月 28 日（土）実施] 第 10 回　しまねの食文化(1)（松江の茶文化）　外部講師：中村寿男 氏（中村茶舗代表取締役） 第 11 回　しまねの食文化(2)（次世代への継承）外部講師：景山直観 氏（一文字家社長） 第 12 回　しまねの国宝（松江城）　外部講師：卜部吉博 氏（元松江市松江城調査研究室長） 第 13 回　しまねの伝統芸能（神楽）　外部講師：藤原宏夫 （島根県教育庁文化財課） 第 14 回　しまねの文化の魅力 第 15 回　しまねの文化の魅力を考える―グループワーク、学生発表 ※外部講師招聘のため、順番が入れ替わる場合がある。
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	
評価方法	各回の小テストの結果、課題提出、コメントシート、発表など、授業への取組み状況を総合的に判断して評価を行う。
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	11 月 28 日（土）にフィールドワーク実施。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	しまねボランティア研修						
担当教員	県立青少年の家　社会教育主事						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	１・２	配当期	通年
授業形態	講義・演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010170
免許資格関連事項							

授業の概要	ボランティア活動を始めようとする学生に、県立青少年の家における体験活動プログラムを提供することにより、ボランティアの役割を体得し、他者と関わりながら主体的に活動することのできる人間になることを目指す。そのためにボランティア活動を体験し、ボランティア活動の意義及びボランティアの役割を理解したり、体験活動をしながら場に応じて必要な支援について学修したりする。
授業の到達目標	１. ボランティア活動の意義及びボランティアの役割を理解できる。 ２. 他者との関わり方を考え、協力して活動できる。 ３. 体験学習について理解し、場に応じて適切な支援ができる。
授業計画	第１回　事前学習…<4 月 16 日(木)18:10～19:40　1 コマ：県立大学松江キャンパス> （青少年の家と主催事業についての理解・授業スケジュールの理解） 第２回　実習①「ボランティア(体験活動支援者）養成講座」…<5 月 30 日～31 日（土・日）：県立青少年の家> ・講義（ボランティア活動について・アイスブレイク・グループワーク・安全講習） ・演習（青少年の家のプログラム体験・振り返り） 第３回　実習②「ボランティア(体験活動支援者）実習」(7 月～12 月で１つを選択：県立青少年の家> 選択事業の例 ・サマーチャレンジ（小 6～高 1 対象）　…8 月 ・キッズチャレンジ（小 4～小 6 対象）　…7 月、10 月（２回） ・キッズチャレンジ（小 1～小 3 対象）　…9 月、11 月（２回） ・にんにんチャレンジ（年長対象）　…11 月～12 月（２回） ※選択可能な事業の詳細については事前学習において発表する。 第４回　事後学習<1 月 23 日(土)AM　３コマ：県立大学松江キャンパス> ・グループワークによるシェア及びグループ発表
テキスト	上記第２回～第３回については、参加者ノート、スタッフノート等を配布する。
参考文献	
評価方法	・実習における積極性、参加態度、ならびに、発表の内容、提出課題等で、総合的に判断する。 ・本科目の性質上、１回でも欠席した場合は成績評価の対象外とする。
自己学習に関する指針	第２回の養成講座受講後，第３回のボランティア実習に向けて，青少年の家ホームページから前年度や本年度実施された主催事業の様子について関心をもって、予習をしておくことが望ましい。
履修上の指導・留意点	・実習①での施設使用料、食費は各自負担をする。(例年：約 2,000 円) ・定員は３６名とする。 ・履修希望者は、4 月 13 日（月）までに登録の上、第１回事前学習（4/16)に必ず出席すること。 （希望者が定員を上回った場合は、抽選・その他の方法で選抜を行う）

授業科目	健康スポーツ概論						
担当教員	岸本強						
科目分類	基礎科目	授業時間	15	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M1010180
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目≫ ・体育 ○小学校教諭一種免許状≪教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目≫ ・体育 ○特別支援学校教諭一種免許状≪教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目≫ ・体育 ○保育士資格						

授業の概要	競技スポーツや健康の保持・増進のためのスポーツ，スポーツを活用した健康生活について学ぶとともに，大学生として心得ておくべきスポーツ政策についての概要や現代的諸問題について学修する。また，スポーツ活動を通したパーソナリティー形成や社会性の発達についての知識を修得し，スポーツ活動によってもたらされるプラス面の効果や留意すべきことについて正しく理解し，競技スポーツ・健康スポーツ・生涯スポーツの見方・考え方についての学修を深める。
授業の 到達目標	(1) 健康スポーツについて基礎的な知識を修得することができる。 (2) 現代的スポーツ事情，スポーツ諸課題について論述することができる。
授業計画	第１回　日本のスポーツ政策と現状（国，地方自治体のスポーツ推進計画） 第２回　スポーツとは？　スポーツの高度化，大衆化について 第３回　競技スポーツと健康志向スポーツについて 第４回　スポーツのパーソナリティー形成と二面性について 第５回　スポーツ集団への関わり方，チームワークのメカニズムと形成の考え方 第６回　スポーツのための食と液体補給 第７回　運動・休養・栄養と生活リズム 第８回　救急処置と救急蘇生法，まとめ 定期試験
テキスト	なし
参考文献	毎回，プリント資料を配付する。
評価方法	毎回クイズ（小テスト）＝30%　筆記試験＝70%
自己学習に 関する指針	配付資料を再読し，復習に役立てる。
履修上の 指導・留意点	毎回，授業終わりに小テストを行う。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（中学校教諭）での勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。

人間文化学部・保育教育学科
（令和 2 年入学生用）

授業科目	健康スポーツⅠ						
担当教員	岸本強						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	実技	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M1010190
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目≫ ・体育 ○小学校教諭一種免許状≪教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目≫ ・体育 ○特別支援学校教諭一種免許状≪教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目≫ ・体育 ○保育士資格						

授業の概要	健康スポーツⅠでは，各種身体運動の方法を実践学習し，健康の保持増進と体力の向上，運動の意味や効果の理解を図りながら，運動することへの自覚を一層促進する。また，スポーツ活動を通して，運動や運動技術のみにとどまらず，集団のなかの一員としての役割等から協調性や社会性を身に付ける。内容については，準備運動（ストレッチングを含む）の仕方，集団スポーツの学習，個人スポーツの学習からルール・技術・ゲームの仕方を学修し，生涯スポーツの取り組みを見据えた授業とする。
授業の 到達目標	(1) 生涯スポーツの観点から個人種目やチームスポーツに取り組み，多種目の技術・技能を身につけることができる。 (2) 主体的に学ぶ姿勢を身につけ，受講者で協力してゲームを運営することができる。
授業計画	第１回　オリエンテーション，準備運動の方法及びストレッチング，リズム運動 第２回　スポーツ種別特性の理解と実践・ソフトバレーボールの基礎・基本 第３回　スポーツ種別特性の理解と実践・ソフトバレーボールの応用とミニゲーム 第４回　スポーツ種別特性の理解と実践・ソフトバレーボールのゲーム（リンク式） 第５回　スポーツ種別特性の理解と実践・ソフトバレーボールのゲーム（トーナメント式） 第６回　スポーツ種別特性の理解と実践・バドミントンの基礎・基本 第７回　スポーツ種別特性の理解と実践・バドミントンの応用とミニゲーム 第８回　スポーツ種別特性の理解と実践・バドミントンのゲーム（シングルス） 第９回　スポーツ種別特性の理解と実践・バドミントンのゲーム（ダブルス） 第 10 回　スポーツ種別特性の理解と実践・卓球の基礎・基本 第 11 回　スポーツ種別特性の理解と実践・卓球の応用とミニゲーム 第 12 回　スポーツ種別特性の理解と実践・卓球のゲーム（シングルス） 第 13 回　スポーツ種別特性の理解と実践・卓球のゲーム（ダブルス） 第 14 回　スポーツ種別特性の理解と実践・種目選択でのゲーム（リンク式） 第 15 回　スポーツ種別特性の理解と実践・種目選択でのゲーム（トーナメント式）
テキスト	なし
参考文献	必要に応じて資料を配付する。
評価方法	技術・技能 30%，実践記録 20%，まとめレポート 50%
自己学習に 関する指針	授業外においても取り込むことが好ましい。
履修上の 指導・留意点	運動服の指定はないが、運動に適した服装・靴を着用すること。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（中学校教諭）での勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。

授業科目	健康スポーツⅡ						
担当教員	岸本強						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	実技	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010200
免許資格関連事項							

授業の概要	健康スポーツⅡでは，身体組成測定器や血圧・脈拍測定器，エアロバイク（体力・最大酸素摂取量測定可能）など，各種身体及び身体機能測定機器で受講者が自ら計測した各々のデータを蓄積管理し，一人ひとりがこのデータを活用して自らに合った運動（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・各種スポーツ）をプログラムしていく方法を学修する。授業ではスムースな展開を図るため，取り組む内容毎にグループで活動を展開する。このグループ化は２回行い，複数（異種）の取り組みを経験する。
授業の到達目標	(1) 主体的・計画的に測定機器を使いデータを管理することができる。 (2) 測定データを活用し，機器を用いたトレーニング，エクササイズ，スポーツに取り組み，自ら取り組むことのできる運動プログラムを確立することができる。
授業計画	第１回　オリエンテーション及び各種測定 第２回　測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・各種スポーツ）試行 第３回　測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・各種スポーツ）定着 第４回　測定とグループ化①，運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・各種スポーツ） 第５回　測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・チームスポーツ）グループ試行 第６回　測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・チームスポーツ）グループ定着 第７回　測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・チームスポーツ）グループ応用 第８回　測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・チームスポーツ）グループ発展 第９回　これまでのデータ処理と中間評価 第 10 回　測定とグループ化②，運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・各種スポーツ） 第 11 回　測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・個人スポーツ）グループ試行 第 12 回　測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・個人スポーツ）グループ定着 第 13 回　測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・個人スポーツ）グループ応用 第 14 回　測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・個人スポーツ）グループ発展 第 15 回　データのまとめ，授業のまとめ
テキスト	なし
参考文献	必要に応じて資料を配付する
評価方法	実践記録 50%，まとめレポート 50%
自己学習に関する指針	授業外においても取り込むことが好ましい。
履修上の指導・留意点	運動服の指定はないが、運動に適した服装・靴を着用すること。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（中学校教諭）での勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	健康スポーツⅢ						
担当教員	山本ユミ						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	実技	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010210
免許資格関連事項							

授業の概要	ダンスの基礎的な身体の使い方を学び、思いきり身体を動かすこと、動きを創作する楽しさ、表現を追求する面白さ、人に伝える喜びなどダンスの醍醐味を身体で経験する。発表を通して、踊る・創る・観るという総合的な視点でダンスを学習する。
授業の到達目標	(1) ダンスの基礎的な身体の使い方を学び、創る、踊る、観るという総合的な視点でダンスの技能を身に付けることができる。 (2) 共同作業を通して、互いの表現を認め合い、自己表現力を高め、積極的に取り組む姿勢を身に付けることができる。
授業計画	第１回　ガイダンス、ダンスの種類と特徴 第２回　ダンスの実践レベル１・リズム 第３回　ダンスの実践レベル１・ステップ 第４回　ダンスの実践レベル１・コンビネーション（簡単な振付） 第５回　ダンスの実践レベル１・レベル１のまとめのダンス 第６回　ダンスの実践レベル２・リズム＆ステップ 第７回　ダンスの実践レベル２・コンビネーション（振付基礎） 第８回　ダンスの実践レベル２・コンビネーション（振付応用） 第９回　ダンスの実践レベル２・レベル２のまとめのダンス 第 10 回　ダンスの実践レベル３・リズム＆ステップ 第 11 回　ダンスの実践レベル３・リズム＆ステップ＆コンビネーション（振付基礎） 第 12 回　ダンスの実践レベル３・リズム＆ステップ＆コンビネーション（振付応用） 第 13 回　ダンスの実践レベル３・フォーメーション（グループ創作ダンス基礎パターン） 第 14 回　ダンスの実践レベル３・フォーメーション（グループ創作ダンス応用パターン） 第 15 回　まとめのダンス発表会
テキスト	なし
参考文献	必要に応じて資料を配布する。
評価方法	技術・技能 30%，実践記録 20%，まとめレポート 50%
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	基礎中国語						
担当教員	鳥谷聡子						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010220
免許資格関連事項							

授業の概要	中国には56の民族があり、広東語や上海語など、実際には多種の言語や方言が使われている中で、現在中国の標準語になっている“汉语の普通话”を学ぶ。ピンイン、四声、発音から始まり、テキストの会話や作文の練習を通して中国語の基礎を学習する。中国語は漢字を使う言語のため、同じく漢字を使う日本人には親しみを感じる言語ではあるが、文化が違えばその発想も違うため、日本語との違いを通してその文化の違いを感じ取ってもらう。また、中国の音楽や中国人から見た日本の文化に対するエッセイなどに触れて、中国語を通して中国への理解を深めることを目的とする。
授業の到達目標	①ピンイン表記の中国語が読める。 ②テキスト内の単語と文法を覚え、それを使って作文や簡単な会話ができる。 ③中国語検定試験準４級レベルを目指す。
授業計画	第１回　中国語ウォーミングアップ、発音・声調・簡体字 第２回　人称代名詞、“是”の文 第３回　指示代名詞(1)、疑問詞疑問文 第４回　“的”の用法(1)、副詞 第５回　動詞の文 第６回　「所有」を表す“有”、省略疑問の“呢” 第７回　量詞、指示代名詞(2) 第８回　形容詞の文、“几”と“多少” 第９回　数字 第10回　日付・時刻を表す語、「動作の時点」を言う表現 第11回　「完了」を表す“了” 第12回　「所在」を表す“在”、助動詞(1)“想” 第13回　介詞(1)“在”・“离”、「存在」を表す“有” 第14回　反復疑問文 第15回　総まとめ、会話テスト 定期試験
テキスト	最新２訂版「中国語はじめの一歩」白水社
参考文献	適宜プリント配布　　中日辞典と日中辞典(電子辞書だと便利)
評価方法	期末試験(60点)会話テスト(30点)、残り10点は授業への取り組みと出席状況を総合して評価します。
自己学習に関する指針	テキストを何度も繰り返し音読すること。その際、発音と四声に注意して、大きな声で読むことが大事。文字や文章も書いてみること。
履修上の指導・留意点	質問は授業時間中と授業の前後で対応します。 受講者は、前から詰めて着席してください。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、中国、シンガポールでの就労経験や、中国の中学校での日本語教師の経験を生かして、現場で話されていた生きた中国語や文化、体験を伝えて中国語と中国への理解を深める授業を展開する。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	中国語						
担当教員	鳥谷聡子						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010230
免許資格関連事項							

授業の概要	「基礎中国語」に引続き、中国語(汉语)の基礎を学ぶ。テキストの会話や作文の練習を通して、中国語の文法を学習する。また、中国の音楽や文化に触れるだけでなく、日本の文化を中国語で説明することにもチャレンジする。今後中国人に限らず、台湾やシンガポールなど、多くの中華圏の観光客が日本に来ることが期待されるので、中国語を使って日本、特に島根県や山陰地域の観光地の説明を、観光パンフレット等を利用して学び、その学習で得た中国語で日本や山陰地域の魅力を伝え、相互理解を深めることを目的とする。
授業の到達目標	①ピンイン表記無しで、簡単な中国語が読める。 ②テキスト内の単語と文法を覚え、それを使って作文や簡単な日常会話ができる。 ③中国語で自己紹介ができる。 ④中国語検定試験準４級以上のレベルを目指す。
授業計画	第１回　中国語で自己紹介、前期の復習、中国語検定試験準４級の説明 第２回　「時間量」を表す語、試験対策(1) 第３回　助動詞(2)“得”、試験対策(2) 第４回　介詞(2)“从”、試験対策(3) 第５回　「過去の経験」を表す“过”、試験対策(4) 第６回　“是～的”の文、試験対策(5) 第７回　介詞(3)“跟”・“给”、試験対策(6) 第８回　試験対策まとめ 第９回　助動詞(3)“能”・“会” 第10回　「動作の様態」を言う表現、動詞の重ね型 第11回　「動作の進行」を表す“在～呢”、「～しに来る・～しに行く」の表し方 第12回　選択疑問の“还是”、目的語を文頭に出す表現 第13回　「比較」の表現、“的”の用法(2) 第14回　２つの目的語をとる動詞、目的語が主述句のとき 第15回　総まとめ、会話テスト 定期試験
テキスト	最新２訂版「中国語はじめの一歩」白水社
参考文献	適宜プリント配布　　中日辞典と日中辞典(電子辞書だと便利)
評価方法	期末試験(60点)会話テスト(30点)、残り10点は授業への取り組みと出席状況を総合して評価します。
自己学習に関する指針	テキストを何度も繰り返し音読すること。その際、発音と四声に注意して、大きな声で読むことが大事。文字や文章も書いてみること。
履修上の指導・留意点	質問は授業時間中と授業の前後で対応します。 受講者は、前から詰めて着席してください。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、中国、シンガポールでの就労経験や、中国の中学校での日本語教師の経験を生かして、現場で話されていた生きた中国語や文化、体験を伝えて中国語と中国への理解を深める授業を展開する。

授業科目	基礎韓国語						
担当教員	崔貞美						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010240
免許資格関連事項							

授業の概要	基礎的な韓国語を「読む」「聴く」「話す」というバランスを考えながら身に着けていきます。また、言語を学ぶということは、その背景にある文化を理解することも必要です。そこで歴史、風習にも折々触れていきます。
授業の到達目標	・ハングル（母音、子音、パッチム）を読めるようにします。 ・簡単な日常会話を韓国語で表現できるようにします。
授業計画	第１回　ハングルの特徴、文字の仕組み（教室用語） 第２回　文字と発音１　基本母音、基本子音（平音９コ）、簡単なあいさつ① 第３回　文字と発音２　基本子音（激音５コ、濃音５コ）、簡単なあいさつ② 第４回　文字と発音３　二重母音（11 コ）、簡単なあいさつ③ 第５回　文字と発音４　パッチム、２文字パッチム、発音のルール 第６回　第１課《私はクマモトマキです。》（～は）（～です）（～ではありません）（～と申します） 第７回　第１課《私はクマモトマキです。》◦グループ練習、韓国人の名字 第８回　第２課《これは何ですか？》（指示代名詞）（疑問詞）（～も） 第９回　第２課《これは何ですか？》◦グループ練習、家族の呼称 第 10 回　第３課《いつありますか？》（～が）（～に）（～ます、～です）（あります、います／ありません、いません） 第 11 回　第３課《いつありますか？》◦グループ練習、韓国料理 第 12 回　第４課《誰の歌が好きですか？》（～が好きだ、～を好む）（～しない）（～と）（～を） 第 13 回　第４課《誰の歌が好きですか？》◦グループ練習、体の部位 第 14 回　復習（文字と発音のまとめ）、ハングルとひらがなの対照 第 15 回　会話（自己紹介） 定期試験（会話も含む）
テキスト	グループで楽しく学ぼう！韓国語（朝日出版社）朴美子他　定価 2,500 円
参考文献	授業において適宜紹介します。※プリント配布
評価方法	前期試験 60 点、会話テスト 30 点、小テスト、課題提出、出席状況で 10 点、総合 100 点満点で評価します。
自己学習に関する指針	復習することが上達の近道です。特に発音の練習は、声をしっかり出して繰り返しやることが大切です。
履修上の指導・留意点	欠席が６回になると原則試験は受けられません（但し、公欠の場合は事前に公欠届を提出すること）。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	韓国語						
担当教員	崔貞美						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010250
免許資格関連事項							

授業の概要	基礎韓国語の授業を終了していることを前提に授業を行います。「語彙と表現」「文型練習」「会話練習」の３つの学習内容で授業を進めます。
授業の到達目標	・ハングル（文章）を読めるようにします。 ・様々な場面での日常会話ができるようにします。
授業計画	第１回　第５課《誕生日はいつですか？》、漢数詞、（～です） 第２回　第５課《誕生日はいつですか？》◦グループ練習、辞書における子音、母音の配列 第３回　第６課《郵便局とコーヒーショップがあります》、位置、（～します） 第４回　第６課《郵便局とコーヒーショップがあります》◦グループ練習、韓国の教育制度 第５回　第７課《３個１万ウォンです》、固有数詞、副詞 第６回　第７課《３個１万ウォンです》◦グループ練習 第７回　第８課《韓国語の授業は何曜日ですか》、時間と曜日、時刻 第８回　第８課《韓国語の授業は何曜日ですか》（～から～まで）、（～だが、～だけど）◦グループ練習 第９回　年賀状作成 第 10 回　第９課《週末に何をしますか》、過去形 第 11 回　第９課《週末に何をしますか》◦グループ練習、（～で） 第 12 回　第 10 課《週末に映画を見にいきましょうか》 第 13 回　第 10 課《週末に映画を見にいきましょうか》◦グループ練習、会話文作成① 第 14 回　会話文作成② 第 15 回　後期のまとめ 定期試験
テキスト	グループで楽しく学ぼう！韓国語（朝日出版社）朴美子他　定価 2,500 円
参考文献	授業において適宜紹介します。※プリント配布
評価方法	期末試験 60 点、会話テスト 30 点、小テスト、課題提出、出席状況等で 10 点、総合 100 点満点で評価します。
自己学習に関する指針	学習内容をチェックして、未修のところは復習を通して自律的に学習していくことが大切です。
履修上の指導・留意点	欠席が６回になると原則試験を受けられません（但し、公欠の場合は事前に公欠届を提出すること）。

授業科目	基礎タイ語						
担当教員	増原善之						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010260
免許資格 関連事項							

授業の概要	初学者を対象として、タイ語の基礎を身に付けることを目標とする。タイ語特有の文字とイントネーションは日本人にはなじみがなく難しく感じられるが、子音字と母音符号の発音と書き方、声調規則を段階的・体系的に学び、繰り返し練習をすれば、誰にでも習得が可能である。授業では、可能な限り発音と書き方の練習に時間を割き、知識の定着を図りたい。ただし、文字と発音の練習ばかりでは飽きてしまうので、これらと並行して日常会話で使われる平易な表現や基本単語も学習する予定である。
授業の 到達目標	(1) 子音字と母音符号のしくみを理解し、正しく発音できる。 (2) 基本的な単語を読んだり書いたりできる。 (3) 声調規則にしたがって、正しいイントネーションで発音できる。
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　子音字と高・中・低子音字の区別 第３回　高子音字と低子音字（1）基本的な子音字 第４回　高子音字と低子音字（2）基本的な子音字（続き） 第５回　高子音字と低子音字（3）低子音字の高子音字化 第６回　中子音字と無気音・有気音の区別 第７回　母音符号（1）基本的な母音 第８回　母音符号（2）基本的な母音（続き） 第９回　母音符号（3）二重母音とその他の母音 第 10 回　末子音 第 11 回　声調規則（1）高子音字と声調記号 第 12 回　声調規則（2）低子音字と声調記号 第 13 回　声調規則（3）中子音字と声調記号 第 14 回　声調規則（4）末子音による声調の変化 第 15 回　まとめ
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	期末試験（40%）、小テスト（40%）、出席状況および授業への取り組み（20%）に基づいて総合的に評価する。
自己学習に 関する指針	・毎回、宿題を出すので、しっかり復習をしてほしい。
履修上の 指導・留意点	

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	タイ語						
担当教員	増原善之						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010270
免許資格 関連事項							

授業の概要	「基礎タイ語」の既履修者を対象として、会話・コミュニケーション力の向上を目標とする。授業では基礎的な文法や単語の意味を理解するだけではなく、音声教材を利用しながら会話練習を繰り返すことによって「使えるタイ語」が身につくようにしたい。平易な内容であればタイの人びととなんとか意思疎通ができるというレベルを目指している。語学の学習に加え、動画等の視聴を通してタイ語の生きた表現に触れながら、タイの社会や文化に対する関心を高めていきたい。
授業の 到達目標	(1) 基礎的な文法が理解できる。 (2) 平易な文を読んだり書いたりできるようになる。 (3) 簡単な日常会話レベルのタイ語が身につく。
授業計画	第１回　「基礎タイ語」の復習 第２回　こんにちは 第３回　お名前は何ですか？ 第４回　あなたは大学生ですか？ 第５回　お仕事は何ですか？ 第６回　タイ語がとても上手ですね 第７回　これは何ですか？ 第８回　どのように行けばいいですか？ 第９回　この電車はチャトゥチャックに行きますか？ 第 10 回　どこにいます（あります）か？ 第 11 回　どこに行って来ましたか？ 第 12 回　どのように売りますか？ 第 13 回　何時ですか？ 第 14 回　何曜日に生まれましたか？ 第 15 回　まとめ
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	期末試験（40%）、小テスト（40%）、出席状況および授業への取り組み（20%）に基づいて総合的に評価する。
自己学習に 関する指針	・毎回、宿題を出すので、しっかり復習をしてほしい。
履修上の 指導・留意点	・本科目は「基礎タイ語」の既履修者または初歩的なタイ語（文字の読み書きができる程度）を学んだ経験のある者を対象としている。

授業科目	基礎インドネシア語						
担当教員	塩谷もも						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010280
免許資格 関連事項							

授業の概要	インドネシア語の初学者を対象とし、インドネシア語の基礎を身に付けることを目標とする。教科書に基づいて段階的に文法を学習しながら基本的な単語を修得していく。特に、日常会話について、インドネシア語でコミュニケーションがとれるようになることを目指し、発音練習や会話練習を積極的に行う。また、語学にあわせてて、インドネシアの生活習慣などについても映像資料等を用いながら解説し、その内容を会話表現等に結びつけて解説を行なう。
授業の 到達目標	(1) インドネシア語の発音を学び、文章を見て音読できるようになる。 (2) 基礎となる単語・文法を身につけ、自己紹介や簡単な会話をできるようになる。 (3) 語学とあわせて、インドネシアの文化や生活習慣について、理解できるようになる。
授業計画	第１回　インドネシア語の特徴と発音 第２回　１．指示代名詞 第３回　２．あいさつ・３．名詞の否定詞 第４回　４．人称代名詞 第５回　５．場所を示す前置詞 第６回　６．動詞・形容詞の否定詞 第７回　1-6課の復習・まとめ 第８回　７．疑問詞のつかない疑問文 第９回　８．限定形容詞・所有格 第 10 回　９．助動詞・語順 第 11 回　10．時制 第 12 回　7-10 課の復習・まとめ 第 13 回　11．数字 第 14 回　12．日付・曜日 第 15 回　13．時間
テキスト	舟田京子 2004『やさしい初歩のインドネシア語』南雲堂
参考文献	降幡正志 2014『インドネシア語のしくみ』白水社 村井 吉敬・佐伯 奈津子（編）2013『現代インドネシアを知るための 60 章』明石書店
評価方法	小テスト 40% 期末試験 60%
自己学習に 関する指針	(1)基礎となる単語をしっかりと覚える。 (2)新しい文法事項については、練習問題などを通じて身に付くよう努力する。
履修上の 指導・留意点	(1)積み上げが大事なので、単語と文法について、毎週しっかりと授業時間外にも復習すること。 (2)出された課題は、必ず済ませてくること。

授業科目	インドネシア語						
担当教員	塩谷もも						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010290
免許資格 関連事項							

授業の概要	「インドネシア語基礎」の受講者を対象とし、インドネシア語で簡単な会話が出来るようになることを目標とする。教科書に基づき文法を学習しながら、接辞についても学んでいく。インドネシア語でコミュニケーションできるようになるため、「読む」「書く」「聞く」「話す」力を総合的に身に付けていく。また、語学にあわせてインドネシアの生活習慣などについても、映像資料等を用いながら解説し、語学への関心を深めつつ日常会話で使える表現を学習する。
授業の 到達目標	(1) 接辞を身に付けることで辞書が引けて、簡単な文章を読むことができるようになる。 (2) 旅行の際に必要となる基本的な表現を身につけ、活用できるようになる。 (3) 簡単な会話がインドネシア語でできるようになる。
授業計画	第１回　14．疑問詞 第２回　15．関係代名詞 第３回　16．所有を表す語 第４回　14-16 課の復習・まとめ 第５回　21.複数形・22.副詞 第６回　23.原級・比較級・最上級 第７回　24.単純動詞・ber 動詞 第８回　25.me 動詞 第９回　21-25 課の復習・まとめ 第 10 回　26.命令形 第 11 回　27.受動態 第 12 回　28.me-kan 動詞 第 13 回　29.me-i 動詞 第 14 回　memper 動詞 第 15 回　接頭辞・接尾辞
テキスト	舟田京子 2004『やさしい初歩のインドネシア語』南雲堂
参考文献	降幡正志 2014『インドネシア語のしくみ』白水社 村井 吉敬・佐伯 奈津子（編）2013『現代インドネシアを知るための 60 章』明石書店
評価方法	小テスト 40% 期末試験 60%
自己学習に 関する指針	(1)基礎となる単語をしっかりと覚える。 (2)新しい文法事項については、練習問題などを通じて身に付くよう努力する。
履修上の 指導・留意点	(1)積み上げが大事なので、単語と文法について、毎週しっかりと授業時間外にも復習すること。 (2)出された課題は、必ず済ませてくること.

【保育教育学科】
学科基礎科目

授業科目	スタートアップセミナー						
担当教員	保育教育学科専任教員						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M2010010
免許資格関連事項							

授業の概要	［授業の目的・ねらい］ 入学後の１年春学期に初年次教育としてのガイダンスを受け、保育教育学科学生としての学修姿勢、社会人基礎力を養う。 ［授業全体の内容の概要］ ４年間の学習に向かうために必要な保育教育学科学習課程について、カリキュラムと卒業までの道程、履修規程及び細則についてのガイダンス、学習案内、大学生活とキャリアなどの“基礎知識の習得”を目指す。また、情報倫理、書く技術等の基本的な知識と技能の獲得を通して本学における４年間（編入生は２年間）の学習意欲を高める。さらには卒業時に目指すべき取得免許・資格を検討し、専門職カリキュラムの全体を理解した上で履修モデルを選択する。また、キャンパス講習会によって、安全安心のための危機管理等の学習、人権学習を行い、社会人基礎力を養う。
授業の到達目標	(1)履修規程及び履修細則を理解し、１年次秋学期に履修モデルを選択できる。 (2)情報倫理を身に付け、インターネットを含む多様な媒体の情報を正しく利用できる。 (3)学生としての危機管理、人権学習を行い、社会人基礎力を身に付ける。
授業計画	第１回　学則・履修規程・履修細則と履修モデルの理解（1）１年春学期の履修登録　（担任） 第２回　学則・履修規程・履修細則と履修モデルの理解（2）（担任） 第３回　キャンパス講習会１：心と身体の健康（小村講師、手島主任看護師）　大講義室 第４回　保育教育学科の４年間の学びと実習（担任，学科実習担当者） 第５回　キャンパス講習会２：ネット被害・マルチ商法対策（島根県消費者センター）　大講義室 第６回　特別支援教育について・履修計画表の作成（担任・学科教員） 第７回　キャンパス講習会３：交通安全（松江警察署）　大講義室 第８回　図書館利用の方法・図書館ツアー・履修計画表の作成（松江キャンパス図書館，学科教員） 第９回　キャンパス講習会４：防犯の心構えと護身術（松江警察署）　体育館アリーナ 第10回　インターネット利用・メールマナー・情報モラル（学科教員） 第11回　キャンパス講習会５：人権セミナー（人権啓発推進センター）　大講義室 第12回　情報検索・レポートの書き方。コンプライアンス研修（学科教員） 第13回　キャンパス講習会６：ブラックバイト対策（島根労働局）　大講義室 第14回　研究室訪問（学科教員） 第15回　振り返り，まとめ（担任） ※その他，情報検索の方法（松江キャンパス図書館）について，別途実施予定。 【キャンパス講習会】は、松江キャンパス全体で合同で行われる。日程は、過去の実績に基づくモデルである。全学講習の計画決定後、次の内容の日程・順序を変更することがある。
テキスト	「学生便覧」「授業計画書」を参考資料として使用し、適宜、プリント資料を配布する。
参考文献	山田剛史・林創著『大学生のためのリサーチリテラシー入門」ミネルヴァ書房
評価方法	毎回の小テスト（30%）レポート課題（70%）
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	表現とコミュニケーション						
担当教員	園山土筆　　有田幸　　田中小百合						
科目分類	専門科目	授業時間	15	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2010020
免許資格関連事項							

授業の概要	【授業の目的】 ・社会での「就業力」育成の準備段階として、対人関係を自ら構築するための土台をつくる。 ・子どもが「集団遊び」（複数の子どもが集まり、一つの遊びを皆で楽しむこと）の中で何を学ぶのかを実体験し、「遊び」の価値を知る。 【授業の概要】 ・海外の劇場で実施されるシアターゲームをワークショップ形式で行う。 ・個々人が自分の意見を発表する場面を設定する。
授業の到達目標	【達成目標】 ・自分の考えや気持ちを言語化して伝えることができる。 ・自他の言動の「違い」について、なぜなのか、疑問に思い、更によく他者を観察し考えることができる。 ・他者の言動を認め自らの課題に気づくことのできる「批判的思考力」を身につける。 ・指示されなくても、自ら状況判断し、まわりの人と協力して行動できる。 ・子どもの集団遊びの意義を体感できる。
授業計画	「表現とコミュニケーション」力の育成 毎回の授業時間：月曜日　9：45～12：10（3時間）（体育館アリーナ） 各学生は上記授業を８回（3時間×8回=24時間）体験する。 毎回、学びを言語化する。その回の講座内容にあわせて確認小テストを行う。 第１回：(1.5コマ) オリエンテーション。初対面の壁を取り払う。授業の流れを伝える。 社会人として身に着けていかなければならないコミュニケーション力を感じ取る。 第２回：(1.5コマ）相手に届く声を出すことが大切。声を出すトレーニングを行う 第３回：(1.5コマ) 他者を観察する力をつける。日常、周りを意識はしていても、実は見ていない自分を実感する 第４回：(1.5コマ) 自分の意見をみんなの前で発表する。正誤は無関係に、自分の考えを話すトレーニングを行う 第５回：(1.5コマ) 社会人になるということはどういくことなのか、考える。グループワークで自ら検討していく 第６回：(1.5コマ）相手と会話する。質問力をつける。日常どれだけ他者に無関心だったのかを実感する 第７回：(1.5コマ）想像する力は人とコミュニケーションをとるときの大事な鍵になる。想像を楽しむ 第８回：(1.5コマ）「遊び」から学ぶ。学びを実感する 第９回：(1.5コマ）第１回～8回の欠席者と希望者による補講とする
テキスト	必要に応じてプリントを配付する。
参考文献	特になし
評価方法	全８回の出席が重要。１回でも休むと単位が取れない。最終回の９回目は欠席した人のための補講とする。 日常の授業での体験・取組み態度や目標の達成度だけでなく、初回からの成長度合いを評価する。ただし、提出されたレポートを評価の参考資料として考慮する。 毎回、実技の小テストを行う。 ３名の担当講師により採点、合議により評価する。
自己学習に関する指針	授業で学んだことを、日常生活に応用し、次回の授業時に日常生活での学びを発表してほしい。

履修上の指導・留意点	欠席せざるを得ない場合、事前に担当講師に相談するか、直前・事後の場合は教務学生課に申し出て、講師の指示を仰ぐ。 ポケットに入る小さなメモ帳と筆記具を毎回持参し、気づきを記載できるようにしてほしい。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、以下の勤務経験を活かして授業を展開する。 ・演劇の演出家として、人々の暮らしを見つめ、舞台上での役者同士のコミュニケーションを創りあげた経験を活かし、受講者が大学を卒業し社会人となったときに、良好な人間関係をつくる力を育てる。 ・保育園での保育士歴と劇団あしぶえでの俳優歴の経験を活かし、実社会に出て生きていくための具体的な力について考えていく。 ・教育大学で教員免許を取得しているが、ビジネスマナーの会社経験や、あしぶえでの俳優・制作の仕事の経験を活かし実社会に出て生きていくためのさまざまな力を育てる。

授業科目	キャリア・プランニング						
担当教員	保育教育学科専任教員・青山啓子・赤木寛子						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2010030
免許資格関連事項							

授業の概要	[授業の目的・ねらい] 卒業後、社会の一員として生活していくための進路指導およびキャリア形成支援を目的とする。 [授業全体の内容の概要] 専門職・一般職に就職するために、職場に求められる人材や職業別の職務内容を理解し、就職試験に向けての対策ができるように講義・演習を通じて学生が主体的に学ぶ。また、自己のキャリア形成についての長期的視点も持ちつつ、卒業後、自分にとってよりよい進路を決定できるための準備をする。
授業の到達目標	(1)社会人になることや働くことを自分のこととして認識できるようになる。 (2)自分の向き・不向きを自覚し、自分に合った職業を選ぶことができる。 (3)保育・教育の職場が求める人材や、社会・企業が求める人材について理解する。 (4)履歴書の書き方や面接の受け方など、就職活動に必要なスキルを身につける。
授業計画	[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 毎回、以下のテーマによる講義、学生のグループ討議による演習、模擬面接などを行う。 【就活対策に向けての課題整理】 第１回　主な就職先の種類・特徴と就職試験、大学院進学について（担任・教職センター） 第２回　学内相談支援体制の紹介（担任・教職センター・キャリアセンター） 第３回　保育士・幼稚園教諭の職務や採用試験とは（学科教員） 第４回　児童福祉施設職員の職務や採用試験とは（学科教員） 第５回　小学校教諭・特別支援学校教諭の職務や採用試験とは（学科教員） 第６回　グループ討議　（担任） 【面接指導から模擬面接へ】 第７回　アプローチ１（マナー、敬語・身だしなみなど：模擬体験指導）（青山・赤木） 第８回　アプローチ２（メール・手紙の書き方：模擬体験指導）　（青山・赤木） 第９回　アプローチ３（履歴書の書き方、志望動機の書き方）　（青山・赤木） 第10回　アプローチ４（模擬面接指導）　（青山・赤木） 【模擬面接での口頭発表「私の志望理由と活動計画」】 第11回　模擬面接１　個別面接　（学科教員） 第12回　模擬面接２　個別面接　（学科教員） 第13回　集団討論１　（学科教員） 第14回　集団討論２　（学科教員） 第15回　就職活動の計画立案（グループ発表）　（学科教員）
テキスト	適宜、参考資料などを紹介、配布する。
参考文献	
評価方法	成績は、小テスト評価（発表をよく聞き、積極的に参加できたか）50%、レポートおよび模擬面接（レポートの記述内容、模擬面接の準備や態度）50%をもとに評価する。
自己学習に関する指針	自分自身の将来を見据えた活動計画が、より具体的で実現可能性の高いものになることを目指して、模擬面接・集団討論に臨んでほしい。
履修上の指導・留意点	選択科目となっているが、就職・進学いずれを希望する場合でも、２年生は全員履修することが望ましい。

授業科目	保育教職インターンシップ						
担当教員	保育教育学科専任教員・青山啓子・赤木寛子						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	3	配当期	通年
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2010040
免許資格 関連事項							

授業の概要	保育や教育及び児童家庭福祉関連の職場となる保育所、幼稚園、認定こども園、小学校、特別支援学校、児童館、放課後児童クラブ、乳児院、児童養護施設、障害児入所施設、指定発達支援医療機関等において、学生が自ら就職したい職種での自主的なインターンシップ実習に取り組む機会を通して、保育者・教育者・ケアワーカー等としての基本的な資質や能力を高めることを目的とする。 　学生が自己の進路や就職先を見据えたインターンシップ実習を体験できるように実習計画を立案し、実習を行うための事務手続きを学生が主体となって進める。単独または複数の保育・教育・福祉（医療的現場も含む）の職場での 90 時間の実習を実施し、実習を通じて自己の成長を認識するとともに、その体験を通じて保育教育職に就く者及び児童福祉施設等でケアワーク等に従事する者としての自覚と態度を育成する。
授業の 到達目標	(1)自己の進路や就職先を視野に入れながら、保育所、幼稚園、認定こども園、小学校、特別支援学校、児童館、放課後児童クラブ、乳児院、児童養護施設、障害児入所施設、指定発達支援医療機関等において学生が自ら就職したい場所での自主的な実習を計画する。 (2)実習を行うための事務手続きを主体的に進め、インターンシップ実習の事前準備をする。 (3)インターンシップ実習を行い、日々の実習について反省・省察する過程を通して自己の成長を認識し、保育者・教育者としての基本的な資質や能力を高めるとともに、保育教育職に就く者及び児童福祉施設等でケアワーク等に従事する者としての自覚と態度を身につける。
授業計画	[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 90 時間のインターンシップ実習の実施前後に実習指導を行うため、必ず出席する。 授業のコマ数・実習計画 １ 履修ガイダンス、インターンシップの手続きの説明　グループ別指導（青山・赤木） ２ 実習事前指導(実習の心構えと実施上の注意、実習計画の作成)　グループ別指導（青山・赤木） ３ 90 時間の実習の実施、出勤簿の押印と提出 ４ 実習事後指導(実習のまとめと実習を終えてのレポート課題の作成)グループ別指導（青山・赤木） 実習中の指導が必要な場合は、保育教育学科専任教員と、教職センター特任教員（青山啓子・赤木寛子）で、個別に対応する。
テキスト	適宜、プリント資料を配布する。
参考文献	
評価方法	成績は、90 時間の実習の実施を証明する出勤簿、実習を終えてのレポート等を考慮して、総合的に評価する。
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	英語Ⅰ						
担当教員	中井誠一						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M2010050
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目≫ 　・外国語コミュニケーション ○小学校教諭一種免許状≪教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目≫ 　・外国語コミュニケーション ○特別支援学校教諭一種免許状≪教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目≫ 　・外国語コミュニケーション ○保育士資格						

授業の概要	この授業では、TOEIC の Listening＆Reading テキスト教材を利用し、TOEIC 各セクションの練習問題を解くことで、基礎リスニング能力、基礎文法力、基礎読解能力の向上を図り、基本的な英語力を向上させることを目標とします。多様な問題をこなしながら自律的な英語学習習慣を身につけ、必須知識の整理をすることで、今後の英語学習の基盤を構築することを目指します。
授業の 到達目標	1. 基礎的な語彙力・文法力を身につける。 2. 英語読解能力について、スキミング及びスキャニングに関する基礎的知識と技能を身につける。 3. 単文レベルの平易な英語を聞き取るリスニング能力を身につける。 4. 平易な英語の会話を聞き取るリスニング能力を身につける。
授業計画	具体的な授業内容は、以下の通りです。 1. 授業のオリエンテーション 2. Unit 1：オフィスで―自動詞と他動詞 3. Unit 2：買い物―形容詞・副詞・前置詞 & 小テスト 1 4. Unit 3：食事―名詞と冠詞 & 小テスト 2 5. Unit 4：観光―進行形 & 小テスト 3 6. Unit 5：宣伝・広告―完了形(数字ー不定詞 & 小テス 4 7. Unit 6：数字―不定詞 & 小テスト 5 8. 中間試験（範囲: Unit 1～6 + 実力問題） 9. Unit 7：日常生活ー動名詞） 10. Unit 8：エンターテインメントー関係代名詞と関係副詞）& 小テスト 6 11. Unit 9：交通ー複文）& 小テスト 7 12. Unit 10：職業ー受動態）& 小テスト 8 13. Unit 11：いろいろな国の英語 1ー分詞）& 小テスト 9 14. Unit 12：いろいろな国の英語 2ー比較表現）& 小テスト 10 15. 授業のまとめ 16. 期末試験（範囲: Unit 7～12 + 実力問題）
テキスト	The TOEIC TEST Trainer Target 350 （センゲージラーニング、￥2,000）
参考文献	『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集１～４』, 国際ビジネスコミュニケーション協会
評価方法	中間・期末試験 60 点, 小テスト(10 回)30 点, 課題 & 平常点 10 点の 100 点満点とし、60 点以上を合格とします。
自己学習に 関する指針	ほぼ毎回内容確認のテストがあるので, 前回授業の復習と割り当てられたテキストの予習をしっかり行って授業に臨んでください。
履修上の 指導・留意点	正当な理由なく 5 回以上授業を欠席すると期末試験の受験資格を失いますので注意してください。また, 授業中スマートフォン等は出さないようにしましょう。

授業科目	英語Ⅱ						
担当教員	竹中裕貴						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M2010060
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目≫ ・外国語コミュニケーション ○小学校教諭一種免許状≪教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目≫ ・外国語コミュニケーション ○特別支援学校教諭一種免許状≪教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目≫ ・外国語コミュニケーション ○保育士資格						

授業の概要	この授業では、TOEIC L&R に頻出の語彙や表現が用いられた問題を解きながら、出題パターンに慣れ、スコアアップを目的とした総合的な対策を行う。それぞれのセクションのパターンと、それらに対応した英語の基礎的な知識を確認する。小テストやオンライン教材を利用しながら、汎用性の高い表現を繰り返し学ぶことにより、実践的かつ総合的な英語力のアップを図る。
授業の 到達目標	(1)TOEIC で用いられる語彙・表現・文法が理解できる。 (2)TOEIC で出題される日常的な会話やアナウンスを聞き取り、理解することができる。 (3)TOEIC で出題されるパッセージを正確に読み取り、理解することができる。
授業計画	第１回　オリエンテーション（授業の説明、教科書の使い方など） 第２回　Pre-Test と解説 第３回　Unit 1 Home Appliances (Part 1,2,5) 第４回　Unit 2 Recreation (Part 3, 6) 第５回　Unit 3 Restaurants (Part 4, 7) 第６回　Unit 4 Supermarket Shopping (Part 1,2,5) 第７回　Unit 5 Housing (Part 2,6) 第８回　Unit 6 Business (Part 4,7) 第９回　中間試験 第 10 回　Unit 7 Bank & Post office (Part 1,2,5) 第 11 回　Unit 8 Job Hunting (Part 3,6) 第 12 回　Unit 9 Health (Part 4,7) 第 13 回　Unit 10 Tourism: Travel by Land (Part 1,2,5) 第 14 回　Unit 11 Tourism: Travel by Air (Part 3,6) 第 15 回　Unit 12 Tourism: Hotels (Part 4,7) 第 16 回　期末試験
テキスト	『An Amazing Approach to The TOEIC L&R TEST』（藤寛美、Eleanor Smith 他著）成美堂
参考文献	授業中適宜紹介する
評価方法	小テスト　15% 中間試験　35% 期末試験　35% 平常点(発表や課題提出)　15%
自己学習に 関する指針	授業中に紹介するオンライン教材などを活用しながら、予習・復習を行うこと。
履修上の 指導・留意点	質問は、その内容に応じて、授業時間中・e-mail で対応します。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	アメリカ語学研修計画						
担当教員	ダスティン・キッド						
科目分類	専門科目	授業時間	15	配当年次	１・２	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1030010
免許資格 関連事項	○中学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語コミュニケーション ○高等学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語コミュニケーション						

授業の概要	アメリカ合衆国ワシントン州にあるセントラルワシントン大学で行われる語学研修の事前研修を行い、参加する学生に十分の準備ができる機会を与える。アメリカで元気で過ごすために必要な情報を伝え、学生が研修中で交流できるためにプレゼンテーションの準備もさせる。
授業の 到達目標	授業テーマ：語学研修に参加する学生が一人ひとり、アメリカで有意義な時間を過ごせるため、そしてできる限りの英語学習と異文化交流ができるための準備。 到達目標：①自己紹介及びに個人の目標を英語で伝えるようになる、②グループに分かれてアメリカで発表するプレゼンテーションを完成させる、③研修に必要な知識を身に付ける。
授業計画	第１回　オリエンテーション、グループ分け、役割決定 第２回　グループプレゼンテーションの内容決定 第３回　研修プログラム歴史と狙い 第４回　出国・入国審査、税関について 第５回　荷物について（預かり荷物、持ち込み荷物など） 第６回　一回目のプレゼンテーション練習 第７回　旅行代理店の説明 第８回　アメリカのお金（特に硬貨）、チップのルール 第９回　アメリカの日常生活やマナーについて 第 10 回　ワシントン州とエレンズバーグ市の概要 第 11 回　二回目のプレゼンテーション練習 第 12 回　セントラルワシントン大学の概要、寮の生活 第 13 回　アンダーソン・ヘイ（企業訪問先）の紹介 第 14 回　行先の気候、体調管理 第 15 回　グループプレゼンテーション、結団式 ※内容を変更する可能性があります。
テキスト	なし
参考文献	別途プリント配布
評価方法	・自己紹介と個人の目標の発表　－　３０% ・グループプレゼンテーション　－　３０% ・スクラップブック　－　３０% ・取り組む態度　－　１０%
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（ALT、中学校・高等学校教諭）での勤務経験を活かしてより具体的、実践的な授業を展開する。

授業科目	アメリカ語学研修						
担当教員	ダスティン・キッド						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	１・２	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1030020
免許資格関連事項							

授業の概要	Language & Culture の授業(3 時間/平日)受講、現地大学生との交流、地元主要産業の牧草会社訪問、学長・副学長などとの交流会、日本や島根、大学等を紹介するプレゼンテーションの実施など。その他、地元の美術館・博物館訪問、ドイツ村観光、牧場での乗馬、大リーグ観戦等を通して、アメリカ文化を体験する。
授業の到達目標	・セントラルワシントン大学で、UESL が提供する約 3 週間の研修に参加する。語学・文化講座の受講、現地大学生との交流、企業訪問、文化体験などを通して、多文化社会アメリカについての理解を深めるとともに、英語でのコミュニケーション力の向上、および国際的視野の醸成を目的とする。 [到達目標] ①英語でのコミュニケーション能力を、授業の受講、現地での生活に十分なレベルまで向上させる。 ②アメリカでの学びや体験を説明できる。 ③主体的に英語学習に取り組み、異文化理解を深めようとする姿勢を身に付ける。
授業計画	第１回　オリエンテーション、自己紹介 第２回　英会話（好き嫌い、やってみたいこと）、ワシントン州の地理 第３回　英会話（買い物）、開拓時代のアメリカ 第４回　英会話（道の訪ね方）、エレンズバーグ市の歴史 第５回　英会話（趣味）、エレンズバーグ市の散策、歴史館訪問 第６回　英会話（スポーツ）、シアトル市の名所と歴史 第７回　英会話（将来の夢）、レーニア山の自然 第８回　英会話（家族について）、アメリカの原住民の歴史と文化 第９回　英会話（応援の仕方）、アメリカの野球 第 10 回　英会話（故郷紹介）、乗馬の必要知識 第 11 回　英会話（大学生の生活）、ロズリン市の歴史と文化 第 12 回　英会話（アメリカの礼儀）、キティタスバレーの現在企業、地元の企業訪問 第 13 回　英会話（理想の生活）、レヴェンワース市の歴史とドイツとの関係 第 14 回　英会話（アメリカの思い出）、ギンコ化石森の歴史 第 15 回　英会話（別れのスピーチ）、川下りの注意点 課題レポート提出・研修報告発表 ※内容を変更する可能性があります。
テキスト	なし
参考文献	別途プリント配布
評価方法	事後のレポート提出・報告会実施・事後発表：40%　（大学での担当者が評価） 現地での研修：60%　（UESL プログラム担当者・授業担当教員が、授業での学びやその他の研修への参加姿勢などを評価）
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	「アメリカ語学研修計画」の受講も必要。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（ALT、中学校・高等学校教諭）での勤務経験を活かしてより具体的、実践的な授業を展開する。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	情報機器の操作Ⅰ						
担当教員	飯塚由美						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M2010070
免許資格関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目≫ ・情報機器の操作 ○小学校教諭一種免許状≪教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目≫ ・情報機器の操作 ○特別支援学校教諭一種免許状≪教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目≫ ・情報機器の操作						

授業の概要	情報機器を利用する能力と情報を扱う力（情報活用能力）の基礎を身につける。情報処理および情報通信技術の基礎を理解した上で、文章作成や表計算などの基本のアプリケーションの活用法やインターネットや電子メールの活用法、OS や周辺機器などの理解を深め、教育に必要な技術を実際に自分で操作しながら学ぶ。
授業の到達目標	教師や保育者に必要なコンピュータを含む情報社会に関する知識や技術の習得、ならびに教育の情報化（情報活用能力の育成の指導と授業や校務などへの情報機器活用）に対応するための情報リテラシーを習得することを到達目標とする。さまざまな情報の中から自分に必要な情報を主体的に選択・収集、処理・加工を行い、新たな情報として創造・発信できる能力の基礎を習得する。
授業計画	第１回　オリエンテーション：大学の情報機器の使い方、システムの理解、授業概要 第２回　情報セキュリティと情報倫理：情報モラル、社会への影響、教育における配慮 第３回　情報検索と電子メール： Web の利用とメール操作、情報機器のしくみ 第４回　基本のアプリケーションの利用：イラストや地図作成 第５回　基本のアプリケーションの利用：写真入力と加工、デジタルカメラ、スキャナーの利用 第６回　ワープロソフトの利用：Word の基本操作１（画面構成、ツールバー、文字入力の基本） 第７回　ワープロソフトの利用：Word の基本操作２（簡単な文書作成、書式設定、図表挿入の基本） 第８回　ワープロソフトの利用：学年だよりを作ろう 第９回　ワープロソフトの利用：文集や新聞を作ろう 第 10 回　表計算ソフトの利用：基本の表とグラフ（Excel） 第 11 回　表計算ソフトの利用：関数と計算式 第 12 回　表計算ソフトの利用：住所録、データベース作成 第 13 回　プレゼンテーションソフトの理解：PowerPoint の基本操作 第 14 回　プレゼンテーションソフトの理解：発表と提示の仕方 第 15 回　総括
テキスト	テキストは開講までに紹介します。 必要に応じ、資料やプリントを配布します。
参考文献	島根県立大学情報ネットワークシステムの手引き
評価方法	成績は、課題レポートの提出（90%）、取り組む姿勢（10%、質問や発表など）を考慮し、総合的に評価する。
自己学習に関する指針	授業前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。 パソコン操作については、学習（経験）したことを自分できちんとメモ（覚え書き）し、記録をすること。
履修上の指導・留意点	

授業科目	情報機器の操作Ⅱ						
担当教員	飯塚由美						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M2010080
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目≫ ・情報機器の操作 ○小学校教諭一種免許状≪教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目≫ ・情報機器の操作 ○特別支援学校教諭一種免許状≪教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目≫ ・情報機器の操作						

授業の概要	情報機器の操作Ⅰを踏まえ、情報機器を利用する能力と情報を扱う力（情報活用能力）をさらに高める。教育に必要なファイル管理、データベース作成、成績評価、集計方法、データの分析や加工、基本的アンケート調査の処理方法などの理解を深め、プレゼンテーションも含めた技術を実際に自分で操作しながら学ぶ。
授業の 到達目標	教師や保育者として必要なコンピュータを含む情報社会に関する知識や技術の習得、ならびに教育の情報化（情報活用能力の育成の指導と授業や校務などへの情報機器活用）に対応するための情報リテラシーを応用的に展開することを到達目標とする。成績評価、アンケート集計、データの整理と分析といった教育場面で必要な情報処理を理解し、その技術を習得する。
授業計画	第１回　オリエンテーション：情報機器の使い方とシステムの理解、授業概要 第２回　ファイルについての知識と管理の方法：様々な保存形式と整理の仕方 第３回　ファイルについての知識と管理の方法：文章や資料データの管理、データベース作成法 第４回　教育に必要な基本統計の理解：統計の基礎理論、成績評価、集計方法 第５回　データ分析と加工の方法：データ入力、加工（Excel および IBMSPSS 使用） 第６回　データ分析と加工の方法：データの集計と整理、図表の作成方法 第７回　データ分析と加工の方法：テキストや質的データの処理方法 第８回　基本的なアンケートや質問紙調査法の理解：理論と方法 第９回　基本的なアンケートや質問紙調査の実際：アンケートや質問紙の作成 第10回　基本的なアンケートや質問紙調査の実際：データ入力、集計、整理 第11回　基本的なアンケートや質問紙調査の実際：図表の作成 第12回　報告書の作成（Word） 第13回　プレゼンテーションの実際：必要な資料の選定と加工、使用する情報機器の準備 第14回　プレゼンテーションの実際：プレゼンテーションの作成 第15回　プレゼンテーションの実際:自分でプレゼンしてみよう（発表）、総括
テキスト	テキストは開講までに紹介します。 必要に応じ、資料やプリントを配布します。
参考文献	島根県立大学情報ネットワークシステムの手引き すぐわかる統計用語の基礎知識 石村 貞夫著 東京図書 SPSS によるアンケート分析 寺島拓幸・廣瀬毅士著 東京図書
評価方法	成績は、課題レポートの提出（90%）、取り組む姿勢（10%、質問や発表など）を考慮し、総合的に評価する。
自己学習に 関する指針	授業前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。 パソコン操作については、学習（経験）したことを自分できちんとメモ（覚え書き）し、記録をすること。
履修上の 指導・留意点	

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	情報機器の操作Ⅲ						
担当教員	小倉　佳代子						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2010090
免許資格 関連事項							

授業の概要	３年次春学期卒業研究準備段階の科目として、より高度な情報機器の操作による、課題研究・分析・プレゼンテーションの技法を学ぶ。具体的には、Microsoft Word を用い、DTP（Desk Top Publishing）に関する基礎的な知識と技術を修得し、効果的な研究企画書や報告書などが編集・制作できる力を、実習を通して身につける。またフィールド研究での動画収録と編集、web 上での情報共有・発信等、研究成果を上げるための効果的な ICT を修得する。
授業の 到達目標	この授業では Microsoft Word での DTP の作成、プレゼンテーションに必要な動画編集や画像のデータ処理、Web サイトの利用と作成（HTML）について学ぶ。研究成果の発表や、情報の作成・発信に必要な技能を修得することを目標とする。
授業計画	第１回　オリエンテーション：情報機器の使い方、授業概要 第２回　Microsoft Word：基本的な操作の確認 第３回　Microsoft Word：レイアウト、ビジュアル表現 第４回　Microsoft Word：データ作成の準備 第５回　Microsoft Word：データ作成 第６回　画像処理１ 第７回　画像処理２ 第８回　動画編集について 第９回　動画編集１ 第10回　動画編集２ 第11回　Microsoft PowerPoint：プレゼンテーション資料の活用 第12回　Microsoft PowerPoint：資料作成、発表方法について 第13回　インターネットコミュニケーション 第14回　Web サイトの構成、HTML について 第15回　総合演習
テキスト	特になし
参考文献	「考える　伝える　分かちあう　情報活用力」　noa 出版　noa 出版著
評価方法	成績は、課題レポートの提出（90%）、質問・発表の内容（10%）を考慮し、総合的に評価する。
自己学習に 関する指針	・修得した技術を授業外のレポートやデータ作成等で積極的に活用すること。
履修上の 指導・留意点	・ワープロソフト、プレゼンテーションソフトの基本的な操作ができることを前提とする。

【保育教育学科】
専門基幹科目

授業科目	表現研究（児童文化）Ⅰ						
担当教員	福井一尊　　矢島毅昌　　梶間奈保						
科目分類	専門基幹	授業時間	60	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M2020010
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教科又は教職に関する科目≫ ○保育士資格						

授業の概要	[授業全体の内容の概要] 　保育内容「表現」「言葉」等の内容の体験的・総合的学修により、子ども向けの表現活動を理解するとともに、幼児への適切な指導方法を習得することを目的とする。保育内容の学修につながる「子どものための表現活動」について、具体的な創造活動を通して学ぶ。発表に向けて６回行う学内リハーサルで教員からの指導を受けるとともに、学生相互に改善点を伝え合うことを通して表現指導の方法を習得する。 　また学生の主体的な研究活動を取り入れ、その成果は、県下最大のホールを会場に、児童及びその保護者、教育関係者を対象に発表する。その結果を精緻に省察し表現指導の望ましいあり方について学修する。
授業の 到達目標	[授業の目的・ねらい] (1)保育内容「表現」「言葉」等の内容の体験的・総合的学修により、視覚的、聴覚的、身体感覚的な伝え方を理解する。 (2)児童文化財の種類について理解する (3)学生相互に表現発表を見合うことを通して、子どもの表現を見る目を育む。 (4)幼児への表現指導の方法を考察する力を身に付ける。 (5)各種の集団活動を通して、教育・保育者としての自覚や態度を身につけ、求められるパートナーシップとフォロアーシップについて理解し、習得する。 ［授業終了時の達成課題（到達目標）］ 「授業の目的・ねらい」の(1)から (5) について全てを習得することを到達目標とする。
授業計画	第１回　子どもの表現活動の世界 第２回　表現にかかわる資料収集・調査の方法 第３回　表現にかかわる製作実技の方法 第４回　幼児の表現遊び（物語、歌、言葉とともに） 第５回　歌唱、演劇の発表と指導法 第６回　影絵劇、手遊びの発表と指導法 第７回　舞台表現の指導と省察 第８回　児童文化財の現状について 第９回　舞台表現と舞台製作の統合 第 10 回　舞台発表のために 第 11 回　一般公開による表現実践 第 12 回　表現活動における集団としての総括的省察 第 13 回　表現活動における保育者としての総括的省察 第 14 回　子どもと児童文化財（指導法・言語表現、造形表現） 第 15 回　子どもと児童文化財（指導法・身体表現、舞台表現）
テキスト	無し　適宜資料を配布する。
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領』 （http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/you/index.htm　） 厚生労働省『保育所保育指針』 （http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/hoiku04/pdf/hoiku04a.pdf） 内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 （http://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/law/kodomo3houan/pdf/seisyourei/h260430/c1-2-honbun.pdf） 小川清美編著　『児童文化』　萌文書林 他授業中に適宜紹介する。
評価方法	授業レポートおよび提出物の内容、発表の内容から総合的に評価する。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関および行政機関での勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を実施する。また、国内外の文化施設における芸術活動経験を生かしてより具体的、実践的な実技指導を展開する。

授業科目	表現研究（児童文化）Ⅱ						
担当教員	福井一尊　　矢島毅昌　　梶間奈保						
科目分類	専門基幹	授業時間	60	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M2020020
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教科又は教職に関する科目≫ ○保育士資格						

授業の概要	[授業全体の内容の概要] 　保育内容「表現」「言葉」等の内容の体験的・総合的学修により、子ども向けの表現活動を理解するとともに、幼児への適切な指導方法を習得することを目的とする。保育内容の学修につながる「子どものための表現活動」について、具体的な創造活動を通して学ぶ。発表に向けて６回行う学内リハーサルで教員からの指導を受けるとともに、学生相互に改善点を伝え合うことを通して表現指導の方法を習得する。 　「表現研究（児童文化）Ⅰ」の学修を踏まえて、2年次には集団の中でのリーダーシップを体験的に習得し、教育・保育者に必要な集団を統括し統率する力を養う。表現指導の望ましいあり方について企画の段階から学修する。
授業の 到達目標	[授業の目的・ねらい] (1)保育内容「表現」「言葉」等の内容の体験的・総合的学修により、視覚的、聴覚的、身体感覚的な伝え方を理解する。 (2)児童文化財の伝え方について理解する。 (3)学生相互に表現発表をを見合い、意見を交わすことで幼児への表現指導の望ましいあり方を考察する力を身に付ける。 (4)上級生として学外公演活動を進めることで、集団の中でのリーダーシップを体験的に習得し、教育・保育者に必要な集団を統括し統率する力を養う。 (5)段階的な総括活動によって、自らの学びを省察する力を付ける。 ［授業終了時の達成課題（到達目標）］ 「授業の目的・ねらい」の(1)から（5）について全てを習得することを到達目標とする。
授業計画	第１回　保育内容における領域「表現」とこの授業について 第２回　表現にかかわる資料収集・調査の方法 第３回　表現にかかわる製作実技の方法 第４回　幼児の表現遊び（物語、歌、言葉とともに） 第５回　歌唱、演劇の発表と指導法 第６回　影絵劇、手遊びの発表と指導法 第７回　舞台表現の指導と省察 第８回　児童文化財を用いた子どもための表現活動 第９回　舞台表現と舞台製作の統合 第10回　子どものための舞台発表について 第11回　一般公開による表現実践 第12回　表現活動における集団としての総括的省察 第13回　表現活動における保育者としての総括的省察 第14回　幼児への表現指導のあり方（言語表現、造形表現） 第15回　幼児への表現指導のあり方（身体表現、舞台表現）
テキスト	無し　適宜資料を配布する。
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領』 （http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/you/index.htm　） 厚生労働省『保育所保育指針』 （http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/hoiku04/pdf/hoiku04a.pdf） 内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 （http://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/law/kodomo3houan/pdf/seisyourei/h260430/c1-2-honbun.pdf） 川美恵子他編著『児童文化』皆　ななみ書房 他授業中に適宜紹介する。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

評価方法	授業レポートおよび提出物の内容、発表の内容から総合的に評価する。
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関および行政機関での勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を実施する。また、国内外の文化施設における芸術活動経験を生かしてより具体的、実践的な実技指導を展開する。

授業科目	言葉研究（読み聞かせ実践）						
担当教員	中井悠加　岩田裕子　尾崎智子　内田絢子						
科目分類	専門基幹	授業時間	60	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M2020030
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育課程及び指導法に関する科目 〔保育内容の指導法〕 ○保育士資格						

授業の概要	幼稚園教育要領及び保育所保育指針の「保育内容　言葉」、および小学校国語科における基礎的知識・態度を養う科目として、絵本の読み聞かせを通して、子どもと向き合いながら豊かに表現する力を養い、言葉の力に気づくことを目的とする。また、地域社会における児童文化の担い手として、地域の子どもたちに豊かな感性と想像力を養う言葉の世界と文化環境の場を提供していくため、学外での活動で子どもをはじめ様々な人との関わりを通して、一人の市民として立ち振る舞う自覚をもち、社会性とコミュニケーション能力の向上を図る。
授業の 到達目標	(1) 子どもの言葉理解、絵本の読み聞かせにおけるコミュニケーションの発達段階について理解する。 (2) 保育環境と絵本による活動を結びつけて捉え、絵本を選定し保育に生かす力を身に付ける。 (3) 絵本の読み聞かせの技術を身に付け、発達段階にあわせた読み聞かせを体験的に修得する。 (4) 幼児期から小学校までの子どもの言葉の獲得を観る目を育てる。
授業計画	第１回　ガイダンス、「おはなしレストラン 10 カ条」による授業の目標と課題意識の明確化 第２回　班編成、読み聞かせの前提：絵本の分類と配架から学ぶ選定方法・提示方法 第３回　教材研究（国語科の視点に学ぶ作品解釈）：絵とことばの相互関係から読み解く 第４回　グループ練習：読み聞かせの技術（１）話法と表現技術 第５回　グループ練習：読み聞かせの技術（２）ページめくりと視線 第６回　読み聞かせ実践の指導計画立案と事前練習（１）：話法 第７回　話法に関する読み聞かせ実践 第８回　話法に関する読み聞かせの振り返り 第９回　読み聞かせ実践の指導計画立案と事前練習（２）：ページめくり 第 10 回　ページめくりに関する読み聞かせ実践 第 11 回　ページめくりに関する読み聞かせの振り返り 第 12 回　読み聞かせの指導計画立案と事前練習（３）：発達段階の違い-乳幼児期と学童期 第 13 回　発達段階の違いに着目した読み聞かせ実践 第 14 回　発達段階の違いに着目した読み聞かせの振り返り 第 15 回　グループディスカッション：読み聞かせ知識・技術の相互評価 定期試験
テキスト	「おはなしレストラン 10 カ条」「作品解釈ノート」「実践記録ノート」を適宜配付する。 絵本はおはなしレストランライブラリーの絵本を利用する。
参考文献	文部科学省・厚生労働省・内閣府編 2017,『平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』フレーベル館 文部科学省『小学校学習指導要領解説　国語編』東洋館出版
評価方法	授業概要に関するコメントカードの内容(30%)、実践活動記録（自己評価シート）(40%)、期末課題（読み聞かせの基礎理論とよりよい読み聞かせ実践について：30%）とする。
自己学習に 関する指針	「おはなしレストランライブラリー」に積極的に足を運び、絵本とともに過ごす時間を楽しんでください。
履修上の 指導・留意点	◇授業時間以外の実践活動が入ります。

授業科目	保育教育文献講読						
担当教員	山田洋平　牧瀬翔麻						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020040
免許資格 関連事項							

授業の概要	本授業では，保育・教育に関する文献の講読を通して，４年次の卒業研究での研究活動に不可欠な文献講読の基礎的なスキルを身につけることを目指す。具体的には，文献の検索・収集および選択，文献の内容理解と要約，文献講読に基づく発表資料の作成，討論の仕方について学習する。
授業の 到達目標	・研究活動に不可欠な文献講読の仕方について理解する。 ・保育・教育に関する文献講読を主体的に取り組み，成果発表する。 ・卒業研究につながる研究課題を具体的に見出す。
授業計画	第１回　授業の概要 第２回　文献の読み方，資料の収集方法，発表資料の作成方法について 第３回　文献講読，口頭発表および討論（１） 第４回　文献講読，口頭発表および討論（２） 第５回　文献講読，口頭発表および討論（３） 第６回　文献講読，口頭発表および討論（４） 第７回　文献講読，口頭発表および討論（５） 第８回　文献講読，口頭発表および討論（６） 第９回　文献講読，口頭発表および討論（７） 第 10 回　文献講読，口頭発表および討論（８） 第 11 回　文献講読，口頭発表および討論（９） 第 12 回　文献講読，口頭発表および討論（１０） 第 13 回　文献講読，口頭発表および討論（１１） 第 14 回　文献講読，口頭発表および討論（１２） 第 15 回　授業のまとめ
テキスト	指定しない。適宜資料を配布する。
参考文献	指定しない。適宜紹介する。
評価方法	提出物（50%），討論での積極性（50%）
自己学習に 関する指針	・授業前に，必ず課題の文献を読んできてください。 ・発表担当者は，発表に向けた準備を積極的に行ってください。
履修上の 指導・留意点	・討論の質疑は積極的に参加してください。 ・質問は，授業時間内・研究室・e-mail で対応します。

授業科目	心理・教育統計調査法Ⅰ						
担当教員	山田洋平						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020050
免許資格 関連事項							

授業の概要	本授業では，教育場面で活用できる心理統計の考え方を理解し，基礎的な統計手法を習得することを目指す。具体的には，データの種類，代表値，散布度，相関係数などの記述統計についての理解，および統計ソフトを用いた分析方法を学習する。
授業の 到達目標	・心理統計の考え方を理解することができる。 ・記述統計に関する基礎的な統計手法を理解することができる。 ・記述統計について統計ソフトを用いて分析することができる。
授業計画	第１回　授業の概要説明，心理統計の必要性 第２回　データの種類と度数分布（１）　データの種類について 第３回　データの種類と度数分布（２）　質的変数の度数分布について 第４回　データの種類と度数分布（３）　量的変数の度数分布について 第５回　データの種類と度数分布（４）　まとめ 第６回　代表値と散布度（１）　代表値について 第７回　代表値と散布度（２）　標準偏差について 第８回　代表値と散布度（３）　範囲について 第９回　代表値と散布度（４）　変数の変換について 第 10 回　代表値と散布度（５）　偏差値について 第 11 回　代表値と散布度（６）　まとめ 第 12 回　相関係数と連関係数（１）　共分散について 第 13 回　相関係数と連関係数（２）　相関係数について 第 14 回　相関係数と連関係数（３）　連関係数について 第 15 回　まとめ
テキスト	指定しない。適宜資料を配布する。
参考文献	指定しない。適宜紹介する。
評価方法	提出物（50%），レポート（50%）
自己学習に 関する指針	・配布資料および記載された参考文献を読み、復習に役立てる。
履修上の 指導・留意点	・質問は、その内容に応じて、研究室・e-mail で対応する。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	心理・教育統計調査法Ⅱ						
担当教員	山田洋平						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020060
免許資格 関連事項							

授業の概要	「心理・教育統計調査法Ⅰ」に引き続き，教育場面で活用できる心理統計の考え方を理解し，基礎的な統計手法を習得することを目指す。本授業では，特に推定統計について取り上げる。具体的には，母集団と標本，推定と検定，ｔ検定，分散分析についての理解，および統計ソフトを用いた分析方法を学習する。
授業の 到達目標	・推定統計の考え方を理解することができる。 ・推定統計に関する基礎的な統計手法を理解することができる。 ・推定統計について統計ソフトを用いて分析することができる。
授業計画	第１回　授業の概要説明，推測統計の必要性 第２回　母集団と標本（１）　母集団と標本について 第３回　母集団と標本（２）　標本分布について 第４回　母集団と標本（３）　確率変数について 第５回　推定と検定（１）　帰無仮説と対立仮説について 第６回　推定と検定（２）　検定の実際について 第７回　推定と検定（３）　カイ２乗検定について 第８回　ｔ検定（１）　対応のない場合のｔ検定について 第９回　ｔ検定（２）　対応のある場合のｔ検定について 第 10 回　分散分析（１）　分散分析の考え方について 第 11 回　分散分析（２）　一元配置の分散分析について 第 12 回　分散分析（３）　２要因分散分析（被験者間計画）について 第 13 回　分散分析（４）　２要因分散分析（被験者内計画）について 第 14 回　分散分析（５）　その他の分散分析について 第 15 回　まとめ
テキスト	指定しない。適宜資料を配布する。
参考文献	指定しない。適宜紹介する。
評価方法	提出物（50%），レポート（50%）
自己学習に 関する指針	・配布資料および記載された参考文献を読み、復習に役立てる。
履修上の 指導・留意点	・「心理・教育統計調査法Ⅱ」（３年春学期）を履修していることが望ましい。

授業科目	卒業研究基礎演習						
担当教員	保育教育学科専任教員						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M2020070
免許資格関連事項							

授業の概要	[授業の目的・ねらい] ４年次の卒業研究を目的として３年次からの研究室ごとの研究に参加し、研究の手法、理論、成果発表までを補助的に体験して、４年次卒業研究に活かすとともに、研究への課題意識を持つ。 [授業全体の内容の概要] 卒業時に現代の社会事象や諸課題を分析し、多面的に判断・考察して、課題解決に向けた論理的考察を卒業論文としてまとめ、言葉、文章、図表、身体表現等の的確な表現形式で、その成果を発表することができるように、４年次の研究室ごとの卒業研究指導に３年次から参加し、研究の手法、理論、成果発表までを補助的に体験して、４年次卒業研究に活かす。研究テーマごとにゼミに配属され、卒業研究グループの一員として研究手法とプロセスを体験的に学ぶ。
授業の到達目標	(1) 現代の社会事象や諸課題を分析し、多面的に判断・考察する姿勢を身に付ける。 (2) 研究発表までの卒業研究に補助的に関わり、研究手法とプロセスを身に付ける。 (3) 言葉、文章、図表、身体表現等の的確な表現形式による発表のあり方を身に付ける。
授業計画	４年次の卒業研究の秋学期の演習のうち、週１回分に参加するためコマ数は１５回となる。配属決定後の毎回の進行は、参加する卒業研究の進行課程により異なる。 第１回　保育教育学科４年学生の卒業研究、各研究室の取り組み発表（中間発表） 第２回　保育教育学科３年学生の研究室配属、各研究テーマと進め方の紹介（各研究室） 第３～14 回　研究テーマの決定と各研究テーマ別の秋学期活動参加 配属決定後の毎回の進行は、参加する卒業研究の進行課程により異なる。 第 15 回　研究のまとめ（レポート課題）
テキスト	適宜プリント資料等を配布する。
参考文献	
評価方法	レポート課題（100%）
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	卒業研究						
担当教員	保育教育学科専任教員						
科目分類	専門基幹	授業時間	120	配当年次	4	配当期	通年
授業形態	演習	選択/必修	必修	単位数	4	授業コード	M2020080
免許資格関連事項							

授業の概要	[授業の目的・ねらい] 3 年次に卒業研究基礎演習で関わった卒業研究グループの研究の進展を目指し、ゼミ担当教員の指導の下、４年間の学修成果をとりまとめる。 [授業全体の内容の概要] 卒業時に現代の社会事象や諸課題を分析し、多面的に判断・考察して、課題解決に向けた論理的考察を卒業論文としてまとめ、言葉、文章、図表、身体表現等の的確な表現形式で、その成果を発表することができるように、各研究室ごとの少人数指導により、４年間の学修成果をとりまとめる。3 年次に卒業研究基礎演習で関わった卒業研究グループの研究の進展を目指し、ゼミ担当教員の指導の下、研究テーマごとの専門研究に触れつつ研究の完成を目指す。
授業の到達目標	(1) 現代の社会事象や諸課題を分析し、多面的に判断・考察する。 (2) 研究発表までの卒業研究を完成させ、研究手法とプロセスを身に付ける。 (3) 課題解決に向けた論理的な思考により論文を完成させる。
授業計画	４年次の卒業研究は通年で週２回行われるためコマ数は春学期３０回・秋学期３０回となる。毎回の進行は、配属された研究室の卒業研究の進行課程により異なる。 （春学期３０回） 第１回　保育教育学科卒業研究、各研究テーマ別の年度活動計画 第２～30 回　保育教育学科卒業研究　各研究テーマ別の春学期活動 毎回の進行は、参加する研究室の卒業研究グループにより異なる。 （秋学期３０回） 第１回　保育教育学科卒業研究、各研究室の取り組み発表（中間発表） 第２回　保育教育学科卒業研究、各研究室の取り組み発表のふりかえり 第３～30 回　保育教育学科卒業研究　各研究テーマ別の秋学期活動 毎回の進行は、参加する研究室の卒業研究グループにより異なる。
テキスト	適宜プリント資料等を配布する。
参考文献	
評価方法	卒業論文（発表を含む）（100%）
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	教職論（小・幼）						
担当教員	時津啓　　渡辺一弘						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M2020090
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教職の意義等に関する科目 〔教職の意義及び教員の役割〕 〔教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）〕 〔進路選択に資する各種の機会の提供等〕 ○小学校教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教職の意義等に関する科目 〔教職の意義及び教員の役割〕 〔教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）〕 〔進路選択に資する各種の機会の提供等〕 ○保育士資格						

授業の概要	教職の意義と教師・保育者の職務内容を理解し、小学校教諭・幼稚園教諭・保育士などに求められる資質や役割を知るための入門的授業である。教職の制度的位置づけを理解し、教師等の職務内容を講義やDVD 視聴を通して学ぶことを目的とする。
授業の 到達目標	小学校・幼稚園の教員免許取得に必要な「教職の意義等に関する科目」及び保育士資格の取得に必要な「保育の本質・目的に関する科目」に対応する科目である。 ⑴ 教職の意義や教師の身分、服務、研修などの教職制度を知り、教師や保育者として児童・幼児を指導・支援するための教員の役割や職務内容を理解する。 ⑵ 小学校・幼稚園・保育所などで教師・保育者として家庭や地域と協働する視点を持ち、今日的な教育課題に対して自分なりの考えを持つ。
授業計画	【第１回～第８回：総論・小学校教諭】 第１回　教職観の歴史的変遷：戦後における教師の役割　（担当：時津） 第２回　現代の教師の仕事内容と社会の教師への期待：中教審答申から見る保護者ニーズ、生徒指導（担当：時津） 第３回　教員に求められる資質能力；自律的に学ぶ力、学び続ける教師と他の職種との比較（担当：時津） 第４回　公教育と教職（１）：教職にとって公共性とは何か　（担当：時津） 第５回　公教育と教職（２）：教育公務員特例法から読み解く専門職としての教職　（担当：時津） 第６回　教員の義務（服務）と教職の倫理： 法令遵守と上司の職務上の命令に従う義務を中心に　（担当：時津） 第７回　教員の身分と研修の権利： 信用失墜行為、初任者研修、10 年目研修を中心に　（担当：時津） 第８回　チーム学校という考えと学校組織　（担当：時津） 【第９回～第 15 回：幼稚園教諭・保育士・総論】 第９回　幼稚園教諭・保育士の職務① 子ども理解、保護者支援　（担当：渡辺） 第 10 回　幼稚園教諭・保育士の職務②遊びと生活　（担当：渡辺） 第 11 回　幼稚園教諭・保育士の職務③環境による教育　（担当：渡辺） 第 12 回　幼稚園教諭・保育士の職務④個別理解と集団理解　（担当：渡辺） 第 13 回　教師・保育者の資質と適性、教職の専門性　（担当：渡辺） 第 14 回　研修と教員評価・自己評価（目指す教師像・保育者像）　（担当：渡辺） 第 15 回　多様化する保育ニーズ、現代の教育課題、小テスト　（担当：渡辺） 定期試験
テキスト	小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を参照する。

人間文化学部・保育教育学科
（令和 2 年入学生用）

参考文献	授業の中で必要に応じてプリントなどを配布する。
評価方法	成績は、学期末試験(60%) 小テスト(40%) から総合的に判断する。
自己学習に 関する指針	配布プリントを復習し、次の講義に備える。
履修上の 指導・留意点	毎回配布するプリントについて、自らの考えを整理する。

授業科目	教育原理						
担当教員	時津　啓						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態		選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M2020100
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育の基礎的理解に関する科目 〔教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想〕 ○小学校教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育の基礎的理解に関する科目 〔教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想〕 ○保育士資格						

授業の概要	西洋と我が国における教育の理念、教育思想の歴史的、思想史的展開を手がかりに、教育思想や学校や家族、社会における教授―学習の本質を理解する。さらにそれをとおして正しい教育観や子ども観、学校観を形成する。さらに、問題解決学習や参加型メディア教育における学びを手がかりに、学習の意義や学校における教授―学習の在り方を具体的に理解する。
授業の 到達目標	小学校・幼稚園の教員免許取得に必要な「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」に対応する科目である。 　教育の基本的概念を理解し、教育の理念が有する歴史的含意や構成過程を学修する。さらに、教育の目的や目標と学校教育の歴史や学校の捉え方の変化との関連を理解し、それがどのように変化したのか。学校教育の歴史を理解することを通して現代における教育問題や教育思想の特徴を理解する。また問題解決学習や参加型メディア教育を手がかりにして、学校における教授―学習論の在り方を歴史的に理解し、教育思想との関係を理解する。
授業計画	第１回　教育の本質・基本概念―これまでの教育・学習経験から教育とは何かを考える 第２回　教育の目的・目標論（１）―教育の目標・目的の本質とその機能 第３回　教育の目的・目標論（２）―我が国の教育法規における教育の目標とその歴史的意味 第４回　教育における思想（１）―近代以前～近代 （コメニウス、ルターからペスタロッチ―、フレーベルへ） 第５回　教育における思想（２）―近代の子ども観を中心に（ルソーとアリエス） 第６回　教育における思想（３）―現代（構造主義、ポストモダン） 第７回　近代における学校の成立と展開（１）―西洋の学校の成立と展開（イギリスを中心に） 第８回　近代における学校の成立と展開（２）―西洋の学校改革（イギリスの新教育を中心に） 第９回　我が国の学校の成立と展開（１）―明治以降の学校教育（修身と近代化） 第 10 回　我が国の学校の成立と展開（２）―戦後の学校教育の特徴（国民の教育権論を中心に） 第 11 回　学校の機能、家庭、教員の相互連携（１）―家庭、学校、教員の相互関連 第 12 回　学校の機能、家庭、教員の相互連携（２）―学校、家族の機能と幼児・児童 第 13 回　教授―学習理論とその実際（１）―参加型メディア教育と主体的学び 第 14 回　教授―学習理論とその実際（２）―話し合い活動と問題解決学習 第 15 回　教授―学習理論とその実際（３）―いじめ、不登校と学習 定期試験
テキスト	小笠原道雄他編『教育学概論』福村出版およびプリント資料
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領』（平成 29 年 3 月告示） 文部科学省『幼稚園教育要領解説』（平成 30 年 2 月） 文部科学省『小学校学習指導要領』（平成 29 年 3 月告示） 文部科学省『小学校学習指導要領解説　総則編』（平成 29 年 6 月）
評価方法	定期試験（50%）、毎回の授業レポート（50%）
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	発達心理学Ⅰ						
担当教員	菊野　雄一郎						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M2020110
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育の基礎理論に関する科目 〔幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）〕 ○小学校教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育の基礎理論に関する科目 〔幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）〕 ○保育士資格						

授業の概要	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、および小学校学習指導要領に関わる子どもの発達の理解を目標として、(1)児童期までの発達の規則性と里程標、(2)情動と認知の発達メカニズムと発達段階、(3)児童期以降の発達を支える乳幼児の遊び・生活体験、(4)親子関係の発達と社会化の支援、について基本的な事項を講義する。生涯発達心理学の観点から発達段階の役割を理解し、初期経験による人間発達の可塑性、発達心理学の基礎を学ぶ。
授業の 到達目標	(1) 胎児期から児童期までの発達心理学の基礎的研究を説明することができる。 (2) 運動・手操作・社会性・生活習慣・言語の発達の規則性と里程標を説明することができる。 (3) 情動と認知の発達段階理論を生涯発達心理学の観点で説明することができる。
授業計画	第１回　胎児期－遺伝と子宮内環境での発達 第２回　新生児－新生児の認知能力 第３回　乳児期の感覚・知覚の発達 第４回　乳児期の認知発達－適応活動と発達 第５回　運動の発達－運動の発達と認知発達の関係性 第６回　気質－気質の発達と脳 第７回　人間関係と自己－初期経験と予後 第８回　幼児期の認知発達－模倣と象徴機能、遊び 第９回　言語の発達－前言語期と言語の発達段階 第 10 回　人間関係の発達－社会性の発達と生涯発達 第 11 回　遊び・集団生活から学校生活へ 第 12 回　児童期の認知発達－概念発達と記憶の発達 第 13 回　児童期から青年期へ－社会認識の発達 第 14 回　乳幼児期から児童期までの発達の障害 第 15 回　発達スクリーニング法の基礎 定期試験
テキスト	菊野春雄編『乳幼児の発達臨床心理学：理論と現場をつなぐ』北大路書房
参考文献	指定しない。適宜紹介する。
評価方法	達成目標(1)の評価：期末試験(30 点) 達成目標(2)の評価：期末試験(20 点) 達成目標(3)の評価：期末試験(20 点) 授業内容理解の評価：授業レポート 10 回（3 点×10＝30 点）
自己学習に 関する指針	テキスト等、合わせて積極的に読むことが望ましい。
履修上の 指導・留意点	毎回の授業レポートで理解を確認する。

授業科目	発達心理学Ⅱ						
担当教員	菊野　雄一郎						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M2020120
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育の基礎理論に関する科目 〔幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）〕 ○小学校教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育の基礎理論に関する科目 〔幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）〕						

授業の概要	「発達心理学Ⅰ」で学んだ基礎的知識を踏まえて、家庭・地域社会と、保育所・幼稚園および小学校で、日々成長を遂げる子どもの発達について、保育教育専門職として正しく理解することを目標として、発達支援・発達臨床の基本を学ぶ。発達心理学および臨床発達心理学の理論から、子どもの発達の行動分析の基本を学び、生活と遊びを中心に見た子どもの発達における保育教育実践の意義と、専門職の実施する発達支援プログラムの役割を理解する。
授業の 到達目標	(1)子どもの発達に関わる要因を機能的に考察することができる。 (2)子どもの発達の障害の症状から、医学的・教育的分類名称をあげることができる。 (3)保育教育実践の中での個別の発達支援プログラムの意義を、発達的心理学的に説明することができる。
授業計画	第１回　発達を規定する要因（遺伝と環境） 第２回　子どもの発達と初期経験 第３回　早期発達における行動的適応・調整と学習の過程 第４回　早期発達における模倣の機能・共感と社会的学習 第５回　子どもの障害の医学的分類と教育的分類 第６回　子どもの発達への早期介入の成果 第７回　子どもの発達の行動分析と支援 第８回　子どもの発達の支援と家庭・地域社会の役割 定期試験
テキスト	指定しない。適宜紹介する。
参考文献	内山伊知郎・青山謙二郎・田中あゆみ編著『子どものこころを育む発達科学ー発達の理解。問題解決・支援のためにー』北大路書房 ビジューー著、園山繁樹・根ヶ山俊介・山口薫訳『子どもの発達の行動分析（新訂訳）』二瓶社 本郷一夫編『子どもの理解と支援のための発達アセスメント』有斐閣 厚生労働省「「疾病、傷害及び死因の統計分類」ICD-10（2013年版）準拠の内容例示表第５章 （ http://www.mhlw.go.jp/toukei/sippei/ ） 国立特別支援教育総合研究所「障害のある子どもの教育の広場」特別支援教育の基本的な考え方 （ http://www.nise.go.jp/cms/13.html）
評価方法	達成目標(1)の評価：期末課題(30点) 達成目標(2)の評価：期末試験(20点) 達成目標(3)の評価：期末課題(20点) 授業内容理解の評価：授業レポート５回（6点×5＝30点）
自己学習に 関する指針	参考文献を、合わせて積極的に読むことが望ましい。
履修上の 指導・留意点	毎回の授業レポートで理解を確認する。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	教育心理学（小・幼）						
担当教員	山田洋平、菊野雄一郎						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M2020130
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育の基礎理論に関する科目 〔幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）〕 ○小学校教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育の基礎理論に関する科目 〔幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）〕						

授業の概要	本授業では，教育現場に限らない幅広い教育活動での活用が期待される心理的知見について紹介する。具体的には，学習や記憶のメカニズム，動機づけに関する学習および認知心理学，学級内での人間関係やリーダーシップ，集団の特性や学級経営に関する社会心理学，パーソナリティや知性，社会性を含む発達心理学などに関連する内容を扱う。そして，授業を通して獲得した知見から，教育現場での活用方法について考え，教育心理学の理解を深める。
授業の 到達目標	・授業で取り上げた教育心理学の知識を理解することができる。 ・教育心理学の知識と教育現場での実践とのつながりを理解することができる。 ・教育心理学の知識を教育現場でどのように活用できるか，自分の考えを提案することができる。
授業計画	第１回　授業の概要説明，教育心理学とは何か，心身の発達と学習の過程について（山田） 第２回　動機づけ（１）　動機づけについて（菊野） 第３回　動機づけ（２）　達成動機，学習性無力感について（菊野） 第４回　学習（１）　条件づけ，観察学習，洞察学習について（菊野） 第５回　学習（２）　記憶について（菊野） 第６回　知能　知能，思考，創造性について（山田） 第７回　学習方法　様々な学習方法について（山田） 第８回　学級集団（１）　教師生徒関係，友人関係，学級雰囲気について（山田） 第９回　学級集団（２）　いじめ，不登校，引きこもりについて（山田） 第10回　パーソナリティ　パーソナリティの形成と理論について（山田） 第11回　社会性（１）　向社会性，道徳性について（山田） 第12回　社会性（２）　自己概念，自尊感情，社会性の育成について（山田） 第13回　教育評価　教育活動における評価の意味と方法について（山田） 第14回　障害について（１）　障害のある幼児，児童及び生徒の心理教育アセスメントについて（山田） 第15回　障害について（２）　障害のある幼児，児童及び生徒の支援の方法について（山田） 定期試験
テキスト	菊野春雄・箱井英寿・橋本憲尚・中村健・辻弘美著『発達と教育の心理学』創元社 その他，適宜資料を配布する。
参考文献	指定しない。適宜紹介する。
評価方法	定期試験（50%），提出物（50%）
自己学習に 関する指針	・配布資料および記載された参考文献を読み、復習に役立てる。
履修上の 指導・留意点	・授業中のグループワークには積極的に参加すること。

授業科目	障害児発達教育論						
担当教員	園山繁樹　　山下由紀恵						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M2020140
免許資格 関連事項	○特別支援学校教諭一種免許状≪特別支援教育に関する科目≫ ・特別支援教育の基礎理論に関する科目						

授業の概要	障害児の教育や発達支援についての理解を深めるために、まず障害児の教育の歴史、障害児の発達支援・教育に関する基礎理論、わが国の特別支援教育の制度と現状について解説する。次に、特別支援学校における教育や通常学級における特別支援教育について解説する。最後に、障害児者の権利や教育に関する主要な理念、条約、法律、関係機関との連携について解説する。
授業の 到達目標	(1) 障害児教育の歴史的変遷と現在の特別支援教育の制度について説明できる。 (2) 障害児の発達支援・教育に関する基礎理論を説明できる。 (3) 特別支援学校における教育の概要を説明できる。 (4) 障害者に関連する主な理念、条約、法律について理解する。
授業計画	第１回　特別支援教育の歴史的変遷（担当：園山） 第２回　障害児の発達・教育に関する基礎理論１（環境と学習）（担当：園山） 第３回　障害児の発達・教育に関する基礎理論２（学習の理論と経験）（担当：園山） 第４回　日本の特別支援教育の制度と現状（担当：園山） 第５回　特別支援学校における教育１（知的障害教育、肢体不自由教育、病弱教育）（担当：園山） 第６回　特別支援学校における教育２（視覚障害教育、聴覚障害教育）（担当：園山） 第７回　特別支援学校における教育３（交流・共同教育、センター的機能）（担当：園山） 第８回　日本の特別支援教育と特別支援学校の役割（担当：園山） 第９回　日本の特別支援教育と特別支援教室・通級指導教室の役割（担当：園山） 第 10 回　特別支援教育とノーマライゼーションの展開（担当：園山） 第 11 回　障害者に関連する条約と法律１（障害者権利条約、障害者基本法）（担当：園山） 第 12 回　障害者に関連する条約と法律２（障害者差別解消法、発達障害者支援法）（担当：園山） 第 13 回　特別支援教育と地域相談支援体制１（関係機関との連携と早期介入）（担当：山下） 第 14 回　特別支援教育と地域相談支援体制２（就学前相談と移行支援）（担当：山下） 第 15 回　総括討論（障害児の発達支援・教育にとって大切なことは何か）（担当：園山） 定期試験
テキスト	・「特別支援教育-共生社会の実現に向けて」小林秀之・米田宏樹・安藤隆男編著、ミネルヴァ書房
参考文献	・「特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(幼稚部・小学部・中学部)」文部科学省、教育出版 ・「特別支援学校学習指導要領解説自立活動編(幼稚部・小学部・中学部・高等部)」文部科学省、海文堂出版 ・「改定第２版 通級による指導の手引　解説と Q&A」文部科学省、佐伯印刷 ・「ヘレン・ケラーはどう教育されたか―サリバン先生の記録」、サリバン著、槇恭子訳、明治図書 ・「奇跡の人　ヘレン・ケラー自伝」、ヘレン・ケラー著、小倉慶郎訳、新潮文庫 ・「子どもの発達の行動分析（新訂訳）」、ビジュー著、園山繁樹・根ヶ山俊介・山口薫訳、二瓶社 ・「特別支援教育を創造するための教育学」、安藤隆男・中村満紀男編著、明石書店 ・「特別支援教育資料」、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 ・「ノーマリゼーションの展開」、スミス,H.&ブラウン,H.著、中園康夫・小田兼三監訳、学苑社
評価方法	・レポート（３回分）＝30% ・小テスト（２回分）＝10% ・定期試験＝60%

自己学習に 関する指針	・参考文献に記載した図書・資料を積極的に読むこと。 ・特別支援教育に関連する新聞記事等に目を通しておくこと。
履修上の 指導・留意点	・テキストを中心に授業を進め、随時、資料を配布します。 ・質問は受講生全員で共有するために、できるだけ授業中にしてください。 ・なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、統合保育を行っている幼稚園でのカウンセラーとしての勤務経験、公立教育相談センターでの相談員としての勤務経験、大学教育相談室での障害児に関する臨床経験があり、その経験を活かしてより具体的、実践的な授業を展開する。

授業科目	特別支援教育とインクルーシブ教育論						
担当教員	園山繁樹、宮崎英憲、Lamichhane Kamal、山本勉						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態		選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M2020155
免許資格関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育の基礎理論に関する科目（特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解） ○小学校教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育の基礎理論に関する科目（特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解）						

授業の概要	「障害児発達教育論」を踏まえて、特別支援教育とインクルーシブ教育の理論・制度・方法・教育の実際について、オムニバスでの集中講義により、先駆的な取り組みについて学習する。通常学級、特別支援学級と通級指導教室、特別支援学校、地域医療・保健・福祉機関等の地域ネットワークを学び、就学前からの特別支援とインクルーシブな保育・教育への課題意識を醸成する。また幅広い視野を持つことができるように、世界のインクルーシブ教育の状況や、障害当事者の視点からの解説も行う。それぞれの講義は地域専門職への公開授業とする。
授業の到達目標	特別支援教育とインクルーシブ教育の理論・制度・方法・教育の実際について学び、就学前からの特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解を深め、課題意識を醸成する。 (1)インクルーシブ教育の基本的理念を説明できる。 (2)特別支援教育とインクルーシブ教育を推進する体制やネットワーク形成について理解する。 (3)世界的な動向の中での日本の特別支援教育の推進について理解する。 (4)インクルーシブ教育に関する障害当事者の視点についての理解を深める。
授業計画	第１回　インクルーシブ教育の理念と歴史的変遷（担当：園山） 第２回　特別支援教育とインクルーシブ教育（担当：宮崎） 第３回　わが国のインクルーシブ教育の取り組み（担当：宮崎） 第４回　通常の学級における特別の支援を必要とする幼児児童生徒の理解と支援（担当：園山） 第５回　地域ネットワークに基づくインクルーシブ教育の基盤形成－母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒への組織的な対応を含む―（担当：山本） 第６回　視覚障害当事者の体験から考えるインクルーシブ教育（担当：Kamal） 第７回　世界のインクルーシブ教育の現状と課題（担当：Kamal） 第８回　総括－インクルーシブ教育の課題について討論する（担当：Kamal・園山） 定期試験
テキスト	適宜プリント資料等を配布する。
参考文献	・園山繁樹著『統合保育の方法論』相川書房 ・宮崎英憲著『特別支援教育への誘い』ジアース教育新社 ・文部科学省「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」 ・国立特別支援教育総合研究所『共に学び合うインクルーシブ教育構築に向けた児童生徒への配慮・指導事例－小・中学校で学修している障害のある児童生徒の１２事例－』ジアース教育新社 ・国立特別支援教育総合研究所「インクルーシブ教育システム構築支援データベース（インクルDB）
評価方法	レポート３回分（30%）、定期試験（70%）
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、統合保育を行っている幼稚園でのカウンセラーとしての勤務経験、公立教育相談センターでの相談員としての勤務経験、大学教育相談室での障害児に関する臨床経験があり、その経験を活かしてより具体的、実践的な授業を展開する。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	教育制度論（小・幼）						
担当教員	牧瀬翔麻						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M2020160
免許資格関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育の基礎理論に関する科目（教育に関する社会的、制度的又は経営的事項） ○小学校教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育の基礎理論に関する科目（教育に関する社会的、制度的又は経営的事項） ○保育士資格						

授業の概要	１．教育制度の基本原理を理解する。 ２．乳幼児期、児童期の教育制度を理解する。 ３．特別支援教育について理解する。 ４．教員制度を理解する。 ５．学校教育制度の課題を把握する。 教育制度は社会的に公認された体系として組織されている。教育制度の体系には、学校教育制度・社会教育制度・教育行政制度などが含まれるが、本授業では学校教育制度を中心に現状と課題を把握する。
授業の到達目標	【目的】 ・子どもの豊かな育ちや学びを支える現行の教育制度がどうなっているのかを知る ・なぜそうした制度が必要とされたのかその背景を理解する 【目標】 ・現行制度に至るまでどのように変化してきたのか、その影響はどうだったのかがわかる ・制度と保育者・教育者、保育・教育実践との関わりを理解し、制度改革について考えを深めることができる
授業計画	第１回　教育制度とは何か：公教育制度の成立、原理、改革について学ぶ 第２回　教育制度の目的：教育制度が保障する教育を受ける権利について学ぶ 第３回　学校制度：日本を中心に学校制度の成立および体系について学ぶ、海外の制度を知る 第４回　就学前教育に関する基本的な仕組み：幼稚園・保育所の制度について学ぶ 第５回　義務教育制度：義務教育段階の学校の目的・目標・制度改革について学ぶ 第６回　特別支援教育：特別支援教育の制度および近年の障害者支援の動向、制度変更を学ぶ 第７回　教員に関する制度：教員に関わる基本制度と教員をめぐる課題について学ぶ 第８回　学校経営と制度：学校の組織特性、学級、学年、自律的学校経営、学校改善等を学ぶ 第９回　児童生徒の問題行動と学校制度①：不登校と義務教育制度、教育機会確保法を学ぶ 第 10 回　児童生徒の問題行動と学校制度②：いじめと学校について考える 第 11 回　子どもの保護と学校制度：貧困や虐待など家庭の問題と学校教育について考える 第 12 回　幼児教育制度改革：近年の改革および今後の幼児教育の方向性について知る 第 13 回　教育行政と制度：教育行政の作用や教育委員会制度について学ぶ 第 14 回　学校・家庭・地域の連携：学校教育への保護者、地域住民のかかわりについて考える 第 15 回　学校教育の新しい動向：学校教育をめぐる制度・政策の最新動向について学ぶ
テキスト	適宜資料等を配布する。
参考文献	・『教育小六法』または『教職六法』（学陽書房、三省堂、晃洋書房から出版されているが、教職志望者は協同出版の『必携教職六法』を勧める） ・坂田仰ほか『図解・表解　教育法規（新訂第３版）』教育開発研究所 ・伊藤良高『増補版　幼児教育行政学』晃洋書房
評価方法	授業内課題（20%）、レポート（80%）の結果をもとに評価する。
自己学習に関する指針	授業中に紹介した参考文献を積極的に読むことが望ましい。
履修上の指導・留意点	

授業科目	教育課程論（小・幼）						
担当教員	小山優子						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M2020210
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育課程及び指導法に関する科目（教育課程の意義及び編成の方法） ○小学校教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育課程及び指導法に関する科目（教育課程の意義及び編成の方法） ○保育士資格						

授業の概要	小学校・幼稚園の教員免許取得に必要な「教育課程及び指導法に関する科目」及び保育士資格の取得に必要な「保育の内容・方法に関する科目」に対応する科目である。教職の基礎となる教育課程の基本的な考え方や編成の原理を理解し、小学校・幼稚園・保育所で編成される教育課程・保育課程や実際の指導計画を踏まえ、教育課程や指導計画の編成・作成方法を学ぶことを目的とする。また記録の取り方、子どもの評価や保育者自身の自己評価の方法について学び、保育実践の質向上のプロセスを学ぶ。
授業の 到達目標	(1) 教育課程の意義及び編成方法に関する理解を深め、小学校学習指導要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針の位置づけや変遷、特徴を理解する。 (2) 小学校や幼稚園・保育所における教育課程・保育課程の具体的展開を知り、授業開発や保育の展開を想定した学習指導案・指導計画の作成の視点を身につける。
授業計画	第１回：教育課程・保育課程とは、教育課程編成の意義 第２回：教育目的・教育目標と教育課程編成 第３回：教育方法・学習形態と教育課程編成 第４回：教育課程とカリキュラム 第５回：小学校学習指導要領の性格と変遷 第６回：幼稚園教育要領・保育所保育指針の性格と変遷 第７回：小学校における教育課程の実際 第８回：小学校における「総合的な学習の時間」の教育課程 第９回：幼稚園・保育所における教育課程・保育課程の実際 第１０回：小学校における単元指導計画 第１１回：小学校における学習指導案 第１２回：幼稚園・保育所における短期的な指導計画（部分指導案、日案、週案） 第１３回：幼稚園・保育所における長期的な指導計画（月案・期間計画・年間計画） 第１４回：小学校学習指導要領改定の要点と教育課程実施上の配慮事項 第１５回：教育課程の経営と評価 定期試験
テキスト	原清治『学校教育課程論(第二版)』学文社、2005 年 小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針を参照する。
参考文献	参考文献などは授業の中で適宜提示するとともに、必要に応じてプリントなどを配布する。
評価方法	成績は、演習課題(35%)、演習レポート(50%)、出席状況(15%)等を考慮して総合的に判断する。演習課題の締め切り遵守などの態度も評価する。
自己学習に 関する指針	小学校教諭・幼稚園教諭・保育士に求められるカリキュラムを編成する力を身につけることが目標となるため、レポート課題などにも意欲的に取り組むこと。
履修上の 指導・留意点	授業時間内に仕上がらない課題は次の授業までに宿題として仕上げてくること。

授業科目	保育原理						
担当教員	小山優子						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M2020170
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	[授業の目的・ねらい] 保育所保育指針に示されている保育の意義や保育の基本を踏まえ、保育の目的や目標、保育の内容と方法を理解する。 [授業全体の内容の概要] 保育の基礎・基本を学ぶ入門科目として、保育に必要な基本理念や考え方、方法を学ぶ。特に、保育の本質の理解と保育の内容・方法などの基本的視点を習得するとともに、子ども・家庭・地域をとりまく現状や保育者に求められる保育の現代的課題の理解を目指す。
授業の 到達目標	(1) 乳幼児期の保育の目的や目標、保育者の役割や子ども理解の意義を説明できる。 (2) 環境の意味や保育形態、保育の計画など、保育方法の基本を理解する。 (3) 保育の歴史と 子ども・家庭・地域をとりまく現状や保育の現代的課題を理解する。
授業計画	毎回、以下のテーマに沿って講義形式により授業を進行する。 第１回　保育を学ぶための基本的事項 第２回　乳幼児期の教育とは 第３回　保育施設（保育所・幼稚園・認定こども園）の種類と特徴 第４回　日本の幼児教育の理念的・教育方法的特徴（遊びと生活） 第５回　保育の思想と歴史的変遷（倉橋惣三の児童中心主義、欧米の教育思想など） 第６回　基盤となる保育者の役割 第７回　子ども理解とその方法 第８回　環境の意味と環境構成 第９回　保育の基本（保育所保育指針第１章総則の理解） 第 10 回　保育の目的と目標 第 11 回　「保育」の本質的な意味 第 12 回　保護者支援と地域における子育て支援 第 13 回　保育方法と保育形態 第 14 回　保育の計画と実践・保育の評価（PDCA サイクルの理解） 第 15 回　求められる様々な保育ニーズ、保育の現代的問題 定期試験
テキスト	北野幸子・小山優子『乳幼児の教育保育課程論』建帛社, 1995 円 厚生労働省『保育所保育指針〈平成 29 年告示〉』フレーベル館, 160 円 文部科学省『幼稚園教育要領〈平成 29 年告示〉』フレーベル館, 160 円 内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成 29 年告示〉』フレーベル館, 160 円
参考文献	参考文献などは授業の中で適宜提示するとともに、必要に応じてプリントなどを配布する。
評価方法	成績は、学期末試験(55%)、レポート（演習シートと課題レポート）(45%)等を考慮して総合的に評価する。
自己学習に 関する指針	保育所・幼稚園・認定こども園などの集団保育の場における基本原理を踏まえ、自分なりに理解を深めるためのレポートであるため、レポート課題にもしっかりと取り組むこと。
履修上の 指導・留意点	授業時間内に仕上がらない課題は次の授業までに宿題として仕上げてくること。

授業科目	子ども家庭福祉						
担当教員	藤原映久　宮下裕一						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態		選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M2020185
免許資格関連事項	○保育士資格						

授業の概要	［授業の目的・ねらい］ 子どもと家庭の福祉を考える上で必要とされる基本的知識を習得するとともに、子どもと家庭に関わる各種の課題への支援のあり方を理解し、子どもの立場に立った支援を考えることができるようになる。 ［授業全体の内容の概要］ 子ども家庭福祉の理念や歴史、関連する法体系、関連する機関や施設などの基礎的知識に加え、子どもとその家庭を取り巻く現状、被虐待児を含む要保護児童の理解と支援、非行少年や障がい児の理解と支援等、現代社会が抱える子ども福祉の課題と支援について幅広く学ぶ。また、子ども家庭福祉の根底に流れる子どもの権利についても考える。
授業の到達目標	・子どもと家庭の福祉を考える上で必要となる基礎的知識（理念、歴史、児童の人権等）について理解している。 ・子ども家庭福祉の実際の実施体制について、法律や行財政、専門機関等と関連付けて理解している。 ・子どもと家庭に関する課題（健全育成、障がい、非行、児童虐待等）とその支援のあり方を理解した上で、子どもの立場に立った支援とは何かを考え、その内容を説明できる。
授業計画	第１回　現代の子どもと家庭をめぐる状況（担当：宮下） 第２回　子ども家庭福祉の理念と概念（担当：宮下） 第３回　子ども家庭福祉の歴史的変遷（担当：宮下） 第４回　子どもの人権擁護と子ども家庭福祉（担当：宮下） 第５回　子ども家庭福祉の制度と法体系（担当：宮下） 第６回　子ども家庭福祉の行財政と実施機関（担当：宮下） 第７回　児童福祉施設及び子ども家庭福祉の専門職（担当：宮下） 第８回　少子化と子育て支援（担当：藤原） 第９回　保育と子どもの健全育成（担当：藤原） 第 10 回　子どもの貧困とひとり親家庭への支援（担当：藤原） 第 11 回　障がいのある子どもへの支援（担当：藤原） 第 12 回　少年非行の現状と処遇・支援（担当：藤原） 第 13 回　親権について（担当：藤原） 第 14 回　子ども虐待について（担当：藤原） 第 15 回　子ども家庭福祉における相談援助（担当：藤原） 定期試験
テキスト	直島正樹・河野清志 編著　(2019)『 子ども家庭福祉』、萌文書林【2,100+税】
参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	成績は、学期末試験（70%）、毎回の小テスト等（30%）により判断する。
自己学習に関する指針	テキストと配布資料で予習・復習を行うとともに、理解を深めるため、積極的に授業中に紹介する参考文献を読むこと。
履修上の指導・留意点	本講義は実務経験のある教員による授業科目である。 ・児童相談所において、心理司、ケースワーカー、一時保護所職員（ケアワーカー）として勤務した経験を有し、その経験を生かして子ども家庭福祉の現状や諸課題に関する授業を展開する。 ・身体障害者更生相談所、知的障害者更生相談所において心理司として勤務した経験を有し、授業ではその経験を生かして障がいに関するテーマを扱う。 ・小児科において心や行動の課題を抱える子どもとその家族を対象としたカウンセリングを実践しており、その経験を生かして、より実践的な授業を展開する。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	社会福祉概論						
担当教員	宮下裕一						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M2020190
免許資格関連事項	○保育士資格						

授業の概要	［授業の目的・ねらい］ 現代における社会福祉の意義と社会福祉における子ども家庭福祉の視点について理解する。また、社会福祉の制度、実施体系、相談援助、利用者保護の仕組みと社会福祉の動向及び課題について理解することを目的とする。 ［授業全体の内容の概要］ 社会福祉の理念・概念、歴史など、社会福祉の基礎的な学習から始まり、社会福祉の制度や実施体系、社会保障及び関連制度について学ぶ。また、社会福祉における相談援助の対象や方法、技術について学ぶ。さらに、福祉サービスの提供にあたって規定されている利用者保護に関わる制度の背景や法的根拠等を学ぶ。加えて、諸外国を含め、今後の社会福祉の動向と課題を考察する。
授業の到達目標	・社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭福祉の視点について説明できるようになる。 ・対象、分野別の社会福祉制度や実施体制等や、相談援助、利用者保護の仕組みについて説明できるようになる。 ・社会福祉の動向と課題について理解し、考察できるようになる。
授業計画	第１回　社会福祉をめぐる状況 第２回　社会福祉の理念と概念 第３回　社会福祉の歴史的変遷 第４回　社会福祉の制度と法体系 第５回　社会福祉行財政と実施機関、社会福祉施設等 第６回　社会福祉の専門職 第７回　社会保障および関連制度 第８回　相談援助の理論 第９回　相談援助の意義と機能 第 10 回　相談援助の対象と過程 第 11 回　相談援助の方法と技術 第 12 回　利用者保護の仕組み 第 13 回　少子高齢化社会における子育て支援 第 14 回　共生社会の実現と障害者施策 第 15 回　社会福祉の動向と課題（諸外国を含む） 定期試験
テキスト	相澤譲治編『保育士を目指す人の社会福祉』、みらい（2,000 円+税）
参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	レポート（小テストを含む）提出（30%）, 期末筆記試験（70%）で評価を行う。
自己学習に関する指針	授業前に、テキストの該当箇所を読んでおくこと。 授業後は、テキストや配布資料等を用いて復習をすること。
履修上の指導・留意点	質問は、その内容に応じて、授業時間中・研究室・e-mail で対応します。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、知的障がい者施設での勤務経験を生かして授業を展開する。

授業科目	社会的養護Ⅰ						
担当教員	藤原映久						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態		選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M2020205
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	[授業の目的・ねらい] 社会的養護に関する基礎的知識とその実態、社会的養護が生じる主な要因である児童虐待、要保護児童の支援に関する理念と技術、社会的養護の今日的課題について理解するとともに、それぞれを関連付け、社会的養護に関する知識体系の骨格を作る。 [授業全体の内容の概要] 社会的養護の理念、歴史、児童の権利など社会的養護の概念を理解するために必要な基礎的知識を学んだ上で、社会的養護を支える制度、法律、体系、専門職について取り上げる。また、社会的養護が必要となる主因の一つである児童虐待について、基礎的知識からその発生予防及び再発防止と治療的関わりまでを学んだ上、要保護児童全般に対する養育･支援に関して、ソーシャルワークの原理と実践技術について学ぶ。さらに、社会的養護における今日的な課題や児童等虐待の防止につながる地域活動についても考える。
授業の 到達目標	・社会的養護の概念を理解するための基礎的知識（理念、歴史など）及び社会的養護を支える実態（制度、法律など）に関する知識を習得する。 ・児童虐待について、定義などの基礎的知識から予防・介入などの実践方法までの概要を理解し、説明できる。 ・要保護児童に対する養護・支援の原理及び実践技術（ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ）の概要を理解し、説明できる。 ・社会的養護における今日的課題や地域における児童虐待防止活動について説明できる。
授業計画	第１回　社会的養護とは何か（その理念） 第２回　社会的養護の歴史 第３回　社会的養護の背景 第４回　社会的養護と子どもの権利 第５回　社会的養護を支える制度と法律 第６回　社会的養護と施設養護 第７回　社会的養護と家庭養護 第８回　社会的養護を担う専門職とその実践 第９回　児童虐待に関する基礎的知識（定義、現状、背景、影響） 第 10 回　児童虐待の発生予防 第 11 回　児童虐待への介入、治療的関わり 第 12 回　社会的養護における子どもの養育・支援の原理と実際 第 13 回　社会的養護におけるソーシャルワーク 第 14 回　地域活動による児童等虐待の防止（CAP ワークショップ） 第 15 回　社会的養護における今日的課題 定期試験
テキスト	●相澤仁・林裕康 編集『基本保育シリーズ 社会的養護』、中央法規【2000 円+税】 ●毎回の授業に用いる資料を別途配布する。
参考文献	必要に応じて授業の中で紹介する。
評価方法	期末試験またはレポート（70%）、各回における課題及び提出物（30%）
自己学習に 関する指針	テキストと配布資料で予習・復習を行うとともに、理解を深めるため、積極的に授業中に紹介する参考文献を読むこと。

人間文化学部・保育教育学科
（令和 2 年入学生用）

履修上の 指導・留意点	本講義は実務経験のある教員による授業科目である。 ・児童相談所において、心理司、ケースワーカー、一時保護所職員（ケアワーカー）として勤務した経験を有し、その経験を生かして子ども家庭福祉の現状や諸課題に関する授業を展開する。 ・身体障害者更生相談所、知的障害者更生相談所において心理司として勤務した経験を有し、授業ではその経験を生かして障がいに関するテーマを扱う。 ・小児科において心や行動の課題を抱える子どもとその家族を対象としたカウンセリングを実践しており、その経験を生かして、より実践的な授業を展開する。

授業科目	幼児と健康						
担当教員	岸本　強、高橋　恵美子						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020215
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・領域及び保育内容の指導法に関する科目 〔健康〕 ○保育士資格						

授業の概要	保育所保育指針や幼稚園教育要領，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「健康」領域を理解し，健康な心と体を育てるために子どもの心身の発達、運動発達、健康・安全管理について学修する。健康管理・安全教育に関する内容では，健康で安全な生活を営む力を身につける保育・教育のあり方を学修すると共に、子どもの生活リズムと睡眠、生活習慣の形成や病気の予防、安全への配慮，子どもの事故の対応について理解を深める。
授業の 到達目標	(1)子どもの心身の発達、健康についての知識を身に付ける。 (2)子どもの運動発達について特徴と意義を理解する。 (3)子どもの安全教育、健康管理について理解する。
授業計画	第１回　保育指針・教育要領・教育保育要領にみる，領域「健康」のねらいと内容（担当：岸本） 第２回　子どもの健康課題と健康の定義、意義（担当：岸本） 第３回　子どもの体の諸機能発達と特徴（担当：岸本） 第４回　子どもの運動発達の特徴と意義の理解（担当：岸本） 第５回　子どもの事故，事故とその処置及び安全への配慮とけがの予防（担当：高橋） 第６回　子どもの生活習慣の形成及び病気の予防，紫外線対策（担当：高橋） 第７回　子どもの生活リズムと睡眠，食，排泄（担当：高橋） 第８回　子どもの健康に関する課題と展望　　まとめ（担当：岸本） 定期試験
テキスト	文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 池田裕恵編『子どもの元気を取り戻す　保育内容「健康」』杏林書院，2011 年，2000 円　予定
参考文献	必要に応じてプリントなどを配付
評価方法	演習課題(50%)，定期筆記試験(50%)
自己学習に 関する指針	テキストや配付資料を参考にし、予習・復習を行うこと。
履修上の 指導・留意点	なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（中学校教諭）での勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	保育内容・健康の指導法						
担当教員	岸本　強、高橋　恵美子						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020223
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・領域及び保育内容の指導法に関する科目 〔保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）〕 ○保育士資格						

授業の概要	保育所保育指針や幼稚園教育要領，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「健康」領域のねらい及び内容を理解し，健康な心と体を育て、子ども自らが健康で安全な生活を作り出す力を養うことを目指した指導法を学修する。授業では模擬保育とその振り返りを通して保育を構想する方法を身に付ける。また、模擬保育で必要な指導案作成や保育指導で有効な情報機器及び教材の活用法も理解し、授業内のみならず教育実習や就職後を見据えた活用の仕方について理解を深める。
授業の 到達目標	(1)幼稚園教育の基本、領域「健康」のねらい及び内容を理解し、子どもが経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。 (2)子どもの発達や学びの過程を理解し、領域「健康」について具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。
授業計画	第１回　保育指針・教育要領・教育保育要領にみる，領域「健康」のねらいと内容理解（担当：岸本） 第２回　子どもの基本的生活習慣の形成（教材研究を含む）　生活リズムと睡眠，食など（担当：高橋） 第３回　子どもの健康と安全（教材研究を含む）　安全への配慮と指導・援助（担当：高橋） 第４回　運動遊びの理論と指導法（教材研究含む）(1) 運動遊び内容を中心として（担当：岸本） 第５回　運動遊びの理論と指導法（教材研究・指導案作成含む）(2) 保育者の観点を中心として（担当：岸本） 第６回　運動遊びの実践と指導援助の検討（模擬保育を含む）(1) 走・リレー・鬼あそび（担当：岸本） 第７回　運動遊びの実践と指導援助の検討（模擬保育を含む）(2) 大型遊具・固定遊具（担当：岸本） 第８回　運動遊びの実践と指導援助の検討（模擬保育を含む）(3) 手具及び、子どもの健康に関する課題・展望と まとめ（担当：岸本） 定期試験
テキスト	文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 池田裕恵編『子どもの元気を取り戻す　保育内容「健康」』杏林書院，2011 年，2000 円　予定
参考文献	必要に応じてプリントなどを配付
評価方法	演習課題(50%)，定期筆記試験(50%)
自己学習に 関する指針	テキストや配付資料を参考にし、予習・復習を行うこと。
履修上の 指導・留意点	実技授業では、運動に適した服装・靴を着用すること。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（中学校教諭）での勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。

授業科目	幼児と人間関係						
担当教員	矢島　毅昌						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020226
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・領域及び保育内容の指導法に関する科目 〔人間関係〕 ○保育士資格						

授業の概要	幼稚園教育要領と保育所保育指針における領域「人間関係」の内容に基づき、「環境を通して行われる保育」の原理をふまえ、乳幼児期の人間関係の発達についての知識を理論や事例から学ぶ。また、子どもの家庭や地域での生活をめぐる社会的な問題を考察することを通じて、子どもの人間関係の発達のために保育者が家庭や地域で担う役割とは何かを学ぶ。
授業の 到達目標	(1)領域「人間関係」の内容に基づき、子どもの人間関係を育む保育のあり方を理解し、その背景にある発達や社会に関する知識を身につける。 (2)家庭や地域における子どもの人間関係をめぐる課題についての理解を深め、社会の子育て支援者としての保育者に求められる視点を身につける。
授業計画	第１回　領域「人間関係」における乳幼児期の自己と人間関係の発達 第２回　保育における個の育ちと集団の育ち 第３回　“気になる子ども”の人間関係 第４回　大人―子ども間の集団生活で育つ人間関係と保育者の役割 第５回　遊びの中で育つ人間関係と保育者の役割 第６回　家庭や地域における人間関係 第７回　子どもの人間関係をめぐる社会問題 第８回　授業のまとめ
テキスト	文部科学省 2017,『幼稚園教育要領』フレーベル館。 厚生労働省 2017,『保育所保育指針』フレーベル館。 内閣府 2017,『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館。
参考文献	岩立京子編者代表 2018,『事例で学ぶ保育内容　領域 人間関係』萌文書林。 無藤隆監修 2017,『イラストたっぷり やさしく読み解く 幼稚園教育要領ハンドブック』学研。 汐見稔幸監修 2017,『イラストたっぷり やさしく読み解く 保育所保育指針ハンドブック』学研。 無藤隆監修 2017,『イラストたっぷり やさしく読み解く 幼保連携型認定こども園教育・保育要領ハンドブック』学研。 その他、授業中に随時紹介する。
評価方法	到達目標(1)の評価：期末課題(25%)、演習課題・小レポート(35%) 到達目標(2)の評価：期末課題(20%)、演習課題・小レポート(20%)
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	保育内容・人間関係の指導法						
担当教員	矢島　毅昌						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020233
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・領域及び保育内容の指導法に関する科目 〔保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）〕 ○保育士資格						

授業の概要	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』における領域「人間関係」の内容に基づき、「環境を通して行われる保育」の原理をふまえ、乳幼児期の人間関係の発達のために実践される保育内容の指導法を理論や実践事例から学ぶ。また、領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した教材の研究と情報機器の活用について理解する。そして、授業で学んだ知識を総合して、子どもの人間関係を育む活動を中心とした保育指導案を作成し、模擬保育の実践と反省をすることを通じて、保育の実践力と構想力を高める。
授業の 到達目標	(1)領域「人間関係」の内容に基づき、子どもの人間関係を育む保育のあり方を理解し、そこでの保育者の役割や子どもへの援助・指導の方法について、理論・実践事例・教材研究を通じて具体的に考えられるようになる。 (2)子どもの人間関係を育む保育指導案の作成ならびに実践ができるようになる。
授業計画	第１回　領域「人間関係」のねらい・内容と保育の構想 第２回　領域「人間関係」における子どもの体験と情報機器及び教材の活用 第３回　人間関係を育む保育のための教材研究 第４回　人間関係を育む保育指導案の構想と「評価」の考え方 第５回　人間関係を育む保育指導案の作成 第６回　模擬保育を通じた人間関係を育む保育の実践と検討（低年齢クラス） 第７回　模擬保育を通じた人間関係を育む保育の実践と検討（高年齢クラス） 第８回　模擬保育の総括、小学校との接続を視野に入れた保育
テキスト	文部科学省 2017,『幼稚園教育要領』フレーベル館。 厚生労働省 2017,『保育所保育指針』フレーベル館。 内閣府 2017,『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館。
参考文献	岩立京子編者代表 2018,『事例で学ぶ保育内容　領域 人間関係』萌文書林。 無藤隆監修 2017,『イラストたっぷり やさしく読み解く 幼稚園教育要領ハンドブック』学研。 汐見稔幸監修 2017,『イラストたっぷり やさしく読み解く 保育所保育指針ハンドブック』学研。 無藤隆監修 2017,『イラストたっぷり やさしく読み解く 幼保連携型認定こども園教育・保育要領ハンドブック』学研。 その他、授業中に随時紹介する。
評価方法	到達目標(1)の評価：期末課題(25%)、演習課題・小レポート(20%) 到達目標(2)の評価：期末課題(20%)、演習課題・小レポート(35%)
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	幼児と環境						
担当教員	高橋　泰道						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020236
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・領域及び保育内容の指導法に関する科目 〔環境〕 ○保育士資格						

授業の概要	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に記載されている領域「環境」をもとに、子どもと人・自然とのかかわりを理解し、「探索意欲と好奇心を育てる」ための保育内容のあり方を学ぶ。子どもの興味・関心をひきつけ発達をうながす指導の工夫、小学校教育への連続性を学ぶ。 具体的には、自然素材を活用した遊びの指導案作成をグループごとに計画作成し、振り返り、改善案を考えるという PDCA 一連の学修過程を通して、保育における実践的能力を身につける授業を構想する。また、実際に自然素材を活用したものづくりや遊びを通して、素材研究を行う。
授業の 到達目標	(1) 日課での「環境」にかかわる保育内容を説明することができる。 (2) 各年齢段階の設定保育や自由遊びの中での「環境」に関わる指導計画を立案できる。 (3) 小学校教育への連続性をふまえた「環境」に関わる指導計画を立案できる。
授業計画	第１回　乳幼児の遊びと領域「環境」 第２回　身近な自然と身近な素材、原体験、数量理解 第３回　身近な自然や素材を使った遊び①（空気や風） 第４回　身近な自然や素材を使った遊び②（木の実や落ち葉、土） 第５回　身近な自然や素材を使った遊び③（ゴムやおもりを使ったおもちゃ） 第６回　身近な自然や素材を使った遊びづくり①（計画、製作） 第７回　身近な自然や素材を使った遊びづくり②（製作、発表準備） 第８回　製作課題の振り返り（グループ協議とまとめ）
テキスト	上中　修編（2018）『保育実践に生かす保育内容「環境」第２版』保育出版社 適宜プリント資料を配布する。配布された資料はファイルして毎回持参すること。
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 武藤　隆監修　『事例で学ぶ保育内容　領域　環境』萌文書林出版社 秋田喜代美・増田時枝・安見克夫　編　『新時代の保育双書　保育内容　「環境」』（株）みらい発行 その他、授業中に随時紹介する。
評価方法	製作課題（40 点） 授業レポート(60 点)
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	保育内容　環境の指導法						
担当教員	山尾淳子						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020243
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育課程及び指導法に関する科目 〔保育内容の指導法〕 ○保育士資格						

授業の概要	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に記載されている領域「環境」をもとに、子どもと人・自然とのかかわりを理解し、「探索意欲と好奇心を育てる」ための保育内容のあり方を学ぶ。子どもの興味・関心をひきつけ発達をうながす指導の工夫、小学校教育への連続性を学ぶ。 具体的には、自然素材を活用した遊びの指導案作成をグループごとに計画作成し、振り返り、改善案を考えるという PDCA 一連の学修過程を通して、保育における実践的能力を身につける授業を構想する。また、実際に自然素材を活用したものづくりや遊びを通して、素材研究を行う。
授業の 到達目標	(1) 日課での「環境」にかかわる保育内容を説明することができる。 (2) 各年齢段階の設定保育や自由遊びの中での「環境」に関わる指導計画を立案できる。 (3) 小学校教育への連続性をふまえた「環境」に関わる指導計画を立案できる。
授業計画	第１回　乳幼児の遊びと領域「環境」 第２回　乳幼児期の探索意欲と好奇心を促す保育 第３回　子どもと自然遊び（１）実際の様子 第４回　子どもと自然遊び（２）教材研究と指導案作り 第５回　子どもの数量理解と保育教材研究と指導案作り 第６回　指導案の発表：グループで指導案修正と授業プランの話し合い 第７回　模擬授業（期末課題提出） 第８回　期末課題の振り返り（グループ協議とまとめ）
テキスト	適宜プリント資料を配布する。配布された資料はファイルして毎回持参すること。
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 『保育実践に生かす保育内容「環境」』教育情報出版 秋田喜代美・増田時枝・安見克夫・箕輪潤子　編　『新時代の保育双書　保育内容　「環境」』第３版（株）みらい発行　その他、授業中に随時紹介する。
評価方法	期末課題（60 点）授業レポート(40 点)
自己学習に 関する指針	テキストや配付資料を読み、復習に役立てる
履修上の 指導・留意点	毎回、授業の終わりに授業の振り返りレポートを提出する なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（幼稚園・幼保園）、行政機関等での勤務経験を活かして、免許取得に関するより具体的な授業を展開する。

授業科目	幼児と言葉						
担当教員	中井　悠加						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020246
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・領域及び保育内容の指導法に関する科目 〔言葉〕 ○保育士資格						

授業の概要	幼児教育において扱う絵本、童話、昔ばなし、紙芝居などの児童文化財の意義について理解を深めた上で、実践することで絵本選定および読み聞かせの方法や昔ばなしの語り方を学ぶ。また、わらべうた・口頭詩・詩創作を通じて言葉の楽しさや美しさに気づき，幼児期の言語発達を踏まえた豊かな実践を考案し，実施する。
授業の 到達目標	(1) 人間にとっての言葉の意義と機能について理解している。 (2) 子どもの言葉を育む実践についての基礎的な知識を身に付け，実践を考案できる。 (3) 子どもにとっての児童文化材についての理解を深め，実践考案に活用できる。
授業計画	第１回　オリエンテーション：人間と言葉について 第２回　乳幼児の言葉の発達過程について 第３回　絵本の選定と読み聞かせ・ブックトーク 第４回　口頭詩とわらべうた：ことばあそびと詩的機能 第５回　絵本にかわる物語体験：ペープサート 第６回　創作絵本の読み聞かせ実践 第７回　創作紙芝居の実践 第８回　創作ペープサートの実践
テキスト	文部科学省・厚生労働省・内閣府編 2017，『平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』フレーベル館。
参考文献	小田豊・芦田宏編著 2009，『新 保育ライブラリ 保育の内容・方法を知る　保育内容 言葉』北大路書房 無藤隆監修 2017，『イラストたっぷり やさしく読み解く 幼保連携型認定こども園教育・保育要領ハンドブック』学研 無藤隆監修 2017，『イラストたっぷり やさしく読み解く 幼稚園教育要領ハンドブック』学研 汐見稔幸監修 2017，『イラストたっぷり やさしく読み解く 保育所保育指針ハンドブック』学研 その他、授業中に随時紹介する
評価方法	到達目標(1)の評価：期末課題(15%)、演習課題・小レポート(20%) 到達目標(2)の評価：期末課題(15%)、演習課題・小レポート(20%) 到達目標(3)の評価：期末課題(20%)、演習課題・小レポート(10%)
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

人間文化学部・保育教育学科
（令和 2 年入学生用）

授業科目	保育内容・言葉の指導法						
担当教員	中井　悠加						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020255
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・領域及び保育内容の指導法に関する科目 〔保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）〕 ○保育士資格						

授業の概要	幼稚園教育要領と保育所保育指針における領域「言葉」の内容に基づき、「環境を通して行われる保育」の原理をふまえ、乳幼児期の言葉の発達についての知識、集団生活や遊びを通じて言葉を育むうえでの保育者の役割、小学校の国語教育との接続のあり方、児童文化財の特徴や活用方法など、子どもの言葉を育むために実践される保育内容の指導法を理論や実践事例から学び、教材研究を行う。 　そして、授業で学んだ知識を総合して、子どもの発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた保育指導案を作成した上で模擬授業を行う。
授業の 到達目標	(1) 領域「言葉」の内容に基づき、子どもの言葉を育む保育のあり方を考え、そこでの保育者の役割や子どもへの援助・指導の方法を具体的に考えられるようになる。 (2) 子どもの言葉を育む活動の考案や保育指導案の検討／作成ができるようになる。 (3) 小学校「国語」への接続のあり方など、子どもの言葉の育ちをめぐる課題についての理解を深め、保育者に求められる視点を身につける。
授業計画	第１回　領域「言葉」について 第２回　幼児の言葉の発達と保育 第３回　幼児の言葉をどのように見るか 第４回　幼児の言葉を育むことと小学校「国語科」との接続 第５回　保育における絵本の活用：教材研究① 第６回　保育における児童文化財の活用：教材研究② 第７回　領域「言葉」の指導計画と模擬保育 第８回　授業のまとめ：言葉の育ちに関わる諸問題
テキスト	文部科学省・厚生労働省・内閣府編 2017，『平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』フレーベル館。
参考文献	小田豊・芦田宏編著 2009，『新 保育ライブラリ 保育の内容・方法を知る　保育内容 言葉』北大路書房 無藤隆監修 2017，『イラストたっぷり やさしく読み解く 幼保連携型認定こども園教育・保育要領ハンドブック』学研 無藤隆監修 2017，『イラストたっぷり やさしく読み解く 幼稚園教育要領ハンドブック』学研 汐見稔幸監修 2017，『イラストたっぷり やさしく読み解く 保育所保育指針ハンドブック』学研 その他、授業中に随時紹介する
評価方法	到達目標(1)の評価：期末課題(15%)、演習課題・小レポート(20%) 到達目標(2)の評価：期末課題(15%)、演習課題・小レポート(20%) 到達目標(3)の評価：期末課題(20%)、演習課題・小レポート(10%)
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	幼児と造形表現Ⅰ						
担当教員	福井一尊						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020272
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・領域及び保育内容の指導法に関する科目 〔表現〕 ○保育士資格						

授業の概要	子どもの造形表現について様々な側面からアプローチすることで子ども理解を深めるとともに、その指導の目標と内容及び方法についての基礎的な知識と理論を身につけることを目標とする。実技面では、教材研究を兼ねた造形遊びを豊富に体験することを通して、保育教育者として必要な基礎的な表現技術を習得する。
授業の 到達目標	(1) 子どもと大人の造形表現方法の違いを理解する。 (2) 色彩について理解し、絵の具を適切に扱い、意図的な混色ができる力をつける。 (3) 子どもの造形表現作品を観る目を育てる。
授業計画	第１回　幼児と造形活動について 第２回　見える色彩について（教材研究） 第３回　色の種類について（教材研究） 第４回　絵の具による混色（教材研究） 第５回　子どもと造形活動（指導案作成） 第６回　廃材を使った制作（教材研究） 第７回　フィンガーペイントからの展開（指導案作成） 第８回　作って演じる活動（模擬授業） 定期試験
テキスト	特になし（適宜資料を配布するので、保存用Ａ４クリアファイルを準備すること。）
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領』 厚生労働省『保育所保育指針』 内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 『平田智久他編著　保育内容「表現」』ミネルヴァ書房 他授業の中で適宜紹介する。
評価方法	授業ノート４０%、提出作品４０%、定期試験２０%
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関および行政機関での勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を実施する。また、国内外の文化施設における芸術活動経験を生かしてより具体的、実践的な実技指導を展開する。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	保育内容・造形表現の指導法Ⅰ						
担当教員	福井一尊						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020274
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・領域及び保育内容の指導法に関する科目 〔保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）〕 ○保育士資格						

授業の概要	「幼児と造形表現Ⅰ」の内容を土台として、さらに子ども理解を深めるとともに、子どもの造形表現の指導方法について、基礎的な知識と技術を身につけることを目標とする。子どもが造形表現を行うことで育む様々な能力について考察を深めながら、教材研究を行ったり、指導計画を立てたりする力をつける。また、受講者が子どもとともに造形表現を行う楽しさや、互いに作品鑑賞する喜びについて体験を通して学ぶ。
授業の 到達目標	(1) 幼児の造形表現について、多様な角度から捉える力をつける。。 (2) 絵の具や筆などの用具の正しい扱い方、指導法を体験的に修得する。 (3) 保育環境と造形表現活動を結びつけて捉える力をつける。
授業計画	第１回　保育内容における造形表現について 第２回　紙素材の可能性（教材研究） 第３回　子どもと粘土教材（教材研究） 第４回　季節の装飾（教材研究） 第５回　濃淡で表す（教材研究） 第６回　明暗で表す（情報機器の活用・指導案作成） 第７回　コントラストにいて（指導案作成） 第８回　彩色技法（模擬授業） 定期試験
テキスト	特になし（適宜資料を配布するので、保存用Ａ４クリアファイルを準備すること。）
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領』 厚生労働省『保育所保育指針』 内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 『平田智久他編著　保育内容「表現」』ミネルヴァ書房 他授業の中で適宜紹介する。
評価方法	授業ノート４０%、提出作品４０%、定期試験２０%
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関および行政機関での勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を実施する。また、国内外の文化施設における芸術活動経験を生かしてより具体的、実践的な実技指導を展開する。

授業科目	幼児と音楽表現Ⅰ						
担当教員	梶間　奈保・泰　昌子						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020276
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・領域及び保育内容の指導法に関する科目 〔表現〕 ○保育士資格						

授業の概要	この授業では，保育内「表現」の内容の理解を深めるとともに，表現に関する子どもの事例を通して子どもの表現の多様性を理解していく。子どもの事例では，日常生活から感じたりかんがえたりする中で生まれた表現に着目することを念頭におきながら，音楽や身体表現に関わる事例を取り上げ子どもの表現について理解を深めていく。
授業の 到達目標	保育内容「表現」の内容に基づき，子どもの音楽表現及び身体表現について事例や実践を通して理解をすることを目的とした科目である。 （1）様々な表現活動や他者の表現を通して表現の多様性を知り，自己表現力を高める （2）子どもの多様な音楽表現について事例を通して理解を深めることができる
授業計画	第１回　表現とは何か　―　領域「表現」の理解と位置づけ（担当：梶間） 第２回　リズムを意識した音楽あそびと身体あそび（担当：梶間） 第３回　身体表現を中心にした音楽あそびと子どもの事例（担当：梶間） 第４回　わらべうたであそぶ音楽あそびと子どもの事例（担当：梶間） 第５回　いろいろな音(自然や生活の中の音)を意識した遊びと子どもの事例（担当：梶間） 第６回　季節を意識した音楽遊びと子どもの事例(春・夏)　（担当：秦） 第７回　季節を意識した音楽遊びと子どもの事例（秋・冬）（担当：秦） 第８回　まとめ（担当：秦） 定期試験
テキスト	テキストは使用せず、適宜資料プリントを配布
参考文献	『音楽する子どもをつかまえたい―実験研究者とフィールドワーカーの対話』小川容子，今川恭子　共著　ふくろう出版 文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
評価方法	授業課題の取り組み状況や課題提出（50%），試験成績（50%）により評価する
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（保育者養成校認定　専門学校）での勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	保育内容・音楽表現の指導法Ⅰ						
担当教員	梶間　奈保・泰　昌子						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020278
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・領域及び保育内容の指導法に関する科目 〔保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）〕 ○保育士資格						

授業の概要	この授業では，保育内「表現」の内容の理解を深めるとともに，実践的な保育表現を学ぶために，模擬表現あそびの実践や検討を通して現場実践へとつなげていく。さらには，保育現場での見学を踏まえて，子どもの表現について理解を深め授業での学びを活かしてグループでの実践内容を考え教材研究を行い、模擬発表をしていく。
授業の 到達目標	保育内容「表現」の内容に基づき，子どもの音楽表現及び身体表現について事例や実践を通して理解をすることを目的とした科目である。 （1）子どもの多様な音楽表現について理解を深めることができる （2）子どもの音楽的発達に沿った，表現活動の教材研究を考え発表することができる
授業計画	第１回　手遊び・指遊び・遊び歌を中心とした音楽遊びの教材研究（担当：秦） 第２回　自分の音楽環境を考え、保育に生かす教材研究（担当：秦） 第３回　即興を楽しむ音楽遊びの教材研究（担当：秦） 第４回　音で伝えられるもの、音楽で伝えられることを考える（担当：秦） 第５回　保育の中での歌遊び(保育の見学)（担当：秦） 第６回　表現あそびの指導案の作成（担当：梶間） 第７回　表現あそびの指導案の作成と活動内容の模擬発表（担当：梶間） 第８回　模擬発表の振り返りとまとめ（担当：梶間） 定期試験
テキスト	テキストは使用せず、適宜資料プリントを配布
参考文献	『音楽する子どもをつかまえたい―実験研究者とフィールドワーカーの対話』小川容子，今川恭子　共著　ふくろう出版 文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
評価方法	授業課題の取り組み状況や課題提出（50%），試験成績（50%）により評価する
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（保育者養成校認定　専門学校）での勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。

授業科目	保育内容総論Ⅰ						
担当教員	小山優子						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020280
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育課程及び指導法に関する科目 〔保育内容の指導法〕 ○保育士資格						

授業の概要	[授業の目的・ねらい] 幼稚園の教員免許取得に必要な「教育課程及び指導法に関する科目」及び保育士資格の取得に必要な「保育の内容・方法に関する科目」に対応する科目である。幼稚園・保育所における５領域の保育内容を総合的に理解し、それを実際の保育に反映させるための原理を理解することを目的とする。 [授業全体の内容の概要] 保育内容について各領域を総合的に捉え、遊びや生活を基本とする保育の基本的な考え方を理解する。また、実際の保育実践に結びつく保育方法や保育計画との関連から保育内容を捉えるなど、保育内容の考え方を深める。
授業の 到達目標	(1) 保育内容を総合的に捉え、遊びと生活を基盤とする保育のあり方について理解する。 (2) 幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の全体を把握し、教育の５領域や養護のねらい・内容を総合的に理解する。 (3) 保育内容と教育課程・保育課程と指導計画との関連を理解し、日々の保育の中で保育内容を深める方法を知る。
授業計画	毎回、以下のテーマに沿って講義、または学生のグループ討議による演習により授業を進行する。 第１回　保育の目的・目標と保育内容、保育観と保育内容の歴史的変遷 第２回　幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の総合的理解 第３回　子どもの遊びと生活、保育内容と子ども理解 第４回　保育における「ねらい」と「内容」の考え方、ねらいのたて方と教材研究 第５回　環境と保育内容、集まりの場を想定した部分指導案の作成 第６回　保育内容と「領域」の捉え方、教育の５領域と養護の理解、 集まりの場を想定した模擬保育案の発表 第７回　家庭・地域・小学校との連携を考慮した保育内容、多様な保育ニーズ 第８回　保育内容とカリキュラム、教育課程・保育課程と指導計画（週案・月案）、設定保育の部分指導案の作成
テキスト	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館，105 円 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館，126 円 内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館, 162 円
参考文献	参考文献などは授業の中で適宜提示するとともに、必要に応じてプリントなどを配布する。
評価方法	成績は、期末試験を実施せず、ワークシート(20%)と課題レポート(80%)、出席状況等を考慮して、総合的に評価する。ただし、演習シートと課題レポートの提出状況など、演習課題の締め切り遵守などの態度も評価する。
自己学習に 関する指針	１年春学期の「保育原理」を踏まえ、保育内容を総合的に捉えた上での指導計画の立案につながる演習も含むため、レポート課題にしっかり取り組むこと。
履修上の 指導・留意点	授業時間内に仕上がらない課題は次の授業までに宿題として仕上げてくること。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	保育の計画と評価						
担当教員	小山優子						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020285
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・領域及び保育内容の指導法に関する科目 〔保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）〕 ○保育士資格						

授業の概要	幼稚園・保育所・認定こども園におけるさまざまな保育の計画について理解し、具体的な指導計画の立案と評価についての方法を身につけることを目的とする。具体的には、保育所実習や幼稚園実習の中で、また将来的に幼稚園教諭・保育士・保育教諭として働く際に、子どもの発達過程を理解した上で子どもの活動が豊かになる指導計画を立案し、また立案した指導計画を評価できることを到達目標とする。
授業の 到達目標	(1) 幼稚園・保育所・認定こども園において育みたい資質・能力や幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿を理解した上で、指導計画の立案と評価を行うことができる。 (2) 乳児、１～３歳未満児、３歳以上児など、子どもの発達に合わせた指導計画を立案する視点を持ち、小学校との接続を意識しながら、遊びや生活、協同的な学びの指導計画を立案できる。
授業計画	第１回　教育課程と指導計画、カリキュラム・マネジメントとは 第２回　幼児教育で育てるべき資質・能力と卒園までに育てるべき 10 の姿の理解 第３回　３歳未満児保育の指導計画①乳児保育のねらいと内容 第４回　３歳未満児保育の指導計画②１～３歳未満児保育のねらいと内容 第５回　３歳以上児保育の指導計画①３歳以上児保育のねらいと内容 第６回　３歳以上児保育の指導計画②遊びと生活、協同的な学びの指導計画 第７回　幼児教育と小学校教育の接続、情報機器の活用に関する指導計画 第８回　幼稚園・保育所・認定こども園における指導計画の評価
テキスト	文部科学省『幼稚園教育要領〈平成 29 年告示〉』フレーベル館，160 円 厚生労働省『保育所保育指針〈平成 29 年告示〉』フレーベル館，160 円 内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成 29 年告示〉』フレーベル館, 160 円
参考文献	授業の中で必要に応じてプリントなどを配布する。
評価方法	成績は、演習課題(50%)、演習レポート(35%)、出席状況(15%)等を考慮して総合的に判断する。演習課題の締め切り遵守などの態度も評価する。
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	国語(書写を含む)						
担当教員	中井悠加　　福田哲之						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020440
免許資格関連事項	○小学校教諭一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国語（書写を含む）						

授業の概要	「読む・聞く・話す」領域について、幼児教育および初等教育の国語科において扱う絵本、童話、昔ばなし、紙芝居などの児童文学に対する興味と理解を深めた上で、実践することで絵本選定および読み聞かせの方法や昔ばなしの語り方を学ぶ。また「書く」領域について、わらべうた・口頭詩・詩創作を通じて幼児期から学童期への接続を意識した児童言語文化および書写活動を通じた日本の豊かな文字文化・書表現の広がりを学ぶ。
授業の到達目標	(1)「読む・聞く・話す・書く」という言語活動を成立させる国語の要素を理解する。 (2)幼児教育および初等教育で扱う児童文学や書写文化への理解と興味を深める。 (3)言葉と言語文化を媒介とした豊かな感性と他者への想像力を培う。
授業計画	第１回　オリエンテーション：言語活動と国語力　（担当：中井） 第２回　「話すこと・聞くこと」(1)：絵本の選定と読み聞かせ　（担当：中井） 第３回　「話すこと・聞くこと」(2)：本との出会いを促すブックトーク　（担当：中井） 第４回　「話すこと・聞くこと」(3)：文学をともに味わうリテラチャー・サークル　（担当：中井） 第５回　「話すこと・聞くこと」(4)：耳で聞くお話：昔話とストーリーテリング　（担当：中井） 第６回　「話すこと・聞くこと」(5)：わらべうたとマザーグース：ナンセンスとあそび（担当：中井） 第７回　「書くこと」(1)口頭詩と詩創作(1)：幼児期の呼吸律　（担当：中井） 第８回　「書くこと」(2)口頭詩と詩創作(2)：話しことばから書きことばへの発達　（担当：中井） 第９回　「書くこと」(3)口頭詩と詩創作(3)：ことばあそびと詩的機能　（担当：中井） 第 10 回　「読むこと」(1)：　絵本の構造を科学する：ポストモダン絵本　（担当：中井） 第 11 回　「読むこと」(2)：　読書と表現：創作ペープサート　（担当：中井） 第 12 回　「読むこと」(3)：音読と朗読　（担当：中井） 第 13 回　「書くこと」(4)：文字書写の歴史と文化　（担当：福田） 第 14 回　「書くこと」(5)：書写教育の変遷　（担当：福田） 第 15 回　「書くこと」(6)：入門期の書写指導　（担当：福田） 定期試験
テキスト	文部科学省『小学校学習指導要領解説　国語編』東洋館出版
参考文献	
評価方法	授業概要に関するコメントカード 20%、発表に関する自己評価シート 30%、定期試験（児童文学についての基礎理論）50%である。
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（小学校教諭）での勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	社会						
担当教員	福間　敏之						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020450
免許資格関連事項	○小学校教諭一種免許状≪教科に関する科目≫ ・社会						

授業の概要	小学校社会科の目標、内容、教材を多面的に考察しながら、社会科の基礎的理解をはかるとともに、教材研究の基礎的技能の習得を目指す。具体的には、小学校社会科の教科目標、教科内容、教材について、複数の授業事例を取り上げながら考察する。また、小学校社会科の基本概念である「地域」を分析・検討するとともに、受講生がテーマを設定しながら身近な地域を対象とする地域教材の開発を行い、その成果を発表する。
授業の到達目標	・小学校社会科の教科目標、教科内容、教材、及び子どもの社会認識の発達とそれをふまえた社会科授業について理解する。 ・社会科教材研究の基礎的技能を習得する。
授業計画	第１回　オリエンテーション（小学校社会科のイメージ） 第２回　小学校社会科の目標と内容 第３回　小学校地域学習の教育内容 第４回　小学校地域学習の教材研究 第５回　小学校国土学習の教育内容と教材研究 第６回　小学校産業学習の教育内容と教材研究 第７回　小学校歴史学習の教育内容と教材研究 第８回　小学校政治学習・国際理解学習の教育内容と教材研究 第９回　児童期の社会認識と子ども理解 第 10 回　児童期・青年期の社会認識の発達と子ども理解 第 11 回　地域教材の開発の視点 第 12 回　地域教材開発の構想 第 13 回　地域素材の調査・分析 第 14 回　地域教材の開発 第 15 回　地域教材開発のプレゼンテーション
テキスト	文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』東洋館出版
参考文献	北俊夫・加藤寿朗編著『小学校新学習指導要領の展開 社会編』明治図書出版社（ISBN978-4-18-327919-4） その他、授業中に適宜紹介する。
評価方法	提出物（カード・プリント・レポート他）で上記の到達目標をそれぞれ５段階で評価し、それを総合評価したものを 60%、平常点を 40%として評価します。
自己学習に関する指針	配付資料及び授業中に紹介した文献等を活用し，復習に役立てる。
履修上の指導・留意点	地域調査に関わるフィールドワークは授業時間外に実施することがあります。

授業科目	算数						
担当教員	齊藤一弥						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020460
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状≪教科に関する科目≫ ・算数						

授業の概要	これまでに学習してきた数学を基にして，小学校算数科の５つの領域（数と計算・図形・測定・変化と関係・データの活用）に関連した数学的内容を講義すると共に，数学的な話題を幅広く採り入れる。講義と演習において，知識だけでなく，実際に演習問題を解くことによって，算数科の背景となる数学をより深く理解できるように配慮する。
授業の 到達目標	授業のテーマ：「小学校算数科の背景となる数学的内容の理解」 (1) 小学校算数科の内容について理解を深め，さらに，基礎となる数学的背景を理解する。 (2) 小学校算数科と中学校数学科及び高等学校数学科との関連を理解する。
授業計画	第１回　数の概念と表記 第２回　自然数（１）「集合数」 第３回　自然数（２）「ペアノの公理系」 第４回　数えること（数の把握）と数の表記（記数法） 第５回　式 第６回　加法に関する交換法則・結合法則・分配法則 第７回　乗法に関する交換法則・結合法則 第８回　量と測定の指導原則 第９回　面積・体積 第 10 回　平面図形・空間図形 第 11 回　関数の考え 第 12 回　集合の考え 第 13 回　異種の量の割合と同種の量の割合 第 14 回　確率と統計 第 15 回　問題解決 定期試験
テキスト	「小学校学習指導要領解説　算数編」，文部科学省
参考文献	授業中，随時，適切な資料を配布したり，紹介したりする。
評価方法	小テスト・定期試験：８０%，レポート等：２０%
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（公立小学校・教育委員会事務局）での勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	理科						
担当教員	高橋泰道						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020470
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状≪教科に関する科目≫ ・理科						

授業の概要	小学校の「理科」を体系的に理解するために，人間を取り巻く身近な自然に関心を持ち，現在の多様な生物の特性，自然界の生物の存在の独自性，生物と環境といった生態系等の生物の世界について学び，基礎的な理解を図る。また，電磁気，力，エネルギー等の物理的な世界や，物質の性質，状態変化，水溶液等の化学的な世界についてもさまざまな体験を通しながら学び，基礎的な理解を図り，自然を理解するための方法を探る。 具体的には，物理，化学，生物の３分野の各領域において，小学校で理科を教えるために必要な内容（自然科学の基礎的，基本的な内容）の実験や観察を通して，初等理科教育に必要な基礎的・基本的な知識と技能を養う。
授業の 到達目標	①小学校で必要な学習内容に関わる実験・観察について理解し，安全に配慮して行うことができる。 ②科学的に自然の事物・現象を認識できる。 ③科学的思考，方法を習得し，自然の事物・現象について説明できる。
授業計画	第１回　オリエンテーション，春の植物観察 第２回　植物の分類，植物の増え方 第３回　植物の成長と体のつくり 第４回　植物の働き 第５回　電気の働き 第６回　磁力の働き 第７回　光の働き 第８回　物の重さと体積 第９回　物の体積と力 第 10 回　物の体積と温度①　（空気の体積変化） 第 11 回　物の体積と温度②　（水や金属の体積変化） 第 12 回　物の温まり方①　（金属の温まり方） 第 13 回　物の温まり方②　（水や空気の温まり方） 第 14 回　水の三態変化①　（沸騰，水蒸気） 第 15 回　水の三態変化②　（冷却，氷）
テキスト	和泉浩行・島根理科授業研究会編著（2016）第４学年『活用問題事例集』今井出版 文部科学省（2017）『小学校学習指導要領解説　理科編』 プリントも随時配布する。
参考文献	必要に応じて授業の中で紹介する。
評価方法	授業レポート（４０%），提出物（スケッチやレポート）（６０%）などで総合的に判断して全体評価を決める。
自己学習に 関する指針	テキストや配布資料，およびレジュメに記載された参考文献を読み，事前学修・事後学修に役立てる。
履修上の 指導・留意点	質問は，その内容に応じて，授業時間中・オフィスアワー・e-mail で対応します。

授業科目	生活						
担当教員	矢島毅昌　　高橋泰道						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020480
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状≪教科に関する科目≫ ・生活						

授業の概要	小学校生活科という教科の理論的・歴史的な背景を教育学の立場から理解し，生活科の授業を構想・実践するために必要な知識を学ぶ。その際，一般性・汎用性の高い生活の知識だけでなく，地域資源などの地域性の高い生活の知識を活用するために必要な視点を身につけることも目指す。また，生活科が保幼小接続を担う重要な科目であることをふまえ，幼児期と児童期をつなぐ教育に関する近年の実践や研究の成果からも学びながら，生活科の内容・方法とその意義の理解を深める。
授業の 到達目標	(1)小学校生活科の教育目標および具体的な教育内容を理解する。 (2)保幼小接続や小学３年以降の学びを考慮した生活科の展開を考えることができる。 (3)生活環境の情報をポスター・地図・冊子等の形式に整理して理解を深め，それを人にわかりやすく伝える力を身につける。
授業計画	第１回　ガイダンス：小学校生活科のめざすもの（担当：矢島・高橋） 第２回　保育所・幼稚園の生活から小学校の生活へ（担当：矢島） 第３回　身の周りの物と生活（担当：矢島） 第４回　家族／地域の人々の暮らし（担当：矢島） 第５回　街の人工物と自然物の理解（担当：矢島） 第６回　地域社会の探索（担当：矢島） 第７回　身近な動植物（担当：高橋） 第８回　自然の中での遊び（担当：高橋） 第９回　遊び道具と科学（担当：高橋） 第 10 回　健康・安全・生命について考える（担当：高橋） 第 11 回　地域の環境案内を作る① 情報の収集と整理（担当：矢島・高橋） 第 12 回　地域の環境案内を作る② 情報の可視化（担当：矢島・高橋） 第 13 回　地域の環境案内を作る③ 情報の伝え方（担当：矢島・高橋） 第 14 回　生活教育の理論と歴史（担当：矢島） 第 15 回　総括／生活科を土台としたさらなる学び（担当：矢島・高橋）
テキスト	文部科学省（2018）『小学校学習指導要領解説　生活編』（平成 29 年告示）東洋館出版社
参考文献	鎌倉博・船越勝編著（2018）『生活科教育』ミネルヴァ書房 關浩和（2015）『生活科授業デザイン論』ふくろう出版 須本良夫編著（2018）『生活科で子どもは何を学ぶか：キーワードはカリキュラム・マネジメント』東洋館出版社 その他，授業中に随時紹介する。
評価方法	到達目標(1)の評価：期末課題(20%)，演習課題・小レポート(10%) 到達目標(2)の評価：期末課題(20%)，演習課題・小レポート(10%) 到達目標(3)の評価：授業での製作物(30%)，演習課題・小レポート(10%)
自己学習に 関する指針	テキストや配布資料，およびレジュメに記載された参考文献を読み，事前学修・事後学修に役立てる。
履修上の 指導・留意点	授業中は，タブレットPC，或いはノートPC，スマートフォン等を使用し，双方向の授業を行います。質問は，その内容に応じて，授業時間中・オフィスアワー・e-mail で対応します。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	音楽Ⅰ						
担当教員	梶間奈保						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M2020490
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状≪教科に関する科目≫ ・音楽 ○保育士資格						

授業の概要	[授業の目的・ねらい] この授業では，楽典を中心とした音楽の基礎知識の理解を講義および実践を踏まえながら深め，ピアノ技能の習得にもつなげていく。また，音楽表現の多様性を身に付けるために，音楽の楽しさを自身で体験し実践的な場面にも活かすことを目指す。 [授業全体の内容の概要] この授業では，楽典を中心とした音楽の基礎知識の理解を講義および実践を踏まえながら深めていく。毎回の授業では講義で音楽理論について学び，その理論について鍵盤を使って理解を深めていくため，音楽理論をより実践的に学ぶことができる。さらに，鍵盤楽器を使いながら授業を進めていくため，ピアノ技能の習得にもつなげていく。この他にも，教育の実践的な場面にも活かすことができるよう，毎回，歌遊びや手遊び，子どもの歌を取り上げ学生自身が音楽活動を繰り返し体験し音楽の楽しさを味わっていく。
授業の 到達目標	音楽表現及び音楽指導に必要な音楽的基礎知識の習得を目指す科目である。 （1）基本的な音楽理論の理解について深める （2）子どもを取り巻く音楽環境，保育で扱われる音楽に関心を深める （3）音楽の楽しさを体験し，音楽に親しみを持つことができる
授業計画	第１回　楽譜の読み方，音名，音符の種類 第２回　リズムと拍子 第３回　音楽記号，音楽標語 第４回　楽譜の基礎まとめ 第５回　長音階，長調系 第６回　短音階，短調系 第７回　日本音階，わらべうた，まとめ 第８回　度数，類別，種類（幹音），長短系 第９回　増減系，種類（派生音，複音程） 第 10 回　音程の理解まとめ 第 11 回　和音の基本構造，コードネーム，三和音 第 12 回　属七和音，その他の和音 第 13 回　和音の理解まとめ 第 14 回　簡易楽曲を題材とした音楽理論の理解（保育教材） 第 15 回　簡易楽曲を題材とした音楽理論の理解（小学校音楽教材） 定期試験 ※毎回，保育及び音楽教育と関連した歌唱教材，音楽遊びに親しむ
テキスト	『最新　学生の音楽通論』伴田武嘉津著 その他，適宜資料プリントを配布
参考文献	『楽典―理論と実践』石桁真礼生，末木氏保雄ほか著　音楽之友社 文部科学省『小学校学習指導要領』第６節音楽 （http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/on.htm） 文部科学省『幼稚園教育要領』厚生労働省『保育所保育指針』内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
評価方法	授業課題の取り組み状況や課題提出（50%），試験成績（50%）により評価する
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（保育者養成校認定　専門学校）での勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。

授業科目	音楽Ⅱ						
担当教員	梶間奈保						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020500
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状≪教科に関する科目≫ ・音楽 ○保育士資格						

授業の概要	[授業の目的・ねらい] この授業では，コードの理解とコード伴奏の実践踏まえながらコード伴奏を習得していく。また，子どもの音楽的発達について理解をしながら，子どもが楽しく音遊びや音楽表現に親しむことができるよう計画を立て，グループで実践発表をしていく。 [授業全体の内容の概要] この授業では，コードの仕組みの理解とコード伴奏の実践を高めるために，様々な伴奏法について実践を踏まえながらコード伴奏を習得していく。定期的にコード課題を与えて，全員がコード伴奏できるよう個人の演奏レベルに合わせた伴奏法に取り組んでもらう。また，小学校、保育所、幼稚園、福祉施設等での音楽遊びの計画を立て，グループで活動案や模擬実践を取り組む活動も行う。活動については，自分たちで分析をしながらプレゼン発表を行って考察をする。これらを通して，子どもと音楽との関わりを理解していく。
授業の 到達目標	音楽表現及び音楽指導に必要な音楽的基礎知識の習得を目指した上で，様々な子どもの音楽表現に対応するため，即興的な音楽技能であるコード伴奏法の習得を目的とする科目である。 （1）コード伴奏やアンサンブル楽譜の作成など音楽理論を実践的に応用できる （2）音遊び，様々な音楽活動を体験し，音楽表現を養う （3）子どもと音楽との関わりについて，実践発表を通して考える
授業計画	第１回　コード伴奏法について　―　基本形の理解 第２回　コード伴奏の転回 第３回　様々なコード伴奏法（ベース弾き，両手伴奏） 第４回　コード伴奏法のまとめ 第５回　子どもと音楽について①（子どもの音楽活動の事例とディスカッション） 第６回　子どもと音楽について②（子どもの音楽的発達について） 第７回　子どもと音楽について③（まとめ） 第８回　音楽あそびの計画 第９回　音楽あそびの検討①（個人→グループワーク） 第 10 回　音楽あそびの検討②（グループで音楽あそびの計画をまとめる） 第 11 回　音楽あそびの検討③（グループでの準備・道具の製作） 第 12 回　音楽あそびの実践④（グループでの練習） 第 13 回　音楽あそびの実践①（A グループ～D グループの発表　※1 グループ約 15 分） 第 14 回　音楽あそびの実践②（E グループ～H グループの発表　※1 グループ約 15 分） 第 15 回　音楽あそびのまとめ 定期試験
テキスト	『最新　学生の音楽通論』伴田武嘉津著　その他，適宜資料プリントを配布。
参考文献	文部科学省『小学校学習指導要領』第 6 節音楽 （http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/on.htm） 文部科学省『幼稚園教育要領』，厚生労働省『保育所保育指針』，内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
評価方法	授業課題の取り組み状況や課題提出（50%），試験成績（50%）により評価する
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（保育者養成校認定　専門学校）での勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	図画工作						
担当教員	福井　一尊						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態		選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M2020505
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状≪教科に関する科目≫ ・図画工作 ○保育士資格						

授業の概要	子どもの造形表現について発達的側面及び特徴（特質）的側面からアプローチすることで子ども理解を深めるとともに、造形活動指導の目標と内容及び方法についての基礎的な知識と理論を身につける。実技面では、様々な表現方法、材料に触れ、適切な用具の選び方、使い方、指導の方法を理解する。また、作品制作や、互いの作品鑑賞によって、造形表現指導に生かすことのできる知識と表現能力を高め、自ら創造する喜びを味わい、豊かな感性を自己の中に育てていくことを目指す。
授業の 到達目標	(1)子どもの生活における造形活動について理解する。 (2)のりやハサミなどの基礎的な用具の正しい扱い方について理解し、習得する。 (3)子どもの描画表現の発達を理解する。 (4)自然などの身近なものや美術作品を見る目を育てる。
授業計画	第１回：図画工作、美術工芸について 第２回：色紙を使って 第３回：ハサミを使って 第４回：子どもの描画活動の段階 第５回：描画体験 第６回：パスを使って 第７回：フロッタージュ 第８回：デカルコマニー 第９回：フォトコラージュ 第１０回：変化する絵　制作 第１１回：変化する絵　発表 第１２回：鉛筆デッサン 第１３回：フィンガーペインティング 第１４回：作品発表・鑑賞 第１５回：美しいとは何か 定期試験
テキスト	特になし（適宜資料を配布するので、保存用Ａ４クリアファイルを準備すること。）
参考文献	
評価方法	授業ノート４０%、提出作品４０%、定期試験２０%
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関および行政機関での勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を実施する。また、国内外の文化施設における芸術活動経験を生かしてより具体的、実践的な実技指導を展開する。

授業科目	家庭						
担当教員	多々納道子						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020530
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状≪教科に関する科目≫ ・家庭						

授業の概要	この授業では、小学校家庭科の教育内容（家庭生活と家族、日常の食事と調理の基礎、快適な衣服と住まい、身近な消費生活と環境）についての理解を深め、それらをふまえて小学校家庭科の内容構成の基礎的な視点・方法を学ぶ。
授業の 到達目標	子どもを取り巻く衣食住などの身近な家庭生活や家族についての理解を深める。また、現在の生活における課題を解決できるような学習内容について、アクティブ・ラーニングによる学習を通して、初等家庭科の指導に求められる知識や技術を身につけることをできることを目標とする。 具体的には、 (1)小学校家庭科の内容についての基礎知識を理解することが出来る。 (2)小学校家庭科のカリキュラムと子どもに付けたい力を理解する。
授業計画	第１回　小学校家庭科のカリキュラム（１）小学校家庭科教育課程の編成原理 第２回　小学校家庭科のカリキュラム（２)小中の連携からみた子どもに付けたい能力 第３回　小学校家庭科のカリキュラム（３）学習指導要領の理解と改訂の仕組み 第４回　家庭生活と家族の理解 第５回　家庭生活と家族（１）子どもの家庭生活の現状と付けたい力 第６回　家庭生活と家族（２）学習指導のための基礎知識 第７回　食生活の基礎（１）子どもの食生活の現状と付けたい力 第８回　食生活の基礎（２）学習指導のための基礎知識 第９回　食生活の基礎（３）ビデオによる授業観察 第 10 回　衣生活の基礎（１）子どもの衣生活の現状と付けたい力 第 11 回　衣生活の基礎（２）学習指導のための基礎知識 第 12 回　住生活の基礎（１）子どもの住生活の現状と付けたい力 第 13 回　住生活の基礎（２）学習指導のための基礎知識 第 14 回　身近な消費生活と環境の基礎（１）子どもの身近な消費生活と環境についての現状と付けたい力 第 15 回　身近な消費生活と環境の基礎（２）学習指導のための基礎知識 定期試験
テキスト	「実践的指導力をつける家庭科教育法」、多々納道子・伊藤圭子、大学教育出版
参考文献	文部科学省「学習指導要領」第２章　各教科　第８節　家庭 （http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/katei.htm） その他授業の中で適宜紹介します。
評価方法	試験５０%、提出物２０%、小テスト３０%で、総合的に評価します。
自己学習に 関する指針	・授業前に、テキストの該当箇所を読んでおくこと。 ・配布資料、およびレジュメに記されたされた参考文献を読み、復習に役立てる。
履修上の 指導・留意点	・質問は、その内容に応じて、授業時間中・e-mail で対応します。 ・受講者は前から詰めて着席してください。

授業科目	体育						
担当教員	岸本　強						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態		選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M2020535
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状≪教科に関する科目≫ ・体育 ○保育士資格						

授業の概要	この領域の保幼小中接続を踏まえた児童の発育・発達を理解し、小学校学習指導要領体育編内容について豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。具体的には、児童の運動機能や身体の使い方を学習し、体つくり運動、器械・器具を使う運動（遊び）、ルールのある運動（ゲーム）、走・跳の運動等全領域について、環境構成及び具体的展開など体育指導に必要な知識や技術を身に付け、自ら実践・指導することができるよう学修する。併せて、ICT の効果的な利活用についても学修する。
授業の 到達目標	(1)子どもの体力・運動能力について知るとともに，現代的課題についても理解する。 (2)体育科指導に必要な知識と技術を修得し，自ら実践・指導することができる。
授業計画	第１回：オリエンテーション（授業計画，進め方，評価方法等の説明），小学校学習指導要領及び同解説体育編についての解説 第２回：体つくり運動①（体ほぐしの運動） 第３回：体つくり運動②（多様な動きをつくる運動，体力を高める運動） 第４回：器械・器具を使っての運動あそび 第５回：器械運動 第６回：走・跳の運動あそび 第７回：走・跳の運動 第８回：陸上運動 第９回：水遊び，浮く・泳ぐ運動，水泳 第１０回：ボールゲーム，鬼遊び 第１１回：ゴール型ゲーム 第１２回：ネット型ゲーム 第１３回：ベースボール型ゲーム 第１４回：表現リズム遊び，表現運動，集団行動 第１５回：保健（心身の発育発達，健康と生活，けが防止，病気の予防） 定期試験
テキスト	文部科学省『小学校学習指導要領』、文部科学省『小学校学習指導要領解説　体育編』 文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』 内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
参考文献	必要に応じてプリントなどを配付
評価方法	1）毎時の授業ノート（振り返り）50% 2）定期試験 50%
自己学習に 関する指針	テキストや配付資料を参考にし、授業ノート（振り返り）を作成する。
履修上の 指導・留意点	実技授業では、運動に適した服装・靴を着用すること。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（中学校教諭）での勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。

授業科目	小学英語						
担当教員	大谷 みどり						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020555
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状≪教科に関する科目≫ ・外国語						

授業の概要	小・中学校の接続を踏まえて小学校における外国語活動・外国語の授業実践に必要な英語運用力と英語に関する背景的な知識を身に付ける。英語力を測る基準となる CEFR-J, CAN DO LIST などの内容を理解し、授業で必要な英語力(基本的な文法、音声、語彙など)を習得する。副教材として利用できる絵本や児童文学を用いて、音読の技術を習得するとともに、異文化に関する理解を深める。
授業の 到達目標	(1)小・中学校の接続も含めて、各学年別の学習者の学びの違いを理解し、小学校の「外国語(英語)」、「外国語活動」の教育課程を理解できる。 (2)授業実践に必要な聞く力・話す力・読む力・書く力を身につけ、英語に関する基本的な事柄（音声・語彙・文構造・文法・正書法等）を理解できる。 (3)児童の到達度や反応に対応し、活動内容を調整するために必要な、児童文学等の異文化に関する知識を身に付けている。
授業計画	第１回　小学校の外国語教育内容、教師に求められる英語力に関する理解 第２回　CEFR-J や CAN DO LIST の内容: 聞く、話すのドリル：授業場面を意識しながら習得 第３回　CEFR-J や CAN DO LIST の内容: 読む、書くのドリル：授業場面を意識しながら習得 第４回　聞く、話す、読む、書く、を通して、基本的な文構造と文法を復習 第５回　高学年向け絵本(音読、文法など)と異文化理解(1) 第６回　高学年向け児童文学(音読、文法など)と異文化理解(2) 第７回　中学年向け絵本(音読、文法など)と異文化理解 第８回　総括: 小学校英語教育と英語運用力の課題 試験(英語運用力を測る筆記試験と口頭試験)
テキスト	印刷教材を適宜配布
参考文献	『英語到達度指標　CEFR-J　ガイドブック』大修館書店 文部科学省「外国語教育」(http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/) えいごネット-英語教員のためのポータルサイト　(http://www.eigo-net.jp/)
評価方法	筆記試験・・・・・50 点(ドリル含む) 口頭試験・・・・・50 点(絵本の音読含む)
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	初等国語科教育法(書写を含む)						
担当教員	中井悠加　　福田哲之						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020290
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕						

授業の概要	小学校国語科教育について，学習指導要領に示された国語科の目標及び内容を第１学年から第６学年まで学修し，教材研究の理論と方法を学ぶ。児童理解・学習指導のための諸理論を踏まえた指導案作成，授業分析までを学び，各領域の教材性を生かした学習指導案を作成し，模擬授業を実施・観察することで，具体的な授業場面を想定した授業設計を行う基礎的能力を身に付ける。
授業の 到達目標	(1)小学校における国語科学習指導の目標と内容，単元・授業構成，実施，評価について理論的に理解する。 (2)児童の実態を踏まえた学習指導案を設計し，実践的指導力の基礎を養う。 (3)模擬授業の相互分析と振り返りを通して，自らの教育実践への心構えを培う。
授業計画	第１回　小学校国語科教育について：国語科の目標及び内容（担当：中井） 第２回　小学校国語科各学年の目標と内容：第１学年から第６学年まで（担当：中井） 第３回　教材研究(1)：基本的な教材研究の方法（担当：中井） 第４回　教材研究(2)：児童理解を踏まえた授業設計（担当：中井） 第５回　動画による授業観察：授業の構成要素と指導上の留意点（担当：中井） 第６回　学習指導案作成(1)：情報機器及び教材を活用した単元計画（担当：中井） 第７回　学習指導案作成(2)：情報機器及び教材を活用した本時案計画（担当：中井） 第８回　学習指導案作成(3)：学習評価とその支援（担当：中井） 第９回　単元計画プレゼンテーション（担当：中井） 第 10 回　模擬授業実践(1)：「話すこと・聞くこと」の模擬授業と授業分析（担当：中井） 第 11 回　模擬授業実践(2)：「書くこと」の模擬授業と授業分析（担当：中井） 第 12 回　模擬授業実践(3)：「読むこと」の模擬授業と授業分析（担当：中井） 第 13 回　書写指導の学習指導案作成（担当：福田） 第 14 回　書写の模擬授業と授業分析（担当：福田） 第 15 回　学びの振り返りと授業改善の視点（担当：中井）
テキスト	文部科学省『小学校学習指導要領解説　国語編』東洋館出版
参考文献	必要に応じてプリントを配付する
評価方法	小レポート課題（教材研究・学習指導案：20%）， 模擬授業課題（模擬授業実践：20%，自己評価・相互評価シート：20%） 最終レポート課題（国語科指導に関する基礎理論・学習指導要領を踏まえた単元計画作成：40%）， 授業態度（毎回の授業に関するコメントカードの内容：10%）
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（小学校教諭）での勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。

授業科目	初等社会科教育法						
担当教員	福間　敏之						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020300
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕						

授業の概要	社会科教育の理論と実践の考察を通して、すぐれた小学校社会科の授業を構想していく力量の育成を目指す。具体的には、社会認識と市民的資質の育成をはかる社会科授業理論について、多様な授業実践の分析・検討をもとに体系的かつ具体的に解説するとともに、受講生による学習指導案の作成を行い、その成果を模擬授業として発表・協議する
授業の 到達目標	・社会認識と市民的資質の育成を目指す小学校社会科教育の代表的な社会科授業理論を理解する。 ・子ども理解にもとづく教材研究、単元構成、授業設計を行う社会科授業構想力を習得する。
授業計画	授業計画 第１回　第１回　オリエンテーション－社会科は暗記教科か－ 第２回　小学校社会科の目標と内容－学習指導要領を読む－ 第３回　小学校社会科のカリキュラム－生活科と社会科の接続・発展－ 第４回　小学校社会科の教材と授業－社会科教科書を読み比べる－ 第５回　問題解決学習としての社会科授業の理論と実際 第６回　探究学習としての社会科授業の理論と実際 第７回　意思決定学習としての社会科授業の理論と実際 第８回　社会参加学習としての社会科授業の理論と実際 第９回　社会科授業分析の技法 第 10 回　社会科授業づくりの４つの視点 第 11 回　社会科の指導内容と教材研究－社会科としての情報機器や教材の活用方法－ 第 12 回　社会科の発問と評価 第 13 回　社会科学習指導案の作成－情報機器や教材を効果的に活用した授業設計－ 第 14 回　社会科学習指導案の発表－模擬授業①－ 第 15 回　社会科学習指導案の発表－模擬授業②－
テキスト	社会認識教育学会『小学校社会科教育』学術図書出版社（ISBN978-4-7806-0177-0）
参考文献	文部科学省『小学校学習指導要領解説　社会編』東洋館出版 その他、授業中に適宜紹介する。
評価方法	提出物（報告書・ノート・学習指導案）で上記の到達目標をそれぞれ５段階で評価し、それを総合評価したものを 60%、平常点を 40%として評価する。
自己学習に 関する指針	配付資料及び授業中に紹介した文献等を活用し，復習に役立てる。
履修上の 指導・留意点	学習指導案作成に関わるフィールドワークは授業時間外に実施することがあります。

授業科目	初等算数科教育法						
担当教員	齊藤一弥						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020310
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕						

授業の概要	教員として必要な小学校算数科の内容について，目標論・内容論・方法論・評価論という観点から，授業実践を基に考察する。そのため，我が国の算数教育の史的変遷及び諸外国の算数・数学教育の動向を基に，「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」領域に関する算数科の内容を理解すると共に，算数科の授業実践の在り方を考察・検討する。
授業の 到達目標	授業のテーマ：「小学校算数科の内容と授業実践の在り方の理解」 (1) 小学校算数科における「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」領域に関する算数科の内容を理解する。 (2) 算数科の各領域における資質・能力の育成に向けた具体的授業実践を考察・検討する。
授業計画	第１回　算数教育の目標と変遷 第２回　学習指導要領改訂の趣旨と算数教育 第３回　数学的活動の意義と活動性 第４回　数学的に考える資質・能力と数学的な見方・考え方 第５回　学習指導要領における算数的活動の具体例と授業構成 第６回　教材研究－「数と計算」領域の指導の背景①―整数と計算 第７回　教材研究－「数と計算」領域の指導の背景②―小数・分数と計算 第８回　教材研究－「図形」領域と「測定」領域の指導の背景 第９回　教材研究－「変化と関係」領域と「データの活用」領域の指導の背景 第 10 回　情報機器・教材の有効活用と授業設計および指導案作成 －「数と計算」領域の指導の実際①―整数と計算 第 11 回　情報機器・教材の有効活用と授業設計および指導案作成 －「数と計算」領域の指導の実際②―小数・分数と計算 第 12 回　情報機器・教材の有効活用と授業設計および指導案作成 －「図形」領域と「測定」領域の指導の実際 第 13 回　情報機器・教材の有効活用と授業設計および指導案作成 － 「変化と関係」領域と「データの活用」領域の指導の実際 第 14 回　模擬授業－これからの算数教育―新学習指導要領のねらいと授業実践－ 第 15 回　模擬授業－算数教育における評価 定期試験
テキスト	「小学校学習指導要領解説　算数編」文部科学省
参考文献	授業中，随時，適切な資料を配布したり，紹介したりする。
評価方法	小テスト・定期試験：８０%，レポート等：２０%
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（公立小学校・教育委員会事務局）での勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。

授業科目	初等理科教育法						
担当教員	高橋泰道						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020320
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕						

授業の概要	小学校理科における学習内容について、自然科学の体系である物理・化学・生物・地学の内容系統に即した具体的な事物・現象を理解した上で、観察や実験などの自然科学的方法を通した理科の授業を展開できる実践的な力を獲得する。また、実験器具の操作方法の習熟とその指導の方法、教材研究の方法、授業の設計や評価のために必要な理論と方法についても、模擬授業などにより実践的に理解を深める。具体的には、学習指導要領の変遷や理科の目標、内容の系統性について、また、学習指導要領改訂の背景や基本方針について学修する。また、理科の授業づくりに関わってのポイントを押さえると共に、それに基づいた学習指導案の作成及び、模擬授業を通して具体的な授業づくりについて学修する
授業の 到達目標	テーマ１　小学校学習指導要領に示された理科の目標及び内容 (1)学習指導要領に示された理科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。 (2)個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。 (3)理科の学習評価の考え方を理解している。 (4)当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。 テーマ２　理科における基礎的な学習指導理論及び授業設計 (1)子供の認識、思考及び学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。 (2)当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。 (3)学習指導案の構造を理解し、具体的な授業を想定した授業設計を行い、学習指導案を作成することができる。 (4)模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。
授業計画	第１回　小学校理科授業の現状（教師や子どもの実態） 第２回　小学校理科の学習指導要領の変遷 第３回　小学校理科教育の目標と見方・考え方 第４回　小学校理科教育で求める資質・能力 第５回　小学校理科の内容と系統性 第６回　小学校理科の内容と問題解決力 第７回　理科授業の指導法（問題解決過程）と評価 第８回　理科授業の指導法（多様な学習形態、学習方法、ＩＣＴ教育） 第９回　理科教育と環境教育、防災教育、ＥＳＤ教育 第 10 回　教材研究のあり方（地域素材の活用など） 第 11 回　学習指導案の書き方と作成 第 12 回　学習指導案の発表と協議 第 13 回　模擬授業と協議の仕方 第 14 回　模擬授業と協議による振り返り 第 15 回　まとめ 定期試験
テキスト	文部科学省『小学校学習指導要領』第４節理科、文部科学省『小学校学習指導要領解説 理科編』 授業をつくる! 最新小学校理科教育法 左巻 健男・山下 芳樹他著　学文社(2018.4) 適宜プリントも配布する。
参考文献	授業の中で紹介する
評価方法	授業レポート・提出物（40%），指導案（10%），期末試験（50%）などで総合的に評価する。
自己学習に 関する指針	テキストや配布資料，およびレジュメに記載された参考文献を読み，事前学修・事後学修に役立てる。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

履修上の 指導・留意点	質問は，その内容に応じて，授業時間中・オフィスアワー・e-mail で対応します。

授業科目	初等生活科教育法						
担当教員	木村　吉彦						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020330
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕						

授業の概要	小学校の教科「生活」について、実際の指導をどう考え、どう進めればよいのか、このことに迫ることを目標として講義と演習が展開される。実際の授業映像参観を経た後、学習指導案作りに取りかかる。生活科では、子ども理解の手法を大切にし、単元や授業構想を具体化して学習指導案として実践できることを到達目標とする。
授業の 到達目標	・生活科の教材研究に基づく教科特性理解（体験及び学習に基づく） ・指導案作成に基づく模擬授業実践実現＜人数によっては、教師役&子ども役になる可能性がある。時間設定も考える＞
授業計画	第１回　イントロダクション・各自紹介＜「生活科のめざすもの・生活科の思い出」記述＞ 第２回　教材研究：知ってますか？生活科の教科特性＜ＮＨＫ映像＞ 第３回　教材研究：生活科に基づく学校探検＜「探検バッグ」活用（情報機器の活用を含む）による大学生の学校探検＞ 第４回　教材研究：「体験」を通して学ぶ意味を考える＜グループディスカッションⅠ＞ 第５回　生活科の実際Ⅰ＜高志小の映像から学ぶ生活科の実践的教科特性＞ 第６回　生活科の実際Ⅱ＜高志小学校の実践の意味付け＞ 第７回　生活科の実際Ⅲ＜茅野市のスタートカリキュラムから学ぶ生活科の教科特性＞ 第８回　生活科の実際Ⅳ＜大手町小の スタートカリキュラムから学ぶ生活科の教科特性＞ 第９回　私の生活科指導案づくり⑴＜指導案作成への説明と単元設定＞ 第 10 回　私の生活科指導案づくり⑵＜各自の指導案づくり＞ 第 11 回　私の生活科指導案づくり⑶＜各自の指導案づくり・次回の模擬授業設定＞ 第 12 回　生活科模擬授業実施⑴＜探検単元・遊び単元＞ 第 13 回　生活科模擬授業実施⑵＜季節単元・飼育栽培単元＞ 第 14 回　生活科模擬授業実施⑶＜家族単元・成長単元＞ 第 15 回　生活科模擬授業の意味付け＜グループディスカッションⅡ＞
テキスト	木村吉彦『生活科の理論と実践−「生きる力」をはぐくむ教育のあり方−』（日本文教出版）
参考文献	文部科学省『小学校学習指導要領解説　生活編』（日本文教出版） 木村吉彦監修・茅野市教育委員会編『実践　接続期カリキュラム』（ぎょうせい）
評価方法	レポート（生活科の教科特性理解）（６０%）、模擬授業実践指導案（４０%）
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	初等音楽科教育法						
担当教員	梶間奈保　　岡田正樹						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020340
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕						

授業の概要	この授業では，小学校学習指導要領音楽科の内容を理解するために，主に４つに分けた音楽授業（歌唱・器楽・鑑賞・創作）について教材研究を踏まえた上で実践検討をしていく。実践検討では，教材についての理解を始め，歌唱，鑑賞および演奏の実演も行った上で，教科の目標や観点についても学びを深めていく。授業の後半では，前半の学びを活かしながら授業実践発表に向けて指導案の作成をグループワークを通して検討していく。それらを模擬授業として発表し，授業のねらいや観点，評価などについて理解を深め，現場実践へとつなげていく。
授業の 到達目標	小学校学習指導要領音楽科の目標及び内容の理解を深め，音楽活動の実践を踏まえた上で音楽教育の基本的な姿勢を学ぶことを目的とする科目である。 （1）初等音楽教育に関する目標，内容の理解 （2）音楽活動の計画を立て実践性の高い指導案の作成および検討を行う （3）音楽技能の向上および音楽表現や楽曲分析に対する視点を深める
授業計画	第１回　初等音楽科教育の概観と共通教材の理解　　（担当：梶間） 第２回　歌唱教材研究「春の小川」「ふるさと」「わらべうた」など（担当：梶間） 第３回　歌唱教材研究の実践検討（担当：梶間） 第４回　器楽教材研究　（担当：梶間） 第５回　器楽合奏のための編曲（担当：梶間） 第６回　器楽合奏の実演（担当：梶間） 第７回　鑑賞法教材研究および情報機器を使用した教材の活用（担当：梶間） 第８回　鑑賞法の実践検討（担当：梶間） 第９回　創造的音楽学習の概観及び教材研究（担当：岡田） 第 10 回　創造的音楽学習の事例検討（担当：岡田） 第 11 回　グループワーク①学習指導案の作成（担当：岡田） 第 12 回　グループワーク②準備と練習（担当：岡田） 第 13 回　各学年に応じた歌唱・鑑賞を中心とした模擬授業（学習指導案の発表）と評価　①指導案について（担当：岡田） 第 14 回　各学年に応じた器楽・音楽づくりを中心とした模擬授業（学習指導案の発表）と評価②評価の観点について（担当：岡田） 第 15 回　まとめ（担当：岡田・梶間） 定期試験
テキスト	テキストは使用せず、適宜資料プリントを配布
参考文献	文部科学省『小学校学習指導要領』第６節音楽、文部科学省『小学校学習指導要領解説』音楽編
評価方法	授業課題の取り組み状況や課題提出（50%），試験成績（50%）により評価する
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（保育者養成校認定　専門学校）での勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。

授業科目	初等図画工作科教育法						
担当教員	福井一尊　　妻藤純子						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020350
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕						

授業の概要	小学校学習指導要領図画工作科の目標および内容について理解し、児童の主体性や個性を引き出す学習指導の方法や評価のあり方を学ぶ。図画工作科固有の性格や意義、内包する諸課題について理解するとともに、指導展開する力を身に付ける。また、「共通事項」についての考え方を理解することと、鑑賞学習の意義と具体的な指導展開の技術を身につける。さらに学習指導案を作成し、模擬授業を行ったり受けたりすることを通して授業の分析や実践力を養う。
授業の 到達目標	・教職に就いたときに、自ら図画工作科の学習指導計画を立てる力を養う。 ・小学校における図画工作科の授業を実践していく力を身に付ける。
授業計画	第１回　図画工作教育の意義と目標（担当：妻藤） 第２回　図画工作科の内容と構成（担当：妻藤） 第３回　領域「A 表現」(1) 材料を基にした造形遊び　領域の特性と各学年の学習内容（担当：福井） 第４回　領域「A 表現」(2) 絵に表す　版に表す（担当：福井） 第５回　領域「A 表現」(3) 立体に表す（担当：福井） 第６回　領域「A 表現」(4) 工作に表す　デザインに表す（担当：福井） 第７回　領域「B 鑑賞」領域の特性と各学年の学習内容（担当：妻藤） 第８回　子供の発達や学びの連続性　（担当：福井） 第９回　図画工作科の評価（担当：妻藤） 第 10 回　「教材研究」図画工作科の材料、用具、技法について（担当：福井） 第 11 回　学習指導計画および学習指導案の作成（担当：妻藤） 第 12 回　学習指導案の作成　題材と指導、支援（担当：妻藤） 第 13 回　模擬授業①「低学年の『造形遊び』、『絵や立体に表す』、『鑑賞』および授業分析（担当：妻藤） 第 14 回　模擬授業②「中学年の『造形遊び』、『絵や立体に表す』、『鑑賞』および授業分析（担当：妻藤） 第 15 回　模擬授業③「高学年の『造形遊び』、『絵や立体に表す』、『鑑賞』および授業分析（担当：妻藤）
テキスト	文部科学省『小学校学習指導要領』第７節図画工作、文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』日本文教出版
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 藤江充・岩﨑由紀夫・水島尚樹『「図画工作科」指導法　理論と実践』日本文教出版 『図画工作科教科書』　１年～6 年　日本文教出版
評価方法	課題とする提出物(40%) 受講レポート(40%) 模擬授業および発表(20%)
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関および行政機関での勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を実施する。また、国内外の文化施設における芸術活動経験を生かしてより具体的、実践的な実技指導を展開する。

授業科目	初等家庭科教育法						
担当教員	多々納道子						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020360
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕						

授業の概要	この授業では、小学校家庭科授業を組み立てる知識・技術・方法を確実に習得するため、教員の説明だけでなく実践的・体験的活動を重視する。模擬授業を実施し、特に小学校教員に必要とされるコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力についても育成を図る。
授業の 到達目標	小学校家庭科教育の理論の理解と体験的活動を通して、小学校教員としての資質・能力の基礎を養う。次の４点の達成を目標とする。 １．小学校家庭科の基礎理解：小学校家庭科の目標や内容、方法等についての基礎を理解することができる。 ２．基礎的授業構成力：小学校家庭科の教材研究を踏まえて、学習指導案の作成並び評価計画を作成することを通して、授業を組み立てる基礎的能力を身につける。 ３．情報機器を活用した学習方法:家庭科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。 ４．模擬授業の体験：模擬授業を実施し、小学校家庭科の実践的指導力の育成を図る。
授業計画	第１回　家庭科教育の意義 第２回　家庭科のあゆみ（１）家事・裁縫教育 第３回　家庭科のあゆみ（２）家庭科の誕生と変革 第４回　子どもの生活実態と家庭科（１）生活の変化と子どもの実態 第５回　子どもの生活実態と家庭科（２）生活者としての子どもの発達と家庭科 第６回　家庭科の指導目標と評価（１）家庭科における学習指導の特徴 第７回　家庭科の指導法（多様な学習形態、学習法、ＩＣＴ教育） 第８回　家庭科とアクティブ・ラーニング（１）家庭科における学びの構造 第９回　家庭科とアクティブ・ラーニング（２）アクティブ・ラーニングの具体例 第 10 回　学習環境の整備と家庭科 第 11 回　特別支援教育およびキャリア教育の動向と家庭科 第 12 回　教材研究と指導案作成（１）物と事に係る内容 第 13 回　教材研究と指導案作成（２）人に係る内容 第 14 回　模擬授業と協議の仕方（物と事に係る内容） 第 15 回　模擬授業と協議による振り返り（人に係る内容） 定期試験
テキスト	「実践的指導力をつける家庭科教育法」、多々納道子・伊藤圭子編著、大学教育出版
参考文献	文部科学省「学習指導要領」第２章　各教科　第８節　家庭 文部科学省「小学校学習指導要領解説」 その他必要に応じて適宜紹介したり、配布したりする。
評価方法	試験５０%、提出物２０%、小テスト３０%で総合的に評価する。
自己学習に 関する指針	・配付資料、およびレジュメに記載された参考文献を読み、復習に役立てる。 ・課題意識を持って受講してください。
履修上の 指導・留意点	・受講者は前から詰めて着席してください。 ・質問は、その内容に応じて、授業中・e-mail で対応します。

授業科目	初等体育科教育法						
担当教員	梶谷朱美						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020370
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕						

授業の概要	小学校での体育科の授業づくりに焦点を当て、体育科の目標、内容及び各運動領域(保健領域も含む)の指導内容・方法等の基本的な考え方を理解することを目的とする。加えて、小学校での各学年に応じた具体的な体育の授業づくりの進め方（学習過程の考え方や学習計画、学習評価の方法）についても検討し、実際に教材研究、指導案作成、模擬授業を行っていく。
授業の 到達目標	(1)小学校における体育科の位置づけ、目的を理解する。 (2)小学校体育科の目標、内容、指導法を理解する。 (3)運動の特性と小学校体育科の学習過程・学習計画・学習評価の考え方を理解する。 (4)児童の発達段階や運動の特性に応じた授業づくりや教材研究を検討するとともに、体育科の学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。
授業計画	第１回　オリエンテーション　小学校における体育科の位置づけ（とらえ方） 第２回　学習指導要領における体育科の目標と内容 第３回　小学校児童の発達と体育科 第４回　体育科の内容と運動の特性 第５回　体育科の学習内容と系統性、指導法（体つくり運動・ゲーム・ボール運動） 第６回　体育科の学習内容と系統性、指導法（表現運動・器械運動） 第７回　体育科の学習内容と系統性、指導法（陸上運動・水泳） 第８回　保健の学習内容と系統性、指導法 第９回　体育の指導計画（年間計画・単元計画・一単位時間の計画） 第 10 回　体育の学習形態と学習環境、及び教育機器の整備と活用 第 11 回　体育の学習評価及び情報機器を活用した評価の方法 第 12 回　教材研究、学習指導案の作成 第 13 回　学習指導案の発表、討議 第 14 回　模擬授業、討議 第 15 回　模擬授業のまとめ 定期試験
テキスト	・文部科学省「小学校学習指導要領解説-体育編-」 ・初等体育授業づくり入門　岩田靖・吉野聡・日野克博・近藤智靖編著　大修館書店　1700 円+税
参考文献	・文部科学省「中学校学習指導要領解説-保健体育編-」 ・文部科学省「高等学校学習指導要領解説-保健体育編-」 ・「幼稚園教育要領解説」 ・「保育所保育指針」
評価方法	・平常点：毎回授業時に課す課題への回答（40%） ・課題レポート：小学校体育科の目標や内容などを概観する課題への評価（20%） ・試験：講義内容に関する理解度を論述にて評価（40%）
自己学習に 関する指針	1 回の授業ごとに予め課題をだし、課題解決型の授業を行う。
履修上の 指導・留意点	運動のできる服装、シューズを準備すること。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、小学校及び教育委員会保健体育課での勤務経験を活かしてより具体的、実践的な授業を進め教員免許取得に関する授業を展開する。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	初等外国語（英語）教育法Ⅰ						
担当教員	Lange Kriss Alexander						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020373
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕						

授業の概要	小学校英語教育の基本的な理論や指導法を理解することを目標とする。理論と実践の両面からアプローチすることで理解を深めていく。子どもの第二言語習得の仕組みを学び、言語能力を向上させるためのいくつかの方法を学ぶ。小学校英語教育のための教材・絵本を使った英語教育・手遊び・歌・コミュニケーションに関連した英語表現などの具体的な教材や指導法を学ぶことで、外国語活動を指導する能力を身につける。また、学んだ教材や指導法を学生同士で使って練習したり発表したりすることで、実践力を身につける。
授業の 到達目標	外国語を通じて、他国の言語や文化についての理解を深めるとともに、小学校英語教育の基本的な理論や教育法を学ぶ。言語能力を向上させるための方法や、コミュニケーションをとるための具体的な方法を学習し実践してみることで、子どものための「外国語」の基本を身につける。
授業計画	第１回　小学校英語教育と授業法について 第２回　Total Physical Response について 第３回　アルファベット・フォニックス指導について 第４回　英語の歌や手遊び等を使った指導法について 第５回　Listening ／Speaking 指導について 第６回　コミュニケーションに関連した英語表現を学ぶ 第７回　Reading／Writing 指導について 第８回　多読法・多聴法について 定期試験
テキスト	小学校英語教育法入門（樋口 忠彦）研究社
参考文献	はじめての英語の歌（大野 恵美）学習研究社 小学校学習指導要領　第２章・第 10 節　外国語（文部科学省） 小学校学習指導要領解説　外国語編（文部科学省）
評価方法	授業への取り組む姿勢・・・40 点 ペアワーク、グループワーク・・・30 点 定期試験・・・30 点
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（高等学校）での勤務経験を生かして、より具体的、実践的な授業を展開する。

授業科目	初等外国語（英語）教育法Ⅱ						
担当教員	Lange Kriss Alexander						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020376
免許資格関連事項	○小学校教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕						

授業の概要	今まで学習した小学校英語教育に必要な教授法、テクニックなどを使い、実際に小学校で模擬授業を行うことを目標とする。まず、初等外国語（英語）教育法Ⅰで学んだ知識をもとに、実際の小学校英語授業映像を視聴したり、担当教員による授業を体験することで、小学校英語教育法への理解を深める。次に、模擬授業の計画・準備をし、自分たちでレッスンプランを作り、実際に小学校に出かけて授業を行う。その後は、模擬授業を振り返り、改善点を考える。
授業の到達目標	今まで学習した小学校英語教育に必要な教授法、テクニックなどを使い、実際の模擬授業にむけて、計画・準備をおこない、小学校で模擬授業をする。
授業計画	第１回　授業実践に向けて 第２回　教員による授業の実演を体験（ストーリーテリング・アクティビティ・ICT の活用） 第３回　模擬授業の計画（その１：内容の選定） 第４回　模擬授業の計画（その２：アクティビティの選定） 第５回　模擬授業の準備（その１：効果的な英語での語りかけ） 第６回　模擬授業の準備（その２：クラス内での実演と評価） 第７回　模擬授業 第８回　振り返りと改善
テキスト	ストーリーと活動を中心にした小学校英語　アレン玉井光江　小学館集英社プロダクション
参考文献	小学校英語教育法入門（樋口 忠彦）研究社 小学校学習指導要領　第２章・第 10 節　外国語（文部科学省） 小学校学習指導要領解説　外国語編（文部科学省）
評価方法	授業への取り組む姿勢・・・40 点 ペアワーク、グループワーク・・・30 点 模擬授業の評価・・・30 点
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（高等学校）での勤務経験を生かして、より具体的、実践的な授業を展開する。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	道徳の理論と指導法(小)						
担当教員	時津　啓						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020393
免許資格関連事項	○小学校教諭一種免許状 ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 〔道徳の理論及び指導法〕						

授業の概要	道徳の本質や歴史、道徳性の発達段階、を具体的に考え、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。さらに小学校学習指導要領にしたがい小学校道徳科の目標や内容に関する理解を深める。また、小学校道徳科における指導計画や指導方法、授業設計の方法や特徴を理解し、それらを踏まえた授業計画を構想する。そして、小学生が抱える問題を踏まえたうえで、学習評価や模擬授業の原則や方法を理解し、振り返りを通した継続的な授業改善の必要性を理解する。
授業の到達目標	道徳の意義や原理を理解し、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる小学校における特別の教科道徳科の目標、内容、指導計画等を理解する。さらに小学校教育の特殊性を踏まえたうえで、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業を通して実践的な指導力を修得する。それらを通して、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的に判断し行動できる道徳性を育成する方法を身に付ける。
授業計画	第１回　道徳とは何か－社会的ルールとの差異から 第２回　現代社会における道徳教育の課題－いじめ、SNS、情報モラル 第３回　道徳教育の歴史－戦後を中心に 第４回　道徳性の発達－コールバーグ、ピアジェ 第５回　心の問題としての道徳教育－『心のノート』『私たちの道徳』をめぐる議論から 第６回　学校教育における道徳教育（１）－小学校教育における道徳科の概要(目標、内容、評価) 第７回　学校教育における道徳教育（２）－小学校教育における道徳科の位置(教育活動全体を通じた指導、他教科、他領域との関連) 第８回　道徳科の指導法（１）－モラルジレンマ（教材研究、指導案、模擬授業を含む） 第９回　道徳科の指導法（２）－話し合い活動（教材研究、指導案、模擬授業を含む） 第 10 回　事例・研究 —「いのち」「人権」の授業実践を手がかりに 第 11 回　指導計画の作成－全体計画、年間計画 第 12 回　道徳科授業の作成－教材研究、学習指導案 第 13 回　模擬授業の実施と振り返り 第 14 回　学級経営と道徳教育－小学校担任の特殊性に注目して 第 15 回　道徳科の評価 定期試験
テキスト	丸山恭司『道徳教育指導論』協同出版 文部科学省『小学校学習指導要領』（平成 29 年 3 月告示） 文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』（平成 29 年 6 月）
参考文献	渡邉満他『小学校における「特別の教科 道徳」の実践』北大路書房
評価方法	定期試験(50%)、毎回の授業レポート(50%)
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	総合的な学習の時間の指導法						
担当教員	高橋　泰道						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020396
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状 ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 〔総合的な学習の時間の指導法〕						

授業の概要	本科目は、教職課程の「総合的な学習の時間等の指導法」に関する必修科目である。 本授業の目標は、総合的な学習の時間において、各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成及び具体的な指導の仕方並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付けることである。具体的には、総合的な学習の時間の意義及び教育課程において果たす役割や、総合的な学習の時間の目標並びに各学校で目標及び内容を定める際の考え方及び留意点、各教科等との関連性を図りながら総合的な学習の時間の年間指導計画を作成することの重要性について理解する。また、主体的・対話的で深い学びについての理解を深め、それを実現するような総合的な学習の時間の単元計画・指導案を作成するとともに、探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立てや児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点について理解できるようにする。
授業の 到達目標	テーマ１　総合的な学習の時間の意義と原理 (1)総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割について、教科を越えて必要となる資質・能力の育成の視点から理解している。 (2)学習指導要領における総合的な学習の時間の目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点を理解している。 テーマ２　総合的な学習の時間の指導計画の作成 (1)各教科等との関連性を図りながら総合的な学習の時間の年間指導計画を作成することの重要性と、その具体的な事例を理解している。 (2)主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元計画を作成することの重要性とその具体的な事例を理解している。 テーマ３　総合的な学習の時間の指導と評価 (1)探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立てを理解している。 (2)総合的な学習の時間における児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解している。
授業計画	第１回　講義の概要と視点（オリエンテーション）(45分間) 第２回　「総合的な学習の時間」の背景と実践の現状把握 第３回　「総合的な学習の時間」のねらいと意義・教育課程への位置付け 第４回　「総合的な学習の時間」の学習原理と計画・実践・評価のプロセス 第５回　「総合的な学習の時間」のテーマ設定と各教科・他領域との関連と年間計画の作成 第６回　「総合的な学習の時間」の単元構成の在り方と実際 第７回　「総合的な学習の時間」の指導案の作成 第８回　「総合的な学習の時間」における授業の実際 定期試験
テキスト	小学校学習指導要領　第５章 総合的な学習の時間（平成29年３月　文部科学省） 小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編（平成29年６月　文部科学省） 「総合的な学習の時間・総合的な探究の時間の新展開」朝倉淳・永田忠道 共編著（平成31年４月　学術図書出版社）
参考文献	授業の中で適宜配付したり、紹介したりする。
評価方法	定期試験（40%）、単元計画・指導案（30%）、事後学修（各回の小レポート）(30%)
自己学習に 関する指針	

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

履修上の 指導・留意点	

授業科目	特別活動の指導法（小）						
担当教員	高旗　浩志						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020400
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状≪教科に関する科目≫ ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 〔特別活動の指導法〕						

授業の概要	望ましい集団活動を通して、心身の調和をとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。
授業の 到達目標	・特別活動の目的と授業を構成する力を養う。
授業計画	第１回：授業の目標と特別活動の概要・教育的意義 第２回：初等教育における内容相互、他教科等との関連 第３回：初等教育における学級活動の目標と内容 第４回：児童会活動の目標・内容・指導計画 第５回：クラブ活動の目標・内容・指導計画 第６回：初等教育における学校行事の目標・内容・指導計画 第７回：指導計画作成に当たっての配慮と指導案作成（教材研究を含む） 第８回：初等教育における特別活動における評価 定期試験
テキスト	『生きる力を育む特別活動　―個が生きる集団活動を創造する』（ミネルヴァ書房）、新富康央・須田康之・高旗浩志編著 『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　特別活動編』（東洋館出版社 ）
参考文献	『小学校学習指導要領解説　特別活動編』
評価方法	平常点 30 点、定期試験 70 点
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

人間文化学部・保育教育学科
（令和 2 年入学生用）

授業科目	教育方法論(小・幼)						
担当教員	時津　啓、加藤　明、深見俊崇						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態		選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M2020380
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状 ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 〔教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。)〕 ○小学校教諭一種免許状 ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 〔教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。)〕						

授業の概要	教職の基礎となる幼稚園や小学校における教育方法の特色を理解し、小学校や幼稚園で行われる教育実践を具体的に知り、指導と評価の方法を理解することを目的とする。
授業の 到達目標	小学校・幼稚園の教員免許取得に必要な「教育課程及び指導法に関する科目」に対応する科目である。 (1) 幼稚園における幼児を主体とした教育方法の視点と、個別理解や学級経営などの子どもの育ちを支える指導方法と評価方法を具体的に理解する。 (2) 小学校における教育方法の具体的内容を知り、授業開発や教材研究、教育方法の工夫や教育評価の視点を身につける。 (3) 幼児期から学童期にいたるまでの教育における情報機器の活用方法、情報モラルやメディア教育のあり方を理解する。
授業計画	第１回　授業の設計と計画ー単元計画と学習指導案の実際　（担当：深見） 第２回　授業分析の意義と方法、教育評価　（担当：深見） 第３回　学習指導の方法・技術　（担当：深見） 第４回　情報機器の活用とマルチメディア教育　（担当：深見） 第５回　情報機器の活用とコンピュータを利用した学習　（担当：深見） 第６回　情報機器の活用と教師の働きかけ―メディア教育における教材と環境構成（担当：時津） 第７回　児童による主体的メディア利用―イギリスの教育実践の分析（担当：時津） 第８回　メディア（SNS 等）を活用した授業実践と児童の情報モラル・情報リテラシーの育成（担当：時津） 第９回　教育方法を支える原理としての「目標と指導と評価の一体化」からみた小学校教育及び保育の指導のあり方（担当：加藤） 第 10 回　教育方法と教育課程・カリキュラムの関係及び、小学校教育と保育の教育課程の構造について（担当：加藤） 第 11 回　小学校教育及び保育のカリキュラムマネジメントと形成的評価（担当：加藤） 第 12 回　授業及び保育の指導に求められるコンピテンシー　ー教材研究から誤答分析までー（担当：加藤） 第 13 回　アクティブ・ラーニングからディープ・ラーニングへ　ー学力の 3 要素によるアクティブ・ラーニング型と講義型の単元による統合ー（担当：加藤） 第 14 回　保育・生活科から総合的な学習へと発展する「自らの学びの力」をストレートに育むカリキュラム開発及び指導と評価のあり方（担当：加藤） 第 15 回　総括（担当：加藤）
テキスト	小学校学習指導要領、幼稚園教育要領を参照する。 加藤明、『「開く」授業の創造による授業改革からカリキュラム・マネジメントによる学校改革へ』　文溪堂、平成 28 年
参考文献	稲垣忠・鈴木克明『授業設計マニュアル Ver. 2』北大路書房, 2015 上記のほか参考文献等は、授業の中で適宜提示するとともに、必要に応じてプリントなどを配布する。
評価方法	成績は、課題・演習レポートから総合的に判断する。
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	幼児理解の理論と方法						
担当教員	園山繁樹　　菊野雄一郎						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020410
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 〔幼児理解の理論及び方法〕 ○保育士資格						

授業の概要	幼児理解の基盤となる発達心理学、臨床発達心理学等の理論を学修し、幼稚園教諭の専門性としての幼児理解のあり方を、行動科学的に学ぶ。保育現場での臨床的な対象理解の具体的な技法として、行動観察法、質問紙法、検査法、面接のあり方、を理解し、教育相談のためのカウンセリングマインドの基礎を学ぶ。さらに、幼児理解の事例検討を通して教育的支援のあり方を学修する。また、特別支援教育、幼小接続における幼児理解のあり方についても検討する。
授業の 到達目標	1. 幼児期の行動を客観的にとらえて理解するための手法を学ぶ。 2. 幼児期の困った行動の理解を通して、教育的支援のあり方を学ぶ。 3. 幼小接続期の幼児理解と支援のあり方を学ぶ。
授業計画	第１回　幼児期の発達の標準と個人差　（担当：菊野） 第２回　幼児期の心の世界ー他者の感情の理解　（担当：菊野） 第３回　幼児期の心の世界ーうそやだまし　（担当：菊野） 第４回　幼児期の心の世界ー幼児の性格特性　（担当：菊野） 第５回　行動からの子ども理解ー行動観察の手法　（担当：菊野） 第６回　行動からの子ども理解ー保育者の質問紙法　（担当：菊野） 第７回　行動からの子ども理解ー発達検査法の理解　（担当：菊野） 第８回　幼児の行動観察と発達検査法の実例　（担当：菊野） 第９回　幼児理解と保護者支援ーカウンセリングマインド　（担当：園山） 第 10 回　幼児期の困った行動のとらえ方　（担当：園山） 第 11 回　困った行動の事例分析ー自閉症スペクトラム　（担当：園山） 第 12 回　困った行動の事例分析ー多動・暴力　（担当：園山） 第 13 回　困った行動の事例分析ー場面緘黙（担当：園山） 第 14 回　幼児期の個別の教育支援計画と指導計画　（担当：園山） 第 15 回　小学校と連携した移行支援教育（担当：園山） 定期試験
テキスト	適宜プリント資料等を配布する。
参考文献	宮本信也監修、園山繁樹、下泉秀夫、三角輝見子、宮本信也著、『発達障害のある子の理解と支援　DSM-5 改訂対応版』母子保健事業団刊 文部科学省『幼稚園教育指導資料第３集　幼児理解と評価』　ぎょうせい 文部科学省『幼稚園教育指導資料第５集　指導と評価に生かす記録』　チャイルド本社
評価方法	・レポート（２回分）＝20% ・定期試験＝80%
自己学習に 関する指針	・乳幼児の発達、育児、保育、教育等に関する新聞記事等を積極的に読むことが望ましい。
履修上の 指導・留意点	・質問は受講生全員で共有するために、できるだけ授業中にしてください。 ・なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、統合保育を行っている幼稚園でのカウンセラーとしての勤務経験、公立教育相談センターでの相談員としての勤務経験、大学教育相談室での障害児に関する臨床経験があり、その経験を活かしてより具体的、実践的な授業を展開する。

授業科目	教育相談の基礎と方法（小・幼）						
担当教員	山田洋平						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M2020420
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 〔教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法〕 ○小学校教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 〔教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法〕 ○保育士資格						

授業の概要	教育相談とは，カウンセリングの考えや技法を活用した教師による教育活動である。本授業では，教育活動や教育現場に関連する心理的知見を幅広く紹介する。具体的には，学校におけるいじめや不登校などの問題行動についての理解と対応，主な発達障害の理解と対応および特別支援教育の在り方について，およびカウンセリングの基礎，保護者支援のあり方について学習する。そして，教育現場で実践される様々な教育活動の意味や背景を理解する。
授業の 到達目標	・教育相談に関する教育現場の現状を理解することができる。 ・授業で取り上げた発達および教育相談の知識を理解することができる。 ・学習した発達および教育相談の知識と教育現場での実践とのつながりを理解することができる。
授業計画	第１回　オリエンテーション　授業の概要説明，教育相談とは 第２回　問題行動の理解　問題行動の基準 第３回　いじめの理解と対応（１）　いじめの様相 第４回　いじめの理解と対応（２）　いじめの対応 第５回　不登校の理解と対応（１）　不登校の様子とメカニズム 第６回　不登校の理解と対応（２）　不登校の対応 第７回　発達障害の理解（１）　主な発達障害について 第８回　発達障害の理解（２）　特別支援教育について 第９回　カウンセリングの基礎　カウンセリングの諸理論について 第 10 回　カウンセリングの実際（１）　カウンセリング・マインドについて 第 11 回　カウンセリングの実際（２）　カウンセリングの進め方 第 12 回　カウンセリングの基礎的演習（１）　基本的な応答技法 第 13 回　カウンセリングの基礎的演習（２）　非言語情報を用いた演習 第 14 回　保護者支援　保護者に対する援助 第 15 回　まとめ　授業の振り返りとまとめ 定期試験
テキスト	指定しない。適宜資料を配布する。
参考文献	指定しない。適宜紹介する。
評価方法	定期試験（50%），提出物（50%）
自己学習に 関する指針	・配布資料および記載された参考文献を読み、復習に役立てる。
履修上の 指導・留意点	・授業中のグループワークには積極的に参加すること。

授業科目	生徒・進路指導の理論と方法（小）						
担当教員	山田洋平						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020430
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目 〔生徒指導の理論及び方法〕 〔進路指導の理論及び方法〕						

授業の概要	生徒指導・進路指導に関する知識の習得と意義の理解をする。生徒指導については，教育現場で問題化しているいじめ，不登校，暴力行為などの生徒指導上の課題について，実態や背景，原因などの理解を深める。そして，現在の生徒指導における様々な課題に対する解決方法を考える。進路指導については，職業選択に関する基礎的知識の理解とともに，学校のガイダンス機能と指導方法について理解する。これらを通して，教師に求められる役割を理解するとともに，教師としての態度や価値観などの資質向上をめざす。
授業の 到達目標	・生徒指導・進路指導に関する教育現場の現状を理解することできる。 ・授業で取り上げた生徒指導・進路指導の知識を理解することができる。 ・生徒指導・進路指導に関する知識を教育現場でどのように活用できるか，自分の考えを提案することができる。
授業計画	第１回　オリエンテーション　授業の概要説明 第２回　生徒指導とは　生徒指導とは何か 第３回　生徒指導と教育課程　生徒指導と教育課程との関連について 第４回　児童・生徒理解の基本と方法　生徒指導における児童・生徒理解について 第５回　生徒指導と学級経営　生徒指導における学級経営について 第６回　進路指導・キャリア教育（１）　生徒指導と進路指導・キャリア教育との関連について 第７回　進路指導・キャリア教育（２）　生徒指導における進路指導について 第８回　進路指導・キャリア教育（３）　生徒指導におけるキャリア教育について 第９回　学校における生徒指導体制　学校における生徒指導体制について 第 10 回　生徒指導の進め方（１）　全体に対する生徒指導について 第 11 回　生徒指導の進め方（２）　少年非行等への個別の生徒指導について 第 12 回　生徒指導の進め方（３）　様々なトラブルへの個別の生徒指導について 第 13 回　生徒指導に関する法制度等　生徒指導に関する法制度や近年の動向について 第 14 回　生徒指導における学校・家庭・地域の連携　生徒指導における学校内外の連携について 第 15 回　まとめ　授業の振り返りとまとめ 定期試験
テキスト	生徒指導提要（文部科学省）
参考文献	指定しない。適宜紹介する。
評価方法	定期試験（50%），提出物（50%）
自己学習に 関する指針	・配布資料および記載された参考文献を読み、復習に役立てる。
履修上の 指導・留意点	・授業中のグループワークには積極的に参加すること。

授業科目	音楽基礎Ⅰ（ピアノ）						
担当教員	白川浩　白川千春　代香織						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	1	配当期	通年
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020580
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教科又は教職に関する科目≫ ○小学校教諭一種免許状≪教科又は教職に関する科目≫ ○保育士資格						

授業の概要	[授業の目的・ねらい] 本科目は小学校、幼稚園、認定こども園及び保育所における音楽活動を具体的に想定しながら、教育音楽と音楽表現に関する基礎的なピアノ演奏技能の修得を目的とする。 [授業全体の内容の概要] 本科目はピアノ実技習得を目的としており、学生の習熟度に応じた個別指導が主となる。下記のとおり平均的な習熟度のモデルでバイエル第 100 番までを修得することを目標とし、加えて基本的なコード奏法を学修する。 授業は習熟度が同程度の 3～4 人を 1 グループとして編成し、個別指導並びにグループ指導を受ける。週 1 回各グループ 1 時間ずつ、担当教員 3 名により 3 部屋で同時に行う。なお、ピアノ既習者には到達目標を踏まえた上、習熟度に応じて上位の課題を行う。
授業の 到達目標	１．「バイエルピアノ教則本」（以下、バイエルと記す）の第 1 番から第 100 番までの曲目が演奏できる。 ２．指定する唱歌及び童謡について簡易なコード奏法により 10 曲程度演奏できる。 ３．表情豊かなピアノ演奏ができる。 ４．幼児教育及び小学校教育におけるピアノ演奏上の留意点が説明できる。
授業計画	【春学期（15 回：15 時間）】 第１回　″授業のテーマ・目標・実施方法の説明 習熟度調査の実施及びグループ編成の発表と課題曲の指示″ 第２回　バイエル 7 8 10 16 第３回　バイエル 19 20 22　「メリーさんのひつじ」旋律奏 第４回　バイエル 23 24 29　「ちょうちょう」旋律奏 第５回　バイエル 30 31 36　「ぶんぶんぶん」旋律奏 第６回　ピアノの弾き方の基本Ⅰ「姿勢　手指と腕の準備運動　指の運動　打鍵　基礎練習方法」 第７回　バイエル 37 39 40 第８回　バイエル 46 47 48 第９回　バイエル 49 50 52 「メリーさんのひつじ」コード奏 第 10 回　バイエル 53 55 第 11 回　バイエル 56 57 58 第 12 回　バイエル 59 60 「ちょうちょう」コード奏 第 13 回　バイエル 61 62 第 14 回　バイエル 65 66 「ぶんぶんぶん」コード奏 第 15 回　総合復習 バイエル no. 55～66 から 5 曲を演奏し、コード奏で 1 曲演奏する 期末実技試験 【秋学期（[15 回：15 時間)】 第１回　ピアノの弾き方の基本Ⅱ「児童･幼児の音楽活動におけるピアノの役割」 第２回　バイエル 72 73 第３回　バイエル 74 75 第４回　バイエル 76 77 「小犬のマーチ」コード奏 第５回　バイエル 78 79 「山の音楽家」コード奏 第６回　バイエル 80 「かっこう」コード奏 第７回　バイエル 81 「かたつむり」コード奏 第８回　バイエル 82 「日の丸」コード奏 第９回　バイエル 88 90 91 第 10 回　バイエル 93 94 第 11 回　バイエル 96 「むすんでひらいて」コード奏

	第 12 回　バイエル 97 「きらきら星」コード奏 第 13 回　バイエル 98 「たなばたさま」コード奏 第 14 回　バイエル 100 「うみ」コード奏 第 15 回　バイエル no. 80～100 を演奏し、指定する唱歌・童謡をコード奏する 期末実技試験
テキスト	○標準バイエルピアノ教則本（全音楽譜出版社） ○やさしく弾ける/ピアノ・ソロ文部省唱歌・童謡集 新装版 松原 美子 ケイ・エム・ピー ○幼児のための音楽教育　神原雅之　教育芸術社 ○個々の能力に応じて担当教員が編曲した楽譜を渡すことがある
参考文献	
評価方法	期末実技試験及び習熟度の伸び等を総合して評価する。
自己学習に関する指針	自身で練習時間を設定し、毎日弾くことを勧めます。
履修上の指導・留意点	

授業科目	音楽基礎Ⅱ（ピアノ）						
担当教員	白川浩　　白川千春　　代香織						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	2	配当期	通年
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020590
免許資格関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教科又は教職に関する科目≫ ○小学校教諭一種免許状≪教科又は教職に関する科目≫ ○保育士資格						

授業の概要	[授業の目的・ねらい] 　本科目は小学校、幼稚園、認定こども園及び保育所における音楽活動でのピアノ演奏・ピアノ伴奏及び弾き歌いの適切なあり方について説明できると共に、教育の実際に即応することのできるピアノと歌唱についての技能および豊かな音楽表現の修得を目的とする。 [授業全体の内容の概要] 　本科目は実技習得を目的としており学生個々の習熟度に応じた個別指導を主とする。授業は音楽基礎Ⅰ（ピアノ）と同じく、習熟度が同程度の 3～4 人を 1 グループとして編成し、個別指導を受けると共に他者の受講を聴講する形態とし、週 1 回各グループ 1 時間ずつ、担当教員 3 名により 3 部屋で同時に行う。なお、ピアノ独奏曲課題は、学生個々の習熟度に応じた楽曲とする。以下は平均的な習熟度のモデルによる授業計画である。
授業の到達目標	1．前期末に課題とする弾き歌い楽曲および行進曲の全てを演奏する事ができる。 2．小学校教育におけるピアノによる弾き歌いに関する留意点について説明できる。 3．唱歌・童謡をピアノ伴奏する際の留意点について説明できる。 4．前期末には 1 曲のピアノ独奏曲を表情豊かに演奏することができる。 5．後期末にダンパーペダルを用いた歌曲伴奏とピアノ独奏曲を演奏することができる。
授業計画	【前期（15 回：15 時間）】 第 1 回　授業テーマと目標のガイダンス及び課題曲の概説 第 2 回　「うみ」「とんぼのめがね」フレーズの理解とスラー技術 第 3 回　「春がきた」「春の小川」フレーズの理解とスラー技術 第 4 回　「さくら」「ひらいたひらいた」日本旋法の理解と演奏法 第 5 回　「かくれんぼ」「やきいもグーチーパー」遊び歌の演奏法と歌唱法 第 6 回　「茶つみ」「バスごっこ」遊び歌の演奏法と歌唱法 第 7 回　「かたつむり」「おつかいありさん」 2 種類の付点音符の演奏技術 第 8 回　「虫の声」「たきび」曲調の違いを弾き分ける技術 第 9 回　「夕やけこやけ」「ふしぎなポケット」ダンパーペダルの使用法 1 第 10 回　「夕やけこやけ」「ふしぎなポケット」ダンパーペダルの使用法 2 第 11 回　「線路は続くよどこまでも」「小犬のマーチ」行進曲の演奏法 第 12 回　「線路は続くよどこまでも」「小犬のマーチ」行進曲の演奏法と応用Ⅰ 第 13 回　第 2 回～第 12 回の総合復習（1） 第 14 回　第 2 回～第 12 回の総合復習（2） 第 15 回　第 2 回～第 12 回の総合復習（3） 期末実技試験 【後期（15 回：15 時間）】 第 1 回　前期学習の確認と後期授業テーマ及び目標のガイダンス 第 2 回　「ふじの山」「どんぐりころころ」スタカートの技術　詩情の演奏表現法 第 3 回　「日の丸の旗」「子もり歌」「うさぎ」日本旋法の演奏上の理解と表現法 第 4 回　「鯉のぼり」「こいのぼり」 3 拍子と 4 拍子の拍子感覚 第 5 回　「浜辺の歌」「もみじ」豊かなイメージ力を伴う演奏　ダンパーペダルの使用法 3 第 6 回　「子どもの世界」「線路は続くよどこまでも」「小犬のマーチ」行進曲の演奏法と応用Ⅱ 第 7 回　「スキーの歌」「冬げしき」 3 拍子と 4 拍子の拍子感覚　表現力豊かな演奏 第 8 回　「われは海の子」楽曲理解と演奏 1　ピアノ独奏曲（1 回目） 第 9 回　「おぼろ月夜」楽曲理解と演奏 2　ピアノ独奏曲（2 回目） 第 10 回　「ふるさと」楽曲理解と演奏 3　ピアノ独奏曲（3 回目） 第 11 回　唱歌･童謡復習（1）ピアノ独奏曲（4 回目）

	第 12 回　唱歌･童謡復習（2）ピアノ独奏曲（5 回目） 第 13 回　唱歌･童謡復習（3）ピアノ独奏曲（6 回目） 第 14 回　唱歌･童謡復習（4）ピアノ独奏曲（7 回目） 第 15 回　幼稚園から小学校第 6 学年までの音楽教材楽曲のピアノ演奏に関する総括 期末実技試験
テキスト	
参考文献	1. やさしく弾ける/ピアノ・ソロ文部省唱歌・童謡集 新装版 松原 美子 ケイ・エム・ピー 2. 幼児のための音楽教育　神原雅之　教育芸術社 3. 適宜、個別に課題楽曲を提示する。
評価方法	個々の能力に応じて担当教員が編曲した楽譜を渡すことがある。
自己学習に関する指針	期末実技試験及び習熟度の伸び等を総合して評価する。
履修上の指導・留意点	自身で練習時間を設定し，毎日弾くことを勧めます。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	教育実習Ⅰ（幼稚園）指導						
担当教員	小山優子　青山啓子						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020600
免許資格関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育実習						

授業の概要	・実習前の指導では、「教育実習Ⅰ（幼稚園）指導」「教育実習Ⅰ（幼稚園）」を担当する専任教員と教職課程に係る人材育成に実績を有する兼任教員（以下、合わせて「実習担当教員」）により、幼稚園の教育実習に向け、実習生としての心構えを確認するとともに、幼稚園の活動を具体的に知るなどの事前指導を行う。また、実習日誌の書き方や指導計画の作成などの保育文書の実際についても、講義や指導計画の立案課題を通して学ぶ。 ・実習終了後は、実習担当教員により実習の反省や自己評価などの事後指導を行う。
授業の到達目標	(1) 教育実習を行うための心構えや実習内容を理解し、責任感と行動力を身につける。 (2) 実習日誌などの文書の書き方を理解する。 (3) 部分指導案や日案などの書き方を理解し、指導計画を立案する力を身につける。
授業計画	（事前指導） 第１回　幼稚園教育実習の概要（青山） 第２回　実習に向けての心構え、実習での文書の取り扱い（青山） 第３回　実習における実習日誌や指導案の書き方（青山） 第４回　実習日誌の書き方、ビデオ視聴（小山） 第５回　部分指導案の書き方、ビデオ視聴（小山） 第６回　日案の書き方、ビデオ視聴（小山） 第７回　実習における保育実践の方法、ビデオ視聴（小山） （中間・事後指導） 第８回　実習の報告と事後指導（小山）
テキスト	島根県立大学保育教育学科. 編『実習の手引き』と『教育実習実施要領』に基づき、実習指導を行う。 また「実習日程表」「出勤簿」「実習日誌」「指導案用紙」などを配布する。
参考文献	参考文献などは授業の中で適宜提示するとともに、必要に応じてプリントなどを配布する。
評価方法	成績は、出席状況、課題レポート、実習に対する意欲なども含め、総合的に評価する。 教育実習指導の講義に１回でも欠席した場合は教育実習を受けさせないため、必ず、教育実習指導の欠席した回の補講を受ける。また課題レポートの提出が、単位認定の最低条件となる（提出物の遅れやレポートの未提出については、総合点から減点する。未提出の場合は、単位を認定しない）。
自己学習に関する指針	幼稚園教諭になるための教育実習を行う前の事前・事後指導である。実習中に活かせる知識技能を身につけることを目的とするため、実習に対する意欲を高めるつもりで履修すること。
履修上の指導・留意点	履修対象は、保育教育学科の幼稚園教諭一種免許取得者のみ。

授業科目	教育実習Ⅰ（幼稚園）						
担当教員	小山優子　　青山啓子						
科目分類	専門基幹	授業時間	180	配当年次	3	配当期	通年
授業形態	実習	選択/必修	選択	単位数	4	授業コード	M2020610
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育実習						

授業の概要	・前半に実施する実習は、見学・観察・参加実習が主となるが、指導的立場で保育を部分的に担う責任実習も行う。 ・後半に実施する実習では、前半の実習体験と幼児の発達的変化の理解を踏まえ、幼稚園の指導教員の指導の下でより指導的立場での責任実習を行う。 ・実習担当教員が中心となり、実習期間中に実習先を巡回し、実習生の様子を観察するとともに、幼稚園の指導教員と情報交換を行い実習生に対し必要な助言・指導を行う。
授業の 到達目標	実習の目標は、実習園の保育方針の理解、物的環境や人的環境の把握、保育の一日の流れの理解、クラスや幼児の理解、生活や遊びなどの活動の内容や保育形態の理解、保育者の役割や指導・援助の方法の理解、指導計画の立案、部分指導や全日指導の実際、実習の省察と評価である。
授業計画	前半（２週間） 幼稚園の組織、運営、活動の実際を理解する。子ども理解や保育者の援助の方法など、専門科目で学んだ知識や理論を実践する。幼児の把握・理解と具体的な人間関係の中で、指導技術を習得する。 後半（２週間） 前半の実習体験から明確な課題意識を持って実習に取り組む。また、２ヶ月間の幼児の発達的変化を理解することによって、幼児の把握・理解を深める。
テキスト	島根県立大学保育教育学科 編『実習の手引き』と『教育実習実施要領』に基づき、実習指導を行う。 また「実習日程表」「出勤簿」「実習日誌」「指導案用紙」などを配布する。
参考文献	授業で配布した資料等を参考にすること。
評価方法	大学の実習担当教員が、以下の観点などについて、実習日誌等の文書、巡回指導時の状況、学生による実習の省察、実習協力園の指導教諭・教頭・園長などの評価を踏まえ、総合的に成績評価を行う。 ・実習を通じた職務内容・専門性の理解 ・幼児への理解や指導 ・教材の研究や作成 ・保育指導案の立案と環境設定 ・実習に対する意欲・態度 ・実習中の出勤状況や勤務態度 最終的には、保育教育学科会議で協議の上、実習担当教員が成績評価を確定する。
自己学習に 関する指針	実習の受け入れ条件として、幼稚園教諭になる強い意志がある、または保育者に必要な知識技能を積極的に学ぶつもりのある学生となっているため、実習に対する意欲や態度も重要になる。
履修上の 指導・留意点	履修対象は、保育教育学科の幼稚園教諭一種免許取得者のみ。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	教育実習Ⅱ（小学校）指導						
担当教員	齊藤一弥　高橋泰道　赤木寛子						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020620
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育実習						

授業の概要	・実習前の指導では，「教育実習Ⅱ（小学校）指導」「教育実習Ⅱ（小学校）」を担当する専任教員と教職課程に係る人材育成に実績を有する兼任教員（以下，合わせて「実習担当教員」）により，実習の心構え（実習の始まる前の準備，一日の流れ，期間中の流れ），児童指導（児童指導・児童理解），学習（授業実践の心構え，発問・板書・机間巡視／指導の方法）を学ばせる。 ・実習終了後は，報告書を作成し，報告会を行う。実習担当教員により実習の反省や自己評価などの事後指導を行う。
授業の 到達目標	①　学校と教師の仕事，子ども，基本的な指導技術について理解できる。 ②　各教科・領域の学習指導案について理解し，自分で書くことができる。 ④　学習したことを活かして，授業者・学習者として模擬授業に取り組むことができる。 ④　実習報告会等を通して，自己課題の明確化を図る。
授業計画	（事前指導） 第１回　小学校教育実習の概要 第２回　小学校教育の現状と教師の役割 第３回　子ども理解と学級経営 第４回　教材研究の方法と学習指導案の作成 第５回　模擬授業の実践 第６回　模擬授業の検討と学習指導案の修正 第７回　実習に向けての最終指導 （事後指導） 第８回　実習報告会と事後指導
テキスト	教育実習日誌，教育実習の手引き
参考文献	各教科･領域の学習指導要領解説書。その他，必要に応じて，適宜指示する。
評価方法	毎回の授業レポート・提出物（40%），レポート課題（30%）実習報告書（30%）
自己学習に 関する指針	配布資料を読み，事前学修・事後学修に役立てる。
履修上の 指導・留意点	質問は，その内容に応じて，授業時間中・オフィスアワー・e-mail で対応します。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（公立小学校・教育委員会事務局）での勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。

授業科目	教育実習Ⅱ（小学校）						
担当教員	齊藤一弥　高橋泰道						
科目分類	専門基幹	授業時間	180	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	実習	選択/必修	選択	単位数	4	授業コード	M2020630
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育実習						

授業の概要	・前半に実施する実習では，現職教師の援助を受けながら，小学校教諭をめざすものとして必要な，知識・技能，意欲・態度，問題解決能力等の指導力を身につける。また，実習担当教員が中心となり，期間中に１回巡回指導を行う。 ・後半に実施する実習では，前半の実習体験と児童の発達的変化の理解を踏まえて児童と直接ふれ合い，小学校の指導教員の指導を受けながら教育者に求められる知識，技能，態度を修得し，教科指導や生徒指導などの教育実践を通して，児童理解，人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養う。 ・実習担当教員が中心となり，実習期間中に実習先を巡回し，実習生の様子を観察するとともに，小学校の指導教員と情報交換を行い実習生に対し必要な助言・指導を行う。
授業の 到達目標	小学校教諭に必要な，以下の実践的知識・技能・態度の基礎を身につけることができる。 ①　実習を通じた職務内容・専門性の理解 ②　児童への理解や指導 ③　教材の研究や単元指導計画の作成 ④　学習指導案の立案と実践的な指導技術（発問，板書，説明等） ⑤　実習に対する意欲・態度 ⑥　実習中の出勤状況や勤務態度
授業計画	前半（２週間） 小学校の組織，運営，活動の実際を理解する。教育者に求められる知識，技能，態度を修得し，教科指導や生徒指導などの実践を通して，児童理解，人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養う。 後半（２週間） 前半の実習体験から明確な課題意識を持って実習に取り組む。また，２ヶ月間の児童の発達的変化を理解することによって，児童の把握・理解を深める。
テキスト	特になし
参考文献	特になし
評価方法	大学の実習担当教員が，以下の観点などについて，実習日誌等の文書，巡回指導時の状況，学生による実習の省察，実習協力校の指導教諭・教頭・校長などの評価を踏まえ，総合的に成績評価を行う。 ・実習を通じた職務内容・専門性の理解 ・児童への理解や指導 ・教材の研究や単元指導計画の作成 ・学習指導案の立案と実践的な指導技術（発問，板書，説明等） ・実習に対する意欲・態度 ・実習中の出勤状況や勤務態度 最終的には，保育教育学科会議で協議の上，実習担当教員が成績評価を確定する。
自己学習に 関する指針	計画的に実習日誌の記録，教材研究，指導案等の作成を行うこと。
履修上の 指導・留意点	学外での貴重な学びの経験となる。実習体験の場を提供してくださる現場の教職員・児童・保護者・関係者等への感謝の念を忘れず，自分でできる最大限の取り組みをする。体調を整え，周到な準備をして，実習に臨むこと。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（公立小学校・教育委員会事務局）での勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。

授業科目	教職実践演習（小・幼）						
担当教員	齊藤一弥　高橋泰道　小山優子　矢島毅昌　梶間奈保						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	4	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M2020560
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状 ○小学校教諭一種免許状 ○保育士資格						

授業の概要	[授業の目的・ねらい] 保育者や教員として必要な知識・技能・態度を身に付けているかを、大学での４年間の学修を評価することを通じて確認する。そして、養成課程の全課程を統合的に理解し、保育士及び幼稚園教諭としての確かな教育実践力を身に付ける。 [授業全体の内容の概要] 大学での様々な学修や実習を通した４年間の課程をふり返り、知識・態度・技能などの自らの学びの過程と学修内容を自覚すると同時に、小学校教諭や幼稚園教諭に求められる「使命感や責任感、教育的愛情」「児童理解や学級経営力」等が修得されているかどうかを確認し、対人関係力や教科の指導法に関する実践力をさらに高める。 この授業では、教科の内容及び指導法の学修を踏まえた実践力を重視し、すべての授業を教職の担当教員と教科の担当教員との連携のもとで実施する。また、模擬授業の準備・実施・講評の段階では、学校管理職経験者との連携のもとで授業を実施する。
授業の 到達目標	(1) 履修カルテをもとに教師としての自己の特徴や長所を確認するとともに、自己課題を発見できる。 (2) グループで話し合い、役割分担をしながら、協力して活動に取り組むことができる。 (3) 学習ポートフォリオを活用しながら、自らの探求による教材研究を行い、教師としての表現力や児童への指導方法に配慮した指導計画を立案したうえで模擬授業を実施し、その授業を学生同士で評価することができる。 (4) 地域の理解や地域との連携を通じた教育を計画・実践することができる。
授業計画	第１回　教師としての学びの過程と学修内容の確認（履修カルテを活用したグループ討議） 第２回　教師に求められる資質・能力の理解（履修カルテを活用したグループ討議） 第３回　教師としての自己課題の発見（グループ発表＋講評） 第４回　地域理解・地域資源の活用と小学校教育／幼稚園教育 第５回　学校管理職（小学校／幼稚園）経験者による講話 第６回　教材研究と指導計画作成①（教材と指導法の研究） 第７回　教材研究と指導計画作成②（教材研究とその活用例） 第８回　教材研究と指導計画作成③（授業実践事例の研究） 第９回　教材研究と指導計画作成④（模擬授業の準備） 第 10 回　模擬授業（各教科の／各領域を中心とした低学年の学習）の発表と評価 第 11 回　模擬授業（各教科の／各領域を中心とした高学年の学習）の発表と評価 第 12 回　模擬授業（合科的／領域横断的な学習）の発表と評価 第 13 回　模擬授業（地域理解を深める学習）の発表と評価 第 14 回　模擬授業（地域資源を活用した学習）の発表と評価 第 15 回　模擬授業への各学校管理職経験者の講評、講評を踏まえた反省と教職実践力の自己評価
テキスト	テキストは使用しない。授業中に資料を配付する。
参考文献	授業中に随時紹介する。
評価方法	演習・実技への積極的な参加姿勢と小レポートの提出(20%)、課題レポートの提出(40%)、模擬授業の計画と実践(40%)から、総合的に評価する。
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	社会的養護Ⅱ						
担当教員	藤原映久						
科目分類	専門科目	授業時間	15	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020645
免許資格関連事項	○保育士資格						

授業の概要	[授業の目的・ねらい] 社会的養護の場における子どもたちの安心・安全の確保に必要となる考え、知識、技術を理解することを目的とする。具体的には、権利擁護の考えや養護の専門的な知識、技術を学び、社会的養護の現場で生じている実際的な課題とその対処法に関して理解することをねらう。 [授業全体の内容の概要] 社会的養護の実際は、児童福祉施設に勤務する職員や里親が提供する具体的な援助方法に支えられている。本科目では、愛着(アッタチメント)、子どもとのコミュニケーション、暴力の防止などをキイワードとしながら、社会的養護の現場における児童の安心・安全の確保を重要な視点とする。そして、その視点に立った上で、社会的養護を実践する上で必要とされるケアワーク、ソーシャルワークの知識・技術について学び、その理解と認識を深めることを目的とする。また、児童福祉施設職員または里親からの話を聞く機会を設けることにより、学びを深める。
授業の到達目標	（1）社会的養護における子どもたちの権利擁護について理解する （2）社会的養護に必要とされる専門的な知識や技術について理解する （3）社会的養護の現場における具体的な課題やその対処法について理解する
授業計画	第１回　社会的養護の実施体系と子どもの権利擁護 第２回　専門性に関する知識１：愛着（アッタチメント）について 第３回　専門性に関する知識２：被措置児童等虐待 第３回　専門性に関する知識３：施設内暴力の防止について 第５回　専門性に関する技術１：乳幼児とのコミュニケーション技法（声かけ、言語心理学的技法） 第６回　専門性に関する技術２：暴力を用いないしつけの方法１（子育て支援プログラムの技法） 第７回　専門性に関する技術３：暴力を用いないしつけの方法２（子育て支援プログラムの技法） 第８回　社会的養護の実際を学ぶ（児童福祉施設職員または里親による講和） 定期試験
テキスト	テキストは使用しない。授業に必要な資料はその都度配布する。
参考文献	必要に応じて授業の中で紹介する。
評価方法	成績は、期末試験（70%）、毎回の小テスト等（30%）を基本として総合的に判断する。
自己学習に関する指針	配布資料を用いて予習・復習を行うとともに、理解を深めるため、積極的に授業中に紹介する参考文献を読むこと。
履修上の指導・留意点	本講義は実務経験のある教員による授業科目である。 ・児童相談所において、心理司、ケースワーカー、一時保護所職員（ケアワーカー）として勤務した経験を有し、その経験を生かして子ども家庭福祉の現状や諸課題に関する授業を展開する。 ・身体障害者更生相談所、知的障害者更生相談所において心理司として勤務した経験を有し、授業ではその経験を生かして障がいに関するテーマを扱う。 ・小児科において心や行動の課題を抱える子どもとその家族を対象としたカウンセリングを実践しており、その経験を生かして、より実践的な授業を展開する。

授業科目	子ども家庭支援の心理学						
担当教員	藤原映久						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020663
免許資格関連事項	○保育士資格						

授業の概要	[授業の目的・ねらい] 乳幼児期から老年期までの生涯発達を理解した上で、人の生涯発達及び家庭を取り巻く社会的状況の観点から、家庭における成育歴が子どもの育ちに与える影響を検討できるようになるとともに、育ちの中で子どもたちが抱える心の健康の問題について考えることができるようになる。 [授業全体の内容の概要] まずは、乳児期から老年期にかけての心身の発達と発達課題を理解する。その上で、生涯発達の観点を踏まえて「家庭・家族の機能」、「親子関係・家族関係」、「子育ての経験と親としての育ち」などをテーマとして子どもと親、家族・家庭のあり方について理解する。その後、特別に配慮を要する家庭を含め、多様な家庭についての理解を深めつつ、成育環境と子どもの心の健康の問題の関係について考える。
授業の到達目標	・生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 ・家族、家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 ・子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 ・子どもの精神保健とその課題について理解する。
授業計画	第１回　「子ども家庭支援の心理学」とは？ 第２回　乳幼児期の発達１ 第３回　乳幼児期の発達２ 第４回　学童期の発達 第５回　青年期の発達 第６回　成人期～老年期にかけての発達 第７回　家族・家庭の意義と機能 第８回　親子関係・家族関係の理解 第９回　子育ての経験と親としての育ち 第 10 回　子育てを取り巻く社会的状況 第 11 回　ライフコースと仕事・子育て 第 12 回　多様な家庭とその理解 第 13 回　特別な配慮を要する家庭 第 14 回　子どもの生活・成育環境とその影響 第 15 回　子どもの心の健康に関わる問題 定期試験
テキスト	教科書は使用しない。
参考文献	必要に応じて授業の中で紹介する。
評価方法	成績は、期末試験（70%）、毎回の小テスト等（30%）により評価する。
自己学習に関する指針	配布資料を用いて予習・復習を行うとともに、理解を深めるため、積極的に授業中に紹介する参考文献を読むこと。
履修上の指導・留意点	本講義は実務経験のある教員による授業科目である。 ・児童相談所において、心理司、ケースワーカー、一時保護所職員（ケアワーカー）として勤務した経験を有し、その経験を生かして子ども家庭福祉の現状や諸課題に関する授業を展開する。 ・身体障害者更生相談所、知的障害者更生相談所において心理司として勤務した経験を有し、授業ではその経験を生かして障がいに関するテーマを扱う。 ・小児科において心や行動の課題を抱える子どもとその家族を対象としたカウンセリングを実践しており、その経験を生かして、より実践的な授業を展開する。

授業科目	子ども家庭支援論						
担当教員	藤原映久						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	4	配当期	秋学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020665
免許資格関連事項	○保育士資格						

授業の概要	[授業の目的・ねらい] まずは、現在の子育て家庭を取り巻く状況や子育て支援の制度等を実際的/学問的に学ぶことを通じて、子どもと家庭への支援の意義と必要性を理解する。その上で、現状の支援制度の中で保育士に求められる子ども家庭支援に関する基礎的/実践的な知識の習得を目指す。 [授業全体の内容の概要] 子どもや家庭を取り巻く社会環境の変化（少子化、核家族化等）を理解した上で、現代の家庭が抱える子育ての困難及び、それに対する支援制度と子育て支援の社会資源について学ぶ。また、保育士としての専門性を活かした子育て支援のあり方、地域支援のあり方について理解を深めるとともに、相談援助技術を含め、要保護児童を含む多様な子どもやその家庭に対する支援について学ぶ。
授業の到達目標	・子育て家庭に対する支援の意義、目的を理解する。 ・保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 ・子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 ・子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。
授業計画	第１回　子ども家庭支援の意義と必要性 第２回　子ども家庭支援の目的と機能 第３回　子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 第４回　子育て家庭の福祉を図るための社会資源 第５回　保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義 第６回　子どもの育ちの喜びの共有 第７回　保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 第８回　保育士に求められる基本的態度 第９回　家庭の状況に応じた支援 第 10 回　地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力 第 11 回　子ども家庭支援の内容と対象 第 12 回　保育所等を利用する子どもの家庭への支援 第 13 回　地域の子育て家庭への支援 第 14 回　要保護児童及びその家庭に対する支援 第 15 回　子育て支援に関する課題と展望 定期試験
テキスト	松原康雄・村田典子・南野奈津子 編集（2019）『新基本保育士リーズ⑤　子ども家庭支援論』、中央法規【2,000＋税】
参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	成績は、期末試験（70%）、毎回の小テスト等（30%）により評価する。
自己学習に関する指針	テキストと配布資料で予習・復習を行うとともに、理解を深めるため、積極的に授業中に紹介する参考文献を読むこと。
履修上の指導・留意点	本講義は実務経験のある教員による授業科目である。 ・児童相談所において、心理司、ケースワーカー、一時保護所職員（ケアワーカー）として勤務した経験を有し、その経験を生かして子ども家庭福祉の現状や諸課題に関する授業を展開する。 ・身体障害者更生相談所、知的障害者更生相談所において心理司として勤務した経験を有し、授業ではその経験を生かして障がいに関するテーマを扱う。 ・小児科において心や行動の課題を抱える子どもとその家族を対象としたカウンセリングを実践しており、その経験を生かして、より実践的な授業を展開する。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	子育て支援						
担当教員	山尾淳子						
科目分類	専門科目	授業時間	15	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020667
免許資格関連事項	○保育士資格						

授業の概要	[授業の目的・ねらい] 保育現場での相談支援の専門性を身につけるために、「育てにくさ」「育ちにくさ」をもった子どもの発達を支援し、きがかりな親子関係と保護者を支援するための、発達臨床の基礎を学ぶ。家族支援と早期対応、早期介入の必要性、福祉領域との連携、保育相談の実務と役割の理解を目指す。 [授業全体の内容の概要] 地域子育て支援の拠点として、保育所、幼稚園、及び認定こども園に期待される保護者支援としての保育相談支援者の役割と基礎的理論・技術を学ぶ。特に乳児期からの「こんにちは赤ちゃん事業」「育児支援家庭訪問事業」「子育て支援センター」などの個別相談型支援事業に対応できる支援者のあり方、保育所での困難な保育を抱える保護者の保育への介入と支援のあり方、さらに地域専門職ネットワークの中での保育専門職の役割を理解するための演習とする。
授業の到達目標	（１）保育所の相談支援業務を、送迎時対応から個別相談まで、段階的に把握することができる。 （２）日常の保育業務の「連絡帳」「園だより」「相談記録」を、構造的に把握することができ　る。 （３）困難事例の発達的介入の時期と方法のあり方を理解することができる。
授業計画	第１回　保育所保育指針と保育相談支援 第２回　困難事例の早期発見と早期対応 第３回　日常的な支援と記録のあり方 第４回　日常的な支援の見直し（園内の相談支援の実際） 第５回　日常的な支援の見直し（情報共有を促す園だより・パンフレット） 第６回　日常的な支援の見直し（連絡帳の活用・グループディスカッション） 第７回　相談援助のための基本的技術　（演習・グループディスカッション） 第８回　相談支援のための園内連携・地域連携
テキスト	テキストは使用せず、適宜プリント資料を配付する。配付された資料はファイルして毎回持参すること。
参考文献	厚生労働省『保育所保育指針』、 文部科学省『幼稚園教育要領』、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』　新基本保育シリーズ 19　「子育て支援」中央法規 太田光洋編著　「保育・教育相談支援」子育ち、子育てを支える　その他授業中に随時紹介する
評価方法	毎回の授業内容理解の評価・毎回提出の授業レポート課題（40%）　期末レポート課題（60%）
自己学習に関する指針	テキストや配布資料を読み、復習に役立てる
履修上の指導・留意点	毎回、授業の終わりに授業の振り返りレポートを提出する。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（幼稚園・幼保園）、行政機関等での勤務経験を活かして、免許取得に関するより具体的な授業を展開する。

授業科目	子どもの保健						
担当教員	前林英貴						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020675
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	現在の小児保健の現状と子どもの心身の健康増進を図る保健活動について学ぶ。保育専門職として、子どもの健康と評価方法を理解し、様々な疾患や障害、子どもの病気に特徴的な症状と保育者としての対応について知識を深める。そのために、成人とは違う子ども特有の生理機能・運動機能を学習しながら、現代社会における子どもの健康に関する現状と課題を踏まえ、母子保健・地域保健活動を通して、保育士の役割について考えていく。
授業の 到達目標	１．子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解することができる ２．子どもの身体発育、生理機能、運動機能の発達について理解することができる ３．子どもの健康状態の把握と疾患の特徴や予防、適切な対応について理解することができる ４．保健活動における地域連携と、多職種間の協働について理解することができる
授業計画	1. 保健活動の意義（母子保健の統計より） 2. 子どもの健康とその評価 3. 地域における保健活動（現状と課題）と児童虐待 4. 子どもの身体発育と計測方法 5. 生理機能の発達　「代謝・免疫」 6. 生理機能の発達　「呼吸・循環」 7. 生理機能の発達　「睡眠・排泄」 8. 運動機能の発達 9. 予防接種について 10. 子どもの疾患の症状とその対応（その①） 11. 子どもの疾患の症状とその対応（その②） 12. 子どもに多くみられる疾患「先天性疾患、神経系疾患」 13. 子どもに多くみられる疾患「心臓疾患、呼吸器疾患」 14. 子どもに多くみられる疾患「血液疾患、腎疾患、内分泌疾患」 15. 保健活動における連携 定期試験
テキスト	「子どもの保健　第７版　追補」　　巷野悟郎編　　診断と治療社
参考文献	講義に必要な資料を授業の中で紹介する
評価方法	期末試験 80%、レポート提出 20%で評価する
自己学習に 関する指針	授業前にテキストの該当箇所を予習しておくこと
履修上の 指導・留意点	なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、大学病院の小児科病棟勤務経験のある教員が、その経験を活かした具体的、実践的な講義や演習を展開する。

授業科目	子どもの健康と安全						
担当教員	前林英貴・竹原康江						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020705
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	子どもの保健で学習した知識や理論を踏まえ、実際の保育現場や保健活動の場において活用するための基礎的知識と技術を習得する。また、乳幼児の基本的な健康及び成長発達の観察方法と評価方法についても習得する。子どもの疾病や事故の特徴とその予防、災害時の備えについての基礎知識をもとに、適切に対応するための技術を習得し、保健活動の計画及び評価、子どもの心とからだの健康問題や地域保健活動等について、グループワークを通して理解を深める。
授業の 到達目標	1. 子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画及び評価することができる 2. 子どもの健康や心身の発育・発達を促す保健活動や環境について説明することができる 3. 子どもの疾病とその予防及び適切な対処方法やアセスメント方法を実施することができる 4. 保育現場における救急時の対応や事故防止、安全管理について説明することができる 5. 現代社会における心の健康問題や地域保健活動について理解することができる
授業計画	1. 保育における保健活動（1）　保健計画と評価、安全・衛生管理　　【前林】 2. 保育における保健活動（2）　健康診断、身体計測と発達評価　　【前林】 3. 保育における保健活動（3）　バイタルサインの測定と健康状態の観察・評価　　【前林】 4. 生活習慣と養護（1）　抱き方、衣服の着せ方、寝かせ方、排泄方法等　　【前林】 5. 生活習慣と養護（2）　乳首の選び方、調乳と授乳、排気、離乳食の進め方　　【前林】 6. 生活習慣と養護（3）　沐浴、保清、スキンケア、口腔ケア　　【前林】 7. 実技評価　　【前林】 8. 地域連携の取組　　【竹原】 9. 子どもの疾病とその対応（1）　感染症の予防と対応　　【前林】 10. 子どもの疾病とその対応（2）　保育における看護、薬の投与方法　　【前林】 11. 子どもの疾病とその対応（3）　個別に配慮を必要とする子どもへの対応　　【前林】 12. 子どもの事故防止と応急処置（1）　救急への要請、心肺蘇生法と AED　　【前林】 13. 子どもの事故防止と応急処置（2）　事故防止、傷害時の応急処置　　【前林】 14. 実技評価　　【前林】 15. 地域保健活動　災害時への備え　　【前林】 定期試験
テキスト	「これならわかる！子どもの保健演習ノート　改訂第３版」　榊原　洋一　診断と治療社
参考文献	演習に必要な資料を授業の中で紹介する
評価方法	期末試験 60%、実技テスト 20%、課題レポート 20%で評価する
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	演習が中心となる科目のため、主体的に技術習得できるよう心掛ける。動きやすく清潔な服装、身だしなみ（髪型、服装、化粧、爪等）に配慮して参加すること。備品の取り扱いに注意し、汚したり破損しないようにする。準備、洗浄、後片付けは各自責任を持って行うこと。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、大学病院の小児科病棟勤務経験のある教員が、その経験を活かした具体的、実践的な講義や演習を展開する。

授業科目	救急救命法・応急手当法						
担当教員	前林英貴、手島由美子						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020710
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	[授業の目的・ねらい] 突発的に起こる不慮の事故や急病に遭遇した場合は、医療機関に着くまでの「救命の連鎖」が必要である。一次救命処置や各種の応急手当に関する基本的な知識・技術・態度を身につけることは、傷病者を社会復帰に導く重要な市民の役割となる。 [授業全体の内容の概要] 特に小児に焦点をあて、学校や幼稚園、保育所、児童養護施設、家庭など、小児の救急場面のなかで起こりやすい傷病・症候の応急処置について学ぶ。また、災害発生時の対応やトリアージ方法についても教授する。
授業の 到達目標	１．傷病者に対する生命徴候の観察ができ、一次救命処置の基本的な知識や技術を習得することができる ２．傷病・症候（傷害、熱傷、熱中症、急性中毒、異物、発熱）に対する応急手当について説明することができる
授業計画	第１回　子どもに多い事故の種類やその特徴（担当：前林） 第２回　救命の連鎖と応急処置の基本（担当：手島） 第３回　呼吸・循環と心肺停止（担当：手島） 第４回　一次救命処置法ー人工呼吸（担当：手島） 第５回　一次救命処置法ー心肺蘇生法（担当：手島） 第６回　一次救命処置法ーAED の使い方（担当：手島） 第７回　傷病者の管理法ー体位と搬送法（担当：手島） 第８回　傷病に対する応急処置ー外傷、骨折等（担当：手島） 第９回　傷病に対する応急処置ー出血の管理（担当：手島） 第 10 回　傷病に対する応急処置ー異物、溺水（担当：手島） 第 11 回　傷病に対する応急処置ー急性中毒、アレルギー（担当：手島） 第 12 回　傷病に対する応急処置ー発熱、けいれん、てんかん（担当：手島） 第 13 回　傷病に対する応急処置ー熱中症、低体温症（担当：手島） 第 14 回　乳児に対する一次救命処置（担当：前林） 第 15 回　災害発生時の対応ートリアージ（担当：前林） 定期試験
テキスト	「改訂５版　救急蘇生法の指針 2015　市民用」　日本救急医療財団心肺蘇生法委員会監修　へるす出版
参考文献	「熱性けいれん　診療ガイドライン 2015」　日本小児神経学会　診断と治療社 「災害現場でのトリアージと応急処置」　山崎達枝　日本看護協会出版会
評価方法	期末試験 70%、演習への取り組み 30%で評価する
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	演習が中心となる科目のため、主体的に技術習得できるよう心掛ける。動きやすく清潔な服装、身だしなみ（髪型、服装、化粧、爪等）に配慮して参加すること。備品の取り扱いに注意し、汚したり破損しないようにする。準備、洗浄、後片付けは各自責任を持って行うこと。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、大学病院の小児科病棟勤務経験のある教員が、その経験を活かした具体的、実践的な講義や演習を展開する。

授業科目	子どもの食と栄養						
担当教員	長島美保子						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	4	配当期	秋学期
授業形態	講義・演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020720
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	[授業の目的・ねらい] 子どもの健康な生活と食生活の意義や栄養に関する基本的知識を理解する。もって、それぞれの発育発達の時期における特性を理解し、適切な食事支援や食育を行うことができるための方法を実践的に学ぶ。 [授業全体の内容の概要] 保育所・幼稚園・認定こども園における生涯にわたる健康と生活の基礎として、成長に必要な栄養素とその消化・吸収、胎児・母体・小児の生理的特徴など栄養学や生理学の基礎を理解し、その基盤に立った食事のあり方と児童福祉施設での給食管理の基本である給与栄養量や食品構成等を習得する。また、離乳食や幼児食の献立作成や調理を経験し、栄養のみならず、食品、調理、盛りつけ、食卓構成等の視点からも、食事の保育・教育的意義を考える手立てとする。
授業の 到達目標	乳幼児期の発育発達段階における栄養の意義と食生活の果たす役割を理解し、食生活の問題や障がいを持つ子への対処方法を学び、現場で子どもや保護者・保育者に適切に対応するための能力を習得する。
授業計画	第１回　オリエンテーション・子どもの健康と食生活の意義　（講義） 第２回　小児の発育・発達と食生活　（講義・演習） 第３回　栄養に関する基礎知識（基本的概念・栄養素・代謝）　（講義・演習） 第４回　栄養に関する基礎知識（食事摂取基準・献立作成・調理の基本）　（講義・演習） 第５回　妊娠期・授乳期の食生活　（講義・演習） 第６回　乳児期の食生活（乳児期の栄養・離乳・食生活）　（講義） 第７回　幼児期の食生活（幼児期の栄養・食生活のあり方）　（講義） 第８回　学童期・思春期の心身の発達と食生活　（講義） 第９回　食育の基本と内容（１）課題の把握と食育媒体作成　（演習） 第 10 回　食育の基本と内容（２）食育媒体の作成　（演習） 第 11 回　幼児期の食生活の問題への対応（食育の実際・演習）　（演習） 第 12 回　幼児期の食生活の問題への対応（食育の実際・演習）　（演習） 第 13 回　家庭や児童福祉施設における食事と栄養（１）保育所給食・おやつ・弁当等　（講義） 第 14 回　家庭や児童福祉施設における食事と栄養（２）各自実習を発表・評価　（演習） 第 15 回　特別な配慮を要する子どもの食と栄養　（講義） 定期試験
テキスト	最新　子どもの食と栄養　出版社　学建書院　価格　２，４００円＋税　編集　飯塚美和子・瀬尾弘子・曽根眞理枝・濱谷亮子
参考文献	必要に応じてプリントなどを配布する。 ・保育所における食事の提供ガイドライン（厚労省） ・保育所におけるアレルギー対応ガイドライン（厚労省）
評価方法	ミニレポート（５回）ワークシート（５回）で５０%，　定期期末試験　５０%で総合評価する。
自己学習に 関する指針	テキスト・配布資料を読み、学習内容を実生活に生かす。（授業内容を踏まえ、自らの生活習慣と食生活等を振り返り、健康的な生活の実践につなげる）
履修上の 指導・留意点	学習内容の理解度を確認するため、ミニレポートの提出を求めるので、常に復習をしておく。食育指導教材を作成して模擬食育演習を行う。簡単な調理を家庭で実習し、レポートを提出する。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、栄養教諭及び管理栄養士として、学校給食の栄養管理及び小学校・中学校における食育に取り組み、幼稚園・保育所における栄養指導や食育にも関わってきた。また、現在、国の食育推進に関する委員等、役職を務めている。 これらの経験を活かして、ライフステージをつなぐ「子どもの食と栄養」について、具体的で実践的な授業を展開する。（栄養改善学会・日本食育学会に所属）

授業科目	乳児保育Ⅰ						
担当教員	前林英貴						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020733
免許資格関連事項	○保育士資格						

授業の概要	乳児期は人間形成の基礎ができる重要な時期である。乳児を取り巻く環境を踏まえ、乳児保育の歴史的変遷や母子保健の統計から現状を理解する。保育所や乳児院で乳児保育（3 歳未満児）を担当する保育士として、必要な保育の理論や知識、技術的な基本スキルについて学ぶ。乳幼児期（3 歳未満児）の成長や発達、生活、遊び、環境、保健等についての基本的な知識を身に付けるとともに、低年齢児の保育の概念と意義、発達段階に応じた保育者としての関わりについて学びを深める。
授業の到達目標	1．乳児保育の理念と変遷及び役割について理解することができる 2．3 歳未満児の発育・発達について学び、3 歳未満児の生活や遊びについて理解することができる 3．保育所、乳児院等における乳児保育の現状と課題について理解することができる 4．乳児保育の計画を作成し、保育の内容や方法、観察や記録について理解することができる 5．乳児保育における保護者や関係機関との連携について理解することができる
授業計画	1. 乳児保育の理念と歴史的変遷及び役割 2. 乳児保育の現状と課題 3. 新生児の特徴 4. おおむね 6 ヵ月未満の保育 5. おおむね 6 ヵ月から 1 歳 3 ヵ月未満の保育 6. おおむね 1 歳 3 ヵ月から 2 歳未満の保育 7. おおむね 2 歳の保育 8. 乳児保育の環境（1）　家庭における子育て 9. 乳児保育の環境（2）　保育所における乳児保育 10. 乳児保育の環境（3）　乳児院等 11. 乳児保育の計画 12. 乳児保育における保健活動（乳児の病気と事故） 13. 乳児保育における連携 14. 乳児保育の内容（グループワーク　手作りおもちゃの企画） 15. 乳児保育の内容（グループワーク　手作りおもちゃの作成） 定期試験
テキスト	「やさしい乳児保育」　早川悦子・池田りな・伊藤輝子編　青踏社
参考文献	「保育所保育指針」 その他適宜プリント資料を配布
評価方法	期末試験 80%、グループワーク 20%で評価する
自己学習に関する指針	授業前にテキストの該当箇所を予習しておくこと
履修上の指導・留意点	なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、大学病院の小児科病棟勤務経験のある教員が、その経験を活かした具体的、実践的な講義や演習を展開する。

人間文化学部・保育教育学科
（令和 2 年入学生用）

授業科目	乳児保育Ⅱ						
担当教員	青山啓子						
科目分類	専門科目	授業時間	15	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020736
免許資格関連事項	保育士資格						

授業の概要	［授業の目的・ねらい］ 乳児期は、人間形成の基礎ができる重要な時期である。乳児を取り巻く環境を踏まえ、乳児期（３歳未満児）の成長や発達、生活、遊び、環境、保健等についての基本的な知識を身に付けるとともに、乳児保育の歴史的変遷や母子保健の統計から現状を理解する。 ［授業全体の内容の概要］ 保育所やこども園や乳児院での乳児保育（３歳未満児）を担当する保育士として、必要な保育の理論や知識、技術的な基本スキルについて学ぶ。低年齢児の保育概念と意義、保育者としての関わりについて演習を通して学ぶ。
授業の到達目標	1. 乳児保育の理念と変遷及び役割について理解することができる 2. 保育所、こども園、乳児院等における乳児保育の現状ち課題について理解することができる 3. 3 歳未満児の発育・発達について学び、3 歳未満児の生活や遊びについて理解することができる 4. 乳児保育の計画を作成し、保育の内容や方法、観察や記録について理解することができる 5. 乳児保育における保護者や関係機関との連携について理解することができる
授業計画	第 1 回　乳児保育の現状と課題 第 2 回　子どもの体験と学びの芽生え 第 3 回　子どもの 1 日の流れと保育の環境 第 4 回　1 歳 3 ヶ月未満の保育 第 5 回　1 歳 3 ヶ月から 3 歳未満の保育 第 6 回　保育の計画（グループワーク） 第 7 回　乳児保育における保健活動（健康状態の把握） 第 8 回　乳児保育における保健活動（乳児の病気と事故） 定期試験
テキスト	「やさしい乳児保育」　早川悦子・池田りな・伊藤輝子編　青踏社
参考文献	「保育所保育指針」 その他、適宜プリントや資料を配布
評価方法	期末試験 80%、グループワーク 20%で評価する
自己学習に関する指針	授業前にテキストの該当箇所を予習しておくこと
履修上の指導・留意点	演習時は動きやすく清潔な服装、身だしなみ（髪型、服装、化粧、爪等）に配慮して参加すること。 備品の取り扱いに注意し、汚したり破損しないようにする。準備、洗浄、後片付けは各自責任を持って行うこと。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、公立保育所および幼保園の保育現場で、保育士、主幹、所長として勤務してきた経験を活かして、保育士. 幼稚園教諭の資格取得に必要な保育所実習、幼稚園実習、乳児保育等の講義を行う。

授業科目	障害児保育						
担当教員	園山繁樹　　西村健一						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020740
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	[授業の目的・ねらい] １．障害児保育の理念や歴史的変遷、及び制度について学び、障害児及びその保育について理解する。 ２．様々な障害について理解し、保育における援助の方法や環境構成等について学ぶ。 ３．障害のある子どもの保育の計画を学び、個別支援及び他の子どもとのかかわりのなかで育ち合う保育実践について理解を深める。 ４．障害のある子どもの保護者への支援や小学校等の関係機関との連携について理解する。 ５．障害のある子どもの保育の現状と課題について、保健・医療・福祉・教育等の広い視野から理解する。 [授業全体の内容の概要] 保育所・療育機関・認定こども園等における障害児保育について、その理念や制度、障害特性の理解と発達的援助の基本について講義する。保育における障害児への具体的支援方法、保育計画、関係機関との連携、家庭・保護者への援助等について、具体的な方法・事例・現状を提示するとともに、受講生が事前に調べたことを踏まえた演習も行う。主に地域の多職種のネットワークにより、障害児の療育が段階的に学校教育へ引き継がれていく過程を学修する演習とする。
授業の 到達目標	１．障害児保育の理念や制度について説明できる。 ２．様々な障害特性について説明できる。 ３．障害特性に応じた保育上の留意点と具体的な支援方法を説明できる。 ４．家庭・保護者への援助の基本的方法について説明できる。 ５．関連する療育・相談機関等の種類・内容、及び連携協力の在り方を説明できる。 ６．就学に向けての移行支援の在り方について説明できる。
授業計画	第１回　わが国における障害児保育の歴史・理念・制度（講義）　（担当：園山） 第２回　障害特性の理解と保育上の留意点(1)－知的障害（講義と演習）　（担当：園山） 第３回　障害特性の理解と保育上の留意点(2)－聴覚障害・視覚障害（講義と演習）（担当：西村） 第４回　障害特性の理解と保育上の留意点(3)－肢体不自由（講義と演習）　（担当：西村） 第５回　障害特性の理解と保育上の留意点(4)－重度重複障害（講義と演習）　（担当：西村） 第６回　障害特性の理解と保育上の留意点(5)－言語障害（講義と演習）　（担当：園山） 第７回　障害特性の理解と保育上の留意点(6)－発達障害（講義と演習）　（担当：西村） 第８回　障害特性の理解と保育上の留意点(7)－情緒障害（講義と演習）　（担当：園山） 第９回　困った行動の理解と支援の方法（講義と演習）　（担当：園山） 第10回　生活場面と遊び場面における困難と支援の方法（演習）　（担当：園山） 第11回　園行事等における困難と支援の方法（演習）　（担当：西村） 第12回　家庭・保護者への援助（講義と演習）　（担当：園山） 第13回　関連機関との連携協力（講義と演習）　（担当：西村） 第14回　就学に向けての移行支援（講義と演習）　（担当：西村） 第15回　総括：幼児期における障害のある子どもの支援の課題と展開（演習）　（担当：園山） 定期試験
テキスト	・伊藤健次編「新・障害のある子どもの保育（第３版）」みらい
参考文献	・保育所保育指針 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 ・Pretti－Frontczak,K.他著、七木田敦・山根正夫監訳「子どものニーズに応じた保育―活動に根ざした介入―」二瓶社 ・宮本信也監修「発達障害のある子の理解と支援（第３版）」母子保健事業団 ・園山繁樹「統合保育の方法論」相川書房

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

評価方法	・レポート（3回分）＝30% ・定期試験＝60%
自己学習に関する指針	・参考文献に記載した図書・資料を積極的に読むこと。
履修上の指導・留意点	・テキストを中心に授業を進め、随時、資料を配布します。 ・なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、統合保育を行っている幼稚園でのカウンセラーとしての勤務経験、公立教育相談センターでの相談員としての勤務経験、大学教育相談室での障害児に関する臨床経験があり、その経験を活かしてより具体的、実践的な授業を展開する。

授業科目	音楽療法論						
担当教員	武田千代美						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020750
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	[授業の目的・ねらい] 人間にとって音楽とはどのような存在であるのか改めて考えつつ、音楽を対人援助として用いる音楽療法の理論と技法論について学ぶ。 [授業全体の内容の概要] 音楽療法の理論と技法論について学び、「音楽療法を生かす保育教育のあり方」を検討する。具体的には、音楽療法の領域とその対象について学び、障害をもった子どもたちや大人の可能性や限界、問題を理解する。また、音楽療法の実際について臨床事例から学ぶ。なぜ音楽を用いるのか、音楽を用いることの特徴について考えを深めてまとめていく。そのために、音楽の機能、治療的作用、臨床における音の使い方などの技法論とその背景にある理論について学ぶ。
授業の 到達目標	１．音楽療法の概念について説明できる。 ２．音楽療法のプロセスについて説明できる。 ３．音楽療法の技法について説明できる。
授業計画	第１回　「音楽」について考える　音楽療法の歴史　音楽療法の現状 第２回　音楽療法の定義　音楽の機能 第３回　音楽療法のプロセス 第４回　子どものための音楽療法 第５回　その他の領域の音楽療法 第６回　音楽療法の実践例（１）　～楽器・道具について～ 第７回　音楽療法の実践例（２）　～指揮・即興演奏・伴奏付け～ 第８回　音楽療法の実践例（３）　～合奏・合唱～ 定期試験
テキスト	プリント資料を配布する
参考文献	村井靖児著「音楽療法の基礎」音楽之友社
評価方法	定期試験（６０%）　レポート（４０%）
自己学習に 関する指針	配布資料を読み、復習に役立てる。 身の回りに流れる音楽について、それらが及ぼす影響について考える。
履修上の 指導・留意点	授業時間中、色々な楽器を紹介し、鳴らしてみるワークを実施します。 積極的に参加してください。 質問は、e-mail にて対応します。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、医療機関及び福祉施設での臨床経験を生かしてより具体的、実践的な授業を展開する。また、教育機関（理学療法士、作業療法士養成専門学校）での勤務の経験を生かして他職種との連携について具体的な方法論を展開する。

授業科目	保育実習Ⅰ（保育所）指導						
担当教員	山田洋平　　青山啓子						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020760
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	[授業の目的・ねらい] 保育実習Ⅰ（保育所）は１年秋学期試験終了後に実施する保育所での実習である。この実習を通して、保育士の職務、保育所・施設の生活の流れや機能について理解し、保育士として必要とされる態度・知識・技能を習得することを目的としている。また、児童福祉に対するニーズの理解や判断のための力量を向上させることを目標としている。保育実習Ⅰ（保育所）指導は、この実習を実施するための事前指導と事後指導である。 [授業全体の内容の概要] 指定保育士養成施設指定基準の実習の基準に基づき，保育実習指導委員会を構成し，保育所での実習について，実習を円滑に進めるために必要な知識・技術の習得，学習内容・課題の明確化を行うための「事前指導」と、実習体験を深化させるための「事後指導」を行う。具体的には，保育実習の意義や目的の理解，保育実習の方法の理解，保育実習にあたっての心構えや留意事項の確認，実習課題の明確化，実習記録の意義と方法の理解，などについて学習を行う。
授業の 到達目標	・保育実習Ⅰ（保育所）のための諸手続き・検査を主体的に実施する。 ・実習生としての心構え、態度について明確な自己認識を持ち、実習保育所に伝える。 ・２年春学期以降の学びの基盤としての実習課題を、具体的に見出す。
授業計画	第１回　保育教育学科教育課程のステップ 第２回　保育所実習とは 第３回　実習までにしておくこと(1) 第４回　保育所の１日、１ヶ月、１年 第５回　実習までにしておくこと(2) 第６回　実習日誌の書き方 第７回　実習が始まったら 第８回　実習が終わったら
テキスト	指定しない。適宜資料を配布する。
参考文献	指定しない。適宜紹介する。
評価方法	提出書類および提出資料などを総合的に評価する
自己学習に 関する指針	・配布資料および記載された参考文献を読み、復習に役立てる。
履修上の 指導・留意点	・質問は、その内容に応じて、研究室・e-mail で対応する。 ・欠席する場合、必ず事前に連絡をすること。 ・なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、公立保育所および幼保園の保育現場で、保育士、主幹、所長として勤務してきた経験を活かして、保育士.幼稚園教諭の資格取得に必要な保育所実習、幼稚園実習、乳児保育等の講義を行う。

授業科目	保育実習Ⅰ（保育所）						
担当教員	山田洋平　　青山啓子						
科目分類	専門基幹	授業時間	90	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	実習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020770
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	[授業の目的・ねらい] 　保育所での実習を通して，保育士の職務，保育所・施設の生活の流れや機能について理解し，保育士として必要とされる態度・知識・技能を習得させることを目的としている。また，児童福祉に対するニーズの理解や判断のための力量を向上させる。 [授業全体の内容の概要] 　指定保育士養成施設指定基準の実習の基準に基づき，保育実習指導委員会を構成する認可保育所あるいは幼保連携型認定こども園において実施される保育実習を通して，子どもの生活実態や援助のポイント，保育士の職務，保育所・施設の生活の流れや機能について理解し，実習までに学んだ授業で得られた各種成果を保育現場のなかで再確認するとともに，保育士として必要とされる態度・知識・技能を習得させる。また，家庭と地域の生活実態に触れて，支援ニーズの理解や判断のための力量を向上させる。
授業の 到達目標	・児童福祉施設の一つである保育所の組織や運営を理解し，保育の知識や技能を体験的に学ぶ。 ・保育士としての自覚や態度を身につけ，問題意識をもつ。 ・実習中の日誌記録によって体験的な気づきを明確にし，自己学習の基盤とする。
授業計画	保育実習Ⅰ（保育所）は，「保育実習Ⅰ（保育所）指導」において事前指導を受けた上で，実習指導委員会に参加する保育所において，10 日間の実習を経験する。実習時間は 90 時間。 ・実習先の保育所における保育方針，物的／人的環境，一日の保育の流れの理解 ・保育活動の内容や形態の理解 ・保育者の役割と援助の方法の理解 ・子どもの理解にもとづく部分指導／全日指導の計画立案および実践 ・実習の省察と自己評価 　実習終了後は，事後指導によって実習をふり返り，自身の実習経験に対する理解を深め，次の課題や目標を設定する。
テキスト	指定しない。適宜資料を配布する。
参考文献	指定しない。適宜紹介する。
評価方法	実習先からの実習評価，実習中の状況，実習日誌等の提出状況などを総合的に評価する
自己学習に 関する指針	・次回の実習に活かせるように，１日ごとに実習での出来事を必ず振り返る。
履修上の 指導・留意点	・実習に関する質問は、その内容に応じて、研究室・電話・e-mail で対応する。 ・実習に欠席する場合、必ず事前に連絡をすること。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	保育実習Ⅰ（施設）指導						
担当教員	藤原映久　　宮下裕一						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020780
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	[授業の目的・ねらい] 　保育実習Ⅰ（施設）では、児童福祉施設等（保育所を除く）での実習を通じて、施設へ通所・入所する児童や利用者の実態を知ることにより、施設支援の実際を学ぶ。そこで、本科目では、児童福祉施設等で生活する児童や利用者について学んだ上、施設種別ごとの役割や機能、施設職員の職務内容等について理解することを目的とする。また、実習への心構え、実習先で必要とされる礼儀等について学び、保育業務・養護業務に携わる者としての自覚を高めることも目的とする。 [授業全体の内容の概要] 　保育実習Ⅰ（施設）では、児童福祉施設等（保育所を除く）での実習を通して、施設へ通所・入所する児童や利用者の実態を知ることにより、施設支援におけるケアワークの実際を学ぶ。本科目では、児童福祉施設等で生活する児童や利用者及びその入所背景などについて学んだ上、施設種別ごとの役割や機能、施設職員の職務内容等について理解する。また、実習への心構え、実習先で必要とされる礼儀等について学び、保育業務に携わる者としての自覚を高める。
授業の 到達目標	・児童福祉施設等で生活する児童や利用者について説明できる。 ・施設種別ごとの役割や機能、施設職員の職務内容等について説明できる。 ・実習への心構え、実習先で必要とされる礼儀等に関する知識を習得する。
授業計画	１ 保育実習Ⅰ（施設）について ２ 保育実習Ⅰ（施設）指導の意義 / 児童福祉施設で生活する子どもと職員の職務 ３ 障がい系施設実習の実際（福祉型・医療型障がい児入所施設、障がい者支援施設） ４ 養護系施設実習の実際（乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設） ５ 治療系施設及び児童相談所一時保護所実習の実際（児童自立支援施設、児童心理治療施設、児童相談所一時保護所） ６ 実習で使用する各種様式の説明 / 実習日誌の書き方 ７ 評価のポイント、注意点、確認事項 ８ 実習生オリエンテーション ９ ワーク（どんな時に困りそうか）/ お礼状の書き方 10 事後指導（実習体験発表） ※第３，４，５講義については、自らに該当する実習施設種別の講義を１つ受講すること。 ※第８講義は、実習指導委員会の後に開催され、実習施設職員よりオリエンテーションが実施される。
テキスト	守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵『施設実習パーフェクトガイド』、わかば社【1400 円+税】
参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	授業に対する意欲・態度、実習に対する振り返りの内容等から総合的に判断する。
自己学習に 関する指針	実習に赴く施設種別の役割や機能、施設職員の職務内容等について、参考文献等を活用しながら積極的に自己学習すること。
履修上の 指導・留意点	本講義は実務経験のある教員による授業科目である。 ・児童相談所において、心理司、ケースワーカー、一時保護所職員（ケアワーカー）として勤務した経験を有し、その経験を生かして子ども家庭福祉の現状や諸課題に関する授業を展開する。 ・身体障害者更生相談所、知的障害者更生相談所において心理司として勤務した経験を有し、授業ではその経験を生かして障がいに関するテーマを扱う。 ・小児科において心や行動の課題を抱える子どもとその家族を対象としたカウンセリングを実践しており、その経験を生かして、より実践的な授業を展開する。

授業科目	保育実習Ⅰ（施設）						
担当教員	藤原映久　　宮下裕一						
科目分類	専門基幹	授業時間	90	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	実習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020790
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	[授業の目的・ねらい] 　実習生として児童福祉施設等（保育所を除く）における実際の活動に参加することにより、「子どもや利用者の生活実態及び施設の役割・機能」、「子どもや利用者の理解と援助のポイント」、「保育士の職務や役割と職業倫理」等について学ぶ。また、保育実習Ⅰ（施設）指導等を通じて実習までに学んだ知識や技能に関して、実習を通じて再確認するとともに、その実践的理解を目指す。 [授業全体の内容の概要] 　通所または入所型の児童福祉施設、障害者支援施設等で 10 日間の実習を経験する。児童福祉施設等（保育所を除く）における実際のケアワークや活動に参加することにより、子どもや利用者の生活実態及び支援のポイント、保育士の職務と役割、施設生活の流れやその機能について体験的に学ぶ。また、保育実習Ⅰ（施設）指導等を通して実習までに学んだ知識や技能に関して、実習を通じて再確認するとともに、その実践的理解を促し、深める。
授業の 到達目標	・児童福祉施設等における「子どもや利用者の生活実態及び施設の役割・機能」、「子どもや利用者の理解と援助のポイント」、「保育士の職務や役割と職業倫理」等について体験的に理解し、理解から得た気づきを実習日誌に記した上で、実践に繋げる努力ができる。また、努力の内容が具体的に説明できる。 ・実習までに学んだ知識や技能を再確認し、実践に生かす努力ができるとともに、その内容が説明できる。
授業計画	実習を通じて以下の事柄を学ぶ ・ 施設における児童及び利用者の生活の実際 ・ 施設の役割と機能 ・ 子ども及び利用者の観察とそれに基づく考察及び記録 ・ 児童及び利用者の理解 ・ 児童及び利用者への援助（環境設定、養護技術等） ・ 施設における保育士の業務・役割と職業倫理
テキスト	守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵『施設実習パーフェクトガイド』、わかば社【1400 円+税】
参考文献	
評価方法	成績は、実習日誌、実習評価票、巡回指導時の聴取などから総合的に評価する。
自己学習に 関する指針	実習先施設に関して、その沿革や基本理念、事業内容等を調べておくこと。
履修上の 指導・留意点	本講義は実務経験のある教員による授業科目である。 ・児童相談所において、心理司、ケースワーカー、一時保護所職員（ケアワーカー）として勤務した経験を有し、その経験を生かして子ども家庭福祉の現状や諸課題に関する授業を展開する。 ・身体障害者更生相談所、知的障害者更生相談所において心理司として勤務した経験を有し、授業ではその経験を生かして障がいに関するテーマを扱う。 ・小児科において心や行動の課題を抱える子どもとその家族を対象としたカウンセリングを実践しており、その経験を生かして、より実践的な授業を展開する。

人間文化学部・保育教育学科
（令和 2 年入学生用）

授業科目	保育実習Ⅱ（保育所）指導						
担当教員	矢島毅昌　　青山啓子						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020800
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	[授業の目的・ねらい] 　「保育実習Ⅰ（保育所）」の実習経験や他教科における学びをもとに、自らの目標と課題をより明確にしながら、保育実践力を培うとともに、保育者としての高い資質を育成することを目指す。 [授業全体の内容の概要] 　「保育実習Ⅱ（保育所）」の実施に向けて、観察・記録及び指導計画の重要性について学び、保育活動の計画・展開・評価の方法について理解を深める。最初に、「保育実習Ⅰ（保育所）」の日誌をもとに自身の経験を振り返り、あらためて日誌の書き方と保育を見る視点について理解を深める。次に、振り返りを通じて「保育実習Ⅱ」への課題を明確にする。そして、各自の設定した課題を踏まえ、指導計画の書き方を身に付ける。これらの学びを通じて、保育実践力と保育者としての高い資質を育成する。
授業の 到達目標	(1)「保育実習Ⅰ（保育所）」の日誌をもとに自身の経験を振り返りながら、あらためて日誌の書き方について理解を深める。 (2)振り返りを通じて「保育実習Ⅱ」への課題を明確にする。 (3)各自の設定した課題を踏まえ、指導案の書き方を身につける。
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　保育実習を振り返るための「記録」と「評価」について 第３回　「保育実習Ⅰ（保育所）」の自己評価および課題の発見① 実習日誌について 第４回　「保育実習Ⅰ（保育所）」の自己評価および課題の発見② 実習課題とその立て方 第５回　指導案の書き方について（概説、3 歳未満児の指導案） 第６回　指導案の書き方について（3・4・5 歳児の指導案） 第７回　指導案の書き方について（実践と課題） 第８回　まとめ・総括
テキスト	厚生労働省 2017,『保育所保育指針』フレーベル館。 また、本学科編『実習の手引き』を使用。
参考文献	太田光洋 2018,『幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド［第 3 版］』ミネルヴァ書房。 その他、授業中に随時紹介する。
評価方法	期末試験は実施しない。 達成目標ごとの演習課題の内容と取り組む姿勢（達成目標(1)：25%、(2)：35%、(3)：40%）により、総合的に評価する。
自己学習に 関する指針	指導案の「中心となる活動」を構想するために必要な題材を、自主的に探求しておくこと。
履修上の 指導・留意点	「保育実習Ⅱ（保育所）」を履修するために必要な科目である。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、公立保育所および幼保園の保育現場で、保育士、主幹、所長として勤務してきた経験を活かして、保育士. 幼稚園教諭の資格取得に必要な保育所実習、幼稚園実習、乳児保育等の講義を行う。

授業科目	保育実習Ⅱ（保育所）						
担当教員	矢島毅昌　　青山啓子						
科目分類	専門基幹	授業時間	90	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	実習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020810
免許資格関連事項	○保育士資格						

授業の概要	[授業の目的・ねらい] 「保育実習Ⅱ（保育所）指導」「保育実習Ⅰ（保育所）」及び専門必修科目での学びを生かした実習の計画と実践を通じて、保育者として実践力と資質を身に付ける。 [授業全体の内容の概要] 「保育実習Ⅱ（保育所）指導」「保育実習Ⅰ（保育所）」及び専門必修科目の単位を取得したうえで、10 日間にわたる保育所での実習に臨み、それまでに学修した知識を基礎とする保育実践力を培うとともに、保育者として相応しい態度や責任感など、より高い資質を育成することを目指す。特に、子どもの実態の理解にもとづく部分指導／全日指導の計画立案・実践・反省を通して、保育所における保育内容と指導計画についての理解を深め、より高度な保育実践力を身に付けることを重視する。
授業の到達目標	(1) 保育所の組織や運営のあり方を理解し、体験を通じて保育の知識や技能を実践的に学ぶ。 (2) 保育士としての自覚や態度を身につけ、乳幼児の理解や保育者による援助の方法など、専門科目で学んだ知識や理論を実習の場で具体的に実践する。 (3) 実習中の指導案作成によって、保育所における保育計画と保育内容についての理解を深める。 (4) 実習中の日誌記録によって、観察・記録の方法を実践的に学びながら体験的な気づきを明確にし、自己学習の基盤とする。
授業計画	・実習先の保育所における保育方針、物的／人的環境、一日の保育の流れの理解 ・保育活動の内容や形態の理解 ・保育者の役割と援助の方法の理解 ・子どもの理解にもとづく部分指導／全日指導の計画立案および実践 ・実習の省察と自己評価
テキスト	『実習の手引き』のほか、「実習日程表」「実習先概要」「実習日誌」を使用する。
参考文献	
評価方法	実習録、出勤状況、事後指導の課題に基づく短大の担当教員による成績評価を中心に、実習先の保育所による成績評価を併せ、各達成目標の到達度を総合的に評価する。
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	「保育実習Ⅱ（保育所）指導」を履修しておくことが必要である。

授業科目	保育実習Ⅲ（施設）指導						
担当教員	藤原映久　　宮下裕一						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020820
免許資格関連事項	○保育士資格						

授業の概要	[授業の目的・ねらい] 保育実習Ⅲ（施設）は児童福祉施設等（保育所を除く）における２度目の実習であり、児童福祉施設等における支援の実践をより深く理解するとともに、2 年次の保育実習Ⅰ（施設）を通じて明らかになった自らの課題に取り組むことが求められる。そこで、本科目では児童福祉施設等の役割と機能を再確認した上で、施設における支援のあり方（知識、技術、判断・思考）に関する理解を高めることと、保育士としての自らの課題及びその課題に対する取り組みの方向性を明確にすることを目的とする。 [授業全体の内容の概要] 保育実習Ⅲ（施設）における体験と学びをより確かなものとするため、実習対象となる各施設種別について、施設を利用する子どもや障がい者の背景や特性、各施設の役割と機能、施設職員の職務内容、保育士に求められる役割や実際のケアワーク等について再確認する。また、被虐待児童、非行児、障がい児・者など、その理解と支援に高い専門性を要する児童や利用者の特性と施設における具体的な支援方法についての学びを促し、深める。
授業の到達目標	・児童福祉施設等の役割と機能に関する理解を深めるとともに、その内容が説明できる。 ・児童福祉施設等の支援で必要とされる知識、技術、判断力・思考力を養うとともに、その内容が説明できる。 ・保育士としての自己の課題を明確化するとともに、その内容が説明できる。
授業計画	第１回　保育実習Ⅲ（施設）の意義 第２回　児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能 第３回　保育実習Ⅰ（施設）の振り返りと課題の確認 第４回　実習対象施設に関する調べ学習① 第５回　実習対象施設に関する調べ学習② 第６回　実習で使用する様式の説明と日誌の書き方について 第７回　実習にあたっての注意点、確認事項 第８回　事後指導（実習体験発表）
テキスト	守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵『施設実習パーフェクトガイド』、わかば社【1400 円+税】
参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	授業に対する意欲・態度、実習に対する振り返りの内容等から総合的に判断する。
自己学習に関する指針	実習に赴く施設種別の役割や機能、施設職員の職務内容等について、参考文献等を活用しながら積極的に自己学習すること。
履修上の指導・留意点	本講義は実務経験のある教員による授業科目である。 ・児童相談所において、心理司、ケースワーカー、一時保護所職員（ケアワーカー）として勤務した経験を有し、その経験を生かして子ども家庭福祉の現状や諸課題に関する授業を展開する。 ・身体障害者更生相談所、知的障害者更生相談所において心理司として勤務した経験を有し、授業ではその経験を生かして障がいに関するテーマを扱う。 ・小児科において心や行動の課題を抱える子どもとその家族を対象としたカウンセリングを実践しており、その経験を生かして、より実践的な授業を展開する。

授業科目	保育実習Ⅲ（施設）						
担当教員	藤原映久　　宮下裕一						
科目分類	専門基幹	授業時間	90	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	実習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020830
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	[授業の目的・ねらい] 　保育実習Ⅰ（施設）の体験を下地として、「子どもや利用者の生活実態及び施設の役割・機能」、「子どもや利用者の理解と援助のポイント」、「保育士の職務や役割と職業倫理」等に関する理解を更に深めるとともに、保育士としての自らの課題を明確化し、実践を通じてその課題に取り組む。 [授業全体の内容の概要] 　各種施設の役割と機能、保育士の職務と役割をより深く・広く理解することを目的として、通所または入所型の児童福祉施設、障害者支援施設等で 10 日間の実習を行う。特に、社会的養護を担う施設においては、社会的養護の意義、被虐待児童への支援、保護者支援、家庭支援等を含め、これまでの学びを実習体験と繋げながら包括的に学ぶ。また、地域における施設の役割についても、地域福祉の視点から理解するとともに、体験的な理解を促す。
授業の 到達目標	・児童福祉施設等における「子どもや利用者の生活実態及び施設の役割・機能」、「子どもや利用者の理解と援助のポイント」、「保育士の職務や役割と職業倫理」等に関して深めた理解内容を具体的に説明できる。 ・明確化した自己の課題及び、実践を通じてその課題取り組んだ内容と成果について説明できる。
授業計画	・ 保育実習Ⅰ（施設）における以下の学びを深めるとともに、保育実習Ⅰの振り返りと本実習を通じて自らの課題を明確化し、その課題に取り組む。 ＊ 施設における児童及び利用者の生活の実際 ＊ 施設の役割と機能 ＊ 子ども及び利用者の観察とそれに基づく考察及び記録 ＊ 児童及び利用者の理解 ＊ 児童及び利用者への援助（環境設定、養護技術等） ＊ 施設における保育士の業務・役割と職業倫理
テキスト	守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵『施設実習パーフェクトガイド』、わかば社【1400 円+税】
参考文献	
評価方法	成績は、実習日誌、実習評価票、巡回指導時の聴取などから総合的に評価する。
自己学習に 関する指針	実習先施設に関して、その沿革や基本理念、事業内容等を調べておくこと。
履修上の 指導・留意点	本講義は実務経験のある教員による授業科目である。 ・児童相談所において、心理司、ケースワーカー、一時保護所職員（ケアワーカー）として勤務した経験を有し、その経験を生かして子ども家庭福祉の現状や諸課題に関する授業を展開する。 ・身体障害者更生相談所、知的障害者更生相談所において心理司として勤務した経験を有し、授業ではその経験を生かして障がいに関するテーマを扱う。 ・小児科において心や行動の課題を抱える子どもとその家族を対象としたカウンセリングを実践しており、その経験を生かして、より実践的な授業を展開する。

【保育教育学科　専門発展科目】

授業科目	教育史						
担当教員	時津　啓						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020840
免許資格関連事項	○幼稚園教諭一種免許状 ○小学校教諭一種免許状 ○保育士資格						

授業の概要	「教育とは何か」という問いへ歴史的にアプローチし、私たちがイメージする子どもや教育の構成性を理解する。さらに、それをもとに、子どもの姿や教育のありかたを批判的・反省的に見つめる学習を進める。具体的には、自らが描く子どもや教育のイメージと教育家や思想家らが描くそれを比較検討し、その共通点と相違点を考察する。そして、自らの視点を反省的に捉えなおし、現代の教育問題を批判的に考察する力を養う。　さらに、メディアの変化に注目し、その視点から教育や子どもの変化を捉え、歴史的に教育や子どもを捉え直す。
授業の到達目標	小学校・幼稚園の教員免許取得に必要な「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」に対応する科目である。 西洋教育思想を中心に、教育に関する概念を歴史的な流れの中で理解し、学校教育、子どもなどについて本質的な理解を目指す。とりわけ、学習権（権利としての教育）、メディアの変化、授業参加、子どもの制作活動という概念に注目し、現代における教育問題を考える視座を獲得する。また、言語論的転回以降の教育学に基づき、近代教育学の成立やその特徴について理解する。
授業計画	第１回　教育史を学ぶ意義―子育てをめぐる二つの子ども観 第２回　子どもとは何か①―ソクラテス、ルソー、新教育 第３回　子どもとは何か②―堀尾輝久の発達概念と子ども 第４回　子どもと戦後日本―戦後教育学の子ども観 第５回　子ども観の変化―アリエス、現代思想からの示唆 第６回　新教育と子ども―ニイルのサマーヒル・スクールを中心に 第７回　子どもの制作活動―デューイ、ケルシェンシュタイナー、メディア教育 第８回　近代公教育の成立①―西欧近代社会と教育の必要性（イギリスの産業革命を中心に） 第９回　近代公教育の成立②―近代日本の成立と運動会（学校行事への参加を手掛かりに） 第 10 回　近代公教育の展開①―授業参加の変遷（イギリスにおける労働者教育とメディア教育の比較） 第 11 回　近代公教育の展開②―戦後復興、冷戦、新自由主義 第 12 回　メディアの変化と教育の変化①―活字と学校 第 13 回　メディアの変化と教育の変化②―テレビ時代の教育 第 14 回　メディアの変化と教育の変化③―インターネットと e-ラーニング 第 15 回　まとめ―子ども、学校教育、メディアの変化
テキスト	小笠原道雄他編『教育学概論』福村出版 今井康雄『教育の思想史』有斐閣
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領』（平成 29 年 3 月告示） 文部科学省『幼稚園教育要領解説』（平成 30 年 2 月） 文部科学省『小学校学習指導要領』（平成 29 年 3 月告示） 文部科学省『小学校学習指導要領解説　総則編』（平成 29 年 6 月）
評価方法	受講態度（30%）、毎回の授業レポート（70%）
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	最新教育課題						
担当教員	時津啓　　渡辺一弘						
科目分類	専門発展	授業時間	15	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020850
免許資格関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育の基礎理論に関する科目 〔教育に関する社会的、制度的又は経営的事項〕 ○小学校教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育の基礎理論に関する科目 〔教育に関する社会的、制度的又は経営的事項〕						

授業の概要	教育の基礎理論の発展科目として、わが国における最新の教育制度改革の実際のあり方、国際的な教育政策の最新のあり方を学び、卒業後の社会で遭遇することが予想できる教育制度改革の動向を学ぶ。また、学習指導要領の改訂の中で、教育内容として新たに加えられる可能性のある要素、教員の資質として新たに求められる要素等の教育の最新事情についても学修し、専門職としての準備教育を行う。1 年前期の「教職論（小・幼）」がいわば教職課程のガイダンスに相当し、この「最新教育課題」が卒業後の教職へのガイダンスに相当する。
授業の到達目標	(1) 学習指導要領、幼稚園教育要領の本質を確認する。 (2) 教育制度改革の動向を理解する。 (3) 幼児教育・保育に関する国の政策や世界の動向を把握し、それらを踏まえて、実践において教員・保育者として、省察することができる。 (4) 子どもの発達に関する最新の知見の概要を理解し、同時に子ども生活の変化を踏まえた現状を理解することができる。
授業計画	第１回　戦後教育学と小学校学習指導要領、幼稚園教育要領　（担当：時津） 第２回　教育方法（メディア教材）、教授・学習の理論（振り返り、参加）　（担当：時津） 第３回　教育制度・行政（学習権）、教育史（メディアの視点から）　（担当：時津） 第４回　教育時事（いじめ、メディア）、教育法規（教育基本法）　（担当：時津） 第５回　幼児教育・保育に関する国の政策や世界の動向　（担当：渡辺） 第６回　教員・保育者としての子ども観、保育観などについての省察　（担当：渡辺） 第７回　子どもの発達に関する最新の知見　（担当：渡辺） 第８回　子どもの現状と課題　（担当：渡辺）
テキスト	授業の中で必要に応じてプリントなどを配布する。
参考文献	「教育法規便覧」（最新版） 「教育小六法」（最新版） 文部科学省ホームページ 「教育」（http://www.mext.go.jp/a_menu/a002.htm） 文部科学省『幼稚園教育要領』（平成 29 年 3 月告示） 文部科学省『幼稚園教育要領解説』（平成 30 年 2 月） 文部科学省『小学校学習指導要領』（平成 29 年 3 月告示） 文部科学省『小学校学習指導要領解説　総則編』（平成 29 年 6 月）
評価方法	第 1 回から第 4 回までの成績（確認テスト 70%、小レポート 30%）と第 5 回から第 8 回までの成績（確認テスト 60%、小レポート 40%）をあわせて総合的に評価する。
自己学習に関する指針	教育の最新課題に関するプリント資料を復習し、次の講義に備える。
履修上の指導・留意点	教育の最新課題について、自らの考えを整理しまとめる。

授業科目	学校教育と文化・社会						
担当教員	矢島毅昌						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	4	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020860
免許資格関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育の基礎理論に関する科目 〔教育に関する社会的、制度的又は経営的事項〕 ○小学校教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育の基礎理論に関する科目 〔教育に関する社会的、制度的又は経営的事項〕						

授業の概要	学校教育を文化研究・社会研究のアプローチから学ぶことを通じて、教育の基礎理論を発展的に学ぶ。具体的には、学校教育の文化的な特徴や社会的な課題について、「保幼小接続」「地域資源」「人・物・環境の関係」を手がかりに、理論的な理解にもとづく事例検討とディスカッションを通じて学びを深める。 そして、自ら設定したテーマ企画の発表を通じて、学校教育をめぐる文化的な特徴や社会的な課題について、これまでに培った知識・思考・表現・関心を総合的に運用しながら探求する力を身につける。
授業の到達目標	(1)教育の基礎理論を、学校教育の文化的・社会的側面に着目しながら、発展的に理解する。 (2)これまでの「初等教育」「幼児教育・保育」「特別支援教育」についての学びを領域横断的に活用し、広い視野で学校教育を考察する力を培う。 (3)学生同士によるディスカッションを通じて、学校教育の文化研究・社会研究の知見を実践的な課題の検討で活用できるようになる。 (4)学校教育の文化的・社会的側面に関する研究課題を主体的に設定し、その探求の成果を発表することを通じて、調査・分析する力を身につける。
授業計画	第１回　イントロダクション 第２回　保幼小接続をめぐる文化的・社会的な問題①（理論） 第３回　保幼小接続をめぐる文化的・社会的な問題②（事例検討） 第４回　保幼小接続をめぐる文化的・社会的な問題③（総括＋ディスカッション） 第５回　地域資源から考える学校教育と文化・社会①（理論） 第６回　地域資源から考える学校教育と文化・社会②（事例検討） 第７回　地域資源から考える学校教育と文化・社会③（総括＋ディスカッション） 第８回　人・物・環境の関係から考える学校教育と文化・社会①（理論） 第９回　人・物・環境の関係から考える学校教育と文化・社会②（事例検討） 第 10 回　人・物・環境の関係から考える学校教育と文化・社会③（総括＋ディスカッション） 第 11 回　自主テーマ企画のための準備指導①（テーマの設定と資料の収集） 第 12 回　自主テーマ企画のための準備指導②（発表内容の構成） 第 13 回　自主テーマ企画の発表と講評①（文化編） 第 14 回　自主テーマ企画の発表と講評②（社会編） 第 15 回　自主テーマ企画の総括／授業のまとめ
テキスト	テキストは使用しない。授業中に資料を配付する。
参考文献	酒井朗・横井紘子 2011,『保幼小連携の原理と実践：移行期の子どもへの支援』ミネルヴァ書房。 岩崎正弥・高野孝子 2010,『場の教育：「土地に根ざす学び」の水脈』農山漁村文化協会。 福島真人 2010,『学習の生態学』東京大学出版会。 その他、授業時に随時紹介する。
評価方法	到達目標(1)の評価：小レポート(10%) 到達目標(2)の評価：小レポート(10%)、ディスカッション／自主テーマ企画の内容及び報告書(10%) 到達目標(3)の評価：ディスカッションの参加姿勢、内容及び報告書(20%) 到達目標(4)の評価：自主テーマ企画の参加姿勢、内容及び報告書(30%) ＋期末レポート(20%)

自己学習に関する指針	学校教育を分析的に捉える視点が必要になるため、テーマに関連した参考文献を積極的に読み、自分なりの問題意識を持って取り組むこと。
履修上の指導・留意点	

授業科目	保育内容総論Ⅱ						
担当教員	小山優子						
科目分類	専門発展	授業時間	15	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020870
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育課程及び指導法に関する科目 〔保育内容の指導法〕 ○保育士資格						

授業の概要	[授業の目的・ねらい] 幼稚園の教員免許取得に必要な「教育課程及び指導法に関する科目」及び保育士資格の取得に必要な「保育の内容・方法に関する科目」に対応する科目である。幼稚園・保育所における５領域の保育内容を総合的に理解し、保育の実際に活かせる学級経営案、年間計画、期間計画、月案、週案、日案などの指導計画を立案する能力を身につけることを目的とする。 [授業全体の内容の概要] 幼稚園実習・保育所実習での子どもの発達や育ちを踏まえた上で保育内容を捉え、実際に保育内容をカリキュラムの中で展開するための構想力を身につける。また保育者に必要な、子どもの育ちの評価や保育者自身の保育実践の評価を行う視点を身につけ、保育内容の省察につながる保育記録の書き方を理解する。
授業の 到達目標	(1) 幼稚園や保育所、認定こども園における保育内容を総合的に捉え、保育内容を教育課程・保育課程や指導計画に反映させる視点を身につける。 (2) 年齢に応じた指導計画の書き方や長期的・短期的な指導計画の書き方を保育内容との関連から理解し、様々な指導計画を実際に作成することができる。 (3) 具体的な保育内容の展開について、保育記録により反省・省察する過程を通して子どもの育ちの評価や保育者の自己評価を行い、保育内容を評価する力を身につける。
授業計画	毎回、以下のテーマに沿って講義、または学生のグループ討議による演習により授業を進行する。 第１回　保育内容とカリキュラム（教育課程・保育課程、指導計画）の関連の理解 第２回　３歳未満児の保育内容と指導計画 第３回　３歳以上児の保育内容と指導計画 第４回　園内研修のための日案の書き方と保育内容の展開 第５回　週案、月案の書き方と保育内容の展開 第６回　保育内容と子どもの育ちの評価 第７回　保育内容の展開と保育者の自己評価 第８回　保育内容と指導要録・保育要録・こども要録の書き方
テキスト	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館，105 円 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館，126 円 内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館, 162 円
参考文献	参考文献などは授業の中で適宜提示するとともに、必要に応じてプリントなどを配布する。
評価方法	成績は、期末試験を実施せず、日案、要録、月案の３種類の課題レポート(25%、25%、50%)と出席状況等を考慮して、総合的に評価する。ただし、課題レポートの提出状況など、演習課題の締め切り遵守などの態度も評価する。
自己学習に 関する指針	保育所実習・幼稚園実習を終えた上で、保育現場に就職する前に保育士・幼稚園教諭として必要な実践的な力を身につける授業であるため、課題レポートを自分なりにしっかりと取り組むこと。
履修上の 指導・留意点	授業時間内に仕上がらない課題は次の授業までに宿題として仕上げてくること。

授業科目	幼児と造形表現Ⅱ						
担当教員	福井一尊						
科目分類	専門発展	授業時間	15	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020892
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育課程及び指導法に関する科目 〔保育内容の指導法〕 ○保育士資格						

授業の概要	乳幼児の「造形遊び」・「造形表現」の範囲、幼稚園教育要領、保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領の中の「造形」の位置と意義及び歴史的経緯について学ぶ。造形表現指導の実際と課題、発達に即した援助の具体的な方法や、子供の造形への発達的・特質的・心理的・造形（美）的アプローチなど、現場における指導に直結する内容を扱う。その際、常に制作を通して体験的に学んでいくことを重視し、豊かな人間性の基盤となる創造する喜び、造形（美術）を愛好する心情を養う。
授業の 到達目標	(1) 子どもの立体造形活動の発達段階について理解する。 (2) 保育環境と造形表現活動を結びつけて捉え、制作する力をつける。 (3) 筆やローラー、ヘラなどの正しい扱い方と与え方を体験的に修得する。 (4) 身近なものを用いて、季節に合った造形活動を行う楽しさや、意義を理解する。
授業計画	第１回　保育内容表現（造形）の意義 第２回　立体造形表現について（教材研究） 第３回　生活空間と造形活動（教材研究） 第４回　壁面装飾について（教材研究） 第５回　版を写す活動（指導案作成） 第６回　ローラーなどの用具（指導案作成） 第７回　多種の紙素材を用いて（模擬授業） 第８回　協力して行う活動（模擬授業）
テキスト	無し 適宜資料を配布するので、保存用Ａ４クリアファイルを準備すること。
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 平田智久他編著『保育内容「表現」』　ミネルヴァ書房 他授業の中で適宜紹介する。
評価方法	授業レポート４０%、提出作品４０%、レポート課題２０%
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関および行政機関での勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を実施する。また、国内外の文化施設における芸術活動経験を生かしてより具体的、実践的な実技指導を展開する。

授業科目	保育内容・造形表現の指導法Ⅱ						
担当教員	福井一尊						
科目分類	専門発展	授業時間	15	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020894
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育課程及び指導法に関する科目 〔保育内容の指導法〕 ○保育士資格						

授業の概要	「幼児と造形表現Ⅱ」における学びを基礎として、乳幼児の造形表現に対する見識をさらに深め、その指導・援助の重要性を具体的な事例をもとに認識するとともに、自ら創造活動を行うことによって造形表現の指導力を高める。立体造形や集団活動などを取り上げ、様々な保育教材を用いた指導計画立案や、保育教育実践ができる力を育む。
授業の 到達目標	(1) 保育指針、教育要領、保育要領の中の表現（造形）について理解し、実践する力をつける。 (2) 保育教材の適切な扱い方、与え方を体験的に修得する。 (3) 子どもの立体造形表現を観る目を育てる。 (4) 造形表現活動をカリキュラム構成できる力をつける。
授業計画	第１回　保育内容表現（造形）指導の実際 第２回　粘土造形（教材研究） 第３回　立体物への彩色（教材研究） 第４回　感触遊びの実際（教材研究） 第５回　絵の具、ニス、筆の扱い方、与え方（指導案作成） 第６回　廃材の種類と造形活動について（情報機器の活用・指導案作成） 第７回　廃材による造形活動（模擬授業） 第８回　子どもの表現への多様なアプローチ（模擬授業）
テキスト	無し 適宜資料を配布するので、保存用Ａ４クリアファイルを準備すること。
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 平田智久他編著『保育内容「表現」』　ミネルヴァ書房 他授業の中で適宜紹介する。
評価方法	授業レポート４０%、提出作品４０%、レポート課題２０%
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関および行政機関での勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を実施する。また、国内外の文化施設における芸術活動経験を生かしてより具体的、実践的な実技指導を展開する。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	幼児と音楽表現Ⅱ						
担当教員	梶間　奈保・渡邉　寛智						
科目分類	専門発展	授業時間	15	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020896
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育課程及び指導法に関する科目 〔保育内容の指導法〕 ○保育士資格						

授業の概要	この授業では子どもの音楽表現を引き出すために，歌うことと音楽以外の他分野との総合的な表現活動を取り上げて実践活動を行う。歌う活動では，美しい歌声を意識しながら子どもたちの歌声について実践を交えながら考えていく。これらを通して，音楽教材について理解を深め，子どもたちと多様な音楽表現ができるよう活動の展開について考えていく。
授業の 到達目標	保育内容「表現」の内容に基づき，保育士・幼稚園教諭として必要な音楽の表現方法について実践を通して学ことを目的とする。 （1）表現活動の教材研究（歌う・総合表現）について実践を通して考えることができる （2）音楽表現活動を実践的に展開し考察することができる
授業計画	第１回　子どもの音楽表現の育ちと教材研究について　（担当：梶間） 第２回　発声の基本と子どもの発声の考え方について　～美しく響く歌声とは～（担当：渡邉） 第３回　オペレッタとミュージカル①-題材研究（担当：渡邉） 第４回　オペレッタとミュージカル②-歌の構造と理解（担当：渡邉） 第５回　オペレッタとミュージカル③-歌唱表現と身体表現の方法（担当：渡邉） 第６回　オペレッタとミュージカル④-グループでの歌唱練習（担当：渡邉） 第７回　オペレッタとミュージカル⑤-グループでの演技練習（担当：渡邉） 第８回　グループ発表（担当：渡邉） 定期試験
テキスト	テキストは使用せず、適宜資料プリントを配布
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
評価方法	授業課題の取り組み状況（50%），試験成績（50%）により評価する
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（保育者養成校認定　専門学校）での勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。

授業科目	保育内容・音楽表現の指導法Ⅱ						
担当教員	梶間　奈保・渡邉　寛智						
科目分類	専門発展	授業時間	15	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020898
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育課程及び指導法に関する科目 〔保育内容の指導法〕 ○保育士資格						

授業の概要	この授業では子どもの音楽表現を引き出すために，他分野と融合した総合的な音楽表現活動を取り上げて実践活動を行う。他分野と融合した表現あそびとして，絵本と音楽を融合した教材「音の絵本」を取り上げ，音楽創作をグループで取り組んでいく。これらを通して，音楽教材について理解を深め，子どもたちと多様な音楽表現ができるよう活動の展開について考えていく。
授業の 到達目標	保育内容「表現」の内容に基づき，保育士・幼稚園教諭として必要な音楽の表現方法について実践を通して学ことを目的とする。 （1）表現活動の教材研究（音楽創作活動・総合表現）について実践を通して考えることができる （2）音楽表現活動を実践的に展開し考察することができる （3）他分野との総合的な表現活動について深めていくことができる
授業計画	第１回　総合的表現活動・音の絵本について（担当：梶間・渡邉） 第２回　音の絵本の題材選択と方法（担当：梶間） 第３回　音の絵本　―　グループワーク①担当分けと練習（担当：梶間） 第４回　音の絵本　―　グループワーク②練習 第５回　音の絵本の模擬発表（担当：梶間） 第６回　発表に関するグループディスカッション（担当：梶間） 第７回　音の絵本　本発表（学外での実演発表含む）（担当：梶間） 第８回　音の絵本の振り返りとまとめ（担当：梶間） 定期試験
テキスト	テキストは使用せず、適宜資料プリントを配布
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
評価方法	授業課題の取り組み状況（50%），試験成績（50%）により評価する
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（保育者養成校認定　専門学校）での勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	初等国語科授業研究						
担当教員	中井悠加						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020900
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕						

授業の概要	小学校国語科教育について、基礎的な教材研究・学習指導案計画の方法を踏まえ、発問計画・板書計画・教材教具の作成等具体的な授業設計方法を学ぶ。児童理解をふまえた学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。また、授業力の分析観点を用いながら模擬授業の自己評価・相互評価を繰り返すことで、学び続ける教員としての持続可能な実践的指導力を習得する。
授業の 到達目標	(1) 小学校国語科学習指導の目標と内容、単元・授業構成、実施、評価について実践的に理解する。 (2) 国語科に関する諸理論を踏まえた授業を設計し、より確かな実践的指導力を養う。 (3) 模擬授業の実施・分析・改善を通して、学び続ける教員としての基礎を培う。
授業計画	第１回　小学校国語科の目標及び内容 第２回　小学校国語科教科書の変遷と構造 第３回　発問計画と指導過程 第４回　板書計画とワークシートの作成 第５回　グループ学習の活用 第６回　国語科における評価とその方法 第７回　指導計画と学習指導案の作成 第８回　授業研究の理論と方法：授業分析の観点 第９回　単元計画の発表(1)：低学年を想定した単元計画 第 10 回　模擬授業実践(1)：「低学年を想定した模擬授業と授業分析 第 11 回　単元計画の発表(2)：中学年を想定した単元計画 第 12 回　模擬授業実践(2)：中学年を想定した模擬授業と授業分析 第 13 回　単元計画の発表(3)：高学年を想定した単元計画 第 14 回　模擬授業実践(3)：高学年を想定した模擬授業と授業分析 ※第９回～第１４回はグループごとに模擬授業プランのプレゼンテーションと実際の模擬授業、それらを踏まえた授業評価・事後協議実践を行う。 第 15 回　学びの振り返りとポートフォリオ・教育実習の心得
テキスト	文部科学省『小学校学習指導要領解説　国語編』東洋館出版
参考文献	必要に応じてプリントを配付する
評価方法	小レポート課題（国語科授業研究の基礎理論・単元計画案：30%）， 最終レポート課題(分析観点に基づくリフレクションレポートおよびポートフォリオ作成：60%) 授業態度（毎回の授業に関するコメントカードの内容：10%）
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	初等算数科授業研究						
担当教員	齊藤一弥						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020910
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕						

授業の概要	「初等算数科教育法」の学修に基づき，小学校学習指導要領における算数科について，授業内容を教材化する視点と方法を理解し，実践する力を養うことを目的とする。小学校の算数の教材開発を具体的に行い，授業内容と指導方法を検討・実践する過程を通じて，授業実践力の向上を目指す。小学校１年生から６年生までの算数において，実際の授業案を学生自身が考え，学習指導案を作成し，模擬授業案の一部を発表することを通じて小学校教員としての実践力を高める。学生・教員による授業反省会・討議を行い，今後の教材研究と授業研究に活かす。
授業の 到達目標	授業のテーマ：「小学校算数科の授業実践に関する基礎的・基本的知識・技能の修得」 (1) 算数に関する教材研究・教材開発を行う。 (2) 算数教育の方法及び技術を身につける。 (3) 学習指導案を作成し、授業実践を行い、自己評価・他者評価を行う。
授業計画	第１回　各領域のねらい及び各学年の目標の考察 第２回　目標および指導内容と教材・教具 第３回　教師としての基礎・基本①―学習指導案の目的― 第４回　教師としての基礎・基本②―学習指導案の書き方― 第５回　教師としての基礎・基本③―発問・板書― 第６回　教材研究と指導計画作成①―教材研究と学習指導案の「指導に当たって」の作成― 第７回　教材研究と指導計画作成②―教材研究と学習指導案の「観点別評価規準」及び「全体指導計画」の作成― 第８回　教材研究と指導計画作成③―教材研究と「本時の学習展開」及び「発問・板書」の作成― 第９回　模擬授業―「数と計算」領域を中心とした低・中・高学年の発表と評価― 第 10 回　模擬授業―「図形」領域を中心とした低・中・高学年の発表と評価― 第 11 回　模擬授業―「測定」領域を中心とした低・中・高学年の発表と評価― 第 12 回　模擬授業―「変化と関係」領域を中心とした低・中・高学年の発表と評価― 第 13 回　模擬授業―「データの活用」領域を中心とした低・中・高学年の発表と評価― 第 14 回　講評を踏まえた反省と授業実践力の自己評価 第 15 回　小学校算数科の授業研究の課題と在り方
テキスト	「小学校学習指導要領解説　算数編」文部科学省
参考文献	授業中，随時，適切な資料を配布したり，紹介したりする。
評価方法	課題レポートの提出(50%)，模擬授業への取組(50%)を総合的に評価する。
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（公立小学校・教育委員会事務局）での勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	初等理科授業研究						
担当教員	高橋泰道						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020920
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕						

授業の概要	「初等理科教育法」の学修に基づき，小学校学習指導要領における理科について，授業内容を教材化する視点と方法を理解し，実践する力を養うことを目的とする。小学校の理科の教材研究を具体的に行い，授業内容と指導方法を検討・実践する過程を通じて，授業実践力の向上を目指す。 具体的には，小学校３年生から６年生までの理科において，学生自身が単元を決め，教材研究を行い，実際の学習指導案を作成し，模擬授業案の一部を発表し，学生・教員間による授業反省会・討議を行うことを通して，小学校理科を担当する教員としての実践的能力・技能を養うことを目指す。
授業の 到達目標	(1) 理科教育に関する教材研究・教材開発・事例研究を行う。 (2) 理科教育の方法及び技術を身につける。 (3) 学習指導案を作成し，授業実践を行い，自己評価・他者評価を行う。
授業計画	第１回　授業の概要と課題の設定 第２回　授業構成の方法～導入・展開・まとめ～問題解決過程 第３回　教材研究①課題の検討と設定 第４回　教材研究②理科の教科書の調査・研究（収集） 第５回　教材研究③理科の教科書の調査・研究（分析・整理） 第６回　教材研究④観察・実験の実施 第７回　教材研究⑤観察・実験の考察・まとめ 第８回　事例研究①理科の事例研究の整理 第９回　事例研究②理科の事例研究の分析・まとめ 第 10 回　理科の学習指導案の発表と相互評価 第 11 回　理科の模擬授業の実施と省察 第 12 回　理科の学習指導案の修正 第 13 回　理科の模擬授業の実施と相互評価 第 14 回　理科の模擬授業の実施と自己評価 第 15 回　授業研究のまとめ
テキスト	文部科学省『小学校学習指導要領』第４節理科（2017.3） 文部科学省『小学校学習指導要領解説 理科編』(2017.6)
参考文献	授業の中で必要に応じてプリントなどを配布する。
評価方法	調査研究の発表内容、学習指導案の内容、模擬授業と授業反省会や討議についてのレポート、全授業を通じてのまとめレポートにより評価する。
自己学習に 関する指針	テキストや配布資料，およびレジュメに記載された参考文献を読み，事前学修・事後学修に役立てる。
履修上の 指導・留意点	質問は，その内容に応じて，授業時間中・オフィスアワー・e-mail で対応します。

授業科目	初等体育科授業研究						
担当教員	梶谷朱美						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020930
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕						

授業の概要	小学校１年生から６年生までの体育科において、実際の授業案を学生自身が考え、学習指導案を作成し、模擬授業案の一部を発表することを通じて小学校教員としての実践的指導力を高める。学生間・教員による授業反省会・討議を行い、今後の教材研究と授業研究に活かす。
授業の 到達目標	(1)学習指導要領体育科の各学年の目標や児童の発達段階、運動の特性に応じた学習指導案の作成ができる。 (2)教材研究や模擬授業を通して、体育授業の環境構成（場つくり・教材つくり）や教師の支援等についての知識を深め、実践的な指導力を高めることができる。 (3)擬授業等、体育授業の様々な事例をもとに討論や発表を行い、体育科の目標や内容に関する実践的な知識を身につけるとともに、授業分析や授業観察の視点についても理解する。
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　学習指導要領体育科の改訂と目標や内容の変遷 第３回　体育科の各学年の目標と内容 第４回　小学校体育科における教師の役割 第５回　教材研究(模擬授業で指導する内容決定、指導案作成) 第６回　教材研究(模擬授業で指導する指導案の作成) 第７回　教材研究（模擬授業で指導する実技練習） 第８回　模擬授業(導入：追究力を引き出す単元との出合わせ方の工夫)と討議、次時の検討修正 第９回　模擬授業（第１次：各運動領域の基礎基本の習得）と討議、次時の検討修正 第 10 回　模擬授業（第２次：活用、探究できる環境構成と教師の支援）と討議、次時の検討修正 第 11 回　模擬授業（終末　第３次：単元のふりかえりと内容の生活化）と討議、まとめ 第 12 回　授業観察及び授業分析の視点 第 13 回　基礎見学の留意点と課題 第 14 回　基礎見学：公立小学校の低学年・中学年・高学年(予定) 第 15 回　演習：基礎見学の授業内容に関する発表・討議、まとめ
テキスト	・文部科学省「小学校学習指導要領解説-体育編-」 ・初等体育授業づくり入門　岩田靖・吉野聡・日野克博・近藤智靖編著　大修館書店　1700 円+税
参考文献	・文部科学省「中学校学習指導要領解説-保健体育編-」 ・文部科学省「高等学校学習指導要領解説-保健体育編-」 ・「幼稚園教育要領解説」 ・「保育所保育指針」
評価方法	・学習指導案作成：指導案作成に関わる教材研究や実技練習の取組の姿から総合的に評価（25%） ・模擬授業：模擬授業での発表や討議、模擬授業に関わるレポートを総合的に評価（50%） ・基礎見学：授業見学の授業内容に関する発表、討議、およびレポートを総合的に評価（25%）
自己学習に 関する指針	1 回の授業ごとに予め課題をだし、課題解決型の授業を行う。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

履修上の 指導・留意点	運動のできる服装、シューズを準備すること。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、小学校及び教育委員会保健体育課での勤務経験を活かしてより具体的、実践的な授業を進め教員免許取得に関する授業を展開する。

授業科目	小学国語						
担当教員	中井　悠加						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020935
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕						

授業の概要	教科に関する科目の発展科目として、中学校への教育的一貫性を意識した高学年から中学校にいたる「国語」のあり方を理解する。具体的には、「国語（書写を含む）」で学修したことを受けて、読むこと、書くこと、話すこと・聞くことの各領域および我が国の言語文化に関する学修において，小学校高学年国語科に出てくる物語、説明文、文章作成や音声言語活動を，将来児童に指導するという観点から学び，初等国語科教育に必要な基礎的・基本的な知識と技能を養う。
授業の 到達目標	① 国語科教育の制度と教科構造について理解し、日常の言語生活と教育を結び付けて理解する。 ② 児童文学作品および説明的文章を理論に基づいて分析することができる。 ③ ICT を含めた多様な書記表現・音声言語表現の方法を理解し、実践することができる。 ④ 国際社会における国語・日本語の位置について考えを持つことができる。
授業計画	第１回　国語科教育の教科構造(1)：国語科の制度と教科書 第２回　国語科教育の教科構造(2)：言語教育と文学教育 第３回　「書くこと」の学習(1)：レポートでつける論理的表現力 第４回　「書くこと」の学習(2)：文芸創作でつける文学的表現力 第５回　「書くこと」の学習(3)：随筆でつける描写力 第６回　「読むこと」の学習(1)：児童文学の世界に浸る 第７回　「読むこと」の学習(2)：説明的文章の論理を読み取る 第８回　「読むこと」の学習(3)：詩歌でことばを探究する 第９回　「話すこと・聞くこと」の学習(1)：プレゼンテーションでつける提案力 第 10 回　「話すこと・聞くこと」の学習(2)：ロールプレイでつける質問力 第 11 回　「話すこと・聞くこと」の学習(3)：ディスカッションでつける討論力 第 12 回　我が国の言語文化に関する学習(1)：古典文学に親しむ 第 13 回　我が国の言語文化に関する学習(2)：用途による筆記具の使い分け 第 14 回　国語科におけるメディア・リテラシー 第 15 回　国際化時代における国語科教育：世界における日本語の位置
テキスト	テキストは用いず，必要に応じてプリントを配付する
参考文献	文部科学省『小学校学習指導要領』第１節国語 （http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2017/05/12/1384661_4_2.pdf） その他、授業中に随時紹介する
評価方法	各授業時に行う小課題（グループワークや作文課題およびそれらの活動の省察：40%）， 最終課題レポート（国語科の学習内容に関する知識とそれに対する論述：50%） 授業態度（毎回の授業に関するコメントカードの内容：10%）
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	小学算数						
担当教員	齊藤一弥						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020940
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状≪教科に関する科目≫ ・算数						

授業の概要	小学校算数科の在り方について，数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を通して数学的に考える資質・能力の育成に向けて，小学校算数科における「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」領域と中学校数学科における「数と式」「図形」「関数」「データの活用」の関連を取り上げた講義と演習を行う。
授業の 到達目標	授業のテーマ：「小学校算数科と中学校数学科との関連の理解」 (1) 小学校算数科と中学校数学科との関連深い内容について理解する。 (2) 中学校への教育的一貫性を意識した小学校算数科の在り方を理解する。
授業計画	第１回　数の拡張―正の数と負の数の加減― 第２回　□や△を用いた式と文字を用いた式 第３回　未知数としての□を使った式と一元一次方程式 第４回　「同じものに目をつけて」という考え方と連立二元一次方程式 第５回　素数と素因数分解 第６回　平面図形 第７回　基本的な平面図形と平行線の性質 第８回　空間図形 第９回　図形の合同 第 10 回　図形の相似 第 11 回　比例・反比例 第 12 回　一次関数 第 13 回　資料の散らばりと代表値及び標本調査 第 14 回　割合と確率①―小学校における割合― 第 15 回　割合と確率②―高等学校における確率を踏まえた中学校における確率― 定期試験
テキスト	「小学校学習指導要領解説　算数編」文部科学省 「中学校学習指導要領解説　数学編」文部科学省
参考文献	授業中，随時，適切な資料を配布したり，紹介したりする。
評価方法	小テスト・定期試験：８０%，レポート等：２０%
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（公立小学校・教育委員会事務局）での勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。

授業科目	小学理科						
担当教員	高橋泰道						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020950
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状≪教科に関する科目≫ ・理科						

授業の概要	教科に関する科目の発展科目として，中学校への教育的一貫性を意識した高学年から中学校にいたる「理科」のあり方を理解する。具体的には，「理科」で学修したことを受けて，物理・化学・生物・地学の各領域において，小学校５・６年理科に出てくる実験や観察を，将来児童に指導するという観点から学び，初等理科教育に必要な基礎的・基本的な知識と技能を養う。「物質・エネルギー」では，物の溶け方，振り子の運動，電流の働き，燃焼の仕組み，てこの規則性等を学び，「生命・地球」では，植物の発芽，成長，結実，動物の誕生，人の体のつくりと働き，生物と環境，土地のつくりと変化，天気の変化，天体の基礎を学ぶ。
授業の 到達目標	①小学校で必要な学習内容に関わる実験・観察について理解し，安全に配慮して行うことができる。 ②科学的に自然の事物・現象を認識できる。 ③科学的思考，方法を修得し，自然の事物・現象についての解説や，応用ができる。
授業計画	第１回　オリエンテーション，植物の発芽，成長，結実 第２回　動物の誕生 第３回　人の体のつくりと働き 第４回　生物と環境 第５回　土地のつくりと変化 第６回　天気の変化 第７回　月と星 第８回　物の溶け方 第９回　水溶液の性質 第 10 回　振り子 第 11 回　電流の働き 第 12 回　燃焼の仕組み 第 13 回　ロウソクの化学 第 14 回　てこの働き 第 15 回　電気の利用 定期試験は行わない。
テキスト	和泉浩行・島根理科授業研究会編著（2015）第５学年『活用問題事例集』今井出版 プリントも随時配布する。
参考文献	文部科学省（2017）『小学校学習指導要領　理科編』 （http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2017/10/13/1387017_5.pdf） その他，授業の中で必要に応じて紹介する。
評価方法	授業レポート（４０%），提出物（スケッチやレポート）（６０%）などで総合的に判断して全体評価を決める。
自己学習に 関する指針	テキストや配布資料，およびレジュメに記載された参考文献を読み，事前学修・事後学修に役立てる。
履修上の 指導・留意点	質問は，その内容に応じて，授業時間中・オフィスアワー・e-mail で対応します。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	音楽Ⅲ						
担当教員	梶間奈保　　渡邉寛智　　代香織						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	3	配当期	通年
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020960
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状≪教科に関する科目≫ ・音楽 ○保育士資格						

授業の概要	[授業の目的・ねらい] この授業では音楽表現に関する技術および演奏表現の向上を目指す。演奏の技術向上のみならず，教育現場での音楽指導ができるよう模擬指導や実践練習を行い，音楽指導の指導力を養っていく。 [授業全体の内容の概要] この授業ではピアノ演奏・歌唱・器楽合奏に各受講者が分かれ，それぞれの音楽表現に関する技術および演奏表現を授業での練習を通して深めていく。授業内では，演奏する楽曲分析の視点を理解した演奏やそれぞれの音楽表現を活かして教育現場での音楽指導ができるように，グループ内での模擬指導や実践練習を行う。また，音楽技能習得の成果として行う発表会では，各個人が演奏を行うとともに，受講者自身で発表会の計画や運営に取り組むこととする。
授業の 到達目標	ピアノ演奏，歌唱，器楽合奏の３つの形態に分かれ，自身の選択した音楽技能および音楽表現の向上に努めることを目的とする科目である。 (1) 自身の音楽技能および音楽表現の向上に努める (2) 演奏方法を学び楽曲への理解を深め，音楽指導へとつなげる (3) 演奏発表を通して，音楽会の計画および運営について学ぶ
授業計画	第１回　オリエンテーション―授業方法についてのガイダンスとグループ分け 第２回　グループに分かれて課題の演奏練習①課題曲の選曲と基礎練習の取り組み 第３回　グループに分かれて課題の演奏練習②課題曲の練習と楽曲の理解ついて 第４回　グループに分かれて課題の演奏練習③課題曲の練習と演奏表現について 第５回　グループに分かれて課題の演奏練習①課題曲の練習と模擬発表 第６回　グループ内での模擬発表 第７回　音楽会の実践について（ガイダンス，担当割り当て） 第８回　グループに分かれての練習①曲の選曲と楽曲の理解について 第９回　グループに分かれての練習②曲の練習と演奏指導の視点について 第 10 回　グループに分かれての練習③曲の練習と模擬演奏指導（グループ１） 第 11 回　グループに分かれての練習④曲の練習と模擬演奏指導（グループ２） 第 12 回　グループに分かれての練習⑤曲の練習 第 13 回　グループに分かれての練習⑥曲の練習と音楽会の準備 第 14 回　音楽会の実践（リハーサル） 第 15 回　音楽会の実践 定期試験
テキスト	テキストは使用せず、適宜プリント・教材を配布する。
参考文献	文部科学省『小学校学習指導要領』第６節音楽 （http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/on.htm） 文部科学省『幼稚園教育要領』厚生労働省『保育所保育指針』内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
評価方法	授業課題の取り組み状況（40%），演奏発表（模擬及び音楽会実践）（30%）試験成績（30%）により評価する
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（保育者養成校認定　専門学校）での勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。

授業科目	音楽Ⅳ						
担当教員	渡邉寛智						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020970
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状≪教科に関する科目≫ ・音楽						

授業の概要	初等歌唱教材や幼児教育に適した歌曲教材を扱いながら，基礎的な歌唱方法を学び歌唱技能の向上と歌唱表現を高めることを目的とする。また，歌唱に伴う音楽理論，知識を高めると共に，楽曲に対する分析や表現方法を深め，音楽に対するより豊かな表現力を目指す。
授業の 到達目標	(1) 初等歌唱教材，幼児教育で用いる楽曲の歌唱表現を高める (2) 歌唱の基礎的な理解及び歌唱指導法の知識を習得する (3) 楽曲の分析的視点を深め，多様な音楽表現の向上に努める
授業計画	第１回　オリエンテーション（担当：授業方法についてのガイダンスと課題曲の提示） 第２回　「春がきた」（斉唱）を用いた歌唱（発声法―姿勢・呼吸） 第３回　「うみ」（斉唱）を用いた歌唱（発声法―ブレス・共鳴） 第４回　「もみじ」（斉唱）を用いた歌唱（歌唱法―音程・発語） 第５回　任意の楽曲での歌唱（歌唱法―レガート・フレーズ） 第６回　輪唱「静かな湖畔」を用いた音楽あそび 第７回　「ふるさと」を用いた重唱 第８回　「エーデルワイス」を用いた重唱 第９回　学校指導要領における歌唱の領域について 第 10 回　選曲およびねらいの設定について 第 11 回　グループワーク（テーマ：斉唱と独唱の違い） 第 12 回　グループワーク（テーマ：歌唱と伴奏の関係性①）共鳴と音響 第 13 回　グループワーク（テーマ：歌唱と伴奏の関係性②）音響と空間構成 第 14 回　実践的な歌唱①　歌うことを楽しむ 第 15 回　実践的な歌唱②　発達段階における歌唱の理解 定期試験　実技試験（独唱）、授業に関するレポート試験
テキスト	特に使用しない。適宜プリント資料等を配布する。
参考文献	文部科学省『小学校学習指導要領』第６節音楽 （http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/on.htm） 文部科学省『幼稚園教育要領』厚生労働省『保育所保育指針』内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
評価方法	実技試験（独唱）(60%)、レポート試験（40%）により総合的に評価する
自己学習に 関する指針	テキスト、配布プリントを復習に役立てる。
履修上の 指導・留意点	

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	学校図書館論						
担当教員	木内公一郎						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1020020
免許資格 関連事項	○司書教諭免許状						

授業の概要	教師が学校図書館活用教育を展開するために必要な知識・技能として、学校図書館の教育的意義や経営など全般的事項について理解することを目標とする。学校図書館の理念と教育的意義、学校図書館の発展と課題、教育行政と学校図書館、学校図書館の経営（人、施設、資料、予算、評価等）、司書教諭の役割と校内の協力体制と研修、学校図書館メディアの選択と管理、提供、学校図書館活動、図書館の相互協力とネットワーク等について解説する。
授業の 到達目標	学校教育と学校図書館の関係、組織、サービス、人的資源などを広範囲にわたる学校図書館の課題を理解することができるようになる。(知識) 学校教育における学校図書館のあるべき姿を理解し，司書教諭として学校図書館運営の中核を担う意識が醸成されるようになる。(態度)
授業計画	第１回　学校教育と学校図書館：学校図書館の目的と役割について説明する。 第２回　学校図書館の歴史1：学校図書館の概念と機能形成のはじまりを説明する。 第３回　学校図書館の歴史2：昭和前期から戦後の法制化までを説明する。 第４回　教育行政と学校図書館経営：教育行政と学校図書館との関係について説明する。 第５回　学校図書館職員と経営組織：司書教諭と学校司書の役割と組織について説明する。 第６回　学校図書館メディア：メディアの類別と収集、組織化について説明する。 第７回　学校図書館の設備と会計：学校図書館基準を基に設備と会計について説明する。 第８回　学校図書館の教育活動：学校図書館が行うべき教育活動について説明する。 第９回　学校図書館経営計画：経営計画の立案について説明する。 第 10 回　学校図書館活動の実際１：学校図書館活動を行う際の留意点と意義を説明する。 第 11 回　学校図書館活動の実際２：資料提供活動の目的と方法を説明する。 第 12 回　学校図書館活動の実際３：情報提供活動と広報活動について説明する。 第 13 回　学校図書館活動の実際４：行事・集会活動とネットワークについて説明する。 第 14 回　学校図書館の評価と改善：評価の必要性と、評価の方法について説明する。 第 15 回　まとめ：学校経営における司書教諭の役割と職責を説明する。
テキスト	司書教諭・学校司書のための学校図書館必携　理論と実践　改訂版（全国学校図書館協議会監修　悠光堂　2017）
参考文献	授業中に指示する。
評価方法	授業中の課題（４０%），レポート（６０%）
自己学習に 関する指針	・授業中に紹介した参考文献を、積極的に読むこと。・予習としてテキストの該当箇所を読んでおくこと。
履修上の 指導・留意点	質問はいつでも受け付けます。オフィスアワーを十分に活用してください。またリアクションペーパーを毎回配布しますので，質問や意見を積極的に書いてください。 なお，本講義は実務経験のある教員による授業科目であり，出版社社員，大学事務職員，大学図書館，公共図書館の司書として勤務経験を生かし，現場での問題解決や利用者とのコミュニケーションなど実践的な知識，技能，理論に基づく教育を行う

授業科目	学習指導と学校図書館						
担当教員	木内公一郎						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020030
免許資格関連事項	○司書教諭免許状						

授業の概要	受講者が学校図書館活用教育を展開するために必要な知識・技能として、学習指導における学校図書館メディア活用について理解することを目標とする。教育課程と学校図書館、発達段階に応じた学校図書館メディアの選択、児童生徒の学校図書館メディア活用能力の育成、学習過程における学校図書館メディア活用の実際、学習指導における学校図書館の活用、情報サービス（レファレンスサービス等）など、教員への支援と働きかけ等について解説する。
授業の到達目標	受講生は以下の項目ができるようになる。 １．学校図書館に求められている読書センター、学習・情報センターとしての機能のうち、学習・ 情報センターの機能についての基本的理解。(知識) ２．学校図書館が児童生徒の情報活用能力を育む役割を持つことを踏まえ、情報活用能力の育成について理論として理解する。(知識) ３．情報活用能力の育成の内容と方法を理解し，実践できるようになる。(技能) ４．情報教育を担う司書教諭の役割を自覚できるようになる。(態度)
授業計画	第１回　教育課程と学校図書館：学校図書館と学習指導の展開の関わりを説明する。 第２回　学校図書館メディアの特徴：発達段階を踏まえ，どの様な特徴があるかを説明する。 第３回　学校図書館メディア活用能力育成（１）：メディア活用能力の意義と目的について説明する。 第４回　学校図書館メディア活用能力育成（２）：児童生徒のメディア活用能力育成の内容を説明する。 第５回　学校図書館メディア活用能力育成（３）：メディア活用能力育成の指導方法を説明する。 第６回　学校図書館メディア活用能力育成（４）：メディア活用能力育成の計画と作成手順を説明する。 第７回　学校図書館メディア活用能力育成（５）：メディア活用能力育成教育の評価と改善を説明する。 第８回　学校図書館メディア活用の実際：学習過程と図書館メディアの関わりを説明する。 第９回　学習指導における学校図書館の活用（１）：科における学校図書館の活用を説明する。 第 10 回　学習指導における学校図書館の活用（２）：総合的学習の時間における学校図書館の活用を説明する。 第 11 回　学校図書館における情報サービス（１）：情報サービスの意義と情報サービスの実際 第 12 回　学校図書館における情報サービス（２）：児童生徒に対する情報サービスについて説明する。 第 13 回　学校図書館における情報サービス（３）：教職員に対する情報サービスと教育活動への支援について説明する。 第 14 回　教師への支援と働きかけ：学校図書館と教職員との関わり方を説明する。 第 15 回　まとめ：いままでの授業を踏まえ、メディア教育を進める上での司書教諭のあり方を議論する。
テキスト	齋藤泰則『学習指導と学校図書館』樹村房，2016（司書教諭テキストシリーズⅡ　3）
参考文献	授業中に指示する
評価方法	レポート（７０%）授業中の演習課題（３０%）
自己学習に関する指針	・授業中に紹介した参考文献を、積極的に読むこと。・予習としてテキストの該当箇所を読んでおくこと。
履修上の指導・留意点	質問はいつでも受け付けます。E-mail，オフィスアワーを十分に活用してください。またリアクションペーパーを毎回配布しますので，質問や意見を積極的に書いてください。 なお，本講義は実務経験のある教員による授業科目であり，出版社社員，大学事務職員，大学図書館，公共図書館の司書として勤務経験を生かし，現場での問題解決や利用者とのコミュニケーションなど実践的な知識，技能，理論に基づく教育を行う

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	学校図書館メディアの構成						
担当教員	木内公一郎						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1020040
免許資格関連事項	○司書教諭免許状						

授業の概要	学校図書館活用教育を展開するために必要な知識・技能として、学校図書館メディアの構成に関する理解及び実務能力の育成を目標とする。学校図書館メディアの種類と特性、学校図書館メディアの選択と構成、学校図書館メディアの組織化（分類の意義と機能、日本十進分類法等の解説、件名標目表の解説、目録の意義と機能、日本目録規則の解説、目録の機械化）など、多様な学習環境と学校図書館メディアの配置等について解説するとともに，主要単元毎にケースメソッドを導入し，知識の応用と実践能力の育成を図る。
授業の到達目標	学校図書館メディアの全体像を理解するとともに，メディアの収集から利用までの実務を理解することができるようになる。(知識) さらに学校図書館メディアに関する知識と技術が身につき，学校図書館の現場で実践できるようになる。(技能)
授業計画	第１回　学校図書館メディアの意義：学校教育におけるメディアのはたらきを解説する。 第２回　メディア構成の要点：メディアを構築していくプロセスについて解説する。 第３回　メディア構成の知識と技術：司書教諭に必要とされる役割と知識について解説する。 第４回　学校図書館メディアの種類：印刷、視聴覚，電子資料などの各メディアについて解説する。 第５回　印刷・視聴覚メディアの選択と収集：選書のための方法と情報源を解説し，ケースメソッドによる演習を行う。 第６回　電子メディア利用の環境整備：コンピュータシステム，ネットワーク環境について解説する。 第７回　コレクション形成の意義：学校図書館コレクションの意義と形成のあり方について解説する。 第８回　コレクション形成の実際：コレクション形成の実務と ケースメソッドによる演習を行う。 第９回　コレクション評価の手法：評価の基準とその方法について解説する。 第 10 回　メディアへの物理的アクセス支援：印刷、ファイル資料，電子メディアの取り扱いについて学ぶ。 第 11 回　メディアへの知的アクセス支援：メディアへアクセスする方法としてコンピュータ目録を中心に解説する。 第 12 回　分類法を用いたメディアの組織化：主題組織法，特に日本十進分類法を中心に解説する。 第 13 回　目録法を用いたメディアの組織化：日本目録規則，メタデータについて解説する。 第 14 回　件名法を用いたメディアの組織化：基本件名標目法を中心に解説する。 第 15 回　学校図書館メディアの構成における課題：学校教育への貢献と司書教諭，学校司書の協働について解説し，まとめとしてケースメソッドによる演習を行う。
テキスト	小田光宏『学校図書館メディアの構成』樹村房，2016（司書教諭テキストシリーズⅡ　2）
参考文献	授業中に指示する。
評価方法	筆記試験（６０%），授業中の課題および演習（40%）
自己学習に関する指針	・授業中に紹介した参考文献を、積極的に読むこと。・予習としてテキストの該当箇所を読んでおくこと。
履修上の指導・留意点	質問はいつでも受け付けます。オフィスアワーを十分に活用してください。またリアクションペーパーを毎回配布しますので，質問や意見を積極的に書いてください。 なお，本講義は実務経験のある教員による授業科目であり，出版社社員，大学事務職員，大学図書館，公共図書館の司書として勤務経験を生かし，現場での問題解決や利用者とのコミュニケーションなど実践的な知識，技能，理論に基づく教育を行う

授業科目	情報メディアの活用						
担当教員	石井大輔						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	3	配当期	
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1030030
免許資格 関連事項	○司書教諭						

授業の概要	日常生活(大学での学習を含む)において、「思った」または「感じた」ことを多様な情報メディアの中からその時に最適なものを選び、創作的に表現できるスキルを修得することを目的とする。また、司書教諭となるものが学校教育において学校図書館における多様な情報メディアの特性を熟知した上で活用できるようになることを目指す。「高度情報社会と人間(情報メディアの発達と変化を含む)」「情報メディアの特性と選択」「視聴覚メディアの活用、コンピュータの活用(教育用ソフトウェアの活用、データベースと情報検索、インターネットによる情報検索と発信)」「情報メディアと著作権」などについて解説する。
授業の 到達目標	・日常の課題解決において、必要な情報を多様な情報メディアの中からその時に最適なものを選ぶために必要な知識とスキルを修得し、得られた知見をもとに着想した事柄を、情報メディアやICTを活用しながら創作的に表現、発信できるスキルを修得する。 ・司書教諭となるものに求められる伝統的メディアである図書や雑誌等を取扱う技術に加え、情報ネットワーク環境のもとで基本的に求められる知識とスキル、方向感覚を修得する。 ・情報メディアの活用に欠かせない情報倫理や知的財産権に関する本質的認識を身につける。
授業計画	第１回　情報メディアの現状 第２回　情報メディアの歴史 第３回　情報ネットワークの技術的背景 第４回　情報メディアの特性と選択 第５回　学校教育と情報リテラシー 第６回　インターネット情報資源 第７回　アナログ情報の電子化および活用 第８回　文献管理と発想法：紙媒体 第９回　文献管理と発想法：電子媒体 第10回　文献管理と発想法：スマートフォンの活用 第11回　知的創造と著作権（1）：情報メディアの利用と知的財産制度 第12回　知的創造と著作権（2）：情報メディアと著作権 第13回　知的創造と著作権（3）：学校教育と著作権 第14回　情報メディアとアクセシビリティ 第15回　学校教育における情報メディアの展望と課題 定期試験
テキスト	なし
参考文献	山本順一、気谷陽子編著『情報メディアの活用』三訂版、放送大学教育振興会（2016年）
評価方法	・平常点（40%）、レポート（30%）、試験（30%） ・平常点では①オピニオンペーパの記述（毎時出題するクイズの回答等）、②授業への参加を評価する。授業への参加とは授業内での教員からの問いかけに対する発言のほか、挙手による回答の回数をカウントする。
自己学習に 関する指針	日常的にコンピュータやスマートフォン等の情報機器の扱いに慣れておくことが必要です。授業の内容をよく理解し、積極的にインターネットを用いた情報発信を実践してください。
履修上の 指導・留意点	・授業はコンピュータを使用できる環境で行いますが、受講生所有のコンピュータやスマートフォン等を適宜使用します。 ・司書教諭資格の取得に必要な科目です。

授業科目	知的障害児の心理						
担当教員	園山繁樹　　内山仁志						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020980
免許資格 関連事項	○特別支援学校教諭一種免許状≪特別支援教育に関する科目≫ ・特別支援教育領域に関する科目 〔心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目〕						

授業の概要	乳幼児期から学齢期に至る発達過程での知的障害児のアセスメントとその結果に基づく実態把握、発達段階別の早期発見の指標についての理解を深めるとともに、知覚、学習、言語発達、概念形成、数概念、記憶、問題解決、動機づけ、姿勢運動の発達、及び他の障害を併せ持つ知的障害の特徴、問題行動の背景等について、知的障害の心理的特徴を解説する。知的障害児の問題行動の発生機序、問題行動への支援のあり方を検討する。
授業の 到達目標	(1)知的障害の定義と歴史的変遷について説明できる。 (2)知的障害の心理機能の特徴と発達について説明できる。 (3)重複障害の特徴や問題行動の発生機序について説明できる。
授業計画	第１回　知的障害の定義と歴史的変遷（担当：園山） 第２回　知的障害の分類（担当：内山） 第３回　知的障害のアセスメントと早期発見（担当：内山） 第４回　知的障害の知覚の特徴と発達（担当：内山） 第５回　知的障害の学習の特徴と発達（担当：園山） 第６回　知的障害の言語の特徴と発達（担当：園山） 第７回　知的障害の概念形成の特徴と発達（担当：園山） 第８回　知的障害の数概念の特徴と発達（担当：園山） 第９回　知的障害の記憶の特徴と発達（担当：園山） 第10回　知的障害の問題解決の特徴と発達　（担当：園山） 第11回　知的障害の動機づけの特徴と発達（担当：園山） 第12回　知的障害の姿勢運動の特徴と発達　（担当：内山） 第13回　他の障害を併せ持つ知的障害の特徴　（担当：内山） 第14回　知的障害児の問題行動の発生機序（担当：園山） 第15回　知的障害児の問題行動への支援（担当：園山） 定期試験
テキスト	・「知的障害の心理学ー発達支援からの理解」、小池敏英・北島善夫編著、北大路書房
参考文献	・特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領、特別支援学校高等部学習指導要領 （文部科学省HP　http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/tokushi/1284518.htm） ・特別支援学校学習指導要領解説 （文部科学省HP　http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1278527.htm） ・「知的障害のことがよくわかる本（健康ライブラリーイラスト版）」、
評価方法	・小テスト（５回分）＝50% ・定期試験＝50%
自己学習に 関する指針	・参考文献に記載した図書・資料を積極的に読むこと。 ・適宜、資料を配布。
履修上の 指導・留意点	・質問は受講生全員で共有するために、できるだけ授業中にしてください。 ・なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、統合保育を行っている幼稚園でのカウンセラーとしての勤務経験、公立教育相談センターでの相談員としての勤務経験、大学教育相談室での障害児に関する臨床経験があり、その経験を活かしてより具体的、実践的な授業を展開する。

授業科目	知的障害児の生理・病理						
担当教員	石井尚吾						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020990
免許資格 関連事項	○特別支援学校教諭一種免許状≪特別支援教育に関する科目≫ ・特別支援教育領域に関する科目 〔心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目〕						

授業の概要	知的障害児の理解に関して、医学・心理学的にそのメカニズムを知ることにより、科学的な指導力を身に付ける。健康観、障害概念、知的障害についての考え方とともに、知的障害児の遺伝学的・周産期医学的・小児神経医学的基礎について学ぶ。知的障害を考える上で、神経系の働きや知的障害の子どもがもちやすい症状、各身体器官の働きとの繋がりを理解する。
授業の 到達目標	(1) 知的障害に関して、医学的背景を理解できる。 (2) 生理的・病理的特徴を理解した支援方法を考えることができる。
授業計画	第１回　知的障害の定義 第２回　知的障害の分類 第３回　知的障害の解剖学的特徴 第４回　知的障害の原因となる疾患１～染色体異常等先天性疾患 第５回　知的障害の原因となる疾患２～胎児期・周産期の障害 第６回　知的障害の原因となる疾患３～病理的な障害 第７回　知的障害の原因となる疾患４～他の精神疾患との合併症 第８回　知的障害のアセスメント 第９回　知的障害の早期発見 第 10 回　知的障害の認知特性 第 11 回　知的障害の運動特性 第 12 回　知的障害の合併症１～自閉症スペクトラムと知的障害 第 13 回　知的障害の合併症２～てんかんと知的障害 第 14 回　知的障害児の問題行動 第 15 回　知的障害児の問題行動の治療 定期試験
テキスト	テキストは使用せず、適宜プリント資料等を配布する。
参考文献	なし
評価方法	・小テスト（20%）　定期試験（80%）
自己学習に 関する指針	・テキストや配布資料を読み、復習に役立てる。 ・施設実習などを通じて子どもたちの実態に触れるよう努める。
履修上の 指導・留意点	・毎回、小テストを行う。

授業科目	肢体不自由児の心理・生理・病理						
担当教員	平岩里佳						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2021000
免許資格 関連事項	○特別支援学校教諭一種免許状≪特別支援教育に関する科目≫ ・特別支援教育領域に関する科目 〔心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目〕						

授業の概要	肢体不自由児を指導する際に必要となる心理的特性及び生理・病理に関する基本的な知識を身に付ける。肢体不自由児に対する教育を行う上で配慮すべき随伴障害についても理解を深める。
授業の 到達目標	１．肢体不自由の起因疾患とその特徴について理解する。 ２．肢体不自由児の教育をする上で配慮すべき随伴障害、重度・重複障害と医療的ケアについて理解する。 ３．肢体不自由児の主体的に生きる力や自己肯定感を育み、自立と社会参加に向けて教育的支援ができる力を養う。
授業計画	第１回　肢体不自由の定義と起因疾患 第２回　運動発達の道筋 第３回　肢体不自由児の心理発達 第４回　起因疾患①脳性麻痺の生理・病理と心理発達の特性 第５回　起因疾患②脊椎・脊髄疾患（二分脊椎など）の生理・病理と心理発達の特性 第６回　起因疾患③筋疾患（筋ジストロフィーなど）の生理・病理と心理発達の特性 第７回　起因疾患④骨系統疾患・骨関節疾患の生理・病理と心理発達の特性 第８回　起因疾患⑤代謝性疾患・神経変性疾患の生理・病理と心理発達の特性 第９回　起因疾患⑥染色体異常（ダウン症候群など）の生理・病理と心理発達の特性 第 10 回　肢体不自由児の随伴障害、重度・重複障害と医療的ケア 第 11 回　随伴障害①てんかんの生理・病理と対応 第 12 回　随伴障害②呼吸障害・筋緊張亢進の生理・病理と対応 第 13 回　随伴障害③摂食嚥下障害・排泄障害の生理・病理と対応 第 14 回　肢体不自由児のリハビリテーション 第 15 回　まとめ　肢体不自由児教育の在り方 定期試験
テキスト	テキストは使用せず、適宜プリント資料等を配布する
参考文献	「肢体不自由児の医療・療育・教育」篠田達明　監修　沖高司・岡川敏郎・土橋圭子　編集　金芳堂 「よくわかる肢体不自由教育」安藤隆男・藤田継道　編著　ミネルヴァ書房 「改訂版　肢体不自由児の教育」川間健之介・西川公司　著　放送大学教育振興会
評価方法	小テスト(20%)、試験・レポート評価（80%）の割合で総合的に評価する
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	病弱児の心理・生理・病理						
担当教員	瀬島斉						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2021010
免許資格 関連事項	○特別支援学校教諭一種免許状≪特別支援教育に関する科目≫ ・特別支援教育領域に関する科目 〔心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目〕						

授業の概要	医学、医療、社会心理的側面から病弱児、障害児を理解し、子どもたちに適切な教育対応と支援ができるようになることを目的とする。 小児期の様々な疾患や障害の病態と治療、また、疾患や障害をもつ子どもの心理的特性について学び、病弱児、障害児に対する適切な教育対応、支援方法を理解する。合わせて、家族支援についても理解する。
授業の 到達目標	１．小児保健や健康増進活動の歴史や現状を学び、同時に子どもの発育や発達について理解する。 ２．代表的な小児疾患の病態や治療を学び、病弱児の身体的、心理的特性を理解する。 ３．病弱児の特性や個々の状態に応じた教育目標設定や指導について学び、理解する。 ４．病弱支援教育を取り巻く社会・経済情勢にも目を向け、今後の支援を展望する。
授業計画	第１回　小児保健ー子どもの健康を守り、増進させる支援と取り組み 第２回　小児の発育と発達 第３回　未熟児、新生児の疾患とその後の発達支援、母児相互関係の構築 第４回　先天性心疾患、消化器病の病態・治療と心理的特性 第５回　呼吸器疾患、アレルギー疾患の病態・治療と心理的特性 第６回　内分泌疾患、免疫疾患、腎疾患の病態・治療と心理的特性 第７回　血液疾患、小児がんの病態・治療と心理的特性 第８回　先天異常、染色体異常の病態・治療と心理的特性 第９回　先天代謝異常症、神経疾患の病態・治療と心理的特性 第 10 回　てんかん、発作性疾患の病態・治療と心理的特性 第 11 回　筋骨格器疾患の病態・治療と心理的特性 第 12 回　不登校、摂食障害、発達障害の病態・治療と心理的特性 第 13 回　病弱児と医療現場での支援、教育と医療の連携 第 14 回　現代の社会潮流と病弱児支援教育の意義 第 15 回　病弱児支援教育―総括と今後の展望 定期試験
テキスト	スライドを用いて講義を行うためテキストは使用せず、適宜プリント資料等を配布する。
参考文献	・白木和夫、高田哲編集「ナースとコメディカルのための小児科学」改定第６版、日本小児医事出版社（2018） ・金子堅一郎編「イラストを見せながら説明する子どもの病気とその診かた」南山堂（2015）
評価方法	レポート（30%）、筆記試験（70%）で評価する。
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、医療機関に勤務し小児科診療と地域小児保健活動の他、診療を通じて保育・学校・教育関係者と共同活動しており、その経験を活かして具体的、実践的な授業を行う。

授業科目	知的障害児指導論						
担当教員	西村健一						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	３・４	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2021020
免許資格 関連事項	○特別支援学校教諭一種免許状≪特別支援教育に関する科目≫ ・特別支援教育領域に関する科目 〔心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目〕						

授業の概要	知的障害児の通園施設・特別支援学校等における教育現場の様子について知るとともに、各教育課程・指導法について学修する。知的障害児の各ライフステージにおける教育の実際を学ぶとともに、教材作成の方法についても修得する。あわせて通常クラスに在籍する幼児期・児童期の知的障害児の指導について理解を深める。知的障害とその周辺領域にいる幼児・児童・生徒の教育とその実際について、最新の情報に基づき課題を探る。
授業の 到達目標	1.知的障害児の教育に関する制度や教育課程、保育と教育の実際について説明できる 2.討議を通じて知的障害児に対する個に応じた指導を立案できる
授業計画	第１回　ガイダンス　知的障害とは 第２回　知的障害児の学校教育～教育課程と指導計画～ 第３回　知的障害児の学校教育～ライフステージを中心に～ 第４回　特別支援教育における自立活動１～教育課程における位置づけ～ 第５回　特別支援教育における自立活動２～健康の保持・心理的な安定～ 第６回　特別支援教育における自立活動３～人間関係の形成～ 第７回　特別支援教育における自立活動４～環境の把握・身体の動き～ 第８回　特別支援教育における自立活動５～コミュニケーション～ 第９回　ICT を活用した自立活動の実際について 第 10 回　問題行動のとらえ方１～氷山モデルを活用して～ 第 11 回　問題行動への支援１～事前の評価～ 第 12 回　問題行動への支援２～介入時の評価～ 第 13 回　教材作成、模擬指導１～構造化のアイディアを用いて～ 第 14 回　教材作成、模擬指導２～ワークシステムの理解～ 第 15 回　教材作成、模擬指導３～ワークシステムを活用して～ 定期試験
テキスト	テキストは使用せず、適宜プリント資料等を配布する。
参考文献	特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領、特別支援学校高等部学習指導要領 （文部科学省HP　http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/tokushi/1284518.htm） 特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編・総則編） （文部科学省HP　http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1278527.htm）
評価方法	毎回提出の授業レポート（40 点）、期末試験(60 点)
自己学習に 関する指針	・授業中に紹介した参考文献を、積極的に読むことが望ましい。
履修上の 指導・留意点	・質問は、その内容に応じて、授業時間中・研究室で対応する。 ・なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（特別支援学校教諭）での勤務経験があり、その経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。

授業科目	肢体不自由児指導論						
担当教員	西村健一						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2021030
免許資格 関連事項	○特別支援学校教諭一種免許状≪特別支援教育に関する科目≫ ・特別支援教育領域に関する科目 〔心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目〕						

授業の概要	肢体不自由児の通園施設・特別支援学校等においては、障害の重度・重複化、多様化の傾向が顕著になってきており、幼児・児童・生徒一人一人の実態に即した、個別の指導上の創意工夫がより一層求められている。本科目では、肢体不自由児の教育に必要な基礎的・基本的事項について、肢体不自由児の通園施設・特別支援学校等における保育と教育の実際を踏まえて学修するとともに、肢体不自由児の教育課程、指導法等について修得する。
授業の 到達目標	・肢体不自由児の教育に関する制度や教育課程、保育と教育の実際について説明できる ・討議を通じて肢体不自由児に対する個に応じた指導を立案できる
授業計画	第１回　ガイダンス　肢体不自由教育とは 第２回　肢体不自由の概念と歴史 第３回　肢体不自由特別支援学校の教育課程編成と指導計画 第４回　肢体不自由特別支援学校の授業　１　～授業つくりについて～ 第５回　肢体不自由特別支援学校の授業　２　～支援具の活用を中心に～ 第６回　肢体不自由教育の実際～教科学習を中心に～ 第７回　肢体不自由教育の実際～自立活動を中心に～ 第８回　肢体不自由児の社会参加１～外出活動を中心に～ 第９回　肢体不自由児の社会参加２～就労を中心に～ 第 10 回　自立活動の指導１　～タブレット PC（カメラ機能）を活用して～ 第 11 回　教材作成、模擬指導　～タブレット PC（カメラ機能）を活用して～ 第 12 回　自立活動の指導２　～タブレット PC（アプリ）を活用して～ 第 13 回　教材作成、模擬指導　～タブレット PC（アプリ）を活用して～ 第 14 回　自立活動の指導３　～タブレット PC（アプリ）を活用して～ 第 15 回　教材作成、模擬指導　～タブレット PC（アプリ）を活用して～ 定期試験
テキスト	特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領、特別支援学校高等部学習指導要領 （文部科学省 HP　http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/tokushi/1284518.htm）
参考文献	特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編・総則編） （文部科学省 HP　http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1278527.htm）
評価方法	毎回提出の授業レポート（40 点）、期末試験(60 点)
自己学習に 関する指針	・授業中に紹介した参考文献を、積極的に読むことが望ましい。
履修上の 指導・留意点	・質問は、その内容に応じて、授業時間中・研究室で対応する。 ・なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（特別支援学校教諭）での勤務経験があり、その経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	病弱児指導論						
担当教員	園山繁樹　　前林英貴　　高田哲　　佐々木章友						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2021040
免許資格 関連事項	○特別支援学校教諭一種免許状≪特別支援教育に関する科目≫ ・特別支援教育領域に関する科目 〔心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目〕						

授業の概要	「病弱児の心理・生理・病理」で学んだ病弱虚弱児・障害児の心理学的基礎、医学的基礎を踏まえて、「病弱児指導論」では、特別支援教育における病弱児教育の意義と歴史・制度、並びに今日の病弱児教育の対象や場の特徴を解説する。次に、特別支援学校における病弱児教育の教育課程や教育内容・教育方法の実際を解説する。そして、特別支援学校における医療的ケアのあり方、保健管理、並びに病弱児の入院生活における対応について解説する。
授業の 到達目標	１．病弱児教育の意義と歴史・制度を説明できる。 ２．病弱児教育の対象と場を理解し、病弱児の実態に即した指導方法とその実際を理解する。 ３．医療的ケアのあり方や入院生活における基本的対応について説明できる。
授業計画	第１回　特別支援教育と病弱児教育の意義　（担当：園山） 第２回　病弱児教育の歴史と制度　（担当：園山） 第３回　病弱児教育の対象と場　（担当：園山） 第４回　特別支援学校における病弱児教育と発達障害・情緒障害　（担当：園山） 第５回　特別支援学校における病弱児教育の教育課程と個別の指導計画　（担当：佐々木） 第６回　特別支援学校における病弱児指導の実際ー児童期・思春期　（担当：佐々木） 第７回　特別支援学校における医療的ケアのあり方(1)—医療的ケアネットワーク（担当：高田） 第８回　特別支援学校における医療的ケアのあり方(2)—指導医の役割　（担当：高田） 第９回　特別支援学校における医療的ケアのあり方(3)—学校看護師の役割　（担当：高田） 第 10 回　特別支援学校における保健管理　（担当：前林） 第 11 回　特別支援学校における救急・救助　（担当：前林） 第 12 回　病弱児の入院生活の実際と対応(1)－入院生活と家族支援　（担当：前林） 第 13 回　病弱児の入院生活の実際と対応(2)－医療との連携・協働　（担当：前林） 第 14 回　ターミナルケアとグリーフケア　（担当：前林） 第 15 回　特別支援教育における病弱児指導の課題　（担当：園山） 定期試験
テキスト	・適宜プリント資料等を配布する。
参考文献	・全国特別支援学校病弱教育校長会編著「特別支援学校の学習指導要領を踏まえた病気の子どものガイドブック」ジアース教育新社（2012） ・宮本信也、土橋圭子編「病弱･虚弱児の医療･療育･教育　改訂２版」金芳堂（2010） ・小野次朗、西牧謙吾、榊原洋一編著「特別支援教育に生かす病弱児の生理･病理･心理」ミネルヴァ書房（2011） ・小西行郎・杉本健郎・高田哲著「医療的ケアネットワーク—学齢期の療育と支援」クリエイツかもがわ（2001） ・船戸正久・高田哲　編著　医療従事者と家族のための小児在宅医療支援マニュ
評価方法	・定期試験＝60% ・レポート＝40%
自己学習に 関する指針	・参考文献に記載した図書・資料を積極的に読んでおくこと。

履修上の指導・留意点	・質問は受講生全員で共有するために、できるだけ授業中にしてください。 ・なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、統合保育を行っている幼稚園でのカウンセラーとしての勤務経験、公立教育相談センターでの相談員としての勤務経験、大学教育相談室での障害児に関する臨床経験があり、その経験を活かしてより具体的、実践的な授業を展開する。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	知的障害児教育演習						
担当教員	西村健一						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	３・４	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2021050
免許資格関連事項	○特別支援学校教諭一種免許状≪特別支援教育に関する科目≫ ・特別支援教育領域に関する科目 〔心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目〕						

授業の概要	事例研究をもとに、知的障害児の支援方法について心理学の知見を踏まえて学ぶ。知的障害児に関する心理学的研究を踏まえて、知的障害児への理解を促し、知的障害児に対する関わり方を学修する。また、教材作成や模擬指導を通じて、効果的な指導の在り方を修得する。知的障害の概念（定義・原因・分類・心理特性）や知的障害の知覚や学習、認知、記憶等の主な仕組みなどについて学び、さらに知的障害の近接領域である学習障害、重度重複障害等の心理と支援についても学ぶ。
授業の到達目標	・知的障害に関して、心理学的研究の概要が理解できる。 ・知的障害に関して、具体的な支援方法を考えることができる。
授業計画	第１回　ガイダンス　知的障害の概念と特性～ICF を中心に～ 第２回　知的障害児の心理１ 第３回　知的障害の心理２ 第４回　知的障害の医学と病理 第５回　重度重複障害の指導と留意点 第６回　知的障害のある人への理解と支援１～環境の構造化～ 第７回　知的障害のある人への理解と支援２～コミュニケーション支援～ 第８回　教材作成、模擬指導１～紙を使った支援～ 第９回　教材作成、模擬指導２～ホワイトボードを使った支援～ 第 10 回　発達障害のある人の理解 第 11 回　発達障害のある人への支援 第 12 回　教材作成、模擬指導１ 第 13 回　事例研究１～コミュニケーション～ 第 14 回　事例研究２～問題行動～ 第 15 回　事例研究３～自立と社会参加～ 定期試験
テキスト	授業中、適宜印刷資料等を配布する。
参考文献	特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領、特別支援学校高等部学習指導要領 （文部科学省HP　http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/tokushi/1284518.htm） 特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編・総則編） （文部科学省HP　http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1278527.htm）
評価方法	毎回提出の授業レポート（40 点）、期末試験(60 点)
自己学習に関する指針	・授業中に紹介した参考文献を、積極的に読むことが望ましい。
履修上の指導・留意点	・質問は、その内容に応じて、授業時間中・研究室で対応する。 ・なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（特別支援学校教諭）での勤務経験があり、その経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。

授業科目	重複・LD・ADHD 等の心理・生理・病理						
担当教員	西村健一　　内山仁志　　石井尚吾						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2021060
免許資格関連事項	○特別支援学校教諭一種免許状≪特別支援教育に関する科目≫ ・免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 〔心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理、病理に関する科目〕						

授業の概要	学習障害（LD）、注意欠如多動症（ADHD）、自閉症スペクトラム（ASD）を中心に、ICD-10 ならびに DSM-5 の診断基準に基づく重複障害、発達障害とは何かを医学・心理学領域の知見をもとに学修する。発達障害についての生理・病理学的基礎知識を踏まえて、さらにその多様な実態について学修し、乳幼児期、児童期をへて成人に至る段階までの発達と認知・行動特性について理解する。
授業の到達目標	１．障害の基本的概念について説明できる ２．発達障害を生理・病理学的観点から説明できる ３．発達障害の認知・行動特性とその発達を説明できる ４．発達障害の薬物治療について説明できる
授業計画	第１回　発達障害概論（担当：内山） 第２回　乳児期、幼児期、児童期、成人期の発達（担当：内山） 第３回　障害を理解するために必要な脳・神経の構造と機能（担当：内山） 第４回　LD・ADHD の生理と病理　（担当：内山） 第５回　LD・ADHD の心理と発達（担当：内山） 第６回　ASD の生理と病理　（担当：内山） 第７回　ASD の心理と発達（担当：内山） 第８回　重複障害の生理と病理　（担当：内山） 第９回　重複障害の心理と発達　（担当：内山） 第 10 回　解剖学的異常について（担当：石井） 第 11 回　認知的異常について（担当：石井） 第 12 回　薬物治療１－治療の目標（担当：石井） 第 13 回　薬物治療２－治療の実際　（担当：石井） 第 14 回　薬物治療３－環境調整、療育と薬物治療　（担当：石井） 第 15 回　教育課程と指導法（特に ICT を活用した指導について）（担当：西村） 定期試験
テキスト	・「よくわかる障害児教育［第３版］」、石部元雄他編、ミネルヴァ書房
参考文献	・特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領、特別支援学校高等部学習指導要領 （文部科学省 HP　http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/tokushi/1284518.htm） ・特別支援学校学習指導要領解説 （文部科学省 HP　http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1278527.htm） ・「発達科学ハンドブック 8 脳の発達科学」、榊原洋一他編、新曜社
評価方法	定期試験 80%, レポート 20%
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（特別支援学校教諭）での勤務経験があり、その経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	視覚障害児教育総論						
担当教員	内山仁志						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2021070
免許資格関連事項	○特別支援学校教諭一種免許状≪特別支援教育に関する科目≫ ・免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 〔心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目〕 〔心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目〕						

授業の概要	視覚障害の定義、視覚障害児教育の歴史と現状の制度について理解する。さらに教材・教具を活用した全盲・弱視児への具体的な教育内容とその方法、自立活動へ向けた指導法、歩行支援法（同行援護）の基礎や読書時における視覚的補助具の使用法などの視覚リハビリテーション（ロービジョンサービス）による支援方法を学修する。実際に視覚障害シミュレーション体験や視線計測を行い、晴眼児・者と視覚障害児・者の認知・行動特性の違いを実践的に理解し、適切な教育的配慮のあり方を学ぶ。
授業の到達目標	(1) 視覚障害の定義、視覚障害児教育の歴史と現状について説明できる (2) 視覚障害児・者が自立して日常生活を送るために必要となる事項について説明できる (3) 視覚障害児・者の支援と対応方法について説明できる
授業計画	第１回　視覚障害の概念（定義、視覚の生理と病理） 第２回　視覚障害児・者に関わる職業と教育・福祉制度の概要 第３回　視覚障害児・者教育の歴史と現状 第４回　視覚障害者児・者の心理 第５回　視覚障害児・者の見え方・見えにくさの理解（視覚障害シミュレーション体験） 第６回　視覚リハビリテーション　（視覚的補助具とその活用方法） 第７回　自立活動と生活訓練の概要 第８回　コミュニケーション・日常生活動作とその指導１（全盲児・者への教育と指導法） 第９回　コミュニケーション・日常生活動作とその指導２　（弱視児・者への教育と指導法） 第 10 回　視覚障害児・者の歩行とその指導・支援 第 11 回　自立支援指導計画の作成と指導における配慮事項、指導評価 第 12 回　視覚障害児・者への教育相談と就労支援 第 13 回　歩行支援法（同行援護）の基礎知識 第 14 回　歩行支援法（同行援護）の実践 第 15 回　障害理解と社会 定期試験
テキスト	テキストは使用せず、適宜プリント資料等を配布する。
参考文献	・特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領、特別支援学校高等部学習指導要領 （文部科学省 HP　http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/tokushi/1284518.htm） ・特別支援学校学習指導要領解説 （文部科学省 HP　http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1278527.htm） ・「視覚障害児・者の理解と支援［新版］」、芝田裕一著、北大路書房
評価方法	・レポート（3 回分）＝30% ・定期試験＝70%
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	聴覚障害児教育総論						
担当教員	原島恒夫　　福島朗博						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2021080
免許資格関連事項	○特別支援学校教諭一種免許状						

授業の概要	聴覚障害に関する心理・生理・病理、及びアセスメント方法、音の処理過程、補聴器と人工内耳に関する基礎的事項を講義する。また特別支援学校における教育課程の編成や指導法の実際について講義等を行い、基本的な知識を習得させる。
授業の到達目標	(1) 聴覚障害の心理・生理・病理、聴覚障害児教育の歴史と現状について説明できる (2) 聴覚障害児・者が自立して日常生活を送るために必要となる事項について説明できる (3) 聴覚障害児・者の教育課程、社会的支援と対応方法について説明できる
授業計画	第１回：聴覚障害教育の歴史と今日的課題　　（担当：原島） 第２回：聴覚障害の生理・病理と聴覚心理　　（担当：原島） 第３回：聴覚障害のアセスメント　　（担当：原島） 第４回：補聴器と人工内耳による聴覚活用　　（担当：原島） 第５回：発声発語の基礎と音韻発達　　（担当：原島） 第６回：聴覚障害者のキューサインの活用　　（担当：原島） 第７回：聴覚障害者の言語発達と心理　　（担当：原島） 第８回：聴覚障害の擬似体験　　（担当：福島） 第９回：聴覚障害者における手話・指文字の活用と指導法の実際　（担当：福島） 第１０回：特別支援学校（聴覚障害）における教育課程：「自立活動」　（担当：福島） 第１１回：聴覚障害の受容と障害の認識　聴覚障害の理解と社会　（担当：福島） 第１２回：聴覚障害者の前言語期コミュニケーション及び生活言語と学習言語の指導法の実際（担当：福島） 第１３回：聴力検査演習：松江ろう学校における聴力検査演習　　（担当：福島） 第１４回：聴覚障害教育の実際：松江ろう学校の教育課程と指導の実際　　（担当：福島） 第１５回：重複障害（盲ろう）の理解と支援　　（担当：福島）
テキスト	・宮本信也・竹田一則編著「障害理解のための医学・生理学」明石書店 ・『きこえない！』でも、大丈夫！―サポートハンドブック・乳幼児編 ・木島照夫・菅原仙子・岡野敦子編著「難聴児はどんなことで困るのか」難聴児支援教材研究会 ・特別支援学校学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）文部科学省
参考文献	・ P.H.リンゼイ・D.A.ノーマン共著（中溝幸夫訳）「情報処理心理学入門Ⅰ 感覚と知覚」サイエンス社 ・小渕千絵・原島恒夫監修「きこえているのにわからない APD[聴覚情報処理障害]の理解と支援」学苑社 ・特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領、特別支援学校高等部学習指導要領 （文部科学省HP　http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/tokushi/1284518.htm） ・特別支援学校学習指導要領解説 （文
評価方法	・レポート（前半７回分）＝50% ・レポート（後半８回分）＝50%
自己学習に関する指針	・テキストや配布資料を読み、復習に役立てる。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

履修上の指導・留意点	・難聴の擬似体験や聴力検査などの演習を行う。また聴力検査の実技や聴覚障害教育の実際として、ろう学校の授業見学を行う予定である。 ・なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（特別支援学校、専門学校など）での勤務経験、医療機関（言語聴覚士等）での臨床経験を活かして、教員免許取得に関するより具体的、実践的な授業を展開する。

授業科目	発達障害児教育総論						
担当教員	園山繁樹　　西村健一　　内山仁志						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2021090
免許資格 関連事項	○特別支援学校教諭一種免許状≪特別支援教育に関する科目≫ ・免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 〔心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目〕 〔心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目〕						

授業の概要	自閉症スペクトラム（ASD)、学習障害（LD)、注意欠如多動症（ADHD）を中心に、発達障害のある子どもに対する指導・支援に必要となる基本的事項について理解する。 重複障害児や発達障害児における教育的対応の歴史的変遷や、特別支援教育における指導の実際から、それぞれの障害のある子どもに対する教育の現状と課題について理解し、就学前から学齢期に至る特別支援教育における教育課程の編成、指導・支援の基本について学ぶ。
授業の 到達目標	(1)発達障害の障害概念の歴史的変遷について説明できる。 (2)自閉症スペクトラム（ASD）、学習障害（LD)、注意欠如多動症（ADHD）の障害特性と生理・心理的特徴について説明できる。 (3)自閉症スペクトラム（ASD）、学習障害（LD)、注意欠如多動症（ADHD）の教育課程の編成と基本的な指導方法について説明できる。
授業計画	第１回　発達障害に含まれる障害と発達障害概念の歴史的変遷（担当：園山） 第２回　自閉症スペクトラムの心理・生理・病理から見た障害特性と教育課程の編成（担当：園山） 第３回　自閉症スペクトラムのアセスメントと個別の指導計画・個別の教育支援計画（担当：園山） 第４回　知的障害を伴わない自閉症スペクトラム児の指導法（担当：園山） 第５回　知的障害を伴う自閉症スペクトラム児の指導法（担当：園山） 第６回　学習障害（LD)の心理・生理・病理から見た障害特性と教育課程の編成（担当：内山） 第７回　注意欠如多動症（ADHD）の心理・生理・病理から見た障害特性と教育課程の編成（担当：内山） 第８回　学習障害（LD)、注意欠如多動症（ADHD）のアセスメントと個別の指導計画・個別の教育支援計画（担当：内山） 第９回　学習障害（LD)の指導法（担当：内山） 第 10 回　注意欠如多動症（ADHD）の指導法（担当：内山） 第 11 回　発達障害児の社会性の指導１：ソーシャルスキルトレーニングの理論と技法（担当：西村） 第 12 回　発達障害児の社会性の指導２：ソーシャルスキルトレーニングの実際（担当：西村） 第 13 回　障害がある人の自己選択・自己決定～発達障害～（担当：西村） 第 14 回　障害がある人の自己選択・自己決定～重度重複障害～　（担当：西村） 第 15 回　障害がある人の自己選択・自己決定の指導法（担当：西村） 定期試験
テキスト	・「イラスト図解・発達障害の子どもの心と行動がわかる本」、田中康雄監修、西東社
参考文献	・「神経発達症群（DSM-5 セレクションズ)」高橋三郎、医学書院 ・「自閉症の正しい理解と最新知識」榊原 洋一、日東書院本社 ・「特異的発達障害診断・治療のための実践ガイドライン―わかりやすい診断手順と支援の実際」　稲垣真澄編、診断と治療社 ・「注意欠如・多動症-ADHD-の診断・治療ガイドライン（第４版)」齊藤万比古、じほう ・「 LD 学習症(学習障害)の本」宮本信也、主婦の友社 ・特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領、特別支援学校高等部学習指導要領 （文部科学省 HP
評価方法	・小テスト（３回分）＝30%

	・定期試験＝70%
自己学習に 関する指針	・授業中に配布した資料を用いて、予習と復習をしてください。
履修上の 指導・留意点	・授業中にも適宜、資料を配布します。 ・質問は受講生全員で共有するために、できるだけ授業中にしてください。 ・なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、統合保育を行っている幼稚園でのカウンセラーとしての勤務経験、公立教育相談センターでの相談員としての勤務経験、大学教育相談室での障害児に関する臨床経験があり、その経験を活かしてより具体的、実践的な授業を展開する。

授業科目	発達障害児教育演習						
担当教員	内山仁志						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2021100
免許資格関連事項							

授業の概要	「重複・LD・ADHD 等の心理・生理・病理」「発達障害児教育総論」の学修を踏まえて、自閉症・LD・ADHD 等の発達障害児の理解を深める。英文論文を含め過去の代表的文献や最新の学術雑誌を題材にしたグループ講読を通して、これからの発達障害研究のための課題探究を行う。特に卒業研究で特別支援教育と発達障害児の評価法や支援法を研究する学生のための課題探究授業とする。
授業の到達目標	(1)学術雑誌の読み解き方のポイントを説明できる (2)発達障害に関する学術文献を読み解き、その内容について説明できる (3)文献講読、討議を踏まえて自身の興味あるテーマを見つけることができる
授業計画	第１回　発達障害に関する学術文献の読み解き方１（情報収集力、情報整理力） 第２回　発達障害に関する学術文献の読み解き方２（読む力、書く力、データ分析力） 第３回　発達障害に関する学術文献講読の実際（まとめ方、プレゼンテーション方法の実際） 第４回　グループ講読１（自閉症スペクトラムの認知行動特性、評価法に関する研究論文） 第５回　グループ講読２（自閉症スペクトラムの指導法・支援法・教育行政に関する研究論文） 第６回　グループ講読３（LD の認知行動特性、評価法に関する研究論文） 第７回　グループ講読４（LD の指導法・支援法・教育行政に関する研究論文） 第８回　グループ講読５（ADHD の認知行動特性、評価法に関する研究論文） 第９回　グループ講読６（ADHD の指導法・支援法・教育行政に関する研究論文） 第 10 回　グループ講読７（重複障害に関する研究論文） 第 11 回　グループ討議１（講読１～7 を踏まえた総合討論） 第 12 回　グループ講読８（自閉症スペクトラムに関する代表的英文論文） 第 13 回　グループ講読９（LD に関する代表的英文論文） 第 14 回　グループ講読 10（ADHD に関する代表的英文論文） 第 15 回　グループ討議２（講読８～10 を踏まえた総合討論）
テキスト	テキストは使用せず、適宜プリント資料等を配布する。講読する論文については事前に指定する。
参考文献	・特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領、特別支援学校高等部学習指導要領 （文部科学省 HP　http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/tokushi/1284518.htm） ・特別支援学校学習指導要領解説 （文部科学省 HP　http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1278527.htm） ・「大学生のためのリサーチリテラシー入門」、山田剛史他著、ミネルヴァ
評価方法	・小レポート（１５回分）＝100％
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	情緒障害児教育総論						
担当教員	園山繁樹						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2021110
免許資格関連事項							

授業の概要	不登校、選択性緘黙などの行動・情緒の障害を持つ児童生徒に対する教育課程と指導法について学ぶ。主に、情緒障害の概念とその分類、出現メカニズム、個別の指導計画・個別の教育支援計画、指導の基礎と方法論を学び、不登校児童生徒の指導の実際と選択性緘黙児童生徒の指導の実際を通して、学校でのアセスメントと指導の方法を学ぶ。また特別支援学校における行動障害、不登校、ダウン症の青年期急激退行等の情緒的問題の指導法の学修を通して、特別支援教育における情緒障害教育の現状を理解する。
授業の到達目標	・情緒障害教育の対象・現状・教育課程の編成について理解する。 ・不登校、選択性緘黙の心理・生理・病理の基本と多様な状態像について理解する。 ・不登校、選択性緘黙に対する基本的な指導方法について説明できる。 ・特別支援学校における情緒的な問題に対する対応について説明できる。
授業計画	第１回　特別支援教育における情緒障害教育の対象・現状・教育課程の編成 第２回　不登校の心理・生理・病理 第３回　不登校のアセスメントと個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成 第４回　不登校児童生徒の指導法 第５回　不登校児童生徒の指導の実際１（アセスメントに基づく指導） 第６回　不登校児童生徒の指導の実際２（発達障害を伴う児童生徒の指導） 第７回　選択性緘黙の心理・生理・病理 第８回　選択性緘黙のアセスメントと個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成 第９回　選択性緘黙児童生徒の指導法 第 10 回　選択性緘黙児童生徒の指導の実際１（幼稚園から小学校低学年幼児児童の指導） 第 11 回　選択性緘黙児童生徒の指導の実際２（小学校高学年以上の児童生徒の指導） 第 12 回　通級指導教室における情緒障害児の指導 第 13 回　特別支援学校における情緒的問題の理解と指導１（行動障害） 第 14 回　特別支援学校における情緒的問題の理解と指導２（不登校） 第 15 回　特別支援学校における情緒的問題の理解と指導３（ダウン症の青年期急激退行） 定期試験
テキスト	・適宜プリント資料等を配布する。
参考文献	・「当事者の生の声から学ぶ：教師と保護者の協働による不登校支援」、小野昌彦、東洋館出版社 ・「場面緘黙児への支援―学校で話せない子を助けるために」、A.E.McHolm 他著、河井英子・吉原桂子訳、田研出版 ・「行動障害の理解と援助」、長畑正道他著、コレール社 ・「行動障害の理解と適切行動支援」、英国行動障害支援協会編著、清水直治監訳、ジアース教育新社
評価方法	・レポート（２回分）＝20％ ・定期試験＝80％
自己学習に関する指針	・参考文献に記載した図書・資料を積極的に読むこと。
履修上の指導・留意点	・質問は受講生全員で共有するために、できるだけ授業中にしてください。 ・なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、統合保育を行っている幼稚園でのカウンセラーとしての勤務経験、公立教育相談センターでの相談員としての勤務経験、大学教育相談室での障害児に関する臨床経験があり、その経験を活かしてより具体的、実践的な授業を展開する。

授業科目	発達アセスメント						
担当教員	園山繁樹　　菊野雄一郎						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2021120
免許資格関連事項							

授業の概要	乳幼児期の発達を評価する視点と基礎的な発達アセスメント法を理解し、障害の早期発見・早期支援につなげられる知識・技能の習得を目的とする。まず、乳幼児期の発達・障害兆候における心理・生理・病理的機序に関する基礎的知識を解説した上で、見え、聞こえ、知能、運動の評価法と障害兆候について解説する。次に、乳幼児期の発達アセスメントとして使用される機会の多い「グッドイナフ人物画検査」「絵画語い検査」「乳幼児精神発達診断法」「新版Ｋ式発達検査」について実施方法と結果分析までを解説し、個人差や発達・障害の実態に応じた個別の指導計画の立案までを学修させる。
授業の到達目標	(1)特別支援教育における発達アセスメントの意義、発達における個人差、障害の兆候、及び心理・生理・病理的機序について説明できる。 (2)乳幼児期の主な発達アセスメント法を実施し、結果を解釈することができる。 (3)発達アセスメントの結果に基づいて個別の指導計画を立案できる。
授業計画	第１回　特別支援教育における発達アセスメントの意義（担当：園山） 第２回　乳幼児期の発達における個人差と心理・生理的機序（担当：菊野） 第３回　乳幼児期の障害兆候における心理・生理・病理的機序（担当：菊野） 第４回　乳幼児の見えの発達の評価と視覚障害の兆候（担当：菊野） 第５回　乳幼児期の聞こえの発達の評価と聴覚障害の兆候（担当：菊野） 第６回　乳幼児期の知能の発達の評価と知的障害の兆候（担当：園山） 第７回　乳幼児期の運動の発達の評価と知的障害・肢体不自由の兆候（担当：園山） 第８回　乳幼児期の社会的能力の発達の評価と対人関係性障害の兆候（担当：菊野） 第９回　幼児期の発達アセスメント１：グッドイナフ人物画検査：概説と演習（担当：園山） 第 10 回　幼児期の発達アセスメント２：絵画語い発達検査：概説と演習（担当：園山） 第 11 回　幼児期の発達アセスメント３：乳幼児精神発達診断法:概説と演習（担当：菊野） 第 12 回　幼児期の発達アセスメント４（１）：新版Ｋ式発達検査：概説（担当：菊野） 第 13 回　幼児期の発達アセスメント４（２）：新版Ｋ式発達検査：演習（担当：菊野） 第 14 回　発達アセスメントに基づく個別の指導計画の作成（担当：園山） 第 15 回　発達アセスメントに基づく個別の指導計画の PDCA サイクル（担当：園山） 定期試験
テキスト	・適宜プリント資料等を配布する。
参考文献	・「臨床心理学　第１６巻第２号：発達支援のアセスメント」、金剛出版 ・「発達障害の早期発見・早期療育・親支援」、柘植雅義監修、本田秀夫編著、金剛出版 ・「子どもの理解と支援のための発達アセスメント」、本郷一夫、有斐閣
評価方法	・レポート（５回分）＝50% ・定期試験＝50%
自己学習に関する指針	・参考文献に記載した図書・資料を積極的に読んでおくこと。 ・授業中に配布した資料を用いて、予習と復習をしておくこと。
履修上の指導・留意点	・質問は受講生全員で共有するために、授業中に行うことを原則とする。 ・なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、統合保育を行っている幼稚園でのカウンセラーとしての勤務経験、公立教育相談センターでの相談員としての勤務経験、大学教育相談室での障害児に関する臨床経験があり、その経験を活かしてより具体的、実践的な授業を展開する。

授業科目	特別支援教育アセスメント						
担当教員	園山繁樹　　西村健一　　内山仁志						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2021130
免許資格関連事項							

授業の概要	特別支援教育の学校現場で子どもの実態把握及び具体的な手立てを見出すために役立つアセスメントの方法について学ぶ。子ども自身の様々な能力やスキル、子どもを取り巻く環境、地域社会における関連資源とその利用等に関するアセスメントの方法について理解し、それらの結果を個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成、及び日々の具体的な指導・支援にどのように活用するかについての知識と技術を習得する。
授業の到達目標	(1)特別支援教育におけるアセスメントの必要性について説明できる。 (2)特別支援教育における主なアセスメント法を実施することができる。 (3)個々の児童生徒の実態把握に基づいた個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成について説明できる。
授業計画	第１回　特別支援教育におけるアセスメント（担当：園山） 第２回　田中ビネー知能検査Ｖによる知的発達のアセスメント（担当：西村） 第３回　田中ビネー知能検査Ｖに基づく指導計画の作成（担当：西村） 第４回　K-ABCⅡ・WISC-Ⅳによるアセスメント（担当：内山） 第５回　脳科学的視点からみた重複・LD・ADHD 等の心理教育アセスメントの意義（担当：内山） 第６回　ICF に基づく評価と指導計画の作成（担当：内山） 第７回　重複・LD・ADHD に関するアセスメント（担当：内山） 第８回　重複・LD・ADHD に関するアセスメントに基づく指導計画の作成（担当：内山） 第９回　言語障害のある児童生徒を対象としたコミュニケーション評価方法（担当：西村） 第 10 回　言語障害のある児童生徒を対象としたコミュニケーションサンプルの実際（担当：西村） 第 11 回　コミュニケーションサンプルに基づく指導計画の作成（担当：西村） 第 12 回　知的障害・自閉症児の行動障害に関する心理・生理・病理・環境要因（担当：園山） 第 13 回　知的障害・自閉症児の行動障害の機能的アセスメント（担当：園山） 第 14 回　知的障害・自閉症児の行動障害の機能的アセスメントに基づく指導計画（担当：園山） 第 15 回　児童生徒の実態把握に基づいた指導計画の作成、実施、評価（担当：園山） 定期試験
テキスト	・適宜プリント資料等を配布する。
参考文献	・「問題行動解決支援ハンドブック―子どもの視点で考える」R・E. オニール他著、茨木俊夫監修、学苑社
評価方法	・レポート（3 回分）＝30% ・小テスト（3 回分）＝15% ・定期試験＝55%
自己学習に関する指針	・実践的な内容であるため、授業中に配布した資料を用いて復習をすること。
履修上の指導・留意点	・質問は受講生全員で共有するために、できるだけ授業中にしてください。 ･なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、統合保育を行っている幼稚園でのカウンセラーとしての勤務経験、公立教育相談センターでの相談員としての勤務経験、大学教育相談室での障害児に関する臨床経験があり、その経験を活かしてより具体的、実践的な授業を展開する。

授業科目	特別支援教育実習Ａ指導						
担当教員	西村健一　　内山仁志						
科目分類	専門発展	授業時間	15	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2021140
免許資格 関連事項	○特別支援学校教諭一種免許状≪特別支援教育に関する科目≫ ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習						

授業の概要	・実習前の指導では、「特別支援学校教育実習Ａ指導」「特別支援学校教育実習Ａ」「特別支援学校教育実習Ｂ指導」「特別支援学校教育実習Ｂ」を担当する専任教員（以下、「実習担当教員」）により、教育実習の心構え（実習の始まる前の準備、一日の流れ、期間中の流れ）、児童指導（児童指導・児童理解）、学習（授業実践の心構え、発問・板書・机間巡視／指導の方法）を学ばせる。 ・実習終了後は、実習体験を踏まえた、実習の反省や自己評価、地域教育課題と特別支援学校の役割、特別支援コーディネータの役割等についてのグループワークを行い、実習担当教員による事後指導を行う。
授業の 到達目標	
授業計画	（事前指導） 第１回　特別支援学校教育実習の概要 第２回　特別支援教育の現状と教師の役割 第３回　アセスメントを理解・活用した授業の設計 第４回　適切な指導・支援の方法と学習指導案の作成 第５回　模擬授業の実践 第６回　模擬授業の検討と学習指導案の修正 第７回　実習に向けての最終指導 （事後指導） 第８回　実習の報告と事後指導
テキスト	
参考文献	
評価方法	
自己学習に 関する指針	・授業で学んだ専門用語については、自分でも積極的に調べてみてください。
履修上の 指導・留意点	・教育実習に参加する学生は出席してください。 ・なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（特別支援学校教諭）での勤務経験があり、その経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	特別支援教育実習Ａ						
担当教員	西村健一　　内山仁志						
科目分類	専門発展	授業時間	90	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	実習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2021150
免許資格 関連事項	○特別支援学校教諭一種免許状≪特別支援教育に関する科目≫ ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習						

授業の概要	・実習先では、現職教師の援助を受けながら、特別支援学校教諭をめざすものとして必要な、知識・技能、意欲・態度、問題解決能力等の指導力を身につける。そして、児童・生徒の発達的変化の理解を踏まえて直接ふれ合い、指導教員の指導を受けながら教育者に求められる知識、技能、態度を修得し、自立活動指導や生徒指導などの教育実践を通して、児童・生徒理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養う。 ・実習担当教員が中心となり、実習期間中に実習先を訪問し、実習生の様子を観察するとともに、特別支援学校の指導教員と情報交換を行い実習生に対し助言・指導を行う。
授業の 到達目標	
授業計画	特別学校の組織、運営、活動の実際を理解する。特別支援学校教諭に求められる知識、技能、態度を修得し、教科指導や生徒指導などの実践を通して、児童理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養う。特に中山間地域や離島などの、医療・教育専門機関から離れた過疎地域で育つ子どもたちの特別支援教育の実態と課題を学ぶ。
テキスト	
参考文献	
評価方法	大学の実習担当教員が、以下の観点などについて、実習日誌等の文書、巡回指導時の状況、学生による実習の省察、実習協力校の指導教諭・教頭・校長などの評価を踏まえ、総合的に成績評価を行う。　・実習を通じた職務内容・専門性の理解 ・支援を必要とする児童への理解や指導 ・特性に応じた教材の研究や単元指導計画の作成 ・特性に応じた学習指導案の立案と実践的な指導技術 ・実習に対する意欲・態度 ・実習中の出勤状況や勤務態度 最終的には、保育教育学科会議で協議の上、実習担当教員が成績評価を確定する。
自己学習に 関する指針	・実習先において積極的に教育実践を行ってください。
履修上の 指導・留意点	・質問は、その内容に応じて対応します。 ・なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（特別支援学校教諭）での勤務経験があり、その経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。

授業科目	特別支援教育実習Ｂ指導						
担当教員	西村健一　　内山仁志						
科目分類	専門発展	授業時間	15	配当年次	4	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2021160
免許資格関連事項	○特別支援学校教諭一種免許状≪特別支援教育に関する科目≫ ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習						

授業の概要	・実習前の指導では、「特別支援学校教育実習Ａ指導」「特別支援学校教育実習Ａ」「特別支援学校教育実習Ｂ指導」「特別支援学校教育実習Ｂ」を担当する専任教員（以下、「実習担当教員」）により、教育実習の心構え（実習の始まる前の準備、一日の流れ、期間中の流れ）、児童指導（児童指導・児童理解）、学習（授業実践の心構え、発問・板書・机間巡視／指導の方法）を学ばせる。 ・実習終了後は、実習体験を踏まえた、実習の反省や自己評価、地域教育課題と特別支援学校の役割、特別支援コーディネータの役割等についてのグループワークを行い、実習担当教員による事後指導を行う。
授業の到達目標	
授業計画	（事前指導） 第１回　特別支援学校教育実習の概要 第２回　特別支援教育の現状と教師の役割 第３回　アセスメントを理解・活用した授業の設計 第４回　適切な指導・支援の方法と学習指導案の作成 第５回　模擬授業の実践 第６回　模擬授業の検討と学習指導案の修正 第７回　実習に向けての最終指導 （事後指導） 第８回　実習の報告と事後指導
テキスト	
参考文献	
評価方法	
自己学習に関する指針	・授業で学んだ専門用語については、自分でも積極的に調べてみてください。
履修上の指導・留意点	・教育実習に参加する学生は出席してください。 ・なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（特別支援学校教諭）での勤務経験があり、その経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。

人間文化学部・保育教育学科
（令和２年入学生用）

授業科目	特別支援教育実習Ｂ						
担当教員	西村健一　　内山仁志						
科目分類	専門発展	授業時間	90	配当年次	4	配当期	秋学期
授業形態	実習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2021170
免許資格関連事項	○特別支援学校教諭一種免許状≪特別支援教育に関する科目≫ ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習						

授業の概要	・実習先では、現職教師の援助を受けながら、特別支援学校教諭をめざすものとして必要な、知識・技能、意欲・態度、問題解決能力等の指導力を身につける。そして、児童・生徒の発達的変化の理解を踏まえて直接ふれ合い、指導教員の指導を受けながら教育者に求められる知識、技能、態度を修得し、自立活動指導や生徒指導などの教育実践を通して、児童・生徒理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養う。 ・実習担当教員が中心となり、実習期間中に実習先を訪問し、実習生の様子を観察するとともに、特別支援学校の指導教員と情報交換を行い実習生に対し助言・指導を行う。
授業の到達目標	
授業計画	特別学校の組織、運営、活動の実際を理解する。特別支援学校教諭に求められる知識、技能、態度を修得し、教科指導や生徒指導などの実践を通して、児童理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養う。特に中山間地域や離島などの、医療・教育専門機関から離れた過疎地域で育つ子どもたちの特別支援教育の実態と課題を学ぶ。
テキスト	
参考文献	
評価方法	大学の実習担当教員が、以下の観点などについて、実習日誌等の文書、巡回指導時の状況、学生による実習の省察、実習協力校の指導教諭・教頭・校長などの評価を踏まえ、総合的に成績評価を行う。　・実習を通じた職務内容・専門性の理解 ・支援を必要とする児童への理解や指導 ・特性に応じた教材の研究や単元指導計画の作成 ・特性に応じた学習指導案の立案と実践的な指導技術 ・実習に対する意欲・態度 ・実習中の出勤状況や勤務態度 最終的には、保育教育学科会議で協議の上、実習担当教員が成績評価を確定する。
自己学習に関する指針	・実習先において積極的に教育実践を行ってください。
履修上の指導・留意点	・質問は、その内容に応じて対応します。 ・なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（特別支援学校教諭）での勤務経験があり、その経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。